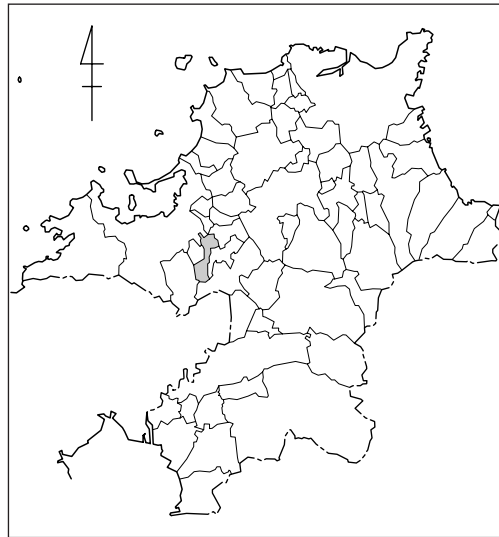


旧御笠郡乙金村  
高原(康)家文書概要調査報告書

大野城市文化財調査報告書 第182集



2020

大野城市教育委員会



## 序

本市乙金の高原（康）家は、江戸時代には代々庄屋を、明治時代には初代大野村村長を務めるなどした旧家です。同家が所蔵する古文書の年代は、慶長から昭和までの約 350 年にわたります。その内容は、村と藩がやり取りした公文書、村や村人からの各種願い出・それらに対する申し渡しなど公的なものから、村人の日々の生活の記録、庄屋の書簡や折々に詠んだ和歌など日常的・個人的なものにまで及んでいます。平成 9 年には、長きにわたってこの地域の人々の暮らしがどのように営まれ、変化していったかがわかる貴重な史料である、として大野城市の有形文化財（古文書）に指定されています。

高原（康）家文書の調査は、昭和 56 年から開始されました。その一部については『大野城市史』などにおいて紹介されてきましたが、全体を把握するには至っていませんでした。今回、元大野城市史編さん室長平田善積氏をはじめとする大野城古文書を読む会の皆様のご尽力により、現存する史料の悉皆調査が完了し、高原（康）家文書の全貌をこのように報告書としてまとめ、刊行することができました。

本報告書の刊行にあたっては、大野城古文書を読む会その他関係各位はもとより、多大なご理解とご協力を賜りました高原康夫・靖子ご夫妻に対し、深く感謝の意を表する次第です。

最後になりましたが、本書が今後、地域の歴史・文化財への理解を深める一助となるとともに、教育や学術分野で広く活用されることを心から願っています。

令和 2 年 9 月 30 日

大野城市教育委員会  
教育長 吉富 修





## はじめに

本『報告書』作成作業に当たった「大野城市の古文書を読む会」のメンバーは、佐藤・馬頭・平田・三砂の4人です。この4人は、平成10年4月から平成17年8月まで行われた「大野城市史編さん事業」を通じ、平田は市史編さん室長に任用され、佐藤・馬頭は主に「資料編」収載のための古文書の解読作業、三砂は市史執筆資料の収集と整理に携わりました。もともと4人は、歴史好きということで「市史編さん室」にご縁があったわけですから、市史編さん事業が終わったのちも古文書の勉強は相変わらず続けていました。

「読む会」の4人が、共同で初めて手掛けた古文書調査の結果は、丸2年をかけて平成19年に「金子家文書概要調査報告書」として出版することができました。この「調査報告書」を発行するには大きな理由がありました。「市史編さん資料」整理のため古文書調査作業は進んでいたものの、市史編さん事業終了にともない、当然のことで、古文書整理作業も終結となりました。市史編さん事業が終わったとはいえ、膨大な時間をかけて調査整理されてきたものが、途中で打ち切りというのは、いかにももったいないことです。あと少し頑張れば金子文書をすべて調査整理できる、私たち「読む会」の4人は、公私を抜きにして「金子家文書」の整理の再開、継続を思い立ったのです。

この「報告書」の作成は所蔵者やご親族の方に大変喜ばれましたが、さらに私たちにとって嬉しかったのは、この「報告書」が平成23年に始まった「筑前町史」編纂にいささかなりともお役に立つことができたということです。偶然とはいえ、金子家文書は筑前町に深い関係のある資料だったのです。

ちなみに平成25年、「金子家文書」は「報告書」を付けて九州歴史資料館に寄託されたと聞いています。

味を占めたわけではありませんが、文献史料としての古文書好きの4人が心残りにしていたもののもう1つが、いいとこ取りで、やはり調査が未完になっていた「高原（康）家文書」のことでした。

高原（康）家文書は、これまでマイクロフィルムに収録され、同時に紙焼きとして製本され、また『大野城市史（資料編）』には相当数が所収されています。そして、そのフィルム収録のための史料整理、史料所載のための解読作業などには、私たち4人は、いろいろの形で関わらせて戴いていたのです。

しかし、私たちの「市史編さん室」での仕事は、資料調査そのものが目的ではなく、わかりやすくいえば、私たちの作業は、編集委員会や執筆委員の先生方の指示を受けての「新資料探し」でしたので、4人が話し合っただけの仕事をしてきたわけではありません。木を見て森を見ずのたとえどおり、私たちは

それぞれが史料の1点1点は見てきたものの、「高原（康）家文書」の全貌はまだ見ていなかったのです。正直、私たちは「高原（康）家文書の森」の全容を知りたかったのも本音です。私たちだけが見たいだけでなく、郷土の歴史を研究したい人たちにも、ぜひ見てもらいたいのです。という未練がましい思いが、私たち4人の偽らざる古文書調査思い立ちのモチベーションでした。

いま振り返ると、途中何度かのやむを得ない作業中止日はあったものの、この調査作業は平成21年7月から、毎週1回のペースで平成29年12月まで、およそ8年半を要したことになります。

このように長期にわたり、大野城市文化財指定という貴重な高原家文書の調査が、「読む会」4人の手と目で出来ましたのも、大野城市教育委員会の陰ながらのご支援があったからこそと、今更のように感謝の念に堪えません。

貴重な古文書の調査作業場所と保管場所のための庁舎の使用はもとより、ふるさと文化財課職員の方々が公用車を使って資料の借用や返却の仕事を引き受けてくださったこと、そして何よりも大野城市教育委員会という信用の後ろ楯こそが、文書所蔵者への信頼となり、私たち調査者への大きな励ましともなつたのです。このうちの1つが欠けてもこの「調査報告書」が日の目を見ることはできなかつたとしみじみと振り返っている次第です。

本「報告書」が将来、郷土大野城市の史料目録の1つとして市民の皆さまのお役に立つ日があることを期待してやみません。

大野城市の古文書を読む会

佐藤 聰子

馬頭 和子

平田 善積

三砂千代子

## 例 言

- 1 本書は、昭和 56 年度から平成 29 年度にかけて実施した「高原（康）家文書」の調査報告書である。
- 2 調査主体は以下のとおりである。

昭和 56 年度	福岡県文化会館
平成 5 年度	福岡県立図書館
平成 10～12 年度	大野城市史編さん室
平成 21～29 年度	大野城市の古文書を読む会
- 3 原則として保存されていたすべての史料を収録した。
- 4 本書の刊行にあたっては、大野城市教育委員会ふるさと文化財課が事務を行った。
- 5 目録については以下のとおりである。
  - (1) 表題については、原則として漢字仮名遣いとも原文どおりとした。
  - (2) 作成年月日は、漢数字は使わず算用数字に改めた。但し、日付と月の異名など特別なものはそのまま使った。
  - (3) 作成発給・宛所については、出来る限り原文どおりとした。
  - (4) 作成者の住所などは長くなるので省略したが、肩書きなどは最大限入れた。
  - (5) 表題や年月日の推定できるものについては[ ]で表記した。
  - (6) 内容については、引用以外は現代仮名遣いとした。
  - (7) 漢字は原則常用漢字とし、旧漢字は使わなかった。
  - (8) 面積・利率などは算用数字を使った。
  - (9) 原史料に、読みやすいように送りがなや濁点をつけた。また読点の代わりに 1 字分空けたり、並列点(・)を付けた。また
  - (10) 変体仮名や片仮名は平仮名に代えた。但し、地名など固有名詞は原史料のままとした。
  - (11) 虫食いや判読不能の文字は□とした。
  - (12) 異体字は現行の表記に従った。

## 本文目次

序	
はじめに	
高原（康）家文書概要調査報告書・解題	
1. 高原（康）家について	1
(1) 庄屋役、初代より欠代なく10代永続の家柄	1
(2) 歴代庄屋役を務めた高原家の事績	5
(3) 文書から見えてくる家族としての高原家	7
2. 高原（康）家文書について	10
(1) 文書の特徴	10
(2) 調査方法	10
(3) 調査した文書数	12
文書調査カード	13
書誌調査カード	14
高原（康）家文書目録	
福岡県文化会館調査分	15
福岡県立図書館調査分	20
大野城市史編さん室調査分	45
大野城市の古文書を読む会調査分	113
大野城市の古文書を読む会2次調査分	116
高原（康）家書誌目録	
福岡県立図書館調査分	139
高原本家系図	153
あとがき	155

## 本文中写真目次

写真1	庄屋役儀永続の賞与として善一郎が「御吸い物御酒頂戴」を賜った証書	1
写真2	慶長7年検地帳	2
写真3	慶応2年に高原太平善蔵が記した高原氏古語覚書	3
写真4	慶応4年に高原太平善蔵が記した高原氏伝言録	4
写真5	享保子 <sup>きょうほうねのうし</sup> 丑餓死枯骨塔	5
写真6	第11代福岡藩主黒田斉博から乙金村庄屋高原善蔵への礼状	6
写真7	高原善一郎「安政六未年日記」	8
写真8	高原善一郎「文久四年甲子日記」	8

# 高原（康）家文書概要調査報告書・解題

元大野城市史編さん室長 平田 善積

## 1 高原（康）家について

### (1) 庄屋役、初代より欠代なく 10 代永続の家柄

大野城市役所の一室には、明治 22 年 4 月 1 日「市制・町村制」施行による大野村発足から、大野町時代を経て、大野城市時代の現在に至るまでの、ちょうど 130 年間にわたる歴代首長 11 人の肖像写真が掲げられている。

その最左端に掲げられているのが、初代大野村村長高原善造である。今回調査させていただいた文書の所有者である高原康夫氏は、この高原善造の末孫で高原家第 15 代当主である。

高原家の家系については、高原家当主からの聞き取りのほかに、このたびの調査で得られた文書資料や墓碑・墓籍などの照合によって作成した「高原家系図」のとおりである。

さいわいに初代高原平兵衛以前の来歴に関しても、9 代当主善蔵美信が先祖から伝承してきたという記憶をもとに慶応 2 年に、『高原氏伝言録』として書き残しており、また上記初代大野村村長となった 11 代善造も祖父の 9 代善蔵に倣って『記』と題して、高原家の来歴書の作成を試みている。その『記』のなかには、慶応 4 年 4 月福岡藩最後の藩主黒田長知から「役儀永続御賞与の御書付」を賜り、「御吸物御酒頂戴」を申し付けられたことも書き入れている。

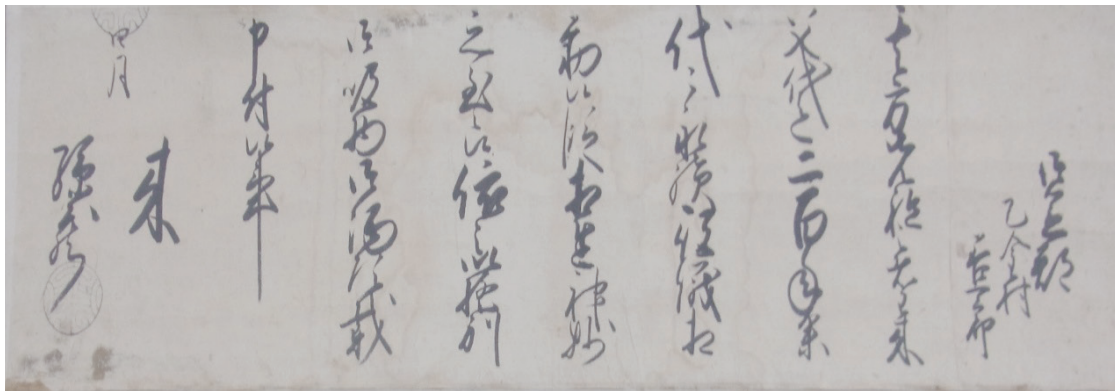


写真1 庄屋役儀永続の賞与として善一郎が「御吸い物御酒頂戴」を賜った証書

この「御書付」は、いまも高原家に保管されているが、その文面をみると、高原家 10 代当主である善一郎宛てになっており、「その方先祖の者以来、父代迄二百余年代々永続役儀相勤候、・・・」という文言で始まっている。つまり高原家は「その方善一郎の先祖以来、善一郎の父の代まで 200 年余り代々永続役



儀を勤めてきた」という証明とねぎらいのことばが書かれているのである。

役儀永続というのは、『記』によると高原家が黒田家の筑前入国の慶長時代から乙金村の庄屋役を勤めた平兵衛から明治維新まで、10代欠けることなく代々庄屋役に就いたということである。

誤解を招かないよう、この役儀永続のところは少し説明を加える必要がある。実際の庄屋の辞令（申渡書）を見ていくと、高原家が乙金村の庄屋を独占的に世襲で継続勤めてきたということではなく、高原家10代10人がすべて庄屋役を一度以上経験したということである。庄屋は藩（直接には郡役所）と自村の百姓との間にあつて極めて重要な役職であり、且つ郡役所役人と村人の板挟みにもなるような微妙な立場にあり、病弱であつたり、あるいは年齢的に未熟であつたり、反対に高齢で老耄の身であつても務まらない。

役務形態も畑詰村入庄屋とか、武蔵触入大庄屋などがあり、勤務年数も本人の実績次第のようで、7代和作は没年の70歳まで勤続51年間、8代善四郎は計41年間、9代善蔵は45年間で特別に長期間であるが、そのほかは7年から5年の期間である。庄屋役は実力次第で世襲ではなく、人物と実務能力を必要とする役柄であるので高原家も無役の時代がある一方、7代、8代、9代の時代は父子でそれぞれ別村の庄屋、あるいは庄屋と大庄屋役を親と子で別々に同時期就任の期間もできている。

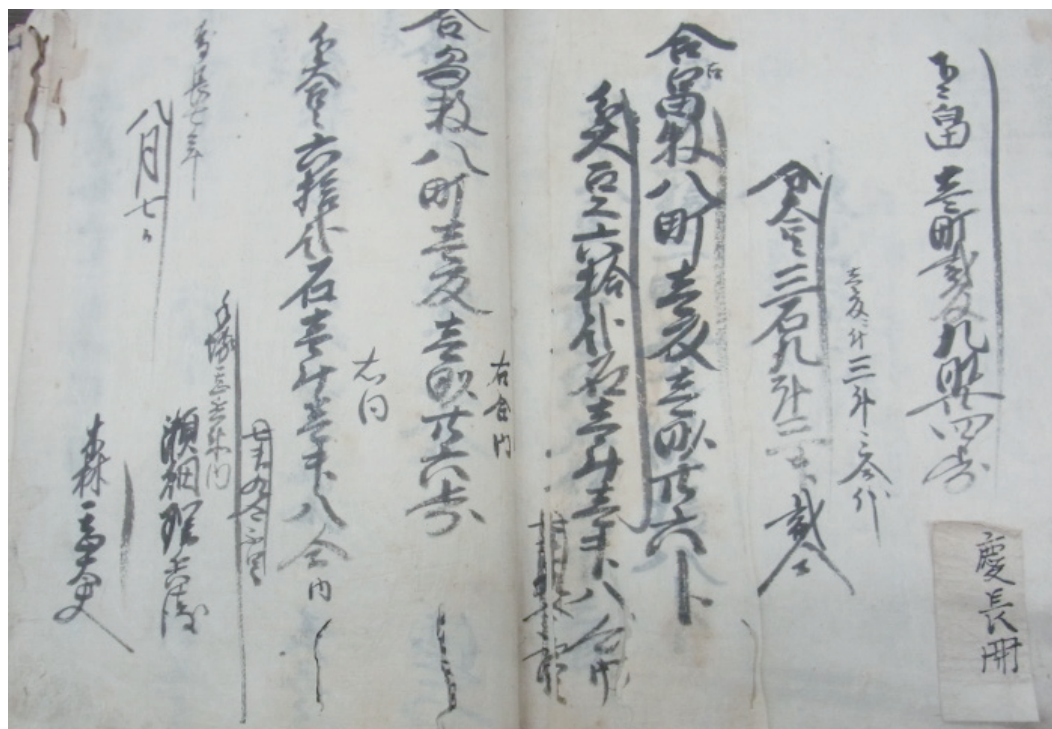


写真2 慶長7年検地帳

明治になって11代の善造は、先代まで庄屋役が10代続いてきた証拠のひとつとして、高原家には慶長7年の「御水帳」から明治8年の地租改正前までの『田畠名寄帳』が保存されていることを挙げているが、この御水帳も今回の調査で実見することができ、「慶長7年」の文字には感動さえ覚えた。

ここで1つ、高原家の来歴調査をしているなかで大変残念な思いをしていることがある。

それは高原家伝来の「伝家の系図」紛失事件のことである。この「伝家の系図」紛失の経緯については、『高原氏古語覚書』の中で作成者の9代善蔵（晩年太平と改名）が痛恨の思いで綴っている。

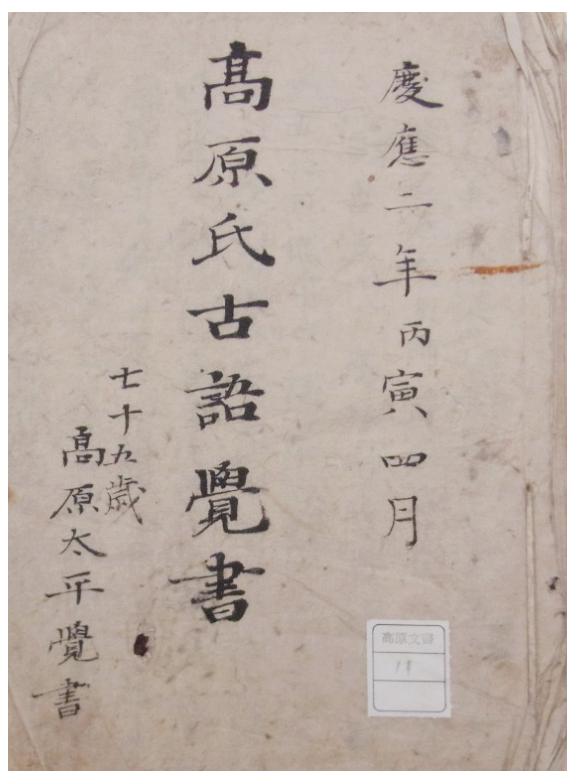


写真3 慶應2年に高原太平善蔵が記した高原氏古語覚書

それを要約すると、「高原氏には『系図記録帳面』という高原家系図が納められた柳筥（やなぎばこ）1つが伝来していたが、今はない」と前置きし、続いて筥（はこ）がなくなった理由が詳しく語られている。すなわち、この「柳筥」が高原家からなくなったのは、善七（善七ではなく、7代和作の誤記と思われる）より2代前の5代善蔵の代である。善蔵自身が庄屋役を務め、自分の村でもある乙金村の若者衆から、銭50目の借錢相談を受けたが、有り合わせの銭がなく申し出を断ったところ、若者衆が「お宅にある『系図記録帳面』の筥があれば銭はいつでも借用できます。」という。そこで隣村である中村の今屋敷某のところへ行き、「柳筥」を質種として銭50目を借用した。

用した。

その後、今屋敷某から質種を返却したいという申し出があったが、50目の銭が出来ないので質種の取り返しが延びのびになっていたところ、今屋敷某は「このような品を百姓家に置いては宜しくない」といって、裏の山に持って行って焼き捨ててしまったということだ。

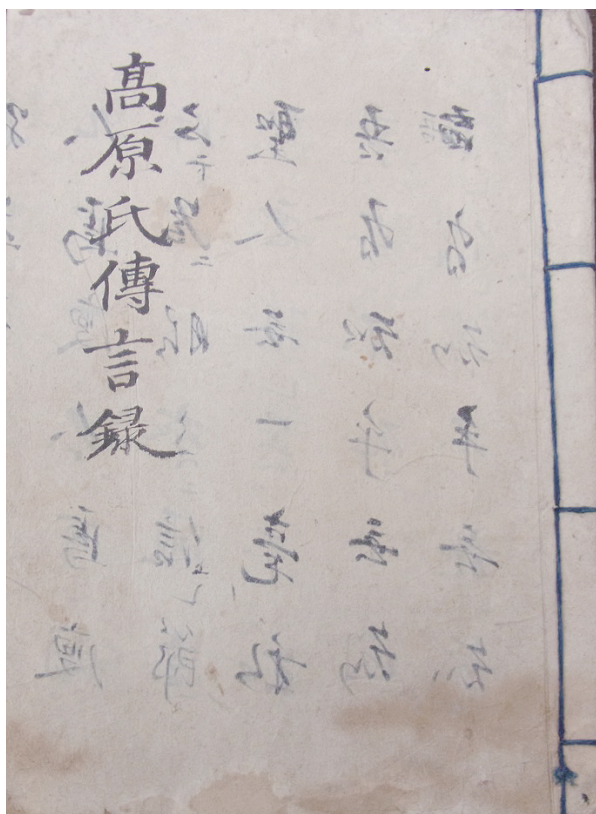
この柳筥がなくなったことについては、当の善蔵はもとより、代々の高原家当主が残念な思いをし、一族の中に「高原家系図」復元の手掛りになる書き物はないかなど、いろいろと親戚筋を尋ね廻ったという先祖の苦衷も記されている。

善蔵の嗣子6代善市郎は、高原家代々の役儀を調べ直すにあたって、「善蔵の代に、先祖から持ち伝えてきた書類は、故あって悉皆焼失したので5代から上の役儀・進退の年歴は詳らかに相知れ申さず候」と書き残している。つまり、高原家には初代平兵衛から5代善蔵までの役儀関係の原本は、「慶長7年の御水帳」関係以外は遺されていないということである。

ここで、また元に返るが、「系図記録帳面」の中に、「高原氏は、むかし水城の関守（せきもり）であった」ことが書かれていたが、口伝としても残っていたという。

水城の関というのは苜萱説話で人口に膾炙している「苜萱の関」と同じく、室町時代までは関所として機能していたと思われ、『筑前国続風土記』には、その場所は「水城大堤の東の山ぎわに関の跡あり」と記されている。水城の関は高原家からも近く、現在太宰府市の北部、大野城市との行政界にあり、水城跡と県道112号線が交わる道路脇東側に比定されている。水城の関守は世襲で代々、高原氏と花田氏が引き継いできたことと記述されている。

この関守の話に次いで、「系図記録帳面」に記された高原家に関する古い記述は、天正14年7月半ばの岩屋城の戦いのさなか、高原氏が秀吉の軍監黒田官兵衛孝高の使者・小林新兵衛に頼まれて案内人を付けてやると、小林新兵衛は島津に包囲された岩屋城に忍び入ることができ、籠城中の城主・高橋紹運に官兵衛孝高の口上を伝えたという話である。この話に符合する記述は「岩屋軍記」にも見られる。



ここのところの記述は「高原氏伝言録」ではもう少し具体的で、高原家が案内人を出してやると、官兵衛孝高の使者は乙金村の裏山から迂回して間道を通って岩屋城に忍びこむことができたということである。

「高原氏伝言録」のなかで、黒田孝高の使者の小林新兵衛は大音六左衛門の家来で、高原氏が新兵衛に付けた道案内人は、隠居の身で名字はわからないが、名を道政といったという。小林家にはその書き物が今も残っているということである。

念のため「福岡藩の分限帳」を開いてみると大音六左衛門の名は、寛

写真4 慶応4年に高原太平善蔵が記した高原氏伝言録



文時代以降、中老格としてその名があることから、大音家は代々「六左衛門」を名乗ることが多かったとおもわれ、一方小林新兵衛の名は「慶長分限帳」に200石拝領の代官衆として記載されている。

こう見てくると、一次資料は焼亡しているとはいえ、「高原家系図」と「高原氏伝言録」や『岩屋軍記』等には根本的な齟齬はないと思われ、結論として高原家が慶長5年の黒田氏筑前入国以前から、現乙金地域を拠点にした有力な一族であったことがわかる。

## (2) 歴代庄屋役を務めた高原家の事績

高原家といえば、「享保子丑餓死枯骨塔」のことを想起する人も多いことだろう。この石碑は、単に「枯骨塔」と呼びならわされて、近郷ではむかしから



よく知られた享保の大飢饉による犠牲者の供養塔である。

享保17～18年の飢饉当時、乙金村の庄屋役であった高原家6代の善市郎は、村民の餓死回避のために全力を尽くし、また村内で50人を超えた死者には僧侶を請じて葬礼は営んだものの、その後は十分な追善の供養をする余裕はなかった。枯骨塔は、善市郎以来やり残してきた享保の犠牲者の供養を大飢饉からちょうど100年後の天保2年に、孫にあたり当時上大利村の入り庄屋であった高原家8代善四郎が、飢饉の惨状を石に刻み僧侶を招いて死者の追善を行ったものである。

写真5 きょうほうねのうし 享保子丑餓死枯骨塔

この碑文の末尾は「庄屋というものは天が幸いしたとしても、善を積むことを怠っては長くは続かないものだ」という字句で結ばれているが、この語句は、高原家の庄屋役としての平素の自戒や心がけを末代に伝えてきた家訓のようなものではなかったろうか。

以上述べた飢饉に関連する「枯骨塔」のことは、長い高原家の歴史のなかでも特異な事績であるが、初代大野村村長でもあった11代善造の、前掲『記』の中には、高原家歴代の庄屋としての功績として次のことが箇条書きで列挙されている。

- 庄屋として、享保の大飢饉で凄惨な乙金村村民の凶荒と飢餓状況を体験した6代善市郎は、後年の凶荒を考えて、その予備のため藩有地58町歩余を村民林として払い下げてもらい村民は今にいたるまでその恩徳を受けている。
- 6代善市郎の自作の田地1町1反余が蝗害を免れたので、村民を救うことができた。
- 6代善市郎と、その子和作、その子善四郎、またその子の善蔵（晩年大平善四郎と改名）と4代にわたって凶年備えに力を尽くし、自ら率先して金穀を出して、村民にもそれを勧めた。その結果、村政がうまくいったので藩から褒賞をうけた。善蔵は性格が寛厚で数村の庄屋役を歴任して、のちに大庄屋役に任命された。
- 8代善四郎は、敬神尊王の心が篤く、青年のころから応神天皇の御生誕の日12月14日には毎年、宇美八幡宮に参拝した。そのころまでは応神天皇の誕生日を知っている者は少なかったのに、だんだん聞き伝えられて年を追うごとに宇美八幡宮の参詣者が増えてきたということだ。
- 10代善一郎は、生来読書を好み、慈しみの心が厚く尊王攘夷の意志が強かった。慶応3年秋、太宰府にご滞座の五卿が、我が家の分家である隣家の高原善郎方へお越しの節、善一郎所有の山林での茸狩りをお誘い申し上げたところ、収穫が多くてご満足に思召された。  
また、善郎宅と続きになっている本家善一郎宅の溜池の水を落としてお魚とりを遊ばされ、これまたご満悦であった。

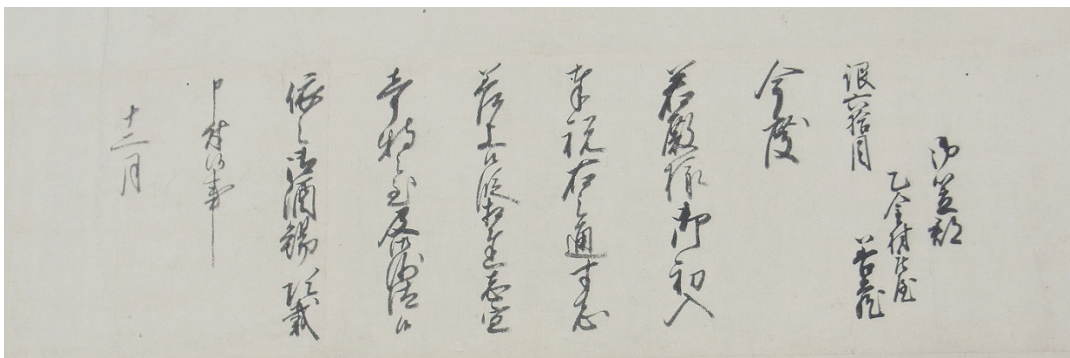


写真6 第11代福岡藩主黒田斉溥から乙金村庄屋高原善蔵への礼状

茸山は、かねて人が盗み取らないように番人を付けておいたので、その苦勞を思われて白銀2両2歩を賜われた。

以上、善造は高原本家の遺徳や誇らしく思うことを大きく5項目挙げているが、最後の項目の慶応3年秋の五卿の乙金来訪については、別にも史料があり、10代続く庄屋家精神が如実に出ているエピソードがあるので参考として引用したい。

この五卿一行に随行した、福岡藩士で国学者でもあった海妻甘蔵が、のちに自著『筑前人物遺聞』のなかで「太宰府寓紳の乙金詠歌」と題して、当時の福岡藩の立場を参酌しながら、当日の高原家での清遊の裏話も書留めている。五卿一行は高原善郎に招待されて乙金を訪問したのであった。善郎家は本家高原善一郎・善蔵の分家で、居宅は隣同士であった。面白いことに、招待主は分家の善郎で、清遊したのは本家の善一郎・善造宅である。

海妻甘蔵の観察するところ、善一郎と善造親子は、隣同士で本家と分家の関係でもありながら、しかも自分たちの所有する池や山での鯉捕りや茸狩りにもかかわらず、表向き五卿一行には一切関係せず、応接にも出なかった。なぜなら、福岡藩主黒田長溥は佐幕の立場であり、幕府は尊攘派五卿を危険人物として藩士や一般民衆が五卿と接することを極力警戒していたからである。

分家した善七郎や、その孫高原善郎と謙次郎兄弟は勤皇家として知られていたが、本家高原家は、福岡藩主・黒田家入国以来の庄屋筋という矜持と、黒田家に対する忠誠心から五卿との接触には慎重であり微妙な立場にあったことが窺える。

以上は、高原家11代善造が伝え聞いていた高原家の庄屋としての幕末までの功績やその関連事項であるが、維新以降の善造自身の履歴を次のように記している。

高原善造は、23歳の年に明治維新を迎え、明治4年の水城村庄屋役拜命以来、戸長、御笠郡農業組合長、御笠高等学校務係、席田・御笠・夜須三郡勸業試験場長、大野村村長等、22か年間にわたり公的役職を歴任した。

### (3) 文書から見えてくる家族としての高原家

以上は主として高原家歴代の庄屋役としての事績の概略を記してきたが、家長の役儀とは別に高原家に遺されてきた日記、書簡類、蔵書等から庄屋役とは違った、もうひとつの一家の家長としての私生活もみえてきて、時代も変わった後世の者にはすこぶる興味をそそられることが多い。

歴代の当主すべてについての生活の様子ができるわけではないが、たとえば10代の当主・善一郎が庄屋役を離れた時期の、「安政六未年日記」や「文久四年甲子日記」を読むと当時の高原家の日常が手に取るように見えてくる。



この2つの日記には、元日から大晦日まで1日の空白もなく、しかも喜怒哀楽の感情表現や飾り言葉も一切なく、1日1日、ただその日の身の事象や出来事のみが記録されている。それだけに、当時から150年余の時間を隔てて読むわれわれにも日記を付けた善一郎氏の人柄はもとより、庄屋筋の家庭の日常生活、人の出入り、下男下女のこと、四季それぞれの里山や田畑での作業、あるいは1年を通じての祭事や地域の行事などの情景が、視覚として伝わってくるようだ。庄屋の家柄だからといって決して徒食の生活をしているわけではない。士農工商でいえば、家業は農業である。庄屋の仕事は殿様側からの信頼と、村民からの人望がなければ務まらない。高原家の家族一人ひとりの仕事の持ち場は家長、長幼、男女、下男下女、手伝いなどそれぞれ違っていても家業の農業はいわゆる家族労働で、全家族員が自分の持ち場を懸命に守っているということは、一般農民の家庭と基本的には変わらなかったかもしれない。

ただ、一般農家と異なるであろう生活と言えることは、日記の筆者である当人高原善一郎父子の日常が、一口でいえば「晴耕雨読」の1年である。なかでも、特に長男、のちに大野村初代村長となる善造に対する親の教育姿勢と本人善造の勉強ぶりは、これが庄屋家の人づくりの要諦かをつくづく感服させられる。

たとえば、「安政六未年日記」のなかには、1年間に多くの書物名が出てくる。これがすべてではないが、「古史通或問」「關邪小言」「関ヶ原軍記」「小学内篇初巻」「小学」「詩林広記」「雨夜燈」「宇治拾遺」「関ヶ原」「朝鮮太平記」「源平盛衰記」「平家物語」「絵本信長記」などなど、善一郎本人や善造の勉強、知人に貸し出したり、返却してもらったり、あるいは気の知れた友人との講読に使用したものである。



写真7 高原善一郎「安政六未年日記」

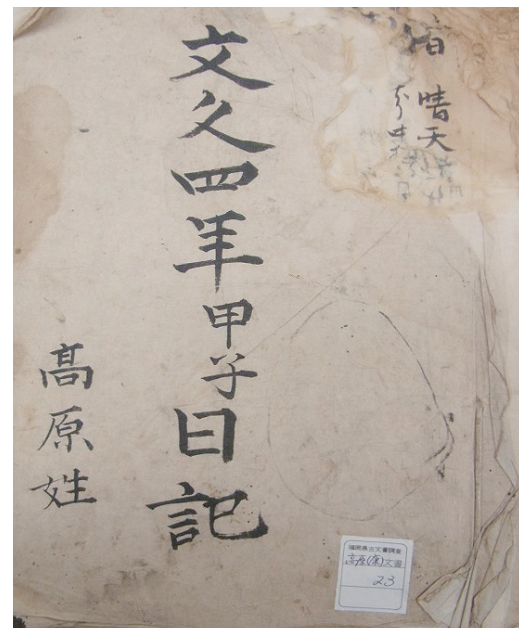


写真8 高原善一郎「文久四年甲子日記」

嗣子善造（日記では幼名久米吉）や次男の房五郎の勉学の一つとしての、手習いや素読は日課のようなものであったろうと思われるが、さらに一对一の家庭教師の役割をしていた人が複数人いたことが、同じく善一郎の日記のなかから読み取れる。

その一例が「文久四年甲子日記」の1月21日の条に次のような内容で書かれている。このとき善造は数えて19歳であるが、「父・善蔵が、地行町の海妻久左衛門様方へ行く。去年1年間、月に1度太宰府参詣の帰路、わが家にお泊りになって論語と孟子の講釈をしていただいたので、そのお礼として正金1歩1朱と酒1升を持参した。」と書き付けている。

少し注釈を加えると、善蔵は善一郎の父で当時73歳、善造の祖父に当たる。善蔵は御笠郡内の庄屋、入り庄屋、大庄屋など連続40年間務めあげた人でもある。善蔵は孫の善造に「論孟」の講釈をしてくれた海妻先生の自宅のあった現福岡市地行までお礼に行ったのである。海妻久左衛門とは、先に五卿随行で名前が出てきた国学者・海妻甘蔵のことである。高原家が学問好みで、学者をいかに大事していたかが窺えよう。

雨が降れば書物を開き、ときには好学同好の友を呼んで講読し、論談に耽る。また機会があれば遠来の学者の来訪をうけて新知識に触れる。これがおおよその非役の時の善一郎の仕事以外の楽しみをかねた勉強のようである。

善一郎の楽しみといえば、日記のなかに囲碁と武術のことがよく出てくる。腕前のほどと、入れ込み方の程度はわからないが、囲碁の方は雨天の日や仕事じまいの夕方など、機会を見つけては碁盤を囲むという熱の入れ方である。一方、武術については近所の正栄寺や山田村の慶伝寺にたびたび剣術の稽古に向いているが、これは道楽や趣味ばかりでなく、当時異国船の近海出沒が激しくなり、福岡藩が武士はもとより地方の有力者に武芸稽古（軍事教練）を奨励したこともあったからと思われる。福岡藩は文久3年には博多湾を中心に砲台を8か所築立し、仏教教団にたいしても財政的また戦闘員としての働きを求めようになった。特に真宗教団との関係は密接なものになっていった（「福岡地方史研究」鷲山智英 1996年5月号）。日蓮宗の高原家の当主が真宗の正栄寺や山田村に出かける意味も、宗派を超えた福岡藩の海岸防備策に対する庄屋家の当然の義務履行だったのかもしれない。

つぎに善一郎の跡継ぎ善造が、激務を離れ晩年没頭したと思われる和歌の世界を覗いてみよう。善造がこよなく心を寄せた風雅の道である。

善造は、父善一郎の日記や家蔵の書籍を見ると、若いころから漢籍に親しみ、国学者の海妻甘蔵に教えを受けたことから和漢の詩歌にも通じていたと思われ、生前に『自詠発句集』という句集を撰している。しかし、国学との出会いからか後年は和歌に並なみならぬ興味を示し、当時福岡で高名な歌人であり、

玄洋社社員であった末永茂世を師と仰いで、晩年の歌の道への入れ込みは病膏肓に入った感がある。

自らも歌の心得のあった妻朝子は、善造の1周年祭に当たる大正6年1月21日、『千代廼屋集』と題する善造の遺詠集を上梓して、親戚知友に頒布した。ちなみに「千代廼屋」とは、高原家の家屋の中で、善造が書斎と客室を兼ねた1室のことである。

こうして高原家を見てくると、堅実な日常の生活を営みつつも常に庄屋家としての人間陶冶を忘れない教育と自己研鑽が行われていたことが垣間見えてくる。素封家、名望家の名には、それに相応しい素養と識見が伴うものであろう。

## 2. 高原（康）家文書について

### （1） 文書の特徴

- 高原家は、初代平兵衛から第15代康夫まで続いている大野城市の旧家である。高原康夫家はその本家である。それだけに所蔵されている文書の数も多く多岐にわたり、大野城市の文化財に指定されている。また平成16年発行の「大野城市史資料編」には46点が収録されている。
- 初代より、永続10代の庄屋役の家柄だからであろうか「申渡書(任命状)」や「褒状」が多く見られる。
- 第10代当主善市郎の日記「安政六未年日記」「文久四年甲子日記」は、当時の農民の日常生活が窺える貴重な歴史資料である。
- 第11代善造は、明治になって七ヶ村戸長や初代大野村村長など公務に追われる日々を過ごしたが、後年、和歌を愛し作歌に力を入れ、歌会を主宰し、それらの記録を巻物にしている。
- 特徴的なのは書誌である。哲学、易学、歴史、地学、文学、軍記物など多くの分野にわたって収集され読破されている。その読書意欲には驚かされる。書誌の総冊数は555冊にのぼる。木版印刷本が多いが筆写されたものも多く見られる。殊に「関ヶ原軍記大成」全45冊は、手写しをし、4分してそれぞれを柿渋紙に包んで蔵している。このことから高原家の方々が書物を大切にされている心を知ることができる。

### （2） 調査方法

高原（康）家文書の調査は、諸事情により大きく第1次調査から第5次調査まで、5回にわたって行われてきたが、最終的には現存史料のすべてが洩れなく調査されたことになった。

その5回の調査の時期と調査主体は次のようになる。

第1次調査は、昭和56年度の福岡県文化会館による「福岡県古文書緊急調査」で、第2次調査は、昭和61年度に始まり福岡県立図書館が行い「福岡県立図書館：収集文書目録」全7分冊として報告書が出されている。この2回の調査は福岡県の文化行政として実施された古文書調査であった。

第3次調査は、平成10年度に始まった「大野城市史編さん事業」に伴っての市史編さん室による市史編集資料を主目的とした調査の一環として実施されたものである。

第4次調査は、市史編さんが終結し、いったん中断されていた高原（康）家文書の調査作業を、当「大野城市の古文書を読む会」が調査報告書を作るということを目的として作業を進めてきたものである。そこで読む会のメンバーは、まず文化会館を手始めに県立図書館・市史編さん室と調査してきた資料を次頁に掲げた調査カードによって調査し目録を作成した。調査番号は、後々の混乱を防ぐために県立図書館ほかそれぞれの調査者で使用された番号の付け方を踏襲することとした。

なお第1次～第3次までの調査分の主たる文書については、それぞれの部署でマイクロフィルムに収め、本市ではそれを紙焼きにして保存している。

ところが、調査作業中の平成26年9月のある日、翌27年1月21日が高原家第11代善造の100回忌に当たることがわかったのである。これを聞かれた当主高原康夫氏は、早速善造翁追善供養を發起され急遽「高原家第11代善造100回忌記念：高原（康）家文書概要調査報告書」を上梓することになった次第である。

ここで「読む会」のメンバーは、調査作業の進行を一時ストップし、平成21年から26年までの調査分をまとめて整理のうえ、報告書の編集作業に入ることになる。これを一区切りに読む会の独自の調査分として第4次調査とした。

そして残りの断簡零墨までと意気込んだ第5次調査分の246点が最終調査となり高原（康）家文書の悉皆調査は完了したと考えている。第5次の調査期間は平成27年から29年までの約2年半であった。

実は第3次調査の際は、読む会のメンバー4人は市史編さん室のスタッフとして、市史編集委員の先生方の指示を受けて、文書の取出しや整理・解読など、足かけ5年にわたり大野城市内の古文書類や歴史資料などの調査作業に携わっていたのであった。

ここで報告書をまとめるにあたり一つ気がかりなことがある。本来5回行われた調査は、文書所蔵家が同じ家であるから、文書整理体系は全体すべて同一でなければならないが、一部分とはいえ整理方法に一貫性を欠いていることである。理由はこの古文書調査が長期にわたり、しかも調査者が実質3交代り、また所蔵者による文書収蔵場所の変更などがあったとはいえ諸事情から修正を

する時間が持てなかったのはかえすがえすも残念である。

**(3) 調査した文書数**

① 「福岡県文化会館」調査分	昭和 56 年	55 点
② 「福岡県立図書館」調査分	平成 5 年	341 点
③ 「大野城市史編さん室」調査分	平成 10 ～ 12 年	768 点
④ 「大野城市の古文書を読む会」調査分	平成 21 ～ 26 年	30 点
⑤ 「大野城市の古文書を読む会」2次調査分	平成 27 ～ 29 年	271 点

**総点数 1,632 点 書誌 167 点 (総点数に含まれる)**

\*なお、今回使用した調査カードを後掲している。



## 文 書 調 査 カ ー ド

(表面)

高 原 (康) 家 文 書	番
(表 題)	(機 能) 書簡・証文・備忘・通達・上申 照会・回答・案文・書簡+証文 その他 ( )
(作成年月日)	(記 載 年 月 日)
(作 成・発 給)	
(充 所)	
(形 状) 料紙 … 楮紙・斐紙・洋紙・その他( ) / 記入…墨・鉛筆・ペン・カーボン・活字・その他 様態 … 無地(色; ) 罫紙(色; 銘; ) 専用紙( ) 印刷物( 版) 形態 … 縦紙・折紙・半切・横折・続紙( 枚継)・切紙・切継紙( 枚継) / 同折・封式・断簡 / 縦帳・横帳・小横帳・綴・冊子・書籍 / 卷子・折本・畳物 / その他( ) 容 器 … 包紙入・封筒入・袋入・箱入・表紙付・その他( ) 綴じ方 … 一ツ綴・二ツ綴・四ツ綴・三ツ目綴・四ツ目綴・五ツ目綴・かぶせ綴・下げ綴 ・ 下げ二目綴・下げ四ツ目綴・列帖綴・鎖綴・ひねり綴・その他( ) 綴じ紐 … こより・糸・ひも・平紙紐・わら紐・麻紐・木綿紐・その他( ) 法 量 ; × / 丁数 ; 表紙共紙数 丁 (墨付 丁 /一括点数 枚/点) 破損状況 ; 前欠・後欠・前後欠・上欠・下欠・虫損・水損・その他( )	
(内 容)	

(裏面)

(メモ)	
(関連事項)	
(調査年月日)	(調査者名)
平成      年      月      日	

書誌調査カード

(表面)

高原(康)家文書		番	
印刷本・自筆本・手写本・影写本・コピー本			蔵版(板)
(書誌名)		題箋	蔵印有無
-----		書扉	
-----		版心	
(シリーズ名)			
(巻号)			
(冊数)		(内容・分類)	
冊 (全 冊一揃)			
(形状) 材料 …和紙・洋紙・( )その他( ) 形態 …縦帳・横帳・小横帳・卷子・折本・疊物・原稿・その他( ) 綴じ方 …( )ツ綴・( )ツ目綴・列帖綴・鎖綴・かぶせ綴・その他( ) 綴じ紐 …こより・平紙紐・麻紐・木綿紐・その他( ) ┌ 木版・石版・金属版・写真版・色摺・謄写版・その他( ) │ タイプ・カーボン・コピー・その他( ) └ 墨書・鉛筆・その他( ) 法 量(タテ×ヨコ) × / 丁数 ; 表紙共 丁(墨付 丁) / 頁			

(裏面)

	( 年 月 日)	(作成・発行)
-----		
-----		
-----		
-----		
-----		
(破損状況) 虫喰(無・有・大) 摩耗(無・有・大) シミ(無・有・大) 破損(無・有・大) 修復緊急度(緩・普・急) その他( )		
(関連資料)		
(備考)		
-----		
-----		

平成 年 月 日調査 調査者

# 高原（康）家文書目録



No.	史料番号	表題	年月日	作成・発給	宛所	内容	形態
1	1	御法令写	天明8年8月	高原和作写		宝暦12年から明和8年までに出版された法令集82項目を写したものを。捨子禁制・窮民養育その他多岐にわたっている。高原善藏分とある	縦帳
2	2	御公義様御觸状写帳	寛政3亥年7月18日ヨリ	乙金村庄屋 善四郎		寛政3年より文化3年までに出版された触状の写し 陰陽道の事 その他5項目	縦帳
3	3	御制札并村制札三ヶ条	元治元年乙丑8月	関逸太郎写之		天和2年5月より弘化5年3月までに出版された「定」 「條々」「覚」などを写したものを一冊にまとめたもの（元本は中村 白壁氏蔵書）	縦帳
4	4	〔御達書・御書付写集〕	天保4年～7年			御達書・覚・上申書の案文など多種のものをまとめてある	綴り
5	5	諸指指控	〔文政9年戌3月～文政13年〕			殖牛馬の届出・入人帰参人・出産に関する届出・切支丹宗門改めなど26項目の届出の控	縦帳
6	6	乙金村中萬記録	正月吉祥日	庄屋 竹原善市郎美武		元禄13年外 田教書上・享保5年6月大洪水・宝永8年御湯立の大神楽・享保19年の鳥居木笠木仕替えの書上など19項目あり	縦帳
7	7	窮民救備願写	〔文政4年11月〕	〔乙金村庄屋 善藏〕	那珂・席田・夜須・御笠 御郡代御役所	御證文山の松木を拝領しその売渡代金を備えに差し出す願 善四郎大庄屋格となる 相続の俸代迄御参勤往來の節箱崎松原出仰せ付けらるるなど4件	縦帳
8	8	俟約作法書	天明8年申正月	兵左衛門		質素、俟約について書かれている 御停止の品（書院・床・長押・絹袖・上方染） 婚礼の時の持参の品（蒔絵・籠甲・銀櫛・かんざし）など禁止	縦帳
9	9	窮民救備一件	文政4年辛巳11月	乙金村庄屋 善藏	那珂・席田・夜須・御笠 御郡代御役所	近年凶作が続き、村の成り立ちが悪く、御證文山を切り払い、窮民の備えとしたいとの願書 申渡 願の通り仰せ付けられる上、大庄屋格を申し付けらるる	縦帳
10	10	御笠郡乙金村百姓中御請書物帳	文政元年寅10月	庄屋 善藏	那珂・席田・夜須・御笠 御郡代御役所	御演達 郡々困窮の根元は農業をおろそかにすることにある 庄屋は百姓を農業一途にお互いに助け合い、出精の者には褒美、等閑の者には罪科に処すべしとある（乙金百姓連名の奥書あり）	縦帳
11	11	乙金村人拂帳	明和4年～文政13年			明和4年から文政13年までの乙金村人員の記録 男女・出生・死亡・入人帰参人など また宗旨改めの時、宗旨帳に書載の人数書上げを合冊したもの	縦帳

No.	史料番号	表題	年月日	作成・発給	宛所	内容	形態
12	12	御笠郡乙金村組頭源六正左衛門乍恐申上ル口上之覚	弘化3年3月	乙金村組頭源六正右衛門	那珂・席田・夜須・御笠御郡代御役所	御笠郡乙金村百姓半次善吉旅人亀太郎慶助が当村宮山で博奕をした事についての口上の覚その他8編がまとめられている	縦帳
13	13	御笠郡乙金村御救銀拝借引當證文帳村控	天保5年午8月	乙金村庄屋逸平(印)組頭次右衛門(印)同作次(印)他組頭取	御救御役所	9月2日二日市郡家での寄り合いの節、書法を決めた御救銀拝借引当田地余米書上証文帳	縦帳
14	14	地方官心得書	[明治]			地価調査に関する地方官の心得が第1章から第44章まで詳細に定められている	縦帳
15	15	添申書	明治21年11月14日	御笠郡筒井村外七ヶ村戸長高原善造	福岡県知事安場保和殿	部内白木原村分村の請願に対する上申書筒井村外7か村民連名押印	縦帳
16	16	田畑方面寄	明治38年旧12月			土地台帳 東南部 中部 原口此岡方面 西北部 筒井分に分けて 田畑反別 小作米付口 反当 小作人などを表にまとめてある 合計 田 5町9反25歩 畠 2町7畝10歩 総計 7町9反8畝5歩	縦帳
17	17	(所有地反別地価地租小作米調)	[明治35年4月]			高原達太郎所有の田畑の所在地 反別 地租 小作米 地価などを表にまとめてある 原野 山林の部は高原善造分もある 合計 田7町3反3畝13歩 此地価 2,812円71銭 畑 2町1反5畝9歩 此地価 273円39銭	縦帳
18	18	荷車廃業届	明治13年9月23日	御笠郡中村士族 林勝平	御笠郡・那珂郡・席田郡 郡長 小河久四郎殿	小車・轎轎鑑札を受け運用しておりましたが、今般廃車致しますので鑑札を返納します その他過去帳旧證文山地税 議員選挙に関するものなどが綴られている	縦帳
19	19-1	文化・文政・天保・嘉永 免用普請願并仕廻目録				19-2～19-21までを綴じた表紙	横帳
20	19-2	御笠郡乙金村御免用瓶井樋新規御願帳	文政元年6月	乙金村庄屋 善藏 同村組頭 藤七 善七	天野藤九郎様 小河次右衛門様	毛所瓶井樋1か所 新規築立ての願い出	横帳
21	19-3	御笠郡乙金村去々子年洪水荒内御普請夫掛帳	文化3年2月	乙金村庄屋 善四郎(印) 同村組頭 源三(印)	村上清内様御役所	牛月、めぐり町の洪水荒普請の夫掛り人数505人の内訳	横帳
22	19-4	御笠郡乙金村堤底樋仕調夫積書上帳	文化8年6月	乙金村庄屋 善四郎(印) 同村組頭 藤七(印) 善七(印)	村上又左衛門様御役所	乙金村山目の堤底樋仕替の夫、材料費などの書上	横帳

No.	史料番号	表題	年月日	作成・発給	宛所	内容	形態
23	19-5	御笠郡乙金村原口堤立樋前仕替御願帳	文化9年10月 申11月6日開届	乙金村庄屋 善四郎(印) 同村組頭 藤七(印) 同 善七(印)	松岡太郎左衛門様御役所	原口堤の普請仕替願い、下大利村大庄屋 左作の奥書あり	横帳
24	19-6	御笠郡乙金村石橋新規御願積書上帳	文化12年亥6月	乙金村庄屋 善四郎 同村組頭 藤七 善七 同村普請庄屋 和作	松岡太郎左衛門様御役所	乙金村の石橋新規築立に係る人夫、石垣仕調、石工手間などの積もり書上とその願い	横帳
25	19-7	御笠郡乙金村堤底樋仕調夫積書上帳	文化12年3月	乙金村庄屋 善四郎 善七 同村組頭 藤七 善七		せんちだ堤の底樋仕調の積書 大工手間、松木などの書上	横帳
26	19-8	御笠郡乙金村操掛樋仕廻目録書上帳	文化12年亥12月	乙金村庄屋 善四郎(印) 同村組頭 藤七(印) 同 善七(印)	八田九内様御役所	廻り町操掛樋仕廻目録	横帳
27	19-9	御笠郡乙金村洪水破損所紛失瓶井樋仕居御願帳	文化13年子/6月	乙金村庄屋 善四郎 同村組頭 藤七 善七	天野藤九郎様 増崎茂作様	柴原瓶井樋1か所 右は6月19日の洪水で洗い流されたので、瓶井樋仕替えの願い	横帳
28	19-10	御笠郡乙金村洪水破損所洗流瓶井樋仕居御願帳	文化13年子6月	乙金村庄屋 善四郎(印) 同村組頭 藤七(印) 同 善七(印)	天野藤九郎様 増崎茂作様	柴原瓶井樋1か所 6月20日の洪水で洗い流され紛失したことに相違ありません	横帳
29	19-11	御笠郡乙金村井樋仕継材木御願帳	文化13年10月	乙金村庄屋 善藏(印) 同村組頭 藤七(印) 同 善七(印)	天野藤九郎様 増崎茂作様	せんちだ井樋仕継ヶ所 御見分の上お渡し下さい 乙金村普請方 和作(印) 向佐野村大庄屋 良七(印) の奥書あり	横帳
30	19-12	御笠郡乙金村堤床費地田畑書上帳	文化14年年巳7月			「同反田 下々田 三畝 高式斗七升三合 米壹斗七升式合 御徳米 同所 下々畠 三畝七歩 高壹斗式升」など費地の書上か	横帳
31	19-13	御笠郡乙金村御免用瓶井樋新規御願帳	文政元年6月	乙金村庄屋 善藏(印) 同村組頭 藤七(印) 同 善七(印)	天野藤九郎様 小河次右衛門様	「せんちだ瓶井樋壹ヶ所 長さ壹間六歩六厘 三寸口」の新規築造願書 乙金村普請方 善作(印) 大佐野村大庄屋 良七(印)の奥書あり 右開届る 天野藤九郎(印) 小河次右衛門(印)	横帳
32	19-14	御笠郡乙金村原口重子堤底井樋継長々并臥樋立樋二仕替御願申上候二付添付書	文政2年2月	乙金村庄屋 善藏 同村組頭 藤七 善七	那珂・席田・夜須・御笠御免方御役所	乙金村原口重子堤の臥樋立樋に仕替の願い	横帳

No.	史料番号	表題	年月日	作成・発給	宛所	内容	形態
33	19-15	御笠郡乙金村御免用底井樋仕居仕廻目録書上帳	文政2年2月	乙金村庄屋 同村組頭 同	那珂・席田・夜須・御笠 御免方御役所	原口重子2月17日限り 御普請御仕廻いの報告書	横帳
34	19-16	御笠郡乙金村御免用瓶井樋仕居仕廻目録書上帳 手許ひかへ	文政2年3月	乙金村庄屋 同村組頭 同	那珂・席田・夜須・御笠 御免方御役所	せんちだ瓶井樋仕居仕廻の報告の控	横帳
35	19-17	御笠郡乙金村御免用瓶井樋新規御願帳	文政3年6月	乙金村庄屋 同村組頭 同	那珂・席田・夜須・御笠 御免方御役所	京塚、野添瓶井樋新規築造の願い、御見分の上仰せ付け下さい、観世音寺村普請方善作 向佐野村大庄屋良七の奥書あり	横帳
36	19-18	御笠郡乙金村原口堤當冬底樋立樋替諸品積書上帳	文政5年6月	乙金村庄屋 同村組頭 同	那珂・席田・夜須・御笠 御免方御役所	原口底樋替の材料及び大工人夫の見積書	横帳
37	19-19	御笠郡乙金村原口堤底厚焼瓶井樋等立樋仕調仕廻目録書上帳	文政6年正月	乙金村庄屋 同村組頭 同	那珂・席田・夜須・御笠 御免方御役所	原口堤底樋立樋替 正月29日限り 御普請御仕廻の報告	横帳
38	19-20	御笠郡乙金村御免用操掛樋来春新規御願帳	天保3年7月	乙金村庄屋 同村組頭 同	那珂・席田・夜須・御笠 御免方御役所	小松操掛樋新規築造の願い	横帳
39	19-21	御笠郡乙金村堤底樋當秋仕替入用諸品御願帳	嘉永5年6月	乙金村組頭 同村庄屋	那珂・席田・夜須・御笠 御郡御役所	新池堤底樋立樋替のための入用諸品願い帳	横帳
40	20-1	老人書上	文政12年丑ヨリ嘉永6年丑ニ至ル			文政12年より嘉永6年まで25か年の乙金村70歳以上の老人の名前・年齢の書上 間に弘化・嘉永時代の殞馬の書上あり 横帳1冊の中に老人書上と旅人滞在その他を書き込んである	横帳
41	20-2	旅人滞在	文政12年丑ヨリ天保15年ニ至ル			文政12年より天保15年まで16年間の記録 旅人の年齢・名前・男女の別・出身地・目的・職種など書上	横帳
42	21	文化十四年日記	文化14年	(高原善蔵)		文化14年2月から寅正月までの日記 人の出入り・農作業の記録など はじめに「正月より二月十四日迄分虫切散逸 高原善蔵」と書き込みあり	横帳
43	22	安政六年未年日記	[安政6年未正月元日 ～12月12日]	高原氏		安政6年元日より12月12日迄の日記 天候・人の出入り・農作業の記録などが書かれている	横帳



No.	史料番号	表題	年月日	作成・発給	宛所	内容	形態
44	23	甲子年中日記	[文久4年甲子]	高原善市郎		文久4年正月元日より同年(元治元年)12月29日まで の日記 天候・家族の動向・農作業などを記録してい る 末尾には「年中作物大榎大豊作」「気候」をまと めている	縦帳
45	24	[高原家過去帳]	[明治36年]			命日・戒名・名前・続柄の書上	縦紙
46	25	自詠発句集	[明治]	高原善造美寛		高原善造が詠んだ俳句集	縦帳
47	26	農家訓	享和3年亥9月11日 写	高原氏 写		法眼普山著「農家訓」の写 農家の心得が書かれて いる	書冊
48	27	農業全書 卷二	[江戸]			五穀類19種についてその性質・特徴・作り方の注意 などをくわしく解説 絵付き	書冊
49	28	筑紫遺愛集 卷六	[江戸]	伊藤道保 編集		那珂郡、席田郡、御笠郡内の孝心者、奇特者、勤功 者の紹介文の綴り	書冊
50	29	筑紫遺愛集 卷七	[江戸]	伊藤道保 編集		上座郡、下座郡、御笠郡内の孝心者、奇特者、勤功 者の紹介文の綴り	書冊
51	30	筑紫遺愛集 卷九	[江戸]	伊藤道保 編集		嘉摩郡、穂波郡内の孝心者、奇特者、勤功者、忠義 者の紹介 絵入り	書冊
52	31	筑紫遺愛集 卷十	[江戸]	伊藤道保 編集		鞍手郡内の孝心者の列伝	書冊
53	32	筑紫遺愛集 卷十四	[江戸]	伊藤道保 編集		宗像郡内の孝心者、奇特者、勤功者、忠義者の紹介 文の綴り 筑紫遺愛集の最終巻	書冊
54	33	第五回内国勸業博覧会観 覧者旅行案内	明治36年3月16日 発行	岩谷伝次郎 駿々堂発行		博覧会観覧者のための旅行案内書 観光・鉄道・旅 館・土産など多岐にわたって書かれている	書冊
55	34	[断簡]	[江戸]			寺院紹介4紙 古城の紹介7紙あり 前後破損激しく 順不同	縦紙11枚

No	史料番号	表題	年月日	作成・発給	宛所	内容	形態
1	1	理家記事米金入簿	明治41年陰曆正月	高原達太郎		下男下女の給米控 勤務日誌・その他請人・借の部などの記録	縦帳
2	2	旧保長ヨリ畑方三期未納并山税未納引讓帳 中村乙金	明治11年12月			畑方の3期未納及び山税の金高人名の書上と中村と乙金村分の算用書上 同綴:金子引讓差引目録	横帳
3	3	所有地所台帳	明治8年第5月	高原善造		高原本家の所有地明細 田畑・地番・面積・自作・小作・高など詳細に記録されている	縦帳
4	4	田畑余米取調帳	年月日不詳	高原忍平		抱え田畑の明細 字・面積・下作・上納・余米・高など詳細に記録されている	縦帳
5	5	諸願指出御向状一切控	天保15年辰11月5日	仲嶋村庄屋善一郎外		庄屋組頭などからの伺い書・願書その他とその返事・年始心得の覚などの控	縦帳
6	6	安政二年卯江戸御類焼掛・宮田村中分下作他帳	安政2年			江戸御類焼掛 宮田村中分下作 筒井溝代などの負担・石高・人名の書上	横帳
7	7	抱分田畑明細記	明治3年庚午2月	高原善造		抱え田畑明細 字・面積・下作・上納・余米・高その他抱田畑の経緯など記録されている	縦帳
8	8	年中行事簿	明治16年癸未正月			当時貸の明細	横帳
9	9	御類御定書	天保6年未9月	庄屋 高原忍平	御郡奉行 平野権九郎 御免用方 山崎茂八郎 大庄屋 通古賀村善次	在郷御類の時の準備や心得についての御達	綴
10	10	追々被仰付候□□□□	明和9年3月			郡役所よりの触状・津出定書・上納銀取上げなどの写 内題:明和9年4月乙金村面役根帳	綴
11	11	高原氏古語覚書	慶応2年丙寅4月	75歳 高原太平		高原氏の言伝えを集めたもの 観音堂の事・雉子が尾の由来・毘沙門堂・田中道のことなど	縦帳
12	12	高原氏伝言録	慶応2寅年3月吉日	太平 75歳		高原氏の言伝えを集めたもの 当家火災の事・村の塚穴の事・八つ又薬師の事・田中道のことなど	縦帳
13	13	記	[明治8年以降]	高原善造		高原本家の褒賞の記録	縦帳
14	14	諸願諸指出控	[嘉永3年戌正月吉日]	乙金村庄屋善一郎(ほか)	那珂・席田・夜須・御笠 御郡代役所ほか	初困の事・若杉山御類の事・宝満御作事御用材木の事など諸願書の綴り	縦帳
15	15	[田島抱帳]	明和3年3月	乙金村庄屋 和作他	永田伊左衛門様御役所	人別 田方 島方の抱え分の書上	縦帳

No	史料番号	表題	年月日	作成・発給	宛所	内容	形態
16	16	諸控	7月18日他	乙金 忍平		「秋30その他お渡し」「備油増願」「洪水荒調子」「難渋百姓御救米御渡」その他の控	縦帳
17	26	〔御笠郡乙金村田島名寄帳〕	文政4年8月	乙金村庄屋 善蔵(印) 同村組頭 藤七 善七 同村跡庄屋 忍平	長岡七太夫様	天保3年12月永田十兵衛様より仰付られた田畑の 人別・所有地の報告書 所在地・畝数・石高などが 書かれている	書冊
18	33	俵口掛一件 丑七月大庄屋元方借渡	天保12年丑7月 外			「借付割渡帳」「拝借割渡印形帳」「俵掛米割戻算 用帳」を1つにまとめたもの 借付・割渡・割戻しの銭 高・俵数・米高の書上げ内題：大庄屋元方借付割 渡帳・俵掛米割戻算用帳	横帳
19	34	御救米代難渋百姓割渡帳	天保11年子8月4日 他	乙金村組頭 源六 作次 同村庄屋 忍平	那珂・夜須・席田・御笠 御郡御役所	表題の帳の他に「御救米割渡書上帳」「御年貢未進 書上帳」「御免の外持参衣類染色名元書上帳」 「人別御救銀拝借書上帳」「筒井村居住医師崎典 口老方難渋百姓助合米書上帳」が一綴してある	横帳
20	35	〔萬控写〕	〔文政4年頃〕	郡代役所		覚・定・演達・申渡など郡代役所からの通達の写 案 文もある	綴
21	36	御笠郡乙金村臨時切立御聞届帳	明和9年11月 安政3年7月	山口村大庄屋 利兵衛 乙金村庄屋 和作	津田源次郎様	軸帳前の外臨時切立の米銭・夫銭の書上 その他神 楽・諸入用御殿材木・橋掛替入用夫	綴
22	37	万延二辛酉歳日記	万延元年元旦～4月 29日	高原善一郎美信		第10代善一郎50歳のときの日記である ここでも善蔵 氏の読書ぶりがうかがえる	縦帳
23	38	乙金村烽火一件并中村方龍塲御詮儀書物控	文化6年巳ノ7月28日	乙金村権七 外7名	村上又左衛門様御役 所	乙金村烽火の1件についての乙金村百姓権七以下 八名の申し条などの綴り	縦帳
24	39	土木箇所調帳 御笠郡大野村大字乙金	明治28年2月	村長 高原謙次郎	那珂・御笠・席田郡長 久野近賢殿	大野村乙金の河川・道路・橋・堤防・樋・堰・水路など の明細書上	縦帳
25	40	〔書簡案文集〕	〔明治38年～38年頃〕	〔高原善造〕		「玉緒會會員への通知」「紹介書」 その他書簡	縦帳
26	41	御笠郡乙金村堤井樋掛樋軸帳	文化6年巳ノ正月	乙金村庄屋 善四郎	村上又左衛門御役所	原口・毛所・ぶっしやう・山目・せんちた・廻り町・はさ こ・ふかわ・唐山などの堤・井樋書上の報告書	綴
27	42	〔乙金村田畑名寄帳〕	年月日不詳			田畑の人別・字・等級・面積・高の書上	縦帳
28	43	御笠郡乙金村田島名寄帳	天明元年閏5月			田畑の小字・等級・面積・高・名前等の書上 天明8年・天保9年・寛政8年など年号の貼付有	縦帳

No	史料番号	表題	年月日	作成・発給	宛所	内容	形態
29	44	所有地所台帳	明治22年3月調製	高原善造		明治25年8月調 所有地所合計 田5町9反9畝4歩 畑2町2反3畝 山林21町8反8畝	縦帳
30	45	〔向佐野軸帳綴〕	明和8年5月	山口村大庄屋 利右衛門	永田伊左衛門様	御笠郡向佐野軸の軸帳をまとめて綴られている 国分寺村・観世音寺村・仲鳴村・上大利村・下大利村・中村・白木原村・乙金村・宰府社領分・宰府御蔵納分・山田村・畑詰村・筒井村の分が綴ってある	綴
31	46	地方税以下賦課額根簿	明治17年度～21年度		御笠郡筒井村外7ヶ村 戸長役場	御笠郡筒井村外7か村の「地租・地租割・戸割割・備荒」などの書上 明治17年～21年までの分を合冊 領収書もとじ込みあり	縦帳
32	47	〔名寄帳〕	年月日不詳			人名別に所有している田畑の地名・等級・面積・とれ高などの合計を記したものである	縦帳
33	48	〔地所取調帳〕	〔明治期〕			乙金村の田畑山林の各字・地番・所有者の面積と収穫米の書上	縦帳
34	49	公事訴訟取捌一件(写)	寛保2年(慶応元年 写)	閑逸太郎		公事訴訟に関する定書を写したものである「國郡境論」「漁瀬海川境論」「堤井堰用水論」「諸式養子離別後住並引取人」など	縦帳
35	50	〔諸覚書綴〕	弘化2年	乙金村庄屋 善一郎	那珂席田夜須御笠御 郡代御役所	弘化2年に乙金村の者から郡役所に届け出た覚書や報告書などの綴り	綴
36	51	温和院初盆他ふ到来控	大正4年卯8月			温和院(達太郎)の初盆及び一週忌の到来品の控	横帳
37	52-1	慈善院様金品寄贈控	大正5年1月22日	高原家		「慈善院(善造)葬式に付金品寄贈控」旗・野菜・夜食・酒など名前と金銭・品物の書上	横帳
38	52-2	善行院温厚日圓居士諸入 費帳	大正11年10月	高原家		善行院温厚日圓居士の葬式その他費用 配りものの宛先・品物その他費用の書上 葬式到来簿・初七日到来簿も同綴あり	横帳
39	53	慈善院之初盆	大正5年8月	高原善一郎		同綴:「慈善院之初盆御供の控」「善行院温厚日圓居士初盆控」「慈善院様仏事その他諸費用控」その他 為知帳・本部の部・歌友の部など	横帳
40	54	高原美久・同秀雄入営二 付到来品控	昭和10年1月20日入 営	高原家		義久入営の際の金の品・名前の書上げ 同綴:秀雄心召二付饒別受 昭和13年9月3日 他に「心召解除」「昭子誕生」もある	横帳
41	55-1	梯次郎葬儀供物控	昭和15年2月29日	高原家		梯次郎葬儀の供物控	横帳

No	史料番号	表題	年月日	作成・発給	宛所	内容	形態
42	55-2	深信院妙解日脱大姉葬儀	昭和15年8月19日	高原季雄		深信院妙解日脱大姉葬儀の供物控	横帳
43	55-3	葬儀二付供物控	昭和18年6月26日	高原家		高原辰子 葬儀の供物の記録	横帳
44	55-4	春岳院浄満日童子初盆二付		高原家		春岳院浄満日修童子の初盆供物の記録	横帳
45	56	高原美久結婚祝儀二就了	年月日不詳	高原家		高原義久氏の結婚祝い金の記録	横帳
46	57	深信院ノ初盆二付	[昭和16年]	高原家		深信院の初盆に供えられたものの書上	横帳
47	58	草稿日誌	明治44年1月起	高原達太郎		手紙の下書き 給米支払いの計算・買い物・不勤の記録など	縦帳
48	59	諸金渡方判取帳	明治18年7月～同23年4月			筆算生給衛生費など月別・姓名・金額の書上 このほか「金銭渡判取簿」「臨時収入金割印簿」を明治21年に合綴	縦帳
49	60	年中萬覚帳	文政9年戊正月			人別米銭出納 働いた人数などいろいろの記録帳	横帳
50	61	[金銭書上]	安政7年申			日用品など買い上げの記録・店名品名・数量・金額などの書上	小横帳
51	62	年々米金貸付一覧表	明治32年1月調			明治12年～明治36年の米金貸付けの明細及び集計	縦帳
52	63	慈善院様葬式二付實費	大正5年1月22日	高原家		慈善院様の葬式に關しての出費の書上	横帳
53	64	諸事覚	嘉永3年7月			「植痘頼人数」「百回忌佛事買物」「採筮」その他出費の控え等雑多の記録	小横帳
54	65	明委状	享和2戊3月			享和2年の乙金村の明細記 註:「御郡奉行村上清内様と被仰付候」とあり	縦帳
55	66	利七娘記録帳	文化7年午12月27日 方	乙金村庄屋 善四郎 同村組頭 藤七 善七	村上又左衛門様御役所	利七娘が怪我をしたので親元に帰し療治したが死亡した経緯が報告されている	縦帳
56	67	御笠郡乙金村人拂帳	天保2年3月～安政3年			乙金村の人数内訳・出入・死人・産子・住宅・奉公人などの書上 天保2年より安政3年までの記録	縦帳
57	68	[書状下書]	年代不詳	高原善造		何かの印刷物の裏紙を使った書状の下書き	縦帳
58	69	田畑名寄帳 高原善一郎抱分	明治元年12月	[高原善一郎]		高原善一郎抱え分の古田・古畑・畠作別の所在地・田位・畝数・右高などの書上	縦帳

No	史料番号	表題	年月日	作成・発給	宛所	内容	形態
59	70	地券願帳	明治5年壬申10月	高原善造	福岡県御庁	福岡県庁に於てた地券御渡願いの綴り	縦帳
60	71	俵約御触之写	文政11年子冬	母里小平 岸原七太夫	夜須・御笠大庄屋庄屋 組頭百姓中	農業のやり方・衣服・食物など生活の端々まで27か条に亘つての俵約についての定め	縦帳
61	72	乙金村御年貢取立帳	嘉永5年子9月			年貢取立ての覚 日付・名前・俵数の書上	横帳
62	73	[乙金村田島名寄帳]				人別 田畑の所在地・畝数・高数・石数などの書上	縦帳
63	74	諸願諸指出御触状一切記録	天保10年亥年正月			宗旨御改め 牛馬牽方 産子養育 年貢米の事など触状の写し	縦帳
64	75	諸願諸指出御触状一切記録	天保9年戌年7月ヨリ 12月迄			御茶屋御繕手伝夫・洪水破損所入用諸品の書上 その他津出に関する願出し・巡見使に関する触状など種々記録	縦帳
65	76	諸願諸指出御触状一切記録	天保9年戌年從9月10 日迄			捨子養育・宗旨御改・俵約令・馬鳴締などの触状の写し	縦帳
66	77	[覚]	大正4年2月4日ヨリ	高原阿左(ほか)	斉藤寿七様ほか	手紙の下書きや届の下書きなどを多数綴じてある又綴り残しの分を挟み込んである	縦帳
67	78	諸願〔旅人死取計十五ヶ集〕	天保3辰5月5日ヨリ 6月迄			15件の死失の例の郡代役所への取納め方の上申、及び報告の写し	縦帳
68	79	土木取調書	[明治期]			御笠郡乙金村の土木取調 戸数・人口・田畑反別・宅地寺地反別など書上 他に川の部・道路の部・用水の部など詳細に書上	縦帳
69	80	[覚綴]	嘉永2年2月～同3年 正月	乙金村庄屋善一郎(ほか)	那珂・鹿田・夜須・御笠 御郡代御役所	御笠郡内庄屋よりの願いの写し他	縦帳
70	81	年々記録御觸状写	天保7年申5月～同 年9月			触状の写集「秋月銀の事」「旅商人の事」「御救銀の事」など5月～9月までの記録	綴
71	82	年々記録御觸状写	天保7年申10月～天 保8年2月			「米の相場」「郡々困窮の時」「病人の療治」「飢饉の際の心得」などについての写し	綴
72	83	亥四月の写〔諸記録写〕	嘉永4年7月18日～ 同年10月	乙金村庄屋善一郎	御郡御役所 他	「薬師柏島方に雇われていた人に手傷を負わせ逃げた直松の人相書」他郡役所などへ上申した覚書の綴り	縦帳

No	史料番号	表題	年月日	作成・発給	宛所	内容	形態
73	84	乙金村御水帳	[慶長7年8月7日]			「中村」の田畑の等級・小字・広さ・取れ高・名前など 列記 慶長13年田方新開・元和4年田方新開のもの もある	縦帳
74	85	御笠郡乙金村田島畝高百 姓名寄帳	享保18年丑10月			字名・等級・反別・高など記載あり 惣合田数 27町8 反4畝22歩 高 334石9斗6升9合8勺	縦帳
75	86	[田島名寄帳]	安永6年	庄屋 和作 組頭新九郎・藤 作・源内		字名・等級・反別・高・抱えなど記載 惣田数 27町8 反8畝29歩5厘 高335石7斗8升8勺	書冊
76	87	御笠郡乙金村田島名寄帳	文政元年6月	乙金村庄屋 善藏	八田九内様	田畑の等級・小字名・取高・名前の書上 田数27町8 反4畝22歩 高334石9斗6升9合8勺	書冊
77	88	□□乙金村田島名寄帳	寛政2年戌5月	乙金村庄屋善四郎 組頭 新九郎・藤七	天野弥市兵衛	字名・等級・反別・高・名前など記載 総田数27町8 反4畝22歩 高334石9斗6升9合8勺	書冊
78	89	御笠郡瓦田村堤并樋唐戸 軸帳	文化9年申7月	瓦田村庄屋恵吉 同村組頭 源右衛門・藤吉他	松岡太郎左衛門様御 役所	表題の軸帳のほか、に 付「御笠郡瓦田村土橋軸帳 文化九年」合綴	綴
79	90	乙金村田島畝高名寄帳	元禄11年正月11日			字名・等級・反別・高・名前など記載 総田畝数38町4 反4畝8歩 総田畝高404石7斗5合4勺	書冊
80	91	乙金村田島畝高名寄帳	延享元年8月			田島の等級・小字名・取高・広さ・名前の書上 高334 石9斗9合8勺 田数27町8反4畝22歩	書冊
81	92	二十二年度地方税以下賦 課原簿	[明治]22年度			明治22年度 前期地方税以下地租割・賦課根帳他 戸別割根帳 一番学区教育費・賦課表・地租及び戸 数表 二番学区の内地租及び戸数表や22年度後期 地方税に関する諸表が綴られている	書冊
82	93	土地遺産相続所有権保存 登記申請書	大正元年11月2日	高原善一郎	福岡区裁判所太宰府 出張所	高原達太郎から相続人高原善一郎への登記申請書 田畑・山林・原野など総価格187円 登記済の印あり	綴
83	94	債権弁済方法ニ関スル公 正證書謄本	昭和8年8月21日	公証人 中上友三郎		「729円32銭」の債務に関する弁済人高原梯次郎の 公正證書謄本	綴
84	95	地所交換約定書	明治44年10月7日	交換者 高原善造 高原昌 一郎	同左	高原善造と高原昌一郎が地所を交換した時の約定 書	綴
85	96	土地表示変更登記申請書	昭和23年12月7日	申請人 松岡美寛	福岡法務局二日市出 帳所御中	「土地登記変更の申請書」と物件の変更前と変更後 の表示と変更済みの印あり	綴



No	史料番号	表題	年月日	作成・発給	苑所	内容	形態
86	97	[領収書]	昭和39年2月12日	後藤巴蔵	高原義久殿	乙金原口田小作田分田の代金として「金1万5千円」を受け取った領収書	綴
87	98	分割届	[大正]	伊藤善平	福岡税務署長殿	乙金古野の山林を二分したのでその届け出の写しと思われる。図面も添付してある。	縦帳
88	99	[地租名寄帳]	年月日不詳			小字・地番・地積・地目・賃貸価格・名前などの書上	縦帳
89	100	新年賀状二書添和歌	年月日不詳			年賀状に書き添える和歌が宛先ごとに書かれている	縦帳
90	101	大野会五月份		[善造]		自作和歌集 菜花・満野・美女などの題 朱筆で添削 天地の書き込みあり	縦帳
91	102	[和歌書付]	大正4年卯3月写	善造		春・夏・秋・冬・雑と題をつけて詠んだ和歌の写しを綴じてある	縦帳
92	103-1	高原氏祖先霊牌更調祭典	明治22年10月3日			高原氏祖先戒名の書上 別家3家の分もある	縦帳
93	103-2	[法名記]				法名の書上 船越氏・丸山氏など書き込みあり 元 文・享保その他年月日の書き込みもある	横帳
94	103-3	墓碑写	明治15年旧7月	高原善造		碑名の写し 年号・法名・年月日など書上 朱で番号・ 丸印の書き込みあり	切紙
95	103-4	[墓碑銘写]				碑名の写し 法名・年月日など 朱筆で津氏の墓・祭 主新三郎と書き込みあり	切紙
96	103-5	津氏之墓				法名・死亡年月日の書上 津氏のほか中江氏・丸山 氏・高原謙二郎家のものもある	縦帳
97	103-6	祝儀	大正15年6月7日			祝儀(梯次郎か)の金額と名前の書上げ 金員のほか 絹・木綿・浴衣などあり	横帳
98	103-7	[法名改]	昭和34年1月	[高原善造]		昭和34年1月改めの法名書上 合綴:「明治22年9月 霊牌更調下調高原善造」・「明治十三年乙金村宗 旨御改帳」等	縦帳
99	103-8	高原氏先祖諸精霊				寛文5年から明治15年まで欄を作り該当する法名と月 日・続柄・俗名などを書き込み	縦帳



No	史料番号	表題	年月日	作成・発給	宛所	内容	形態
100	103-9	[高原氏先祖諸精霊]				年号の欄に法名・俗名・続柄など書き込みあり 合綴:「明治三十年諸霊年数記」「仏忌日記」「御料理朝精進」など	縦帳
101	103-10	先祖逝去年月記・先祖祭典年回表	明治22年丑3月	高原善造美寛		先祖逝去年月及び先祖祭年回表の記録 宝永元年より大正3年まで	縦帳
102	104	自詠歌選抜集	大正4年乙卯2月23日			自作和歌選抜集 170首ほどある	小横帳
103	105	各評歌	大正元年8月	高原善造 昌重		「第1回玉緒会 船納涼」の下書きと清書「大正元年10月分互選歌の清書・互評」「大正元年12月分玉緒会落葉埋道」各評などが綴られている	縦帳
104	106	[書状写]	[天保15年頃]			郡代役所～乙金村間往復書状写し	綴
105	107	高原美寛碑文稿	大正7年9月			高原善造美寛没後、その功績を記した碑文の草稿	縦帳
106	108	[地租割綴]	明治22年～25年			明治22年前期から明治25年前期までの地租割・戸数割・営業割などの綴り	縦帳
107	109	山林原野境界地図	明治33年	高原善造		王城山・此岡・杵山・竹ノ尾・善一田・花園・京塚などの境界の地図の綴り	綴
108	110	御笠郡乙金村庄屋組頭山ノ口乍恐御願申上ル事	天保4年6月	乙金村山ノ口 次七・源次 組頭 作次・次右衛門 同村庄屋 善蔵	那珂・夜須・席田・御笠 御免方御役所	当村抱えの境の松という所は井野村との郡境が定まらず長年にわたり困っておりますのでご見分の上御裁許ください、との上申書の下書き	切継紙
109	111	證文之事	文政8年酉2月	田地主 新九郎 受人新作 新吉	庄屋 善蔵様	質證文「下々田1畝25歩5厘」と「上畑1畝6歩」を50目で質入れしていたが82匁にて永代に売渡した証文組頭の奥書あり	切継紙2枚継
110	112	永代證文之事	寛政4年4月	十蔵 請人 甚作・次作	善四郎殿	「下々田1反22歩」と「上畑5畝」を代銭140匁にて永代に売渡し	切紙
111	113	田畑小作付名寄帳	明治9年子12月改	高原善造		小作に貸与している田畑畝数・石高を小作人別に記録したもの 後部に自作分も記録してある	縦帳
112	114	金銭消費貸借及地上権設定契約公正證書謄本	[昭和13年11月7日]	公証人 福田喜久司	高原美寛	国栄産業株式会社は高原美寛に金700円を貸渡しその担保物件として 田畑計5反4畝3歩の抵当権を設定する	縦帳

No	史料番号	表題	年月日	作成・発給	宛所	内容	形態
113	115	御笠郡乙金村庄屋組頭乍恐御願申上ル口上之覚	寛政10年6月	乙金村庄屋 善四郎	天野弥一左衛門様御役所	当村散使は給米6俵で12月13日まで勤めさせていたが1俵増して年内中勤めさせたい願ひ及び米1斗5升切立福岡宿米に当てたい願ひ、山口村大庄屋の奥書あり	切紙4枚継
114	116	[請文類綴]					
115	116-1	[代金請求取請文]	年月日不詳	古賀孫四郎	関様	「右ノ金正ニ御受取申上候也」の証文	横折
116	116-2	記	年月日不詳		関保太殿	代金支払の記録 酒7升5勺 代金3円62銭 内20銭引	横折
117	116-3	記	旧3月23日	舟越善助	関保太様	代金支払の記録 酒8升3合 代金3円15銭	横折
118	116-4	記	年月日不詳		[ ]	代金支払の記録 主として酒代が多い	横折
119	116-5	キ	年月日不詳	[ ]	[ ]	代金支払帳の一部かと思われる	横折
120	116-6	キ	年月日不詳	[舟越] 清吉	関やす太さま	代金支払の書上	切紙2枚継
121	116-7	[支払目録]	年月日不詳	[ ]		舟越源太郎・ほか5名の支払い代金	切紙
122	116-8	[代金支払書]	□月15日	舟越清吉	関三郎殿	12月までに支払うべき金額とその内容を明記した支払請求書か	切紙
123	116-9	請取	旧5月14日〔明治〕	舟越清吉	関保太様	「金拾二円五拾三銭六厘 右正ニ請取申上候也」という証文だが、日付に「旧五月十四日」とあるが、「新六月五日」とは相違していると考えるようにと保太氏が記入している	切紙
124	116-10	蘇来香酒記	年月日不詳			関三郎分 酒類や菓子などの量と日付の書上	横帳
125	117-1	御笠郡筒井村滞在肥前國嶋原御願高米郡出生中右衛門御詮儀三付乍恐申上ル口上之覚	天保13年4月	筒井村滞在中右衛門	立花善兵衛様	御詮文山立木根伐りの件	切紙2枚継
126	117-2	御笠郡筒井村滞在肥前國嶋原御願高米郡出生中右衛門御詮儀三付申上ル口上之覚	天保13年4月	筒井村滞在中右衛門	立花善兵衛様	御詮文山根拂いの際 間違つて松の木16本根伐したことのお詫び	切紙

No	史料番号	表題	年月日	作成・発給	宛所	内容	形態
127	117-3	御笠郡乙金村組頭作次・源六御詮儀二付年恐申上ル口上之覚	天保13年4月	乙金村組頭 作次 源六	立花善兵衛様	御詮文山古野浦と申す所のお仕組みによる入札の件について	切紙2枚継
128	117-4	御笠郡乙金村山之口源次・次七御詮儀二付年恐申上ル口上之覚	天保13年4月	乙金村山之口 源次・次七	立花善兵衛様	古野の詮文山御用囲いの材木100本の入札の件	切紙2枚継
129	117-5	御笠郡乙金村清吉孫四郎半助組合百姓中御詮儀二付年恐申上ル口上之覚	不詳	乙金村清吉組合 組頭取 和藏・藤六・文藏・卯平	不詳	古野浦御詮文山御払いになり その落札の件について	切紙
130	117-6	[御詮文山除木根伐一件]	[天保13年4月カ]			前欠 後欠につき内容不明	切紙
131	117-7	[御詮文山除木根伐一件]	天保13年4月	乙金村組頭 作次・源六	立花善兵衛様	前欠のため内容不明	切紙
132	117-8	御笠郡乙金村滞在肥後國天草出生吉助御詮儀二付年恐申上ル口上之覚	天保13年4月15日	乙金村滞在 吉助	立花善兵衛様	詮文山の御除木止むを得ず10本程番付の分根伐したことのお詫び	切紙2枚継
133	117-9	御笠郡筒井村滞在肥前國嶋原御頭高米郡出生中右衛門御詮儀二付年恐申上ル口上之覚	天保13年4月	筒井村滞在中右衛門			切紙
134	117-10	御笠郡乙金村滞在肥後國天草出生吉助御詮儀二付年恐申上ル口上之覚	天保13年4月	乙金村滞在 吉助	立花善兵衛様	詮文山の御除木止むを得ず10本程番付の分根伐りしたことのお詫び	切紙
135	117-11	御笠郡乙金村組山之口源次・次七御詮儀二付年恐申上ル口上之覚	天保13年4月	乙金村山之口 源次・次七	立花善兵衛様	御詮文山古野浦の松木100本御渡ししの件	切紙3枚継
136	118	[書状写]	年月日不詳			大風等天災関係の被害に関する触書・拝借銀など藩との往復書状写し	堅帳(表紙欠)
137	119-1	永代詮文之事	天保8年12月	庄屋 忍平	平作殿	上田2畝23歩を文政10年に米1俵と50目にて質物になつていたがこの節米4俵で永代拙者のものにした証文	切紙2枚継
138	119-2	詮文之事	文政10年亥正月	文吉 平作	庄屋 善藏殿	上田2畝23歩を米1俵半と50目5分で質物とした証文及び米4俵受取り同地を庄屋忍平に永代売渡した証文	切紙3枚継

No	史料番号	表題	年月日	作成・発給	苑所	内容	形態
139	120	証文之事	天保14年4月	源三	忍平殿	「中田老畝廿六歩・高式斗八升五合五勺」の土地を貴殿抱えの「上田老畝廿式歩・高式斗三升老合」の土地と永代替える証文 庄屋の奥書あり	切継2枚継
140	121	永代証文〔之事〕	天保14年12月	皇主 七五郎 受人 孫作	忍平殿	上島2畝2歩を米2俵の質物としたことに相違ない事を村役人の奥印を申受けた証文 後に米1俵半で永代に売渡した証文が附加されている	切継3枚継
141	122	証文之事	嘉永3年戌12月	皇主 藤六 證人 孫七	庄屋 善一郎殿	上島4畝28歩 高4斗7升7合の畠を天保15年辰12月米2俵で又弘化4年末 冬の米1俵と1俵1斗6升5合を追加して合計4俵1斗6升5合で永代に売渡したという証文	切継2枚継
142	123	〔願書〕	享保2年9月	乙金村庄屋 善四郎	村上清内御役所	「来る12月より来月5日まで御證文山より(筒井川)博多須口まで川下り致したく存じますので川證文を仰せ付けてください」との願い	切継2枚継
143	124	借用申証文之事	文化3年12月29日	藤次 他6名	庄屋善四郎殿 組頭藤七殿	六錢240目を月3分利で 120目は正月10日切で 120目は2月15日切で借用します 不埒の時は左記の田畠を引当にしてください という証文 組頭源三の奥書あり	切継4枚継
144	125	民次郎講金割	年月日不詳			民次郎の講金の割り当て	切紙
145	126	仕拂目録	年月日不詳			月日・金高・名前の書上げ 借入・返金・その他差引もあり	切紙
146	127	仮請取証	[明治]40年8月28日	花田房吉	関保太殿	仕立講の内端として「金五拾貳円參拾錢」の受取	切紙
147	128	三分フ一期盛講金割合	年月日不詳			講金の割合の記録	堅紙
148	129	竹代價表	[明治]34年10月			竹7節 目廻り4寸から8寸までの単価書上げ 人名2名あり	堅紙
149	130	記〔代金支払〕	年月日不詳			材木の代金か	堅紙
150	131	〔代金請取〕	弘化3年11月	乙金村組頭 正右衛門 同 源六 同村庄屋 善一郎	那珂・席田・御笠御郡代御役所	衣類の詳細書上げと代金書上げ(質入れか) 乙金村大庄屋の奥書あり	切継3枚継
151	132	習字手本	年月日不詳			裏打ちして短冊大に折り込んだものに字を書いたもの 手本か	折本

No	史料番号	表題	年月日	作成・発給	宛所	内容	形態
152	133	[田中盛平書簡写]	年次不詳	田中盛平	高原善造様	巳12月12日付 金20円を納めるもの 巳12月21日付 金8円を納める 1月7日・3月9日金5円納めるなど ほか酒造米の御札など 5通	縦紙
153	134	和歌	明治45年5月24日	高原善造美寛		原本 明治36年6月本居豊口が書いた和歌を写したもので 淵の玉藻・春夏秋冬など題あり	縦帳
154	135	明治二十三年度大野村々 税収支決算報告書	明治25年7月	村長 高原善造		予算決議額 952円15銭の決算報告書 残金49円61銭9厘残余	縦帳
155	136	[決算報告書]	明治25年7月9日	元収入役 村田剛四郎	村長 高原善造殿	明治25年決算報告書「此金員 年度ヲ終リ決算後ニ非サレバ過不足相知不申ニ付後期ニ至リ」という朱書きの付箋あり	縦帳
156	137	[明治]二十三年度教育費 収支決算報告	明治25年7月	村長 高原善造		「金621円40銭」の予算額の決算報告書 11円61銭3厘 不足	縦帳
157	138	明治二十四年度教育費収 支決算報告	明治25年7月12日	村長 高原善造		「金706円80銭」の予算額の決算報告書 36円73銭8厘は25年度へ繰り越し	縦帳
158	139	明治二十四年度大野村税 収支決算報告	[明治25年カ]			明治24年度大野村税収支決算報告書だが1枚後欠なので詳細は不明	縦帳
159	140	下大利校旧校舎売却代	年月日不詳			「下大利校旧校舎売却代」についての報告書と思われるが前段部分しかないので詳細は不明	縦紙
160	141	[免状之事]	文化元年11月	清内	乙金村庄屋 善四郎 同村組頭中	「米四拾三俵三斗一升六合」の年貢米を洪水荒のため引下げの免状 141～143は同封一括	切継2枚継
161	142	覚	文化11年10月	太郎左衛門	乙金村庄屋 組頭中	「一春徳米五百七拾四俵八升七合」の上納申付けるので速やかに上納する様 審判方は毛上の善悪に依り秋徳を決めるので百姓の難儀にならない様に	切継2枚継
162	143	免状之事	文化11年9月	鎌田藤太夫 岸原七太夫	庄屋 善造 組頭中 百姓中	「春徳米の内「五百式拾四俵九升四合上納分」「四拾九俵三斗三升三合」を御下免の申渡し 141～143は同封一括	切紙
163	144	[米金渡帳]	[明治]31年1月			「金渡の部」は日付・金額・用途・名前の書上 「米渡の部」は日付・俵数・用途の書上	縦帳
164	145	[日記]	[明治初期カ]			[四月] 朔日より10月27日までの日記	縦帳

No	史料番号	表題	年月日	作成・発給	宛所	内容	形態
165	146	差入置一札之事	明治10年第3月	舟越〔藤蔵〕	高原善造殿	「米壹俵 斗六升五合」を小作の約定米として受取りの証書 端裏に朱で「藤蔵四反田仕向米預り証」とある	切紙
166	147	〔書簡〕	〔明治〕8月21日	高原□□		高原よりに対する書簡中の歌の感想と自分の歌「別紙腰折」を読んでほしい という手紙 下部損傷の為不明部分多し	切紙
167	148	借用証書	明治15年旧12月19日	借用□ 船越□ 受人 舟越源作 高原 清次郎	高原善造 舟越源太郎 舟越七郎殿	「米五俵 利式分」の抵当として字浦山の山林 6反7畝6歩を当て 16年旧12月16日限り元利揃えて返納する という借用証書	縦紙
168	149	借用証書	明治17年旧7月	借主 舟越栄八	高原善造様	「米2俵借用 抵当として唐山林一か所立木共を当てる 返済は本年申10月限りとする」という借用証書	縦紙
169	150-1	請取	〔天保5年〕閏月26日	岡山左太夫	乙金村庄屋善造殿	「一金六錢 二百目ハ」の受取証	切紙
170	150-2	〔書状〕	閏月22日	岡山左太夫	乙金村庄屋善造殿	「又市方田地代錢貳百目糙に落掌したので早速同人に渡し受取り証文認めさせ差出します」という書簡	切紙3枚継
171	150-3	〔書状〕	5月16日	俊明	善造様	岡山氏より彼の田地は勝手次第に御自作くださいとの事でしたので御安心の為知らせます	切紙
172	150-4	〔書状〕	3月15日	博多又市	乙金村庄屋善造様	田地代債に受け取りました 請取証文はそのうちに岡山様へ参上しますので その節お渡します	切紙2枚継
173	150-5	〔書状〕	4月9日	乙金村庄屋 善造	岡山左太夫様	田地の件は不承知という書状	切紙2枚継
174	151	覚〔田地譲渡〕	寛政5年丑10月	乙金村 高原善四郎	博多又市殿	「田數壹反三歩・高九斗壹升八合」を譲り渡すので祖父卯兵衛養家の墓所・仏事・年回など怠りなく行うよこととの証	切紙2枚継
175	152	質物証文之事	寛政2年12月29日	円作 受人 玄秀	和作殿	「抱島扇原下六畝」を質物として「錢百五拾目」 借用の証文	切紙
176	153	質物証文之事	文政5年午12月	新九郎 受人 永作	庄屋 善蔵様	「弁貞下々田壹畝廿五歩五厘」「屋敷上島壹畝六歩」を渡し「錢五拾目」を受取った証文	切紙
177	154	質入證拠之事	文政2年卯12月	請人 文吉 利作	庄屋 善蔵殿	米3俵の質入れ証文 担保山目の下田 9畝8歩	切紙
178	155	覚〔証文山売却一件〕	文化2年正月	乙金村庄屋 善四郎	大庄屋左作様	御證文山売却について詳細に記してある	切紙8枚継



No	史料番号	表題	年月日	作成・発給	宛所	内容	形態
179	156	乍恐奉願上候事	寛政11年4月10日	乙金村庄屋 善四郎	今村善太夫様 他3名	家作に取りかかりかた所 材木が不足したので当村御立山の松材木を拝領したい旨の願書い 下書きか破損の為詳細不明	切継2枚継
180	157	御詮儀二付申上ル口上之覚	寛政10年8月	乙金村庄屋 善四郎	大庄屋五右衛門様	「仲村山ノ口跡詮儀二付」山ノ口跡役を勝蔵・組頭は武平にこの願い 御年貢蔵の件もあるが端裏にひかへと書付あり	切継4枚継
181	158	中村庄屋組頭御詮儀二付乍恐申上候口上之覚				中村山ノ口の跡役決定について	切継2枚継
182	159	私家焼失二付為家作御用心除ケ御銀拝借仕ル事	寛政11年2月	(善四郎)	組頭源内殿 次吉殿	「銀貳貫四百九拾目」の拝借願 乙金村組頭源内・次吉から大庄屋五右衛門殿へ奥書あり 水損の為不明部分あり	縦帳
183	160-1	御笠郡乙金村と御家中出御願申上ル事	寛政8年正月	乙金村庄屋 善四郎 同村組頭 新九郎 源内	天野弥一左衛門様	私下人九市が病身で百姓業が出来ないので許斐清右衛門様方へ居替奉公を願うもの 大庄屋五右衛門の奥書あり	切継2枚継
184	160-2	御笠郡乙金村と御家中出御願申上ル事	寛政8年正月	乙金村庄屋 善四郎 同村組頭 新九郎 源内	天野弥一左衛門様	私下人甚四郎が病身で百姓業が出来ないので伊織様へ奉公しています 人柄 払出の願 大庄屋五右衛門の奥書あり	切継3枚継
185	160-3	御笠郡乙金村庄屋組頭乍恐御願申上ル口上之覚	享和2年2月	乙金村庄屋 善四郎 同村組頭 源内 次吉	村上清内様御役所	甚助と申す者が行方知れずになつていたが 早良郡祖原村で死亡していた この者は宗旨帳面未進なので帳面を除く様の願い	切継2枚継
186	160-4	[書状]	5月3日	弥市兵衛役所	乙金村庄屋 善四郎殿	甚助と申す下人が行方知れずになつていたが 早良郡那籠原で溺死した 死骸は村方へ引取り仮埋します	切継2枚継
187	161	□□郡乙金村正栄□先住僧雲乍恐申上ル□□覚	天明3年3月19日	僧雲	大目附様	村中で起こつた目安の事など6か条の件について 庄屋和作と相談の上届け出た口上の覚 初めは津田源次郎御役所に届けている 虫損多く詳細不明	切継5枚継
188	162-1	御笠郡乙金村庄屋善四郎乍恐御願申上候事	文化13年6月	乙金村庄屋 善四郎	八田九内様御役所	善四郎 27年間の庄屋役の退身願い	切紙
189	162-2	御笠郡上大利村庄屋善四郎乍恐御願申上ル事	天保4年12月	大庄屋格上大利村庄屋 善四郎	那珂席田夜須御笠御郡代御役所	善四郎当年70歳に相成り持病の為42年間精勤の庄屋役の退身願い	切継2枚継

No	史料番号	表題	年月日	作成・発給	宛所	内容	形態
190	162-3	御笠郡乙金村庄屋善四郎 乍恐御願申上ル事	文化元年5月	乙金村庄屋 善四郎	□□清内様御役所	庄屋又六後見役御赦免願ひ	切継2枚継
191	163	御笠郡乙金村庄屋忍平御 詮議二付乍恐御願申上ル 口上之覚	天保13年4月	乙金村庄屋 忍平	立花善兵衛様	古野の御證文山の松の木の件	切継7枚継
192	164	永代証文之事	安政5年午12月	売主 卯作 請人 孫七	善一郎殿	弁貞中田7畝7歩 京塚下々畠3畝を米14俵1斗4升 2合にて永代に売渡した証文	切継2枚継
193	165	請文之事	文政2年卯12月	請人 文吉 利作	庄屋 善藏殿	米2俵を月2割5分の利米で貸付けた証文	切紙
194	166	永代証文之事	嘉永2年酉12月	畠主 源七 受人 弥六	庄屋善一郎殿	下々畠2畝18歩を米10俵で永代に売渡した証文	切紙
195	167	拙者抱畠永代売拂証文之 事	寛政12年6月日	乙金村 久次 証人 次八	仲村 孫七殿	60文銭で150目受取り いけわら畠2畝3歩 ふつわら 下々畠20歩 この2か所永々大豆4升宛上納	切継2枚継
196	168	御笠郡乙金村百姓吉次御 詮議二付乍恐申上ル口上 之覚	嘉永3年4月	乙金村百姓 吉次	那珂席田夜須御笠御 山方御役所	当村の御山で春吉村庄屋江作殿から頼まれた木を 伐つていたらしい1本蓄木になり、手を尽くしましたが どうにもなりませんので薪にしましたのでご報告 します との上申書	切継2枚継
197	169	証文之事	弘化3年午4月	借主 藤六 受人 与吉	庄屋善一郎殿	「米1俵・金1歩2朱」の借用証 拙者抱 「竹ヶ下上 田3畝28歩・高1斗3升3合」の処を書き入れ 当年 11月期限の借用	切継2枚継
198	170	証文之事	天保14年12月	畠主 栄助 受人 孫四郎	忍平殿	幸ノ浦上下々畠1畝8歩・高5升8合の畠地を米2俵で 質入したこと証文	切紙
199	171	仕上書物之事	天保9年12月22日	源次 弥造 吉助代人弥介 和作	庄屋 忍平殿 組頭 作次殿	私共抱田畠を伊三郎へ下作付した処、当秋不作その ため来2月20日まで待って下さるよう願って来た	切継2枚継
200	172	質入証文之事	天保14年12月	畠主 藤市 受人 孫四郎	忍平殿	下々田3畝・高9升1合」の畠を米2俵の質物として取 置きました という証文	切紙
201	173	質入証文之事	嘉永5年子12月	田主 弥助 受人 半助 忠作	庄屋善一郎殿	米5俵6升6合」の借用に5か年の年限で下々田8畝2 3歩を質物として取り置いた証文	切継3枚継
202	174	永代証文之事	天保10年12月	清右衛門 受人組頭 源六	平作殿	下々畠24歩を金1両2歩2朱で買い取った証文	切紙

No	史料番号	表題	年月日	作成・発給	宛所	内容	形態
203	175	証文之事	天保9年戌12月	和作 証人 源六	平作殿	下島1畝12歩・高1斗4升2合の畠を米1斗6升5合、正銭50目で質物に取置くこと相違ありません	切継2枚継
204	176	証文之事	天保14年12月	忍平 受人 孫四郎	孫作殿	「上島5畝14歩・高5斗4升4合」の畠を質物として米3俵の借用 庄屋文三郎の奥書あり	切継2枚継
205	177	証文之事	天保2年卯12月	平次 受人 文市	庄屋 善藏殿	草場上島4畝16歩・高4斗7升7合の畠を米3俵を受取る 来る辰より申まで5か年間質物として取置ます	切紙
206	178	名義変更願	昭和23年11月30日	高原季雄 船越惣次郎	農地委員長殿	草場430番地の畑の抵当権抹消と名義変更の願い	縦紙
207	179	名義変更願	昭和23年11月30日	高原季雄 船越栄七	農地委員長殿	猪坂339番地の田の名義変更願	縦紙
208	180	永代証文之事	弘化3年12月	田主 幸作 受人 利右衛門	庄屋 善一郎殿	山目下々 田6畝29歩が上納不足になり永代に売渡した証文	切継2枚継
209	181	永代証文之事				山目の6畝29歩の証文であるが後欠のため詳細は不明	切紙
210	182	証文之事	文久2年戌12月	田主 宇作 請人 善吉 源四郎	善一郎殿	深町下々 田1反5歩6厘・高9斗4升4合の田地を嘉永6年丑12月に米7俵受取り 今回米7俵計14俵で永代売渡となる証文	切紙
211	183	証文之事	天保7年申12月	島主 文助 受人 惣吉	庄屋忍平殿	屋敷上島1畝・高1斗1合の土地を永代売渡し 米2俵受取の証文	切継2枚継
212	184	質入証文之事	文久2年戌12月	田主 与八 請人 利右衛門	善一郎殿	深町下々 田4畝19歩・高4斗2升9合の田を米2俵5升(来亥より卯までの5か年)の質物とします という証文	切紙
213	185	[辞令]	昭和6年8月25日	立憲政友会筑紫郡支会	高原梯次郎殿	「立憲政友会筑紫郡支会」の評議員を囑託する書	縦紙
214	186	[辞令]	昭和5年7月20日	内閣	高原梯次郎	国勢調査員の命令書	切紙
215	187	感謝状	昭和5年12月20日	内閣統計局長 長谷川起夫	高原梯次郎	国勢調査施行に関する感謝状	切紙

No	史料番号	表題	年月日	作成・発給	苑所	内容	形態
216	188	最新明細九州全図		朝日新聞西部本社		九州全図	縦紙
217	189	土地分筆登記申請書	大正12年2月21日	高原悌次郎	福岡区裁判所二日市出張所御中	筑紫郡大野村乙金字唐山1099番地の山林1町3畝を2つに分筆し登記するための申請書	綴
218	190	土地地目変更登記申請書	大正12年12月21日	高原悌次郎	福岡区裁判所二日市出張所御中	土地変更のための登記変更前の土地及び変更後の土地書上 家督相続のためか	縦紙
219	191	土地所有権移轉登記申請書	昭和15年6月26日	家督相続人 高原美寛	福岡区裁判所二日市出張所御中	家督相続による所有権移轉の申請書 物件の表示価格金の書上あり 申請人未成年者のため親権者の名もあり	縦紙
220	192	土地所抵当権抹消登記申請書	昭和15年6月26日	高原美寛 親権者 高原辰子 登記義務者 伊藤熊吉	福岡区裁判所二日市出張所御中	「月賦金返済借用証書」が合綴してある	綴
221	193	土地遺産相続所有権移轉登記申請書	大正3年11月2日	遺産相続人 高原善市郎	福岡区裁判所二日市出張所御中	遺産相続による所有権移轉登記申請書 田畑・山林の書上上げあり	縦紙
222	194	土地抵当権抹消登記申請書	昭和13年1月29日	登記権利者 高原悌次郎 登記義務者 河波参策	福岡区裁判所二日市出張所御中	「抵当権設定金員借用証書」も同綴されている	綴
223	195	領収書	昭和13年2月3日	白壁喜平次(無限責任大野北部信用購買販売利用組合)	高原悌次郎殿	昭和12年分小作料「貳拾円」の領収書	縦紙
224	196	金借用証書	昭和12年12月6日	借用主 高木末重	七野法真殿	金20円也 但し月1歩極め 昭和13年1月末日までに元利とも悉皆御計算致します という借用書	野紙
225	197	保証書	昭和6年2月23日	保証人 豊島虎吉 同 長谷尾富太	舟越栄七	土地抵当権設定登記の為の保証書 物件の書上もあり	縦紙
226	198	名義人表示変更登記申請書	昭和6年2月23日	申請人 七里徹敏 代理人 豊島虎吉	福岡区裁判所二日市出張所御中	名義人の住所「筑紫郡大野村大字乙字765番地」とあるを「939番地」と申請する	綴
227	199	建物所有権保存登記申請書	昭和5年11月7日	申請人 高原悌次郎	福岡区裁判所二日市出張所御中	所有権保存登記 物件・付属建物・価格金などの書き上げあり	縦紙
228	200	不動産競売申立取下書	昭和13年4月18日	債権者兼所有者 高原悌次郎	福岡区裁判所	競売の件につき当事者間に於いて示談終決のため競売取りやめの申請書	縦紙
229	201	享保子丑餓死枯骨塔	天保2年歳在辛卯春3月			享保子丑餓死枯骨塔の撰文戸次氏について謙次郎氏が覚えていたことを記してある	縦紙

No	史料番号	表題	年月日	作成・発給	苑所	内容	形態
230	202	覚書〔土地売却〕	[明治36年以降]			土地売買に関する覚書 明治元年屋敷原 明治33年 王城山などだが詳細は不明	切紙
231	203	保証書	昭和9年6月7日	保証人 豊島虎吉 同 長谷尾富太	高原美寛殿	抵当権設定のため登記し登記義務者を保証するもの 登記不動産の書上あり	縦帳
232	204	土地抵当権抹消登記申請 書	昭和11年10月3日	登記利権者 高原美寛 親権者父 高原悌次郎	福岡区裁判所二日市 出張所御中	「三立金融合名会社」に対する債務に付いた抵当権 を抹消 物件の土地・山林の書上あり	縦帳
233	205	土地所有権移転登記申請 書	昭和11年10月3日	売主 高原美寛	福岡区裁判所二日市 出張所御中	売買による所有権移転 物件田畑の書上あり 売渡 証も一緒にとじ込みあり	縦帳
234	206	土地所有権保存登記申請 書	昭和6年2月23日	申請人 船越麻吉 代理人 豊島席吉	福岡区裁判所二日市 出張所御中	所有権保存のための登記 字深町の「田2反4畝 歩」	縦帳
235	207	土地分筆登記申請書	昭和11年10月3日	申請人 高原悌次郎	福岡区裁判所二日市 出張所御中	土地分筆登記のための申請書 4紙 分筆前の土地書 上げ 5紙 土地台帳謄本2紙をこよりで一括	縦帳
236	208	福岡県筑紫郡大野村大字 牛頸耕地整理地区確定図	[明治]			縮尺600分の1の図面	切紙
237	209	領収書	昭和10年5月16日	福岡財務出張所書記 白木善次	高原季雄殿	「金7円91銭也」の領収書 但し伊藤栄次郎所有の 土地の公売代金	縦紙
238	210	[覚]	明治40年	伊藤八郎ほか	関保太殿	船越商店酒代金・受取証・投票心得などの綴り	綴
239	211	[領収書]	[昭和]8月30日	花田房吉	関保太様	「金3円70銭」の領収書	切紙
240	212	記	[明治]38年12月30日			酒と菓子の明細	切紙
241	213	村方ら答之覚	丑2月21日			唐山御仕組・唐山松の木・御年貢蔵・御證文山立木 伐採の件についての詳細	切紙4枚継
242	214	[書状]	午1月18日 旧11月 28日	田中盛平	高原善造様	明春の御出米代金納方・差引総目録の件	綴
243	215	[和歌一首]	[大正]	瀬泥彦		高原大人をとふらひ侍りて和歌1首	短冊
244	216	[触売りについでの達]	[江戸]	藪 弥三郎		郡々に入込の振売りの者は免札を渡す様になつてい るが近年乱れているのは村役の落度である 定法の 通りに心得るよの御達	切紙

No	史料番号	表題	年月日	作成・発給	宛所	内容	形態
245	217	[書状]	[明治]15年2月	田中盛平	高原善造様	耐口御製のための酒粕200斤についての相談	郵紙
246	218	赤貧者戸数割免除規定				村税・戸数割を免除する時の規定 第1条から3条まで 不治の病・家計を助ける者なき時など	郵紙
247	219	[覚]		役場書記 山上禧輔		「山上禧輔」と「村上喜三郎」の辞職の件	郵紙
248	220	[絵図]				絵図面 官林切跡 善市の田 善造分田畑・山林	切紙
249	221	[書状]	1月19日	森山口二	高原善造殿	役場名称は出来ないが有志総代の名前は「有志総代原久吉・森山千代吉」で配達してください	切紙
250	222	[書状]				大阪にて一別後の近況報告 後欠	切紙
251	223	[覚]				金銭の村内戸数割 「金百三十二円」の内訳書上	縦紙
252	224	[覚]				前欠、後欠のため詳細は不明であるが 材木伐採についての報告か	切紙
253	225	證文之事				「六銭貳百目」 藪1か所永代売渡代金 後欠のため詳細不明	切紙
254	226	拙者抱島質物ニ召置借用 仕米之事				米5俵借用についてであるが後欠のため詳細不明	切紙
255	227	[証文之事]	天保7年申4月	藪主 文助 受人 惣吉	庄屋 忍平殿	前欠のため詳細不明	切紙
256	228	[証文之事]	[慶応元年12月]	組頭 正右衛門 庄屋 謙次郎	善一郎殿	前欠のため詳細不明	切紙
257	229	文次紺屋藺島質入証文 通	安永10年巳10月			包紙のみ	切紙
258	230	罹災ニ付木屋掛料農具料 拝借願布達				農具料拝借願 表紙のみ	郵紙
259	231	[墓配置図]	明治35年寅7月29日 写	高原善造美寛		正栄寺墓地の配置図 他に関連図面6枚一括	切紙
260	232	解決書	昭和12年10月20日	講会代表者 野治三郎 高原禧次郎		講会の債務不履行についての解決書	郵紙



No	史料番号	表題	年月日	作成・発給	宛所	内容	形態
261	233	土地所抵当権抹消登記申請書	昭和14年8月11日	代人 武石仙吉	福岡区裁判所二日市出張所御中	高原悌次郎より債権者三立金融合名会社に対する債権 額面2,500円の抵当権抹消登記	綴
262	234	預り証	昭和13年6月4日	宇美町 臼井新祐	高原悌次郎殿	土地売買残金52円の預り証	野紙
263	235	[売買契約書]	昭和14年6月22日	白木半五郎	高原悌次郎	乙金1154番地の山林1町6畝の売買に関する条項であるが前欠である	綴
264	236	不動産競売手続開始決定	昭和12年5月28日	高原悌次郎 太田透 他2名	福岡区裁判所判事 奥野義兼	不動産競売のための手続き 裁判所は該不動産の競売手続を開始 別に物件目録1紙あり	綴
265	237	有体動産差押調査書	昭和10年11月16日	武石銀行武石政右衛門	高原悌次郎	請求金額の内訳書上げ その他差し押え保留の事情などあり	縦帳
266	238	有体動産差押調査書	昭和10年11月16日	武石銀行武石政右衛門	舟越善次郎	請求金額の内訳書上げ その他差し押え保留事情もあり	縦帳
267	239	保証書	昭和6年2月16日	保証人 豊島虎吉 長谷尾富太		土地抵当権設定のための保証書 物件の書上あり	縦帳
268	240	保証書	昭和7年5月14日	保証人 豊島虎吉 長谷尾富太		土地抵当権設定のための保証書 物件の田畑書上あり	縦帳
269	241	金借用証	昭和5年5月5日	借入主 船越善次郎 連帯借入主 高原悌次郎	矢野与十郎殿	「金六百元也」の借用書 昭和5年12月20日返済の約定	縦紙
270	242	保証書	昭和6年2月16日	保証人 豊島虎吉 長谷尾富太		土地抵当権設定のための登記 物件の書上あり	縦帳
271	243	物件目録				大野村大字乙金 田地・山林など高原悌次郎所有の不動産の書上	縦帳
272	244	受取証	昭和14年7月4日	株式会社御笠銀行	高原悌次郎殿	「金百円也」の受取書 抵当金設定金借用証書・抵当物件・登記簿抄本の添付あり	縦帳
273	245	高原悌次郎氏計算書	年月日不詳	八尋善右衛門	[高原悌次郎]	共栄講掛金及び登記その他の立替金の計算書	縦紙
274	246	土地表示更正登記申請書	昭和6年2月23日	船越栄七	福岡区裁判所二日市出張所御中	耕地整理に因る乙金字牟田の内95番地の1の田1反7畝25歩の土地の更正登記申請	縦帳

No	史料番号	表題	年月日	作成・発給	宛所	内容	形態
275	247	賣渡証	昭和2年10月31日	売主 伊藤利吉	高原金七殿	通り谷1反4畝29歩の田と毛所6畝10歩の田の売渡書	縦帳
276	248	土地表示更正登記申請	昭和6年2月23日	申請人 高原悌次郎	福岡区裁判所二日市出張所御中	盗原1053番地の1の畑1反6畝21歩の更正申請書	縦帳
277	249	借用証書	昭和5年9月8日	高原悌次郎	松岡定太郎様	「1,300円也」の借用証書	縦紙
278	250	計算書	[昭和8年頃]	債権者 法定代理人 武石政右衛門		貸金・立替金の計算書明細	縦紙
279	251	計算書	[昭和10年頃]	債権者代理人 武石政右衛門		「合計金153円88銭也」の貸金・立替金の計算書	縦紙
280	252	計算書	昭和3年11月13日	株式会社御笠銀行	高原悌次郎殿	「合計金1,500也」の貸金及び利息・立替金の計算書の明細	縦紙
281	253	仮領収証	昭和8年11月21日	武石銀行武石政右衛門	松岡定太郎殿	「金55円也」の仮領収書 但し債務者松岡定太郎に係る有体動産強制執行事件の弁済金の詳細不明の為	縦紙
282	254	訴訟費用額確定決定	昭和8年11月11日	福岡区裁判所 判事 水町新三	高原悌次郎 他1名	訴訟費用決定書及び諸費用計算書上	縦帳
283	255	計算書	昭和8年11月16日	武石政右衛門		訴訟費用その他計49円37銭の内訳書上	縦紙
284	256	計算書				書記料印紙代・出頭日当・送達料その他費用項目と金額の書上げ 合計41円25銭	縦帳
285	257	金借用証書	昭和9年6月7日	債権者 香月弥作	三立金融合名会社殿	金2,500円の借用証書 抵当物件の書上もある	縦帳
286	258	所有権移転登記申請書	大正3年9月6日	高原悌次郎・季雄・美久 永井百代	福岡区裁判所二日市出張所御中	遺産相続に付土地の所有権移転登記 不動産価格550円	縦帳
287	259	[封筒]	[昭和5年]			領収書を入れておいた封筒のようであるが中味はなし	封筒
288	260	[封筒]	[昭和]			領収書が入っていた封筒	封筒
289	261	[畑地坪数書上]	年月日不詳			畑4反5畝10歩の地目変更にかかわる実測図	縦紙
290	262	[借金利子計算書]	年月日不詳			借金利子計算書	縦紙

No	史料番号	表題	年月日	作成・発給	宛所	内容	形態
291	263	[覚書]	年月日不詳			役場のメモか	縦紙
292	264	[覚]				預り金明細	縦紙
293	265	[覚]	[明治～大正]			預金利子の計算か アサ分・カネ分・保太分・シマ分などある	切紙
294	266	[絵図]				共栄講・宇美信用・三立金融等の番地記載	縦紙
295	267	題一絃栞				漢詩1編	切紙
296	268	[漢詩]				漢詩1編	切紙
297	269	[覚]				種松の件 前欠、後欠で詳細不明	切紙
298	270	[覚]				寄付金か何かの氏名と金額の書上	縦帳
299	271	[覚]				栗ちぎりの人数など	横折
300	272	[覚]	[12月18日]			米銭渡しの記録	横折
301	273	永代売渡証文之事	安政5年午12月	売主 源助 請人 惣作 半助	善一郎殿	猪ノ坂 下々畠8畝を米12俵で永代に売渡した証文	切紙2枚継
302	274	御笠郡乙金村庄屋善四郎 乍恐御願申上候事	[江戸]			後欠 「大東百五拾把」以外は不明	切紙
303	275	[田・山林調査]				田・山林の字名・番地・持ち主の記録 総計5町6反7畝25歩 17,035坪	切紙
304	276	覚				「地租付加」「特別地税」「特別地租」等の調査 姓名・場所・[金額]の書上げ	縦紙
305	277	[賞状]	大正4年1月	玉緒会	高原善造	昨年中出詠満勤のため短冊賞の授与の賞状	切紙
306	278	終身會友證	大正3年11月19日	中央歌文会	高原善造殿	「終身會友」の証 「終第308号」	切紙
307	279	[覚]	大正3年1月18日	玉緒会	高原善造	昨年中出詠皆勤に付短冊20枚を賞として授与するの状	切紙

No	史料番号	表題	年月日	作成・発給	苑所	内容	形態
308	280	売却決定通知書	昭和10年5月16日	福岡県書記 白木善次	高原季雄殿	大野村大字乙金825番地の土地を売却し土地県税に当てる通知	縦紙
309	281	売渡書	昭和13年1月24日	高原悌次郎 代人高木 末重	石井様	唐山の畑約50坪を75円で売り渡した書	便箋
310	282	競落許可決定	昭和8年1月23日	福岡区裁判所 判事 水町新三	高原美寛	不動産の競落許可通知書 物件目録あり	縦帳
311	283	土地所有権移転登記嘱託書	昭和12年7月12日	登記権利者 高原悌次郎 財産管理者 山上高太郎	福岡区裁判所二日市出張所御中	登記権利者高原悌次郎の土地の所有権移転登記嘱託書	縦帳
312	284	賣渡證	大正11年2月3日	売主 船越末吉	高原善市郎殿	王城山の山林2反8畝7歩の売渡書	縦帳
313	285	土地売渡証	大正4年11月25日	売渡人 高原昌一郎	高原善造殿	古野の山林及び田の売渡書	縦帳
314	286	土地賣渡証	明治41年3月24日	売渡人 伊藤竹次郎	高原達太郎殿	上唐山の田・畑・山林計5筆の売渡証	縦帳
315	287	土地賣買契約書	昭和11年6月25日	売渡人 花田貞吉	買受人 高原悌次郎	古野の山林1反歩の売買契約書	縦帳
316	288	不動産分割證	大正9年10月3日	関 円次郎 他10名	高原善市郎殿	王城山の山林2反8畝7歩の分割譲渡証	縦帳
317	289	土地所有権移転登記嘱託書	昭和7年12月1日	税務署長 岡部周太郎	福岡区裁判所二日市出張所御中	登記権利者高原悌次郎の土地所有権移転登記嘱託書	縦紙
318	290	玉緒会各評歌	[大正期]	[玉緒会会員]		短歌会の歌集評歌 袋入25点程 善藏・謙次郎・里水・富次郎などの名あり 他に計算の横帳と書簡2点あり	切紙
319	291	[表彰状]	大正4年1月	玉緒会	高原善造	昨年中成績高点に付「万年毛筆」を授与するという賞状	切紙
320	292	感謝状	明治42年2月21日	中央歌文会	高原善造殿	本会の陸運のため会友として船越源太郎氏を勧誘された事に対する感謝状	切紙
321	293	峰腰	丑8月	善造		料紙に書かれた歌10首 「山家蚊遣」「橋納涼」「朝顔」など	切紙
322	294	[覚]	12月	庄屋 文三郎 組頭 源六	忍平殿	「右の通り承届候 以上」とあり 前欠のため詳細不明	切紙

No	史料番号	表題	年月日	作成・発給	宛所	内容	形態
323	295	〔質入証文〕	寛永4子閏2月7日	借主 文次 証人 利七	善四郎殿	米6俵半の質入れ証文 前欠のため詳細不明	切紙
324	296	〔漢詩〕	大正丙辰1月	三征僧鳳雛		半紙に書かれた漢詩1編 絵入りである	切紙
325	297	〔覚〕	同年12月	庄屋 謙次郎 組頭 源市・正右衛門		前欠で詳細不明	切紙
326	298	〔付箋紙一括〕				断簡	断簡
327	299	〔覚〕				証文山伏採返答書に関する金銭書上	切継ぎ7枚継
328	300	〔担保目録控〕	年月日不詳			担保物件の控・地名・地番・坪数の書上	便箋
329	301	神拝の詞	年月日不詳			宮城・神宮・神社などを拝する時の俳詞が書いてある	折本
330	302	詠詩				水城の和歌1首 裏打ちあり	切紙
331	303	〔佛画〕				仏画の軸らしいが破損不安の為開扉できず	軸
332	304	祖先二係ル書類	明治24年丑11月	高原善造美寛		袋のみ	袋
333	305	村税及協議費決算書	明治22年4月～同24年	大野村村長 高原善造		明治22年～24年大野村村税収支決算 同一番学区教育費収支決算の綴り	縦帳
334	306	証文之事	嘉永2年酉12月	田主 卯作 受人 孫四郎	庄屋 善一郎殿	中田7畝12歩の田を米2俵1斗6升5合と錢152匁5歩にて質入れの証文 来る戌より寅まで5か年の約定	切継2枚継
335	307	質入証文之事	天保13年12月	島主 卯助 受人 源六	忍平殿	下々畑1畝26歩を質物として、金1両受取りの証文 庄屋文三郎の奥書あり	切紙
336	308	地價修正臺帳及名寄帳調整費	[明治]23年1月			「地價修正台帳及び名寄帳調整費」のほか、「臨時衛生費」「演習費補助」「大野校建築費徴収表」など金額と費用名の書上げ 明治24年の分も合綴	縦帳
337	309	福岡盲啞教師川辺藤助氏を頌す				盲人教師河辺藤助氏を讃える歌	縦帳

No	史料番号	表題	年月日	作成・発給	宛所	内容	形態
338	310	[地番図]				田又は畠の形と地番の書き込み 欄外に「字日の浦」と書き込みあり 川又は溝は青エンピツで表している	切紙
339	311	坪付	[昭和]	高原悌次郎		高原家所有の田の地番・反別・地価・付口など記載 総計 3町3畝7歩 80俵3分5厘	罫紙
340	312	蔵書表	昭和3年9月	[高原悌次郎]		高原家所蔵和本類目録	綴
341	313	千代廼屋集	大正6年1月21日	高原朝子		高原善造の一周忌に善造の遺詠を集めて出版したものの 知友・親戚の歌も収録	書冊7部



No.	史料番号	表題	年月日	作成・発給	宛所	内容	形態
1	1 (C-1)	所在地所台帳	明治30年1月	高原 善造		明治33年地価地租改正等級表ほか、田の部・畑の部・墓地の部・株の部・山林の部等畝高書上	縦帳
2	2 (C-2)	地方税以下受拂帳	[明治19年度他]			19年度前期地方税地租割その他 付け紙多数	縦帳
3	3 (C-4)	答辞	明治23年5月25日	御笠郡大野村村長 高原善造		尋常小学校改築上棟式の祝辞に対する答辞	切継紙(3枚継)
4	4-1 (C-5)	村制組織之義二付情願書	明治21年10月10日	御笠郡筒井村人民惣代 古賀興八 他25名	那珂御笠席田郡郡長 郡保宗殿	村力を隆盛にする為に村制を改革して欲しいとの請願書	こ よ り で 一 括
5	4-2 (C-5)	村制組織之義二付答申書	明治21年10月10日	御笠郡筒井村外七ヶ村戸長 高原善造(印)	那珂御笠席田郡郡長 郡保宗殿	下大利村、上大利村及び井相田村の内 字雑賞隈を合せ新村組織の請願理由についての答申書	縦帳
6	4-3 (C-5)	村制之義二付添申	明治21年10月9日	御笠郡白木原村戸長代理 筆算生 末長郁次(印)	那珂御笠席田郡郡長 郡保宗殿	村制の儀に付いての意見書の添申書	縦帳
7	4-4 (C-5)	村制に依り合村ノ儀ニ付意見書	明治21年10月	御笠郡白木原村人民惣代 森山清太(印) 外6名	那珂御笠席田郡郡長 郡保宗殿	村制合村についての意見書	縦帳
8	5-1 (C-6)	卯十二月廿九日夕 受取申事	卯12月29日			14人分人別金銭立替の受取書上	横折
9	5-2 (C-6)	[覚]	[江戸]12月27日	□□新次		米代銭御渡証	切紙
10	5-3 (C-6)	覚	[江戸]丑12月	水城 半次	乙金 善藏様	米代銭差引算用書上	切紙+H11:I12
11	5-4 (C-6)	[通達]	[江戸]12月12日	郡代役所(印)	庄屋 善藏殿	当4月蔵出しの麦・粟詰替え困い方の備え分は「窮民備え」と称する	切継紙(2枚継)
12	5-5 (C-6)	[書簡]	[江戸]2月9日			旅人の死去について正栄寺結縁の儀依頼の件	切紙
13	5-6 (C-6)	[紙袋]	天保9年戊正月			(上書墨書)「天保9年戊正月入之袋養育備錢追々受取帳」	同 袋

No.	史料番号	表題	年月日	作成・発給	苑所	内容	形態	
							封	横帳
14	5-7 (C-6)	養育備錢追々利分請取帳	文政5年午11月			日付と錢高書上 御宮備錢貸付の部もある	封	
15	5-8 (C-6)	御笠郡乙金村庄屋組頭御願申上ル事	天保14年正月	乙金村組頭 源六(印) 作次(印) 同村庄屋 文三郎(印)	那珂席田夜須御笠 御郡代御役所	当村窮民備え錢の内二日市清作へ貸付けた分の利息、錢200目の内100目を貧窮の者共5名へ、100目を氏神様の屋根吹き替料にとの評儀がまとまったことの許可願い		切継紙(3枚継)
16	5-9 (C-6)	[現穀初御仕組之証文]	寛政3年12月29日	権吉 甚四郎 次介 孫次 源五 忠介 文三 弥平 系藏 次八 善四郎	庄屋 善四郎殿 組頭 新九郎殿 同 源三殿 同 十作殿	亥年より年々定めの通り 蔵入分初17俵または錢340目か人別割して納める件		切継紙(3枚継)
17	5-10 (C-6)	御笠郡乙金村庄屋組頭御願申上ル事	文政11年6月	乙金村組頭 藤四郎 同 利平 同村庄屋 善藏	那珂席田夜須御笠 御郡代御役所	凶年備えのため表50俵程買入れ置きたいので 備え錢の内1貫目御渡願いの件		切継紙(5枚継)
18	5-11 (C-6)	請取申上候事	文政11年12年	乙金村庄屋 善作	那珂席田夜須御笠 御郡代奉行所	当村凶年備錢の内805匁7分7厘 当6月16日借用の件		切紙
19	5-12 (C-6)	御笠郡乙金村庄屋組頭御願申上ル事	弘化5年正月	乙金村組頭 源六(印) 同 庄右衛門(印) 同村庄屋 善一郎(印)	那珂席田夜須御笠 御郡代御役所	窮民備えの利錢2貫目を貧窮の者共へ渡し度くお願いの件		切継紙(4枚継)
20	5-13 (C-6)	御笠郡乙金村庄屋組頭御願申上ル事	文政12年2月	乙金村組頭 次右衛門(印) 同 庄四郎(印) 同村庄屋 善藏(印)	那珂席田夜須御笠 御郡代御役所	当村の凶年備え錢を当春24軒の貧窮百姓の者共へ、人数割りにして渡し度くお願いの件		切継紙(2枚継)
21	5-14 (C-6)	[御笠郡乙金村]庄屋組頭御願申上ル事	文政11年6月	乙金村組頭 藤四郎(印) 同 利平(印) 同村庄屋 善藏(印)	那珂席田夜須御笠 御郡代御役所	凶年に備え麦50俵程買入れ置き度く、備え錢の内1貫目お渡し願いの件		切継紙(5枚継)
22	5-15 (C-6)	御笠郡乙金村庄屋組頭御願申上ル事	弘化2年2月	乙金村組頭 源六(印) 同 正右衛門(印) 同村庄屋 文三郎(印)	那珂席田夜須御笠 御郡代御役所	当村の窮民備錢を二日市宿の清作に貸付け、その利錢2貫目を窮民且つ牛馬損失の者共へ渡し度く、お願いの件		切継紙(2枚継)
23	6-1 (C-8)	子年和助給錢	[江戸]子年 外			子年 1錢30貫文 ほかに成年・亥年分の書上げ及び内訳		横折

No.	史料番号	表題	年月日	作成・発給	宛所	内容	形態
24	6-2 (C-8)	〔備忘〕	〔江戸〕			日付・銭高の書上 中途に丑10銭とある。紙背にも文字あり	横折(4枚)
25	7 (C-10)	年々指留	文政11年子12月他			人名別差引書上 日付、村名、石高、銭高等あり	横帳
26	8 (C-11)	御笠郡筑紫村庄屋太兵衛 筒井村庄屋役之節難洪百 姓御上納未進取替分捨切 書上帳	弘化3年午2月	筑紫村庄屋 太兵衛(印)	那珂席田夜須御笠 御郡代御役所	天保9年戌冬 筒井村難洪百姓上納未進分 貸し主 清三ほか26名分及び上大利村利平分(天保5年午 冬) 合計米201俵6升5合の捨切りの明細	横帳
27	9-1 (C-12)	井堰溜池書上帳 御笠郡中村	明治14年8月	中村々用掛 白壁衛三(印)		御笠郡中村の水掛反別、堰の規模、溜池の規模等の 書上	こよりで 一括
28	9-2 (C-12)	凶荒予備取取扱規約書	明治13年7月2日	御笠郡中村會議員 白壁又六郎(印) 他9名		凶荒予備取取扱規約(10か条)	一括
29	10 (C-14)	諸案文	文久2壬戌春3月	乙金村里正 高原謙次郎 組頭 正右衛門 写	那珂席田夜須御笠 御郡代御役所 外	殖牛馬の届その他 御郡役所などに出す書類の書式 案文集	横帳
30	11 (C-15)	乙金村山善四郎殿受分下 受仕上納銭拂方指引申上 口上之覚	寛政6年12月	仲村 兵次	大庄屋 利兵衛様	善四郎殿より受分の上納銭の払い方の指引きとその 経緯についての説明	切継紙(7枚継)
31	12 (C-16)	〔書簡〕	4月12日	組頭 岩隈正助	庄屋 善四郎様	御村新堤願いの件及び川浚えの件 認可されたので 新堤・古堤分共に材木はお渡します	切継紙(3枚継)
32	13 (C-17)	送籍証	明治13年9月21日他	席田郡青木村 吉村 風 他	御笠郡乙金村戸長御 中	縁組や離別等による戸籍の移動の証(送籍証)の綴り	横帳
33	14 (C-18)	石陸張修繕之儀二付上申		御笠郡大野村大字何 人民総代	郡長殿	筒井・山田両大字共同井堰に係る芋田石陸修繕に 関し、他より故障なき理由を陳述(下書きか)	横帳
34	15-1 (C-19)	犯罪書 御笠郡乙金村 正村控	明治6年7月22日	区長 尾江逸蔵 他	福岡県令 立木兼善殿	党民一揆に付き随行犯罪者についての書上げと区 長 尾江逸蔵以下4名の奥書	こよりで 一括
35	15-2 (C-19)	待罪書	明治6年7月31日	舟越孫平他9名	福岡県令 立木兼善殿	明治6年6月下旬徒党の上、放火乱暴をしたことを認 めた待罪書 副戸長高原善蔵 関忍平の奥書あり	横帳

No.	史料番号	表題	年月日	作成・発給	苑所	内容	形態
36	16 (C-20)	[達写集]	天保8年6月7日 他			公儀よりの通達写し集 菜種舟輸送の件、東海道宿 人馬賃銭の件、米穀高値に関する旅籠銭の件ほか	縦帳
37	17 (C-21)	廿四年度 教育費支出受取証	[明治]24年8月31日 他	村長 高原善造 他	村田剛四郎殿 他	金銭受取証の綴り	縦帳
38	18-1 (C-22)	決議録	[明治]15年下期 16年下期			15年下期と16年下期の決議案を包んでいた包紙か	包紙
39	18-2 (C-22)	[村会議案及び所轄連合 會日誌]	明治15年12月16日	筒井村外三村 戸長役場		前半 15年度下期 第1号議案、第2号議案による諸 費金額の書き上げと説明/後半 「所轄連合會日誌」 明治15年12月16日分	縦帳
40	18-3 (C-22)	十六年度下期 村費決議録 筒井村外三ヶ村	[明治]16年度下期			第1号議案～第4号議案による諸費金額の書上と説 明	縦帳
41	19 (C-23)	国有原野下戻申請書	[明治]	申請人 中村初次	農商務大臣 曾称荒助殿	申請書の下書か、申請の目的・事実・理由・立証など ある外に農商務大臣曾称荒助殿宛真子久七郎 他3 名差出しの国有林下戻申請書もある	縦帳
42	20 (C-24)	御笠郡乙金村ヨリ年恐申 上ル事	嘉永7年7月	乙金村山之口 与六 源六 組頭 忠作 正右衛門 同村庄屋 善一郎	那珂席田夜須御笠 御山方御役所	7月12日薪付出しの者文六他17名が日頃根払いを している謄文山の材木・薪など紛失したことへのお詫 び また通り證抛の所持は認めるが お渡しの木に ついては疑わしきことは一切して一切しないという上申書	切継紙(5枚継)
43	21-1 (C-25)	第一号 御山内へ松杉植立ノ部 一号ヨリ四号ニ至ル 控	[江戸]			兼て村中申合せの杉苗当春植本数 名前・本数書上	縦帳
44	21-2 (C-25)	乙金村杉寸志植書上帳	弘化2年巳2月	筒井乙金両村庄屋 文三郎 仲島村庄屋 善一郎		午より申迄3か年の植立本数、人名書上 卯辰両年 寸志植立分の当年より申年迄の本数など 杉6,100本 松4,000本	縦帳
45	21-3 (C-25)	御笠郡乙金村ヨリ指出ヲ 以申上ル事	天保12年正月	乙金村庄屋 忍平	那珂席田夜須御笠 御山方御役所	当村御山へ当春寸志植(2,000本)の報告書	縦帳
46	21-4 (C-25)	杉苗取寄控	弘化5年2月27日			杉苗取寄の本数人名書上 合計4,509本	縦帳

No.	史料番号	表題	年月日	作成・発給	宛所	内容	形態
47	22 (C-26)	戸籍加除控 中村 乙金村	明治13年分	乙金村中村 戸長役場		明治13年の戸籍加除を月別に記録されている 出生・入籍・送籍・死亡など	縦帳
48	23 (C-27)	旧證文山 旧毛利山 十三年一月・七月・一月 地方税 協議費 証印税 割賦帳	明治13年12月			證文山、毛利山の地租・民費・証印税等の書上	縦帳
49	24 (C-28)	記	[明治]15年1月16日	世話人中	高原善蔵様	県庁へ願書4通・筆耕料その他県庁行馬車代・界半紙1束・仲裁人入用など金銭出納の帳 外に無地紙2枚を一緒に綴じている これも金銭に関するもの	縦帳
50	25-1 (C-29)	高原謙造分米金受拂簿	明治24年分 明治25年分			明治24年分・25年分 入米 出米の記録	横帳
51	25-2 (C-29)	田畑小作米取立帳	明治24年卯11月	高原謙造		田畑に対する小作米取立の記録 人別に記録されている	横帳
52	25-3 (C-29)	明治廿四年下作帳	明治24年2月28日	高原謙造		下作人の名・小字・右高等が列記されている	横帳
53	26-1 (C-30)	申渡 覚	[江戸]		[乙金村]	去冬上納米不納の件につき組頭役を罷免する旨の申し渡し	切継紙(2枚継)
54	26-2 (C-30)	御笠郡乙金村組頭次吉御 詮儀二付申上ル口上之覺	文化3年3月	乙金村組頭 次吉	大庄屋 佐作様	去申秋上納分の余分及び不足の書上 上納延引の理由などを書き15日限り上納の報告	切継紙(3枚継)
55	27 (C-31)	社倉米借証	[明治]			社倉米貸付の依数人名書上 朱で元利の書き込みあり 合計 米38俵3斗4升6勺 内30俵元米	縦帳
56	28 (C-32)	[記録]				金高と人名の書上	縦帳
57	29 (C-33)	[上申]	文政年間	上大利村庄屋 善四郎 他	那珂席田夜須御笠 御郡代御役所	懷婦取調の案文・届出文・出生届・死胎出産の届出・養育御救米の請取などあり。横折は「上大利村産子月払之事」など	半紙及び横折3枚合綴
58	30 (C-35)	大庄屋元諸拂方之覚 留書帳	寛政12年申ノ11月5日			諸払方の記録 月日・金額・費目の書上	横帳

No.	史料番号	表題	年月日	作成・発給	宛所	内容	形態
59	31 (C-36)	唐山堤下水論一件萬留書	安永7年5月3日	ふかわ田持中 助次 源助 又市 喜八	乙金村 新九郎様 同 久次様	唐山堤下石井手の普請に至る経緯とふかわ井手中 村より堰立の覚え (表紙には文化15年とある)	縦帳
60	32 (C-37)	乙金中村草山争論一件	[寛政年間]	乙金村庄屋 善四郎 他	仲村庄屋 曾平殿	乙金、中村、草山争いについての経緯に関する書き 物をまとめている。書状5点、口上の覚3点他が綴じら れている	縦帳
61	33 (C-38)	曾内口上之覚	文政11子/7月	曾内(印)	組頭衆中・組頭取衆中	曾内父子間の争論についての念書	切紙
62	34-1 (C-39)	天保九年戌正月 伊七紺 屋園島永代證文入				史料 No.34-2 と 34-3を同封	封筒
63	34-2 (C-39)	質入證文之事	文政8年酉12年	島主 伊七(印) 請人 伊作(印)	庄屋 善蔵 殿	こんやその中田4畝18歩を担保に、米1俵半、代76匁 確かに受取りました 来成年より寅年迄5か年の間お 受持下さい	切継紙(3枚継)
64	34-3 (C-39)	[永代賣渡証文]	天保9年戌正月	伊七(印) 伊三郎(印) 受人 作次(印)	庄屋 忍平 殿	紺屋園中田4畝18歩の土地を米10俵2斗3升1合 代 金236匁3分にて永代売渡しの証文	縦帳
65	35 (C-40)	婦人会草稿	[明治]38年12月			手紙草稿集11月20日から5月15日までの分がある 葉書を出した相手の名も書き上げている 作成は高 原善蔵か 2か所ほど署名あり	縦帳
66	36 (C-41)	日誌	明治21年11月11日			役員の決議録 委員3名 村田剛四郎 河波宗五郎 白壁勝右衛門 予備員 花田源次郎 会計委員 草 壁久平	縦帳
67	37-1 (C-42)	御笠郡上大利村堤底樋立 樋當冬仕調諸品御願帳	文政5年6月	上大利村組頭 和作(印) 同 次六(印) 同村庄屋 善四郎(印)	那珂席田夜須御笠 御免方御役所	長尾谷堤底樋立樋取り替のための材料書上げ 観世 普寺村庄屋 善作、向佐野大庄屋 良七の奥書あり	横帳
68	37-2 (C-42)	御笠御免用瓶井樋仕居仕 廻目錄書上帳	文政5年3月	上大利村庄屋 善四郎 同村 次六 和作	那珂席田夜須御笠 御免方御役所	瓶井樋1か所 長さ2間6歩6厘 7寸口2通敷 3月5 日工事完了の報告	横帳
69	37-3 (C-42)	御笠郡上大利村免用指井 樋井操掛樋来春仕替御願 帳	文政4年6月	上大利村庄屋 善四郎	那珂席田夜須御笠 御免方御役所	指井樋1か所操掛樋1か所の材料 板・釘など及び大 工人数書上	横帳



No.	史料番号	表題	年月日	作成・発給	宛所	内容	形態
70	37-4 (C-42)	御笠郡上大利村御免用指井樋来春新規諸品御願帳	文政4年6月	上大利村庄屋 善四郎	那珂席田夜須御笠御免方御役所	日の浦指井樋1か所の板・釘・人数の書上	横帳
71	37-5 (C-42)	御笠郡上大利村御免用瓶井樋来春新規御願帳	文政4年6月	上大利村庄屋 善四郎	那珂席田夜須御笠御免方御役所	瓶井樋新規御願の書付 瓶井樋1か所 長さ2間6歩 6厘 7寸口	横帳
72	37-6 (C-42)	御笠郡上大利村御免用指井樋并繰掛樋仕調仕廻目六書上帳	文政4年4月	上大利村庄屋 善四郎	那珂席田夜須御笠御免方御役所	宮ノ前 指井樋繰掛樋その外 樋の規模、資材大きさ、大工人数などの工事完了の報告	横帳
73	37-7 (C-42)	御笠郡上大利村御年貢米収納日割書上帳	文政3年9月	上大利村庄屋 善四郎	那珂席田夜須御笠御免方御役所	米645俵9升7合の収納日割書き上げ 俵数と日付 9月から10月晦日まで	横帳
74	37-8 (C-42)	御笠郡上大利村堤井樋唐書(後欠損)	文化6年			大利村の堤・指井樋・箱井樋・繰掛樋・瓶井樋などの規模書上及び資材板・釘・鍔など その他大工人数書上	半紙四ツ目綴
75	38 (C-43)	御笠郡乙金村書上帳	天保6年11月	乙金村庄屋 忍平		家数・牛馬数・同飼料・石橋・土橋・道法・村抱切他	縦帳
76	39-1 (C-44)	□増給福岡宿米願書入	寛政11年	庄屋 善四郎		史料 No.39-2 と 39-3を同封	包紙
77	39-2 (C-44)	御笠郡乙金村庄屋組頭乍恐御願申上ル口上之覚	寛政10年11月	乙金村庄屋 善四郎(印) 同村組頭 源内(印) 同 次吉(印)	天野弥一左衛門様御役所	散使の給米増 福岡宿米 臨時切立願い	切継紙(4枚継)
78	39-3 (C-44)	御笠郡乙金村庄屋組頭乍恐御願申上ル口上之覚	寛政11年4月	乙金村庄屋 善四郎(印) 同村組頭 2名	天野弥一左衛門様御役所	散使の給米増 福岡宿米 臨時切立願い 願いのとおり認可される	切継紙(4枚継)
79	40 (C-45)	御笠郡乙金村庄屋善蔵乍恐申上ル口上之覚	文政3年6月	乙金村庄屋 善蔵	那珂席田夜須御笠御郡代御役所	文化7年庄屋善次郎の代 御郡切立上納米の不足分を鉄砲売却で充当したが未だ不足の請求がきている 註議をお願いしたいとの上申書	切継紙(4枚継)
80	41 (C-46)	御笠郡乙金村庄屋組頭乍恐御願申上ル事	文化2年7月	乙金村庄屋 善四郎 同村組頭 藤七 同 善七	松岡太郎左衛門様御役所様	唐山堤下水論、堤水、田地養水として利用のため、水引の件についての上申書	切継紙(4枚継)
81	42 (C-47)	[書簡]	(江戸)10月6日	空山(印)	麦野村頭 金三郎とのへ	大和柿を戴いた事に対する礼状	切継紙(2枚継)

No.	史料番号	表題	年月日	作成・発給	宛所	内容	形態
82	43 (C-48)	[書簡]	(江戸)3月18日	仲村 曾平	善四郎 様	唐山大東のことは承知しました。平次より詳しいことは聞いておりませので依存はありません。	切紙
83	44 (C-49)	[記録]	明治6年7月	筒井村保長 田中勘右衛門 乙金村保長 高原善造 山田村保長 原田壽 同村同 田中興四郎 仲村保長 瀬里喜市 畑詰村保長 染原精六郎		6月21日一揆の者共への鎮撫説諭の経緯	縦帳
84	45 (C-50)	旧戸長ヨリ金員引付分受 取控	明治16年8月10日起			牛馬売買税、人力車国税、荷馬車税等受取の記録	縦帳
85	46-1 (C-51)	[貸付詳細記録]	[明治29年2月]			貸付金の利金の相手先別明細か	縦紙
86	46-2 (C-51)	松田作造ヨリ借入金貸付 記	[明治30年1月]			借入金の貸付明細及び松田作造方へ持参返済証書の記録	縦紙
87	46-3 (C-51)	金受拂記	明治29年12月			明治29年12月旧11月以降 金受払い記	縦紙
88	47 (C-53)	御笠郡乙金村去ル子年洪水未荒分起立夫糧米拝借年賦借財帳	嘉永6年丑10月	乙金村組頭 忠作(印) 同 正左エ門(印) 同庄屋 善一郎(印)	那珂席田夜須御笠 御郡御役所	洪水のための糧米拝借証文	縦帳
89	48 (C-54)	[収支勘定記録]	明治29年度			明治29年度の金銭米等の収支状況の記録 前半破損のため表紙なし	縦帳
90	49 (C-55)	[山林原野池沼藪水源堤費取調帳綴]	明治8年12月	乙金村保長 舟越孫三郎(印) 関忍平(印) 副戸長 村上壽平	福岡県権参事 藤井正志殿	福岡県管下筑前御笠郡乙金村地内・同中村地内の水源・堤備・公有地・神社境内の地番・反別等の書上	縦帳
91	50 (C-56)	御笠郡乙金村古畠當荒起畝数書上帳	文化7年8月	乙金村庄屋 善四郎 同村組頭 藤七 同 善七	村上又左衛門様 御役所	古畠當荒起畝数ごて畝数 5反3畝15歩 高3石1斗2合の詳細書上の村控	縦帳
92	51-0 (C-57)	役場経費書上	明治11年12月ヨリ			史料No.51-1～51-6の表紙	縦紙

No.	史料番号	表題	年月日	作成・発給	宛所	内容	形態
93	51-1 (C-57)	村役場経費并組長村使部給其他諸費受払決算表	明治13年4月	御笠郡中村外1ヶ村 戸長 高原善造	御笠郡那珂郡席田郡 郡長 三木隆助殿	明治11年12月～同12年6月迄村役場経費并組長村使部給其他諸費受払決算表	縦帳
94	51-2 (C-57)	村役場経費通算	明治13年1月31日	御笠郡中村外1ヶ村 戸長 高原善造	御笠郡那珂郡席田郡 郡長 南川正雄殿	明治12年7月～12月迄村役場経費通算	縦帳
95	51-3 (C-57)	村役場経費通算	明治13年7月20日	御笠郡中村外1ヶ村 戸長 高原善造	御笠郡那珂郡席田郡 郡長 南川正雄殿	明治13年1月～6月迄村役場経費通算	縦帳
96	51-4 (C-57)	村役場経費通算	明治13年7月17日	御笠郡中村外1ヶ村 戸長 高原善造(印)	御笠郡那珂郡席田郡 郡長 南川正雄殿	明治13年1月～6月迄村役場経費通算	縦帳
97	51-5 (C-57)	定額・常費明細表	明治14年1月	戸長 高原 善造	御笠郡那珂郡席田郡 郡長 小河久四郎殿	明治13年自7月12月迄 定額・常費明細表	縦帳
98	51-6 (C-57)	定額常費明細表	明治14年7月	中村外一ヶ村 戸長 高原 善造	御笠郡那珂郡席田郡 郡長 小河久四郎殿	明治14年自1月6月迄 定額常費明細表	縦帳
99	52-1 (C-59-1)	[書簡]	[江戸](第一篇)當4 月頃	井相田 又三郎	小山田茂作様	借入金を年賦払いで返済させてほしいという願いの書簡	こより で一括
100	52-2 (C-59-2)	[書簡]	[江戸](第二篇)11月 17日	井相田村庄屋 又右衛門 乙 金村庄屋 善一郎	亀井茂三様	借入金返納の事情取調べ その経緯を詳述してある	こより で一括
101	53-1 (C-60)	[紙綴り]				53-2～4を一括していたこより	こより
102	53-2 (C-60)	覚	[江戸]正月10日	庄屋		代銀、代米算用書上	横帳
103	53-3 (C-60)	[書簡]	[江戸]正月15日	又平	善蔵様	兼て預け置いた米代の経緯について述べた書簡	切継紙(2枚継)
104	53-4 (C-60)	覚	[江戸]巳 正月10日			金書書上 べて銭1貫433匁2分1厘渡した	切紙
105	54 (C-61)	[習字手本]					切継紙(7枚継)
106	55 (C-62)	御笠郡筒井村養育方古賀善六年恐奉願上事	嘉永5年子/3月	筒井村養育方 古賀善六(印)	那珂郡夜須御笠 御郡御役所	古書敷という又三郎受け持の「上畠6畝6歩」を勝手に田に開いた事を見分のうえ裁許を願うもの	切継紙(3枚継)

No.	史料番号	表題	年月日	作成・発給	宛所	内容	形態
107	56 (C-64)	去ル子年洪水荒歉起立料 年賦表	安政3年巳11月	乙金村組頭 忠作(印) 同 正右衛門(印) 同 村庄屋 善一郎(印)	那珂席田夜須御笠 御郡御役所	洪水のため、荒地起立上納米秤借証文	縦帳
108	57-1 (C-65)	(欠損)金村庄屋組頭乍恐 御願□□□□覚	文化10年7月	乙金村庄屋 善四郎 同 村組頭 藤七 善七 下大和村大庄屋左作 奥書	友納嘉市様御役所	御山の落葉、枯枝等は田畑の肥として是迄取続けた いたので此節御払いの松木分も村中にお下げ渡し下 さい、代銭は上納します。御山立込悪木分は百姓の 為に払い下げて下さい、村中申合せ竹木が立茂る様 に致します	切継紙(5枚継)
109	57-2 (C-65)	[上申]				此節 御仕立替をされ古木通御仕立組払いの許可 及び代銭上納をお知らせ下さい、御山立木の世話は 村中をもって致します (前欠 後欠)	切紙
110	58-1 (C-66)	御笠郡乙金村庄屋組頭乍 恐御願申上事	寛政11年6月	乙金村庄屋 善四郎(印) 同 村組頭 源内(印) 同 次吉(印)	天野弥一左衛門様 御役所	当村弁貞という9反程の田地のためぜんぢだ堤かさ 揚げ7歩腹付7歩程の普請願い、及びぜんぢだ堤に 野入橋普請の御願い	切継紙(2枚継)
111	58-2 (C-66)	御笠郡乙金村百姓孫四郎 興六乍恐御願申上候事	弘化2年9月	乙金村百姓 孫四郎 興六	那珂席田夜須御笠 御山方御役所	家作用材木拝領願 乙金村正右衛門の奥書あり	縦紙
112	59-1 (C-66)	役場備付諸帳簿并器具引 議目録	明治14年12月7日	高原善造	戸長 高原善郎殿	戸籍乙金、中村2冊他 地券証引議目録 その他	縦帳
113	59-2 (C-67)	戸長在職中繰替分預り金 米差引々議目録	明治14年12月	高原善造		繰替金・預り金・差引目録・株場地租費・諸印税繰替 差引他	縦帳
114	59-3 (C-67)	十一年度 旧一小区民費決算過納金 郡役所より可受取分	明治14年12月	高原善造	高原善郎殿	郡役所より受取の上村方へ配付すべき金高書上	縦帳
115	59-4 (C-67)	十一年度 旧一小区民費決算残余金 割下簿	明治13年8月25日調	乙金村 中村		11年度民費決算残余金明細、村備米預り分明細他	縦帳
116	60-1 (C-68)	御笠郡乙金村より御注進 申上ル事	嘉永3年5月3日	乙金村山之口 同 同 善右衛門 同 村庄屋 善一郎	那珂席田夜須御笠 御山方御役所	当月朔日2日の洪水にて村内諸々川土手破損のた め松杭木230本伐取の届	縦帳
117	60-2 (C-68)	覚	文政3年5月	乙金村 善四郎	那珂席田夜須御笠 御郡代御役所	窮民救いなどのための銭高・俵高・文文山伐払いの 銭高など書上げ 御仕組御願小割書上帳と付紙あり 同村庄屋の奥書あり	縦帳

No.	史料番号	表題	年月日	作成・発給	宛所	内容	形態
118	60-3 (C-68)	御笠郡乙金村庄屋組頭山之口御願申上ル事	安政3年8月	乙金村庄屋 源六 外	御山方御役所	当村抱唐山松虫付のため伐採の願いで	縦帳
119	60-4 (C-68)	御笠郡乙金村庄屋組頭山之口頭取百姓御願申上ル書物之事	文化10年酉12月	乙金村庄屋 善四郎 外	友納嘉市様御役所	当村唐山西半分御仕組払渡しの受書、2貫目を納め残り2貫目は半分通り伐り取って皆納します下大利村大庄屋の奥書あり	縦帳
120	60-5 (C-68)	御笠郡乙金村庄屋善四郎年恐御願申上候口上之覚	寛政10年5月	乙金村庄屋 善四郎	天野弥一左衛門様御役所	去る冬焼失の居屋造作のため必要の錢5貫目と御立山の悪木松400本程下げ渡し願ひ	縦帳
121	61-1 (C-69)	上申	明治15年4月14日	大野村長 高原善造	那珂御笠席田郡郡長 久野寂也殿	村會議員選挙の件についての指揮の要請	縦帳
122	61-2 (C-69)	〔村會議員選挙に付いての再向に対する回答書〕	明治15年4月14日	第一課長郡書記 松本俊之助(印)	大野村長 高原善造殿	この選挙を取消し更に選挙を行うべき旨の命令に付ては御了解下さい、との回答書	縦帳
123	61-3 (C-69)	〔村議員半数改撰の義についての回答書〕	明治25年4月4日	第一課(印)	大野村長 高原善造殿	村議會半数改撰の儀は速に正規の通取計らうようにとの回答書	縦帳
124	61-4 (C-69)	〔村會議員半数改撰の執行延期に関する伝達書〕	明治25年4月10日	大野村助役 森山桂次(印)	区長 高原一郎殿	村會議員半数改撰についての郡長からの命令の伝達	縦帳
125	61-5 (C-69)	〔村會議員撰挙中止の通知書〕	明治25年4月2日	大野村長 高原善造(印)	大字牛頸下区长 戸渡孫左郎殿	村會議員選挙が中止になった事の通知書	縦帳
126	61-6 (C-69)	〔村會議員撰挙會の開設決定通知と出勤を促す書〕	[明治]25年4月11日	助役 森山桂二	村長 高原善造殿	村會議員選挙會開設が来る18日に決定したので打合せのために即刻出席してほしい、との文面	縦帳
127	61-7 (C-69)	〔出勤之儀についての返書〕	[明治]25年4月11日	高原善造	助役 森山桂二殿	辞表を提出しているので出勤しない、との返書	縦帳
128	61-8 (C-69)	〔出張依頼の照会状〕	[明治]25年4月17日	助役 森山桂二	村長 高原善造殿	村會議員選挙が来る24日に確定したので選挙長のことについて出張してほしい、という照会状	縦帳
129	61-9 (C-69)	〔伺出依頼の書状〕	明治25年4月9日	第一課長郡書記 松本俊之助	大野村長 高原善造殿	議員半数改撰の儀についての會議伺出の依頼状	縦帳
130	61-10 (C-69)	〔村内地税〕	[明治]			村内地税の書上〔字別〕	縦帳

No.	史料番号	表題	年月日	作成・発給	苑所	内容	形態
131	61-11 (C-69)	[村内戸数]	[明治]			村内〔字別〕戸数書上	縦帳
132	61-12 (C-69)	「辞表」	明治25年4月9日	大野村長 高原善造(印)	大野村助役 森山桂二殿	村長退職のための辞表	縦帳
133	62 (C-71)	永代売渡證文之事	文化元年9月	藏主 平三(印) 請人 利作	庄屋 善蔵殿	藏渡證文 組頭藤七・善七の奥書あり	切継紙(2枚継)
134	63 (C-72)	御笠郡乙金村清吉孫四郎半助 御詮儀二付乍恐申上ル口上之覚	天保12年6月	乙金村百姓 清吉 孫四郎 半助	那珂席田夜須御笠 御山方御役所	御證文山の木を入札により伐採するために雇入れた人夫が、木品が分からず誤って除木を根伐にしたことについてのお詫びと、西手御山境忍平殿御證文山が水流尾筋となった時の処理の仕方についての報告	切継紙(5枚継)
135	64 (C-73)	講敷證文之事 写	安政4年5月	井相田村 又三郎○ 受人 同村茂右門○	乙金村庄屋 善一郎殿 春日村庄屋 文六殿	講の家屋敷証文	切継紙(2枚継)
136	65 (C-74)	乙金村百生中乍恐申上ル口上之覚				書付(内容不明)に連印したものが焼捨たにもかかわらず庄屋身分の僧雲の手によって差出されている百姓中は書付などは決して差出しません(後欠のため宛・作成不詳)	切継紙(2枚継)
137	66 (C-75)	御笠郡乙金村庄屋組頭乍恐御願申上ル事	文化14年9月16日	乙金村庄屋 善蔵(印) 同村組頭 藤七(印) 同 善七(印)	八田九内様御役所	豊後国玖珠郡森町出生、小井善立という医師、昨15日昼頃死亡 瓦田村原仙庵老より死亡診断書作成 善立が所持していた寺証文があるので当郡宰府村真宗西正寺への死骸結縁願いの提出	切継紙(3枚継)
138	67-1 (C-67)	行政事務係諸帳簿引譲目録	[明治]17年7月10日	中村旧戸長 白壁又六郎	戸長 高原善造殿	地券台帳・地所取調帳・戸籍帳・その他名称及び冊数書上。末尾に朱書で「17年7月10日高原善造」の受取書がある。	縦帳
139	67-2 (C-67)	諸帳簿并器具引譲目録	明治17年7月	船越源太郎(印)	筒井村外七ヶ村戸長 高原善造殿	戸籍・名寄帳・地券台帳・諸上納控・御布達など名稱・冊数書き上げ 17年7月4日戸長高原善造の受取書あり 末尾に「記」として、御布告6冊その他の預り証あり	こ よ り で
140	67-3 (C-67)	御笠郡瓦田村諸帳簿引譲目録	明治17年7月	御笠郡瓦田村旧戸長 末長仁三郎	筒井村外七ヶ村戸長 高原善造殿	瓦田村行政記録引譲簿 村絵図・地券台帳・收穫書上など名稱・冊数書上 奥書に受取書あり	一 括
141	67-4 (C-76)	引譲帳 白木原村	明治17年7月16日	白木原村旧戸長 森山半七	筒井村外七ヶ村戸長 高原善造殿	田畑名寄帳・地所建物奥書帳・その他引譲書名稱・冊数書上 外に「送り」として7月14日出、7月31日受け取りのものが2紙ある	縦帳
142	67-5 (C-76)	村費賦課根帳 白木原村				明治16年度下期村費予算の金額及び内訳、他に割賦の金額及び内訳	縦帳

No.	史料番号	表題	年月日	作成・発給	宛所	内容	形態
143	68 (C-77)	民有林野取調地(價書)上帳	明治9年11月	第八大区老小区 中村	八田九内様 御役所	執行茂一郎・瀬里弥平・白壁惠三 所有林野調	縦帳
144	69 (C-78)	御笠郡乙金村庄屋組頭恐 乍御願申上ル事	文化13年11月	乙金村庄屋 善蔵(印) 村組頭 藤七(印) 同 善七(印)	同	当村百姓文七、伊七等9人の者上納米不足のため證 文山の松木120本を売払い上納米不足に充当したい 旨の上申書	切継紙(4枚継)
145	70 (C-79)	御宝蔵御銀年賦取立帳	寛政10年午ノ10月	庄屋 善四郎殿		甚四郎・次七・藤次へ御宝蔵銀貸付につき 5か年返 納証文控とその5か年賦の個人別返納予定表及び亨 和3年亥11月上納之覚	縦帳
146	71 (C-80)	中村貞七女房怪我療治中 雑用入切書出帳	天保3年辰6月	中村先庄屋 恵内	乙金村庄屋 善蔵様	貞七女房卯11月の怪我の治療費・薬代・その他 11 月11日～12月17日迄の総費用 合計1貫248匁4分 の内訳	横帳
147	72-1 (C-81)	中村山田金隈三村論地書 類八十七号	[明治]			史料No.72-2～72-10が同封されていた包紙	包紙
148	72-2 (C-81)	御届書	明治9年7月8日	老小区井相田村 城戸茂右衛門(印) 城戸利蔵(印) 城戸差平(印) 山浦喜右衛門(印)	第八大区老小区 戸長副戸長衆中	明治8年分の地租金・雑税金を一度に渡すことの承 服の件 包紙に「扱所御中 御届書 井相田村」 とある	縦帳
149	72-3 (C-81)	中村抱之内ニ金隈村ヨリ 設溝敷圖面	[明治]			中村抱の内 金隅村溝敷の図面	切紙
150	72-4 (C-81)	境界之儀ニ付願	明治8年7月	惣代百姓 河波安左衛門(印) 河波定吉(印)	調所御中	山田村と席田郡金隈村の境界についての上申書 包紙あり	縦帳
151	72-5 (C-81)	境界論地之儀ニ付願	明治8年6月15日	第十三大区十二小区 金隈村保長 野崎素造(印)	第十三大区区长戸長 御中	第12大区御笠郡中村抱当大区那珂郡金隈村抱面村 論地についての上申書	縦帳
152	72-6 (C-81)	境界田地之儀ニ附御届	明治8年12月20日	十六小区中村係長 白壁又六郎(印) 副戸長 村上寿平(印)	第十二大区区长戸長 御中	中村抱内 13区金隈村分の溝敷代 田地主瀬里喜 三郎の受持に付 貢税上納の件御届 包紙あり	縦帳
153	72-7 (C-81)	[荷車鑑札下渡御願]	[明治]9年6月19日	瓦田村□花田源二郎	一小区扱所御中	荷車鑑札料御下渡し催促の件	縦紙



No.	史料番号	表題	年月日	作成・発給	宛所	内容	形態
154	72-8 (C-81)	〔検査ノ順序収穫高ノ等級 等ニ関スル定メ書〕	[明治]			1村の収穫高を算積することの定め	縦紙
155	72-9 (C-81)	〔論地之儀ニ付御通知願〕	[明治]6月15日	第十三大区 区戸長	第十二大区区戸長御 中	中村と金隈村の論地の件に付 立会见分通知願い	縦帳
156	72-10 (C-81)	境界之儀ニ付願	明治8年5月16日	十六区中村保長 瀬利喜市(印) 白壁又六郎(印) 同副戸長 松尾山太郎(印)	区長戸長御中	当村境界席田郡金隈村境字六反田という所 今般地 所改正に付調査致したく実地見分の上、御才判願い の件	縦帳
157	73 (C-82)	〔御達写集〕	文政12年8月 外			郡代役所・三奉行などからの御達の写しを1冊にした もの 寛も含む 宛先は御笠郡大庄屋中が多い 通 古賀大庄屋近藤良七の奥書があるものもある	綴
158	74-1 (C-83)	御笠郡山田村入百姓仕居 諸品御願帳 御ひかへ	嘉(永)6年正月	山田村庄屋 太平 (印)	那珂席田夜須御笠 御郡御役所	卯三郎外5名入百姓仕居料拝借及び諸品御願書 上・馬代農具代般物代・家居取繕の外丸かし・わら・ 半繩・松木など	横帳
159	74-2 (C-83)	御笠郡山田村田島御買上 余米難洪百姓へ割渡御願 帳 乙金御控	嘉永7年2月	山田村組頭勘次 (印)	那珂席田夜須御笠 御郡御役所	御買上田島余米56俵余の内訳 俵数・名前書上げ と難洪の者へ分配の許可願い	横帳
160	75 (C-84)	〔御笠郡乙金村四壁藪御 改書上ヶ帳〕	元文4年未3月	乙金村庄屋 善市郎 同村頭百生 七郎平 同村同 新九郎	永田五郎太夫様 倉八惣右衛門様 津田次郎右衛門様	人別 古畠屋敷等 畝高・年貢上納の書き上げ	縦帳
161	76 (C-85)	「添・刪綴」(ママ)	大正2年分	善造		歌集の添削 約500首以上あり	縦帳
162	77-1 (C-86)	断書 生々堂 二十一歳 女縁談占	4月	高山大造		21歳女縁談の有無・吉凶の答 急ぐべからず 時節 の来るを待つがよろしい 包紙あり	切紙
163	77-2 (C-86)	〔占文〕				開扉不能 占文回答のようだ	切紙
164	77-3 (C-86)	遯之否	11月	高山大造(印)		18歳女の病氣占い 原因は時候のさわわりであろう	切紙

No.	史料番号	表題	年月日	作成・発給	宛所	内容	形態
165	77-4 (C-86)	三十一歳主人来年筮	丙子 冬至	高山大造(印)		「師之升」と出ている。これは「天馬出群之象あり故に諸事通達す」として正月から12月までの吉凶を占い、およそ当年は運氣よろしとの回答	切継紙(3枚継)
166	77-5 (C-86)	祭方	旧12月	高山大造(印)		病氣全快のための祭り方燈明・御供神酒・七種菓子・塩などの供え方と祝文礼拝の仕方	切継紙(2枚継)
167	77-6 (C-86)	三十歳主人年筮	甲戌冬至	高山大造		「遇坤之比」この卦は品物布形の象あり 故に種々入組み急速に成就し難いが当年は運氣よろし 3月から12月までの吉凶もあり	切継紙(2枚継)
168	77-7 (C-86)	晋之豫	11月	高山大造(印)		30歳主人眼病についての筮 この眼病原因は上衝強く脾胃肝眼也、則家相障り 且方災の所為也として家相の障りを除くため祈禱等をすすめている	切継紙(2枚継)
169	77-8 (C-86)	筑前乙金村悪病流行三付十有八變問筮得遇巽之始	旧5月	高山大造(印)		悪病流行のための占 神仏を大切にし社人に頼んでお祓い祈禱をすすめている	切継紙(2枚継)
170	77-9 (C-86)	[吉凶占い]	冬至	高山大造(印)		前部及上部欠損のため判読不能、各月の吉凶占いか	切紙
171	77-10 (C-86)	六十四歳主人年筮	甲戌冬至	高山大造(朱)		「遇革之咸」この卦は豹變為虎之象あり故に吉兆也とある。3月から12月までの吉凶	切継紙(3枚継)
172	77-11 (C-86)	晋之剥・朋夷之豊・觀之漁	4月	高山大造(朱)		21歳女の眼病・17歳女の眼病・26歳女の病氣について占い 家相の障を除き、方除祈禱・井戸掘り替え・戌亥の方角に造作をすすめている	切継紙(5枚継)
173	77-12 (C-86)	三拾四歳主人年筮	閏3月	高山大造(印)		遇泰之需この卦は小往大来の象あり故に諸事通達す、その他3月から12月迄の吉凶、当年の運氣よろしとある	切継紙(3枚継)
174	77-13 (C-86)	廿四歳主人運氣身上産業等吉凶十有八變問筮得遇同人之遯	冬至	高山大造(印)		この卦は日在中天之象あり衆人相望み相親むの義あり吉兆なり、外に来る午歳各月の吉凶とその対応	切継紙(3枚継)
175	78 (C-87)	役場諸簿	明治13年7月起			月給 旅費 諸費 受取 役場現費 布告配達 福岡新聞到着 四王寺株山地租民費操替等々書上	竖帳

No.	史料番号	表題	年月日	作成・発給	宛所	内容	形態
176	79-1 (C-88)	村制組織之儀ニ付請願書	明治21年10月	御笠郡筒井村 山田村 仲嶋村 畑詰村 中村 乙金村 瓦田村 那珂郡井相田村 人民惣代生田秀三郎 他22名	福岡県知事 安場保和殿	村力を隆盛にするために村制の改革をしてほしいとの請願書	こよりで一括 縦帳
177	79-2 (C-88)	添申書	明治21年11月7日	御笠郡筒井村外七ヶ村戸長 高原善造	福岡県知事 安場保和殿	村制組織御変更の儀に付いての請願書の添申書	縦帳
178	80 (C-89)	旧戸長ヨリ引譲目録	明治16年8月			行政事務に係る記録 文書目録 公有記録文書目録 筒井村外3ヶ村役場諸品械目録等書上	縦帳
179	81 (C-90)	御巡見上使ヨリ御尋之廉、御案内庄屋ヨリ答之心得書				巡見上使からの質問を想定し、それに対する返答の心得書	綴
180	82 (C-91)	御駕籠成願書控	嘉永7年正月	乙金村組頭 忠作 同村庄屋 正右衛門 同 善一郎	那珂郡田夜須御笠郡御役所	正月22日和作より善一郎宛 孫四郎御駕籠成の儀正月22日郡役所より大庄屋善七郎宛 孫四郎に関する調査願 嘉永7年正月庄屋善一郎より郡役所宛 孫四郎の身上書	縦帳
181	83 (C-92)	御笠郡乙金村中村戸籍総計 同職分総計 村控	明治13年2月	御笠郡乙金村中村戸長 高原善造		御笠郡乙金村、中村戸籍総計 同職分総計、村控 明治12年1月1日～12月末日まで	縦帳
182	84-1 (C-93)	[送付状]	[明治]11月11日	松尾 郡書記(印)	高原村長殿	84-2 「布告写」の送付状	縦紙
183	84-2 (C-93)	九年五月廿日第七十五号 布告	[明治]			合家の義 分家の者本家へ復旧 の件についての布告	縦紙
184	85 (C-94)	乙金村百生中申上ル口上之覚	[江戸]4月2日	乙金村百生中	大庄屋 利兵衛様	仲村の僧雲に強要されて書付に連判したものの、取返しについて、疵捨たものが役所に差出されている百姓中は決して書付などいたしません	切継紙(3枚継)
185	86 (C-95)	借用銭年賦書物之事	天明5年巳11月21日	仲村 借主 令次 受人 津甚口	善郎殿	銭1貫800目 但し60銭を午年より5か年賦で1か年360匁充返済するという借用書	切紙
186	87 (C-96)	高原謙造日記	明治9年子旧8月22日ヨリ	高原謙造		8月22日～24日までの日記・退職願控 持病の眼病の為、伍長役退職の願	縦帳

No.	史料番号	表題	年月日	作成・発給	宛所	内容	形態
187	88-1 (C-97)	延享元年八月名寄	寛保4年二當ル			善一郎他名前の書上	縦帳
188	88-2 (C-97)	覚山證文二有之哉	元禄11年	乙金村庄屋 勘六		高原源藏 幸吉父也 他名前の書上	切継紙(2枚継)
189	89-1 (C-98)	仕上ル書物之事	文化7年3月	中村 又次 同村 与七郎	乙金村御山ノ内 孫次様	御立山の内にて松枝伐おろしたための詫状	縦帳
190	89-2 (C-98)	弘化二年五月廿四日五日 両日ニ松虫取除ケ、夫積 山ノ口両人	5月25日		二日市郡家	一、せんち田上より入道迄 一、大音様 御證文山等 の松虫駆除の為の夫見積り	縦帳
191	89-3 (C-98)	乙金村山之口面役三人引 當	文久2年酉7月	乙金村山之口		孫次郎が文久2年から当辰年迄8か年 乙金村山之 口を勤めた 付紙3枚あり	縦帳
192	89-4 (C-98)	御笠郡乙金村面役人数書 上帳	天保10年3月	乙金村組頭 源六 同 作次 同村庄屋 忍平	那珂席田夜須御笠 御郡御役所	面役人数書上げ(年令・名前)	縦帳
193	89-5 (C-98)	水源堤備山林取締之儀協 議之上一村結約條々 御笠郡乙金村	明治12年2月9日	組長 舟越源太郎 伊藤孫四郎 舟越善助	村戸長 高原善造殿	水源堤備の山林取締の件に付、万一不心得の者が 無いように、取締の方法を申し合わせたことの5か条と 上ノ組・下ノ組・三ノ組の人命書上	縦帳
194	89-6 (C-98)	[武七後家之死骸 西正 寺結縁之儀]	[江戸]6月13日	乙金村庄屋 善一郎	大庄屋 高原善七郎様	当村山番武七後家(当年73歳)が老病にて昨13日昼 死亡したので死骸を宰府宿西正寺に結縁のことお願 いします	縦帳
195	90 (C-101)	[覺]				号・尺・石碑・姓名・年号等の書上	縦紙
196	91 (C-102)	検見御巡廻道割別紙之通 二候条毎事不都合無之様 宰判可有之候	11月29日	副戸長 勝村源三郎	高原 謙二郎	2部あり 前半は検見御巡廻御道割、後半は検見御 巡廻時の準備及御注意に関する事	縦帳
197	92 (C-103)	犯罪書 何郡何村	明治6年7月7日			党民一揆に隋行など加担の者届出調印の案文 福 岡県出張聴訟課からの達し3条の写しを含む	縦帳
198	93-1 (C-104)	御笠郡武蔵村大庄屋太兵 衛乍恐申上口上之覚	天保12年6月	武蔵村大庄屋 太兵衛	那珂席田夜須御笠 御山方御役所	古野の浦御證文山の根払いを許された際、残し置く べき囲木を伐取った事に対する上申書	切紙

No.	史料番号	表題	年月日	作成・発給	苑所	内容	形態
199	93-2 (C-104)	〔口上書〕				根伐した木の事について経緯と私共の指示ではない事を上申 前欠及び後欠のためよく分らない	切紙
200	94-1 (C-105)	御笠郡乙金村庄屋組頭乍 恐申上ル口上之覚	天保2年	乙金村組頭 作次 次右衛門 同村庄屋 善造	那珂席田夜須御笠 御郡代御役所	組頭次右衛門幹龜吉等5人の者唐山に枯木取に行き、下の方で物音がするので、声をかけたが返答がないので、石を投げたら、松葉かきに来ていた貞七女房の頭にあたりけがをした 石を投げたのは磯吉であります	切継紙(3枚継)
201	94-2 (C-105)	御笠郡乙金村庄屋忍平乍 恐申上ル口上之覚		〔乙金村庄屋〕〔忍平〕		御笠文山の木に番付を付けていたものが、昨夏の洪水で無くなってしまったことへの詫状 下書	切継紙(3枚継)
202	94-3 (C-105)	御笠郡乙金村清吉孫四郎 半助組合百姓中御詮議二 付乍恐申上ル口上之覚	天保13年4月	乙金村清吉組合 組頭取 和藏 他18名	立花 善兵衛様	御笠文山の御除木について不法の取り調べを受けましたが私共は存じません 庄屋忍平及び下請けの3人の申す通りでございます	切継紙(3枚継)
203	95-1 (C-107)	〔上申〕	天保13年4月	乙金村庄屋 忍平	立花 善兵衛様	御笠文山の件につき、伐採した樹木のこと及び山境のこと等、才判方不行届を上申 前欠 下書	切継紙(3枚継)
204	95-2 (C-107)	御笠郡乙金村庄屋忍平乍 恐申上ル口上之覚	天保12年6月	乙金村庄屋 忍平	那珂席田夜須御笠 御山方御役所	御笠文山根払いの件につき御除木伐採の経緯及び不法の致し方は私の才判筋不行届との上申 下書	切継紙(7枚継)
205	96 (C-108)	〔田島書上帳〕	〔江戸〕			小作台帳 (田島等級 高敷 小字 名前書上) 総田数2町4反1畝20歩 総高26石1斗2升3合	縦帳
206	97-1 (C-109)	乙金寸志植書上帳	弘化2年5月	御山方		乙金村杉寸志植書上	横帳
207	97-2 (C-109)	兼而村中申合せ之杉苗當 春うへ本数 控				杉苗植本数の名前の書上	横帳
208	98 (C-110)	御笠郡乙金村庄屋組頭山 ノ口組頭取 乍恐申上ル 口上之覚	文化10年閏11月	乙金村大庄屋 善四郎(印) 外 8名	友納嘉市様御役所	当村唐山御仕組払いの分は3貫800目にて私共へ御下渡し下さい との請願書	切継紙(3枚継)
209	99 (C-111)	御笠郡乙金村庄屋組頭乍 恐御願申上ル口上之覚	寛政6年3月	乙金村庄屋 善四郎 同村組頭 新九郎 同 源内	天野弥太兵衛様 御役所	当節猪の出没多く妻作、大豆蒔付など疲荒し追々苗代の時節になるので猪追払いの許可願	切継紙(2枚継)
210	100-1 (C-112)	諸口出間通	明治14年7月ヨリ	〔乙金村 中村役場〕		衛生委員届、国民軍異動無の届、医師産婆異動無の届など各種届の書上	縦帳

No.	史料番号	表題	年月日	作成・発給	宛所	内容	形態
211	100-2 (C-112)	〔借用証〕	明治15年8月	川浪 惣四郎 他	森山庄大殿 他	記・受取証・借用書等21点の綴り	綴
212	101-1 (C-113)	〔上申書〕	明治21年11月	御笠郡筒井村人民総代 古賀興八(印) 他22名	福岡県知事 安場保和殿	白木原村の村制請願書に対する意見書 (付紙あり)	縦帳
213	101-2 (C-113)	御笠郡乙金村庄屋善四郎 仕上ル書面	3月15日	乙金村庄屋 善四郎	平井元右衛門様 御役所	伐除く1所 代丁銭1貫200文(山木伐及び杉苗植の上申の下書きか)	縦帳
214	102 (C-114)	〔記録〕	4月29日 外			人名・日数・代米数量の書上 使役の記録か	縦帳
215	103-1 (C-115)	御笠郡乙金村山ノ口源次 次七御詮儀二付年恐申上 ル口上之覚	天保13年4月	乙金村山ノ口 源次 同 次七	立花善兵衛様	御詮文山・古野ノ浦の御除木伐取の件については私 共見ヶげ不行届の段お詫びします	切紙 同一文書
216	103-2 (C-115)	〔上申〕					切紙紙(2枚 継)
217	103-3 (C-115)	借用仕證文事	亨和2年2月3日	借主 久七(印) 受人 介治(印)	乙金村 善四郎様	60文銭200目確かに借用 当9月限り返済 若し不納 の節は私の家財一切差し上げます	切紙
218	103-4 (C-115)	御笠郡乙金村庄屋忍平御 詮儀二付年恐申上ル口上 之覚				御詮文山の御用松木伐採の件について (後欠のため 詳細不明)	切紙
219	103-5 (C-115)	借用仕銭之事	文化2年12月27日	那珂郡西堅粕村 喜作	御笠郡乙金村庄屋 善四郎殿	銭113匁 右は貴殿下人利吉の身代 当冬より私が 召使い、私う菅のところ都合により借用します 来寅9月 限り2割の利子を加え返済します	切紙
220	104 (C-116)	諸進口口口(判読不能)	明治13年7月ヨリ	乙金村中村 役場		部分木植付申告、被害田畑反別調、国民軍異動無 之届、稲作新旧比較表、その他諸納金等役場業務 の記録	縦帳
221	105-1 (C-117)	村民ニテ山林取締之部	明治12年2月9日	組長 船越源太郎 同 伊藤弥四郎 同 船越善助	戸長 高原善造殿	水源・堤備の山林取締の約定 心得の5か条 上の 組・下の組の人名書上	縦帳
222	105-2 (C-117)	山林保護之部	文化7年3月	中村 又次 同村 与七郎	乙金村 御山ノ内孫治様	仕上る書物の事 私共御立山の内に松枝伐おろし お咎めをうけ恐縮です 以後はこのようなことがないよ うにします 他2点	縦帳

No.	史料番号	表題	年月日	作成・発給	苑所	内容	形態
223	106 (C-118)	〔報告〕	明治5年壬申11月	乙金村組頭 関忍平 同 舟越善六 同村副戸長 染原精六郎	福岡県御庁	乙金村の田反別27町8反4畝22歩 高334石9斗6升 畑反別9町8反7畝24歩 高64石9斗3升の内訳 他に 畑田成・大縄畑の書上 面積・高・代價付・無代價・ 費地などの報告書	縦帳
224	107 (C-119)	諸願諸指控	天保7年12月 外	乙金村組頭 作次 源六 同村庄屋 忍平	那珂席田夜須御笠 御郡御役所	御笠郡乙金村より郡役所へ提出した書類の控え 作 鳥のこと・證文のこと・宗旨改めのこと・死人のことな ど多岐にわたっている	縦帳
225	108 (C-120)	明細書 村方控	亨和2年戊4月			筒井村の田畠高・田畠敷・堤・井手・家屋・人口など 村の状況を詳細に記録してある	縦帳
226	109-1 (C-121)	御笠郡乙金村庄屋組頭申 上ル口上之覚	安政2年5月14日	乙金村組頭 忠作 同 正右衛門 同村庄屋 善一郎	那珂席田夜須御笠 御郡御役所	当村孫太郎39才が当村抱えの内 雉子ヶ尾 播磨様 御建山の内で縊死していたので真宗正栄寺結縁を 受け死骸を納めさせてほしいとの願い	切継紙(4枚継)
227	109-2 (C-121)	御笠郡乙金村清吉孫四郎 半助組合百姓中御詮儀二 付 乍恐申上ル口上之覚				御證文山 古野の浦の浦の1件についてのようであるが後 欠で詳細は不詳	切紙
228	110 (C-122)	御笠郡乙金村百姓清吉御 詮儀二付乍恐申上ル口上 之覚	嘉永6年11月	乙金村百姓 清吉	那珂席田夜須御笠 御山方御役所	当村御山の内で薪伐取の件について、清吉の口上 及び同村山之口組頭・庄屋等の口上書 3件	縦帳
229	111-1 (C-123)	中野三太夫様ヨリ仲村差 引之儀被仰聞二付同村兵 次殿ヨリ目録ヲ以被申出 候間御詮儀被仰付御答申 上ル覚	寛政7年2月	乙金村庄屋 善四郎	山口大庄屋 利兵衛殿	天明3～5年の証文の分の貸付金 錢1貫870目の催 促に関し、これまでの経緯及び内記様御立山売払い を以て返済の世話を頼む書状	切継紙(10枚継)
230	111-2 (C-123)	〔書簡〕	4月9日	内記内 中野三大夫	山口村大庄屋 利兵衛様	乙金村抱内記立山の松木を伐採させた時の代金を 下請けの兵次が上納せず催促しても埒があかないの で事情を穿鑿してほしい という依頼の書簡	切継紙(3枚継)
231	111-3 (C-123)	〔備忘〕				べて191匁6分 この分証文なしとある 前欠・後欠の ため詳細不明	切紙
232	111-4 (C-123)	書物之事	弘化4年9月	源三(印) 受人 藤四郎(印)	庄屋 善一郎殿 他4名	靴むろの御免札を受ける為に協力して貰った礼と、 万一背きましたら許可証は引上げて下さい、という誓 約の書物	切継紙(2枚継)



No.	史料番号	表題	年月日	作成・発給	宛所	内容	形態
233	111-5 (C-123)	御笠郡乙金村庄屋組頭乍 恐御願申上ル事	文化14年2月	乙金村庄屋 〇〇 同村組頭 藤七 元七	天野藤四郎様 小河左右衛門様	当村抱唐山という所中村堤の石井手の件に付 瓶井 樋仕居の御願、唐山堤・石荒手に土俵にて堰上げ 高めないように御才判の御願 草稿か	切継紙(4枚継)
234	111-6 (C-123)	[書簡]	2月6日	唐人町総代 巳八(花押)	乙金村庄屋 善四郎殿	儀平と申す者長い間当町に出稼ぎにきてますが 御 村方在住になっており、唐人町に転出の手続き依頼 の手紙	切継紙(2枚継)
235	111-7 (C-123)	御笠郡乙金村庄屋組頭御 願申上ル事	嘉永4年5月	乙金村組頭 源六 正右衛門 善一郎 同村庄屋 善一郎	那珂席田夜須御笠 御山方御役所	去る秋の大風で倒れた松の木2本 宮用材木に下げ 渡し願、追て書に石燈籠戸・挑灯箱・村職箱などを 仕立てるとある	切継紙(2枚継)
236	111-8 (C-123)	御笠郡乙金村庄屋組頭御 詮儀申上候事	文政3年11月	乙金村庄屋 善藏 同村組頭 藤七 善七	友納久市様御役所	当村百姓惣吉等10名の者 御山御證文を頂戴してい たが、先年同名の者があり子孫であるかどうか分ら ないので詮議をしてほしい という趣旨の文面(虫食 い破損があり詳細は不明)	切継紙(2枚継)
237	111-9 (C-123)	御笠郡乙金村庄屋組頭乍 恐御願申上ル事	文化15年2月	乙金村庄屋 善藏 同村組頭 藤七 善七	天野藤九郎様 小河次右衛門様	当村抱唐山・谷・中村堤下田地養水払底の件、評儀 の上よろしく御才判の願、また右堤下の説明経緯、 石荒手に土俵にて堰上げしない様御才判願	切継紙(5枚継)
238	111-10 (C-123)	〇笠郡乙金村庄屋組頭御 注進口候事	天保2年11月12日	乙金村組頭 作次(印) 次右衛門(印) 同村庄屋 善造(印)	那珂席田夜須御笠 御郡代御役所	博多馬場新町判元桶屋三次伴磯吉等5人、当村唐 山に枯木取に行き山上より礮うちをしていたら松葉搔 をしていた当村貞七女房の頭に当り怪我をさせた 早 速廣田傳亮様で手当てしたが未だに治癒しないので 報告します	切継紙(3枚継)
239	111-11 (C-123)	[費地畝高德米之覚]	文政4年巳8月	筒井村庄屋 善六(印) 同村組頭 直次(印) 金次 (印) 勘右衛門(印)	乙金村庄屋 善藏殿 同村組頭 藤七殿 善七殿	筒井ひへの隈堤仕掛け水溝筋 享和2年と文化13年 向年に溝掘り広め又溝土手築立による費地の畝高書 上 田数1畝10歩半 高1斗5升7合	切継紙(3枚継)
240	111-12 (C-123)	祭租高原善市郎靈文	明治33年3月17日	裔孫 高原謙次郎		元禄2年生れ寛延4年2月に亡くなった高原善市郎の 百五十年忌に際しての靈文 後尾に靈の御前に手向 けるとして和歌1首あり	切継紙(3枚継)
241	111-13 (C-123)	[檄文]				逆賊徳川慶喜滅亡すべき理由を挙げ「男子心ある 者は順逆の道・禍福の利を審にして其進退向背を決 すべし」	切継紙(3枚継)
242	111-14 (C-123)	[書簡]	{江戸}2月17日	仲村 曾平 同 初次	善四郎様	当村兵次より中野三太夫様へ「拂不足錢之儀」に ついての意見を書いた書簡	切継紙(2枚継)

No.	史料番号	表題	年月日	作成・発給	宛所	内容	形態
243	112 (C-124)	正徳五年分御笠郡乙金村田島春石別ニ御請申上ル御免状之事	正徳5年	乙金村庄屋 善蔵(印)		正徳5年の乙金村の春免 田高334石位、御徳米170石位、畠高69石程、御徳大豆23石位	切紙
244	113-1 (C-125)	(備忘)	(江戸)2月22日 他			内夫及び状持人数書上 2月23日より3月3日迄本挽宿日数書上	切紙
245	113-2 (C-125)	天保八年	天保8年			銭高と人名の書上・斤目書上・覚・手紙の草稿・郡役所に出すもの・草稿等雑多なもの帳 表紙に天保8年と書いてある	横帳
246	114 (C-126)	申渡覚	丑7月		乙金村百姓 与作 他11名	去9月庄屋宅へ踏込み 和吉を夜中に連れ出し口論村中騒動したので処罰する筈であったが容赦し、「5日の轉さし申付けゆるす」との申渡し	切継紙(5枚継)
247	115 (C-127)	中野三太夫様ヨリ仲村指引之儀被仰聞ニ付同村兵次殿ヨリ目録ヲ以被申出候間御詮議被仰付御答申上ル覚				史料No.111-14に関する「仲村指引之儀」について兵次殿より出された返答書の控	切継紙(3枚継)
248	116 (C-128)	[夫粮米人別割渡之覚]	嘉永4年5月 他	乙金村組頭 正右衛門 源六 同村庄屋 善一郎	那珂席田夜須御笠 御郡御役所	乙金村の夫粮米・人別書上 嘉永4年分綴	綴
249	117 (C-129)	[上申書等綴]	天保2年11月13日 他	作次 次右衛門 他	御役所 他	博多馬場新町判元樋屋三次伴磯吉等5人の磯投げの一件に関する上申書等の綴り	綴
250	118-1 (C-131)	御笠郡乙金村庄屋忍平乍恐申上ル口上之覚	天保12年6月	乙金村庄屋忍平	那珂席田夜須御笠 御山方御役所	先祖拝領の御證文山根払いの際、御用囲の松100本のうちの1本をやむを得ざる事情で切取ってしまったことに対するお詫ひの上申書	切継紙(3枚継)
251	118-2 (C-131)	口笠郡乙金村仕上ル指出之事	文化14年9月	乙金村庄屋 善蔵	八田九内様御役所	豊後国玖珠郡森町出生小井葛立は去る17日宰府村真宗西正寺へ納めました 此段お届致します	切紙
252	119-1 (C-132)	[國有山林法]	[明治]32年3月22日	[内閣総理大臣 山縣有朋]		明治32年3月22日に公布された、国有林法の写し	こより
253	119-2 (C-132)	[國有土地森林原野下戻法]	[明治]			「国有土地森林原野下戻法」とその「申請手續」の写し	で一括
254	119-3 (C-132)	三十二年 日日官報九州日報	[明治]			明治32年九州日報からの写しと思われる 林野整理支局長職務章程・雑事注意事項 郡長より町村長に内達の写し	縦帳

No.	史料番号	表題	年月日	作成・発給	宛所	内容	形態
255	120-1 (C-133)	[通達]	[明治]26年5月10日	書記 樋口満喜(印)	高原善造殿	本月8日を以て村長に当選されましたので、速に赴任するようとの通達	縦紙
256	120-2 (C-133)	御笠郡乙金村ヨリ指出ヲ以申上ル事	弘化5年2月	乙金村組頭 源六 正右衛門 同村庄屋 善一郎	那珂席田夜須御笠 御郡代御役所	中国出生の亀吉が午5月頃当村庄居住の啓助に頼み質入した品物の書上 白木原村勇次郎に質入した分、井相田村次作に質入した分とあり、丸印のものは盗みの品で、去る正月引き揚げになった分	切継紙(7枚継)
257	121-1 (C-134)	唐山仕組御拂之覚	[江戸]			御山代上納分 名前と金額の書上	縦帳
258	121-2 (C-134)	御笠郡乙金村庄屋組頭乍恐御願申上ル事	寛政12年11月	乙金村庄屋 善四郎 同村庄屋 源内 次吉	天野弥一左衛門様 御役所	当村御山内で御家中様御拝領の御山について当村は特に他村と違い、水払底の所柄なので養水不足の節は、御伐除の許可をお願いします	縦帳
259	122-1 (C-135)	犯罪書	明治6年7月	御笠郡乙金村 保長 高原善造(印) 同 関忍平(印) 副戸長 高原善郎(印) 同 高原謙二郎 同 尾上逸蔵		党民一揆に加担し附和随行了した暴行犯罪人共の服罪調印書 拇印と奥書證印等の書上	縦帳
260	122-2 (C-135)	犯罪書	明治6年7月	御笠郡乙金村		党民一揆に加担し附和随行了した暴行犯罪人共の服罪調印書 拇印と奥書證印等の書上(前記犯罪書を清書したもの)	縦帳
261	122-3 (C-135)	「居村江罷在候者書上」	明治6年7月	乙金村保長 高原善造 同 関忍平 副戸長 高原善郎		明治6年の一揆に参加せず「アリバイ成立者」を人名・年令を書き上げ、奥書を書き証明している	縦帳
262	123-1 (C-136)	御笠郡仲島村庄屋組頭御願申上ル事	弘化2年正月	仲島村組頭 弥助 新三 同村庄屋 善一郎	那珂席田夜須御笠 御山方御役所	2尺6寸廻りの杉3本、当村氏神の鳥居建立のためお下げ渡し下さい	縦紙
263	123-2 (C-136)	享保十一年 御立山野山草山坪数書上	享保11年			御立山3か所・草山2か所・野山の坪数書上	縦帳
264	123-3 (C-136)	人民ヨリ立木願ノ部	[江戸]			文政3年から嘉永4年まで、松・薪・凶年備え御渡し、家作材木など願いの年月・本数・人別の書上	縦帳
265	123-4 (C-136)	人民ニ而山林取締約定	天保12年 外			山林取締のため山番を置くことなど年代と約定の書上	縦帳

No.	史料番号	表題	年月日	作成・発給	宛所	内容	形態
266	124-1 (C-137)	[通達]	明治6年7月	水野参事 團権参事		賊民良民の区別取調のため別紙簡条書きのとおり1 村毎に取りまとも県庁へ差出すべし 簡条書きは「党 民発頭之者」外7か条	縦帳
267	124-2 (C-137)	[通達]	明治6年7月1日	[水野参事] [團権参事]		今般凶徒乱暴の節、家財道具など捨取又は持帰つた ものあらば区戸長にて取りまとも、来る7月15日限り差 出すべし	縦紙
268	124-3 (C-137)	[村民友吟味之条布達]	[明治]7月6日	[福岡県出張 聴訟課]		過日布達の「村民友吟味之条」第1条より8条まで 戸 長は保長を呼集め、保長は又頭立ちたる者を集め、 友吟味布達の条を詳細に申渡しなさい 其他	縦帳
269	124-4 (C-137)	[通達]	[明治]7月4日	[水野参事] [團権参事]		大蔵大丞林友幸当県令心得として、昨3日着県 立 木兼善先月26日県令に任せられる 又明治6年7月5 日大蔵大丞林友幸の名で「今5日林参事・團権参 事本官を免ぜらる」[記] 党民一揆に関する届出案 文6件	縦帳
270	125-1 (C-140)	兵治殿分	[江戸]			品物と金額の書上	切紙
271	125-2 (C-140)	[清吉孫四郎半助組合 百生中御詮儀二付年恐申 上ル口上之覚]	[江戸]	乙金村 清吉 孫四郎 半助組合	立花善兵衛様	御證文山古野の浦 払い下げに関する上申書の下 書きか	切継紙(2枚継)
272	126-1 (C-141)	[備忘]				金銭算用書上	切継紙(2枚継)
273	126-2 (C-141)	[文字練習]				文字の練習をしたものと思われる	切継紙(2枚継)
274	126-3 (C-141)	[書簡]				借金の申し込みの書簡の下書きの前半と思われる	切継紙(2枚継)
275	126-4 (C-141)	御笠郡乙金村庄屋恐平乍 恐申上ル口上之覚	[江戸]			古野の浦御證文山の根払いに関する上申書の前半	断片
276	126-5 (C-141)	[断簡]				月の異名書上の断片	断片

No.	史料番号	表題	年月日	作成・発給	宛所	内容	形態
277	126-6 (C-141)	[断簡]				役名書上断片	断片
278	126-7 (C-141)	[断簡]			俗明院村庄屋 伊平殿	「御證廻在中」とある 包み紙の断片かと思われる	断片
279	126-8 (C-141)	御笠郡乙金村庄屋忍平御 詮儀ニ付年恐申上ル口上 之覚	{江戸}			「御證文山御用御除木私手元ニ而振替 其上御除 之分数本伐取候」一件についての上申書 前後半 欠損	切紙
280	126-9 (C-141)	御笠郡筒井村滞在肥前国 嶋原御領高木郡出生力右 衛門御詮儀ニ付申上ル口 上之覚	天保13年4月	筒井村滞在 力右衛門	立花善兵衛様	乙金村庄屋忍平殿より御證文山根払いに雇われ、私 の不注意で御除木16本根伐りしてしまったことのお詫 びの上申書	切紙
281	126-10 (C-141)	[書簡]	天保13年4月15日	筒井村滞在 力右衛門	立花善兵衛様	前半欠損のためよく分からないが、番付してあるのが 見えなかったので16本根伐したのは取り調べの時申 し上げたとおりの相違ありません という上申書と思われ る	切紙(3枚継)
282	126-11 (C-141)	[人名書上げ]	{江戸}			半助組合と清吉孫四郎組合の人名書上	横折
283	127-1 (C-142)	[書簡]	弘化2年2月	仲島村組頭 弥助	乙金村庄屋 文三郎殿	正右衛門兄善一郎が当村の入庄屋役を命ぜられた ので貴村の帳面から削除して下さい	こよりで一括 縦紙
284	127-2 (C-142)	御笠郡中嶋村庄屋善一郎 御願申上ル事	弘化2年2月	仲島村庄屋 善一郎	御山方御役所	私は先祖より御證文山を頂戴し有難く思っておりま すよって乙金村御山内に寸志植をしたいのでご許可下 さい	縦紙
285	128-1 (C-143)	文化七年午十二月 利七 口警固村口傷口	{文化7年午12月}				封筒
286	128-2 (C-143)	[書簡]	12月8日	下大利 左作	乙金村 善四郎殿	触状差出の件	切紙
287	128-3 (C-143)	[書簡]	11月28日	中野三太夫	乙金村 善四郎殿	頼母子講に1口お加わり下されたくお願い申し上げます	切紙
288	128-4 (C-143)	[書簡]	なし			酒代差引の件承知しました	紙 継

No.	史料番号	表題	年月日	作成・発給	苑所	内容	形態
289	128-5 (C-143)	[書簡]	12月26日	下大利 孫助	善四郎様	次吉の棹の女居が亡くなつた農作業に手が足りないの で、次吉がこの村へ引越すよう勧めて欲しいとの書 簡	切紙
290	128-6 (C-143)	[書簡]	[江戸]2月27日			此間より差し上げました目録、何卒御取替のうえ此者 へお渡し下さい	切紙
291	128-7 (C-143)	[書簡]	正月8日	左谷村庄屋 李次	乙金村庄屋 善四郎様	年末のご報告と年始のご挨拶	切紙紙(2枚 継)
292	128-8 (C-143)	[書簡]	11月5日			当村の年貢調査に付き触の件	切紙
293	128-9 (C-143)	御笠郡乙金村庄屋組頭乍 恐口上書ヲ以御願申上ル 事	文化8年未正月	乙金村庄屋 善四郎 同村組頭 藤七 善七	箱田宅太夫様	去る午の12月警固宮裏に於て心中の件、当村利七 の娘に相違なく此段宜しくお取計らい下さいの口上 書 その他	継紙
294	129-1 (C-144)	[書簡]	[江戸]正月24日	中野三太夫	乙金村庄屋 善藏殿	逢山の内にある石を其村氏神の鳥居石に致したいが 差し支えないかの問合せに対する返事 此方差し 支えないので村方へお引き渡し下さい	切紙紙(2枚継)
295	129-2 (C-144)	御笠郡乙金村庄屋組頭乍 恐御願口上ル事	文政7年正月	乙金村庄屋 善藏(印) 同村組頭 藤七(印) 善七(印)	那珂席田夜須御笠 御免方御役所	当村氏神宝満宮の木の鳥居が朽損に付き、石の鳥 居に建替え度く、資金の準備も出来ておりますので許 可願います	切紙紙(4枚継)
296	129-3 (C-144)	御笠郡庄屋、庄屋組頭乍 恐御願申上ル事	文政7年正月	乙金村庄屋 善藏 同村組頭 善七	那珂席田夜須御笠 御免方御役所	当村氏神宝満宮の木の鳥居が朽ちており 石の鳥居 に建て替え許可願ひ(下書き)	切紙紙(2枚継)
297	129-4 (C-144)	御笠郡乙金村庄屋、組頭 乍恐御願申上ル事	弘化3年11月	乙金村組頭 正右衛門(印) 源六(印) 同村庄屋 善一郎(印)	那珂席田夜須御笠 御郡代御役所	当村産神宝満宮境内の石燈籠再建の願ひ、兼て神 田の余米をもつて資金の準備は出来ておりますので 切り立てなどはありません 大庄屋の奥書きあり	切紙紙(3枚継)
298	129-5 (C-144)	[絵図]	[江戸]			石燈籠2基の絵図 総高さ・代銭等書き込みあり	切紙
299	129-6 (C-144)	[書簡]	[文政7年]5月5日	伊奈治右衛門 吉田興平 沢野半九郎(印)	乙金村庄屋 善藏殿	今般其村産神へ石鳥居建立に付寄附の件 軽微な がら200目致すべく申入ておりましたが、既に棟上げ も終わっているため竹葉1瓶鏡餅1重差上げます	切紙紙(2枚継)
300	130 (C-145)	井堰溜池書上帳 御笠郡乙金村	明治14年8月	乙金村戸長代理 村用掛 船越源太郎(印)		御笠郡乙金村の溜池について水掛反別・所在地・敷 地反別など詳細にわたつての書き上げ	縦帳

No.	史料番号	表題	年月日	作成・発給	宛所	内容	形態
301	131 (C-146)	御笠郡乙金村庄屋組頭乍 恐御願申上口上之覚	寛政5年3月	乙金村庄屋 善四郎 同村組頭 新九郎 源内	天野弥市兵衛様 御役所	猪の出没多く耕作荒で難渋しています「四季明」を 去冬御願しておりましたが何の御沙汰も無いので内 記様の御耳に入れてください、という願いの上申書	切継紙(5枚継)
302	132-1 (C-147)	[備忘]	[明治] 卯4月			山方上納分の金銭と名前の書上	縦帳
303	132-2 (C-147)	[備忘]				金隈村・中村の分 ナタと名前の書上 4月払いに大 庄屋元へ出す	縦紙
304	132-3 (C-147)	[備忘]	[文政元年5月] の 朱書あり			板付村・東光寺村分 鎌と名前の書上 右は唐山に て、山の口孫次殿出す 2月月払いに納るとある	縦紙
305	132-4 (C-147)	御笠郡乙金村庄屋組頭御 願申上ル事	安政3年正月	乙金村組頭 正右衛門 忠作 同村庄屋 善一郎	那珂席田夜須御笠 御山方御役所	当村山の口与六・百姓次作材木所持せず難渋致し ております 左の通り御下り渡し下さい(杉4本 与 六)(松1本 次作)	縦紙
306	132-5 (C-147)	文化十三年乙金村庄屋善 藏日記之内抜書	[江戸]	[善藏]		10月27日、御山奉行の命により山の上にて悪木松5 本庄屋、山の口組頭へ御渡しの外に、3本善七郎殿 へ御渡し 外に雉ヶ尾・古野・御見分楠1本善藏へ御 渡し 上の楠は別に願ひ出る	縦紙
307	133-1 (C-148)	[照会]	明治24年11月20日	第一課(印)	大野村々長 高原善造殿	助役選挙に付許可何を差出して森山庄太が他 村の村長に選ばれていた事に関する件	縦紙
308	133-2 (C-148)	助役撰擧ニ付許可伺	明治24年11月19日	福岡県御笠郡大野村長 高原善造(印)	福岡県知事 安場保和殿	当村助役森山庄太、本郡水城村へ転籍に付辞職 後任者選挙の結果、森山桂二当選に付御許可願ひ たしとの伺い書	縦紙
309	133-3 (C-148)	御笠郡大野村助役當撰者 身元取調	明治24年11月19日	村長 高原善造(印)	福岡県知事 安場保和殿	森山桂二の身元取調書	縦紙
310	133-4 (C-148)	[通達]	明治24年11月28日	福岡県知事 安場保和(印)	御笠郡大野村役場	明治24年11月19日 助役選挙の件の認可書	縦紙
311	133-5 (C-148)	村長撰擧ニ付認可伺	明治24年11月	御笠郡水城村長当撰者 森山庄太 御笠郡水城村助役 児島卯平	福岡県知事 安場保和殿	名譽村長原田寿 辞職申立を許容し、村長当撰者森 山庄太を認可してほしいとの伺い書	縦紙



No.	史料番号	表題	年月日	作成・発給	宛所	内容	形態
312	133-6 (C-148)	御笠郡水城村々長当撰者 身元取調	年月日	御笠郡水城村助役	県知事宛	森山庄太 身元取調の下書きと思われる (鉛筆書き)	縦紙
313	134 (C-149)	[備忘]	[明治15年]			金銭出納帳か、「受之部」地方税新築費・商業税など 「拂之部」役場費・議員日当・村役夫給など「操替ノ 部」諸給費受払]戸長月給・役場諸費など銭高及人 名、目的など書上	縦帳
314	135-1 (C-150)	[備忘]	[明治]			上・中・下畑畝高・及此地代金書上	縦紙
315	135-2 (C-150)	[備忘]				畑及び田の畝高・代金の書上	縦紙
316	135-3 (C-150)	覚	□12月21日より丑12 月13日迄			「給米四俵」の内訳 1俵1斗6升3合は下作年貢、2 俵1斗6升7合を旧12月29日渡し	縦紙
317	135-4 (C-150)	御笠郡山田村入百姓仕居 料拝借御願帳	嘉永7年10月	山田村組頭 勘次 又四郎		卯平男子別家卯三郎外5名 家内人数・馬代・農具 代・家居取繕・拝借高書上	横帳
318	136-1 (C-151)	官民有區別御調査ニ付民 有地御下渡地所調帳	明治9年12月	第八大区御笠郡乙金村		字古野・字王城山の下げ渡地の書上げ 高原善郎・ 高原善造・関忍平他 反別・地価金・地租金等の書 上	縦帳
319	136-2 (C-151)	[備忘]				中村の林・株場・野地の反別・地価・地租の書上	縦帳
320	136-3 (C-151)	大野役場備地労台帳ヨリ 書抜ク	明治41年2月7日旧 正月6日			明治9年字王城山の官民有區別 明治11年の官有 地組替の反別・所有者の書上 鉛筆書き	縦帳
321	136-4 (C-151)	官民有區別御調査ニ付民 有地御下渡地所調帳	[明治]	御笠郡乙金村		字王城山官有地・字唐山の御下渡明細 住所・氏 名・年月・地名・地番・反別の書上 朱書きあり	縦帳
322	136-5 (C-151)	[備忘]				字王城山の山林の反別と氏名の書上	縦帳

No.	史料番号	表題	年月日	作成・発給	宛所	内容	形態
323	137 (C-152)	御願申上ル口上之覚	文政12年2月8日	肥後国芦北郡佐藤村 七藏 女房	筑前国乙金村庄屋 善作康 同村組頭衆中	肥後国芦北郡佐藤村七藏が女房と大社参詣の道中乙金村で病氣になり医師を招き手当をしたが相果てた 国元専妙寺の証文があったので幸府の西正寺に結縁した一件の上申書の綴り	切継紙(2枚綴)
324	138-1-1 (C-153)	犯罪書	明治6年7月	第十二大区十二小区 御笠郡乙金村		党民一揆に附和随行暴行犯罪等の犯罪書の雛形	こより で一括 縦紙
325	138-1-2 (C-153)	〔通達〕	〔明治〕 7月15日	林大蔵大乗		党民等過日県庁内に乱入 証券・印紙・界紙等紛失若し拾取の者有れば、届出る様触下さす	縦紙
326	138-2 (C-153)	先般一揆暴動之節野焼流 言ニ相恐連城戸先或ハ宅 前ニ於テ左之通飯食為致 候事	明治6年8月	保長 高原善造 関忍平 副戸長 高原善三郎		表題の事について、米・焼酒・氏名の書上げ	縦帳
327	139-1 (C-154)	〔通達〕	〔明治〕26年5月10日	役場学校発起者中(印)	高原善造様	来る14日午前12時より、当学校構内に於いて、村制以来の御勤労を謝し、慰労宴会を催しますので、ご出席下さい	縦紙
328	139-2 (C-154)	〔通達〕	明治6年9月	福岡県	第十二大区十二小区 御笠郡山田村 農 岩本卯七 外百廿人	其方共、党民に誘われ兇徒に附和随行して勢を助くる者を以て論じたことの罪、答30の贖罪、金2円25銭宛申付る 奥書あり	縦紙
329	139-3 (C-154)	〔通達〕	明治25年9月25日	第一課(印)	大野村長 高原善造殿	修献館維持費の件、甚だ差急ぐので、出格の御計画を以て直に御定納下されたし	縦紙
330	139-4 (C-154)	記				繰越預り分 古賀貞右衛門より受 高原氏へ渡し 未取立のもの等金高書上 一部ペン書	縦紙
331	139-5 (C-154)	〔回答〕	〔明治〕 1月22日	上大利区長 井上孫右衛門	大野村長 高原善造殿	巡查借宅料は牛額は7歩、両大利では3歩と相談整いましたので借宅料割方下さい 割方が出来ましたら御切符御送附下さい	縦紙
332	139-6 (C-154)	保証書	明治40年3月23日	保証人 渡邊善三郎 吉塚敦太郎	福岡区裁判所 太宰府出張所御中	土地売買のため筑紫郡大野村大字乙金伊藤権七を保証 物件書もついている	縦帳
333	140 (C-155)	田方用水井堰々所書上	明治14年8月	中村用掛 白壁惠三		用水井手について、所在地・規模・水掛田数等について書上 御笠郡中村	縦帳

No.	史料番号	表題	年月日	作成・発給	苑所	内容	形態
334	141 (C-157)	新村議員役員撰挙 会議ニ係ル費用	明治22年	関長次郎 岡部伊七 他	戸長高原善造殿 役場御中	表題の内訳の内訳の受取証15通の綴り 他に水瓶祈 禱費の受取証1通あり 合計金6円13銭2厘	縦帳
335	142-1 (C-158)	[願い書]	明治5年壬申9月	筑前国御笠郡山田村 農 香野孫七(印)		大縄田 反別2畝8歩 此地代金5両3歩 大縄畑 反別3畝10歩 此地代金12両1歩 の地券発行の願 い	縦紙
336	142-2 (C-158)	[田畑等書上]	[明治]			田・畑・屋敷等の反別、及び此地高・代金等の書き上 げ	縦紙
337	142-3 (C-158)	[断簡]	[江戸]			「上納未進金壹両貳歩 その他金四両」百姓恵七と 申す者那珂郡山田村より入込み、家居売払い一家断 絶 とあるが断簡のため詳細不明	横折
338	143 (C-159)	地券	明治10年8月10日	福岡県		福岡県発行の地券のようであるが、印刷された野紙で 裏打ちされていて判読不能である	縦紙
339	144-1 (C-160)	佐谷山杉代納方懸合	[江戸]4月27日納ル			拝借杉代上納延引分 左の通り支払い、宮用分その 他べて8貫988文及び幸府講花鬘分共に1両	切継紙(2枚継)
340	144-2 (C-160)	證據之事	寛政元年12月25日	仲村 兵次	中野三太夫 殿	「六銭参貫参百目 但利苞書に付き五分五厘充」右 は御屋敷様松山私受持上納分借上げ 来る戌3月切 元利共返済します 当村庄屋組頭の奥書あり	切継紙(2枚継)
341	144-3 (C-160)	[備忘]	[江戸]			乙金村分杉松元木322本の内訳書上 場所・本 数・太さ・目的など 付箋2枚あり	切紙
342	144-4 (C-160)	受取	[明治]	柴田(印)	舟越源太郎	1円50銭 毛利山・證文山地券願筆耕代として8月23 日確かに受け取りました	切紙
343	144-5 (C-160)	[褒状]	[江戸]12月		御笠郡乙金村 次平	若殿様御初入奉祝のため寸志として「銀4匁」献上に 対する褒状	切紙
344	144-6 (C-160)	[書簡]	明治12年第1月2日	山上廣次郎(印)	高原謙造様	ご所望の書籍送達しました 2篇は欠品していたので 初篇と3篇を送りました 数日内には取寄せ2篇をも送 ります	切継紙(2枚継)
345	144-7 (C-160)	坂田甚兵衛門松其村山二 而可相渡證據之事	文久元年12月3日	加藤平四郎(印)	乙金村庄屋山ノ口中	松2本 三段松飾竹幸木共	切紙

No.	史料番号	表題	年月日	作成・発給	宛所	内容	形態
346	144-8 (C-160)	[通達]	[明治]7月31日	才府出張聴訟課	乙金村暴行之者 舟越善市初外20人	明8月1日犯罪の者共押印取計いのため午前7時当 出張所へ出張下さい	切継紙(2枚継)
347	144-9 (C-160)	小学校准教員免許状写	明治30年6月22日	従三位勲三等男爵 福岡県知事 岩村高俊(印)	福岡県平民 高原虎太郎 明治12年5月生	修身外7科目検定し、福岡県管内に於て、明治30年 6月22日より明治35年6月21日迄5か年尋常小学校 本科准教員たる事を免許す	切紙
348	145-1 (C-162)	證文写 借用仕證文之事	嘉永3年戌12月	井相田村養育方 又三郎 受人同村 善次郎	武田文平様 小山田兵作様	「金三拾両」借用しました 来る亥五月限り、元利正金 を以てご返済致すべ念のため 筒井乙金両村庄屋善 一郎 乙金村大庄屋高原善七郎殿 奥書実印申受 け差出します	切継紙(2枚 継)
349	145-2 (C-162)	覚	[江戸]			金銭の書上	切継紙(2枚 継)
350	145-3 (C-162)	[書簡]	[江戸]7月朔日			武田口返答の件 先方より評儀を崩し今更元利指引 いいても承知致しかねます	切継紙(2枚 継)
351	145-4 (C-162)	[書簡]	[江戸]辰5月	井相田 又三郎(印)	組頭 庄右衛門殿 忠作殿	御相談しておりました「金式歩」、当冬まで借用致した くお願い申し上げます 証拠として金2分の借用証文 が付けられています。	切継紙(2枚 継)
352	145-5 (C-162)	[書簡]	[江戸]12月6日	大音伊織内 小山田兵作	善一郎様 和作様	先日よりご相談の〔人夫出方〕の件、金5両宛納方に するようことの沙汰がありました、3俵3両の納方に なるよう申し入れ証文など速に決済し、当冬納になる ようお取計らい下さい	切継紙(2枚 継)
353	145-6 (C-162)	[備忘]				金銭、米俵数、名前の書き上げ 所々に利と記してあ るので、貸金の控か	横折2枚
354	145-7 (C-162)	拝財道付分				田地質入分、名前と金額の書上	横折2枚
355	145-8 (C-162)	[書簡]	[江戸]4月18日	又三郎	善一郎様	先日御相談の借用の件 此節、御陰様にて講貰受に なりましたので片づきました 傳作様へもよろしくお伝 え下さい	切紙
356	145-9 (C-162)	[證文]	嘉永4年8月	山田村庄屋 太平 井相田村庄屋又右衛門 那珂村庄屋 又三郎	小山田茂作 様	前欠のため内容不詳 相違御座なく候、後日のため 証文の如しとある。	切紙

No.	史料番号	表題	年月日	作成・発給	宛所	内容	形態
357	146-1 (C-163)	〔書簡〕	〔江戸〕5月25日	武田文平 花押	乙金村大庄屋 高原善七郎様	年賦極めの書付一件 当月までの元利は左の通り 一、正金79両5合9勺8才 辰五月迄元利高一、米 73俵5步2厘 右同断 詳しい目録は近日中に送るの で早々片付くようご判断下さい	切継紙(4枚 継)
358	146-2 (C-163)	〔書簡〕	〔江戸〕4月29日			金子受取の件 利助方証文の件 古屋敷永代証文の件	切紙
359	146-3 (C-163)	〔書簡〕	〔江戸〕7月13日	井相田 善次郎	乙金 善一郎様	先日お話し上げておいた春吉の一件 奥書が出来 るまで講金を一時ご用立て下さる訳には参りせんか、	継紙(2枚継)
360	146-4 (C-163)	〔書簡〕	〔江戸〕12月15日			小山田口借入の件に付ご迷惑ながら奥書を願いま げます	切紙
361	146-5 (C-163)	覚	〔江戸〕			米高算用書上 裏面は善次郎手元 米高書上	横折
362	146-6 (C-163)	〔書簡〕	〔江戸〕10月18日	井相田庄屋 又右衛門	乙金庄屋 善一郎様	大菩薩御内借財の件で御相談がありますので、当方 へお出かけ下さい 小山田茂作殿も同席されます	切紙
363	146-7 (C-163)	〔書簡〕	〔江戸〕5月21日	井相田 又三郎	乙金 善一郎様	幸府での連中評議の際の会計報告	切継紙(2枚 継)
364	146-8 (C-163)	〔備忘〕				米高書上	横折
365	146-9 (C-163)	〔書簡〕	正月18日	井相田 善次郎	□金 □一郎様	先日ご相談の一件につき一両日中は無理とのこと 明後日には必ず差し上げます	切紙
366	146-10 (C-163)	〔書簡〕	〔江戸〕10月12日	井相田 善次郎	乙金 善一郎様	先日お約束の小山田口の件、新穀が出来ましたので 早速差し上げます 善七郎様へもご伝声下さい	切紙
367	146-11 (C-163)	〔書簡〕	〔江戸〕10月12日			追伸 米2俵明日下白井へお渡し下さい	切継紙(2枚 継)

No.	史料番号	表題	年月日	作成・発給	宛所	内容	形態
368	146-12 (C-163)	[書簡]	{江戸}5月27日	中田傳作・善一郎	米田久助様	御手元お預り金の内12両、当月25日限りのお約束でしたが、御屋敷の払い差し支え、借入で急場を渡いでおります。日限は間違いなきよう願います	切紙
369	146-13 (C-163)	[書簡]	{江戸}12月24日	山本兵右衛門	山田村庄屋 太平殿	巻作を井相田村又三郎へ作らせていた分、いろいろ不審な点があり信用できないので、よく調査して委細を知らせて欲しい	切紙(2枚 継)
370	147 (C-164)	[拝借願]	嘉永2年10月	上大利村組頭 弥八(印) 卯右衛門(印) 同村庄屋 太平(印)	那珂席田夜須御笠 御郡代御役所	前欠のため不明部分が多いが、村の困窮の状況を色々申し述べた上での拝借願 米174俵1斗1升3合・麦1俵・金86両1歩3朱・丁銭57文」とその内訳	切紙(10枚位)
371	148 (C-165)	148 (C-166)	明治20年寫之			寛文2年(1662)～享和2(1802)までの正栄寺の過去帳の写し 高原氏に係る分は別紙に抜き書きしてある。	縦帳
372	149-0 (C-166)	参号家作材木薪下ヶ渡願 家作願 九 薪願 八	{明治}	[高原家]		149-1～149-17の表紙	縦帳
373	149-1 (C-166)	御笠郡乙金村百姓和作御願申上ル事(写)	天保6年11月	乙金村百姓 和作	那珂席田夜須御笠御 山方御役所	天保6年11月、乙金村百姓和作より那珂席田夜須御笠御山方御役所宛の松1本譲渡願い一件写し	横折
374	149-2 (C-166)	御笠郡乙金村百姓孫四郎 与六作恐御願申上ル事 (写)	弘化2年9月	乙金村百姓 孫四郎 與六	那珂席田夜須御笠御 山方御役所	弘化2年9月、乙金村百姓孫四郎・与六より、那珂席田夜須御笠御山方御役所宛 家作材木用などの松5本譲渡願い一件写し	縦帳
375	149-3 (C-166)	前紙幾枚散逸シタルモノ ナリ右ハ家作足材木奉願 上候(写)	嘉永2年2月	乙金村山之口 善右衛門 和作	那珂席田夜須御笠御 山方御役所	嘉永2年2月、乙金村山之口善右衛門・百姓弥六・孫四郎・弥三郎より那珂席田夜須御笠御山方御役所宛の間内取繕用松1本譲渡願い一件写し	縦帳
376	149-4 (C-166)	御笠郡乙金村庄屋組頭御願申上ル事(写)	安政3年3月	乙金村組頭 正右衛門 忠 作	那珂席田夜須御笠御 山方御役所	安政3年正月、乙金村組頭正右衛門・忠作、同村庄屋善一郎より那珂席田夜須御笠御山方御役所宛の湯殿柱木戸板用杉4本と松1本の譲渡願い一件写し	縦帳
377	149-5 (C-166)	御笠郡乙金村百姓権次家 作足材木御願申上ル事	天保8年11月	乙金村百姓 権次	那珂席田夜須御笠御 山方御役所	天保8年11月、乙金村百姓権次より那珂席田夜須御笠御山方御役所宛の家作足材木杉4本・松13本の譲渡願い一件写し	縦帳

No.	史料番号	表題	年月日	作成・発給	苑所	内容	形態
378	149-6 (C-166)	[乙金村分 上] 材木木数書	[江戸]	[高原家]		乙金村家作材木分除、元木322本の詳細書上	縦帳
379	149-7 (C-166)	御笠郡乙金村庄屋忍平御願上上ル事(写)	天保8年10月	乙金村庄屋 忍平	那珂席田夜須御笠御山方御役所	天保8年10月、乙金村庄屋忍平より那珂席田夜須御笠御山方御役所宛の取繕用松1本譲渡願い、一件写し	縦帳
380	149-8 (C-166)	文政元年 御山立木御下渡控之内書抜(写)	文政元年	[高原家]		立木御下渡詳細書上一件写し	縦帳
381	149-9 (C-166)	御笠郡乙金村百姓孫次郎乍恐御願上上ル事(写)	嘉永2年9月	孫次郎	那珂席田夜須御笠御山方御役所	嘉永2年9月、乙金村百姓孫次郎より那珂席田夜須御笠御山方御役所宛の戸前損繕用杉1本譲渡一件写し	縦帳
382	149-10 (C-166)	御笠郡乙金村庄屋組頭山之口御願上上ル事(写)	天保6年10月	乙金村庄屋 忍平	那珂席田夜須御笠御山方御役所	天保6年10月、乙金村庄屋忍平、同村組頭源六・作次、同村山ノ口次七・源次より那珂席田夜須御笠御山方御役所宛の薪110把譲渡願い、一件写し	縦帳
383	149-11 (C-166)	御笠郡乙金村庄屋組頭山之口御願上上ル事(写)	天保8年10月	乙金村庄屋 忍平	那珂席田夜須御笠御山方御役所	天保8年10月、乙金村庄屋忍平、同村組頭源六・作次、同村山ノ口次七・源次より那珂席田夜須御笠御山方御役所宛の薪105把譲渡願い、一件写し	縦帳
384	149-12 (C-166)	御笠郡乙金村庄屋組頭山之口御願上上ル事(写)	天保9年10月	乙金村庄屋 忍平	那珂席田夜須御笠御山方御役所	天保9年10月、乙金村忍平、同村組頭源六・作次、同村山ノ口次七・源次より那珂席田夜須御笠御山方御役所宛の薪105把譲渡願い、一件写し	縦帳
385	149-13 (C-166)	御笠郡乙金村庄屋組頭山之口御願上上ル事(写)	天保11年10月	乙金村庄屋 忍平	那珂席田夜須御笠御山方御役所	天保11年10月、乙金村庄屋忍平、同村組頭源六・作次、山ノ口次七・源次より那珂席田夜須御笠御山方御役所宛の薪105把譲渡願い、一件写し	縦帳
386	149-14 (C-166)	御笠郡乙金村庄屋組頭山之口御願上上ル事(写)	弘化2年9月	乙金村庄屋 善一郎	那珂席田夜須御笠御山方御役所	弘化2年9月、乙金村庄屋善一郎、同村組頭源六・正右衛門、同村山ノ口源次・善右衛門より那珂席田夜須御笠御山方御役所宛の薪60把譲渡願い、一件写し	縦帳
387	149-15 (C-166)	御笠郡乙金村庄屋組頭山之口御願上上ル事(写)	嘉永2年9月	乙金村庄屋 善一郎	那珂席田夜須御笠御山方御役所	嘉永2年9月、乙金村山ノ口源作、同善右衛門、組頭 正右衛門・源六、同村庄屋善一郎より那珂席田夜須御笠御山方御役所宛の薪85把譲渡願い、一件写し	縦帳



No.	史料番号	表題	年月日	作成・発給	宛所	内容	形態
388	149-16 (C-166)	御笠郡乙金村庄屋組頭山之口御願申上ル事	安政3年正月	乙金村庄屋 善一郎	那珂席田夜須御笠御山方御役所	安政3年正月、乙金村山之口与六・源六、組頭正右衛門・忠作、同村庄屋善一郎より那珂席田夜須御笠御山方御役所宛薪 <sup>ノ</sup> 60把譲渡願い、一件写し	縦帳
389	149-17 (C-166)	御笠郡乙金村庄屋組頭山之口乍恐薪御願申上ル事	文化元年11月	[高原家]	平井元右衛門様御役所	文化元年11月、組頭中・山ノ口中より平井元右衛門様 御役所宛薪 <sup>ノ</sup> 150貫譲渡願い、一件写し	縦帳
390	150-1 (C-168)	[通達]	明治25年12月16日	第一課(印)	大野村長 高原善造殿	修献館学会開改に伴う紙材費の件、明日是非とも皆済されるよう、完納出来ないときはまとまり居る金だけでも持参のうえ明日午前11時出頭下さい	縦紙
391	150-2 (C-168)	[通達]	明治25年11月15日	第一課長郡書記 藤井重利(印)	大野村長 高原善造殿	修献館の紙材費の件是非とも完納されたしとの督促状	縦紙
392	150-3 (C-168)	[書簡]	[明治]3月12日	貝原友三郎拜(印)	高原善造殿	学校寄附金と乙金校小使に関する件	縦紙
393	150-4 (C-168)	[備忘]				孝子・貞婦・義僕・慈善家・家業抜群奨励者・納税抜群奨励者・教育抜群奨励者	縦紙
394	150-5 (C-168)	[通達]	明治25年10月25日	第一課(印)	御笠郡大野村役場 御中	神官・住職・名簿、御差出の分について、左記の通り、明細帳と不突合に付お調べ下さい、筒井九郎神社、神官・名簿に村社とあるも県庁明細帳には無格社とありこの件についてもお調べ下さい。	縦紙
395	150-6 (C-168)	[通達]	明治25年11月25日	第一課	大野村役場御中	10月25日付の神官・住職・明細帳不突合の件について今だに回答がなく整理上差支えております 至急御回答下さい	縦紙
396	150-7 (C-168)	[通達]	明治25年11月22日	第一課(印)	大野村 村長 高原善造殿	貴村役場庶務規程認可の件につき、訣規程中「町村」とある「町字」は誤りとみなします 御承知置き下さい	縦紙

No.	史料番号	表題	年月日	作成・発給	苑所	内容	形態
397	150-8 (C-168)	[通達]	明治25年10月3日	第一課(印)	元大日本私立衛生会 員 高原善造殿	貴所御入会の会費金が未納に付折返し当課へご送金下さい	縦紙
398	150-9 (C-168)	[通達]	(明治)25年3月7日	第一課(印)	大野村役場御中	演習準備費納付金に関する督促状	縦紙
399	150-10 (C-168)	[通達]	(明治)25年1月20日	第一課(印)	大野村役場御中	演習準備費納付金に関する督促状	縦紙
400	151 (C-170)	樹苗植立之件(写)	[明治]	[高原家]		樹苗植立を後年調べ纏めたものの写し 寸志植のもの2件 弘化2年仲島村庄屋善一郎の杉苗10,000本 天保14年乙金村庄屋忍平の松苗3,000本の記録	縦帳
401	152 (C-171)	[墓碑書上げ]	[大正期]			墓碑の大きさ・俗名・歿年等の書上の一部	縦紙4枚
402	153 (C-172)	御笠郡中村庄屋組頭乍恐 御願申上ル口上之覚	文化9年4月	中村庄屋 惠内(印) 同村組頭 源助(印) 茂平(印) 卯八(印)	村上又左衛門様 御役所	当村抱唐山堤の水取石井手は堤の下にあつたものを、一昨年奉乙金村よりその石井手上に2か所水取の為、新線井樋を掛けしたので難渋しています 新井樋は早々取除くよう指示して下さい	切紙(3枚継)
403	154-1-1 (C-173)	御笠郡中村百生又次與七 仕上口之事	文化7年午3月	中村 又次 同 與七	乙金村庄屋 善四郎殿 同村山ノ口孫次殿	乙金村御建山の松枝を伐取ったことについての謝り状 破損激しく不明の部分多い	切紙
404	154-1-2 (C-173)	仕上ル書物之事	文化7年3月	中村 口口、同村 口口	乙金村御山ノ口 孫治様	私共御立山之内にて松枝伐おろし候処、恐入奉り候破損のため詳細不明	こよりで一括 縦紙
405	154-2 (C-173)	御笠郡乙金村組頭山ノ口 乍恐薪口御願申上ル事	文化元年11月	組頭中 山ノ口中	平井元右衛門様 御役所	「薪百ヶ 組頭」「同五拾ヶ 山ノ口中」 御渡方願い代金は請求あり次第納付します	切紙
406	155-1 (C-174)	高原善一郎美正寄附田畑 事蹟	天保12年丑12月朔日	願主 高原忍平		高原善一郎美正寄附田畑事蹟を、旧反別と地租改正反別の2通りに書かれています。	縦紙
407	155-2 (C-174)	[神田御備]	天保12年丑12月朔日	願主 高原忍平		天保12年中の寄附の書上 草場の下々島 2畝14歩 5厘は神田に 米1俵は貧窮の者へ 画馬1つの寄附願い	こより 切紙(2枚継)

No.	史料番号	表題	年月日	作成・発給	宛所	内容	形態
408	155-3 (C-174)	高原善一郎より氏神江寄 附田畑	明治10年丑1月14日			寄附田畑の書上 明治10年1月14日調べ	で 縦紙
409	155-4 (C-174)	[備忘]				明治元年～8年の草場・山目の石高書上 氏神への 寄附かと思われる	一 横折
410	155-5 (C-174)	[備忘]	[明治]10年1月16日			寄附田畑2筆 善造より小作付け方 請持余米は善 一郎へ預け置く事	括 切紙
411	156-1 (C-175)	覚	記載なし	善造		米と粟の数量と名前の書上	横帳
412	156-2 (C-175)	在院病者概記	[明治]11月27日	大字白木原 原久吉	大字乙金 高原善造殿	小倉北方療病院38病室 高原五郎他5名の入院病 者名の記載あり 役場にて取調べたが確乎たること分 からず、病者より書類取集め明瞭なものだけ報告	縦帳
413	157 (C-176)	御笠郡山田村入百性仕居 料拝借御願帳	嘉永7年10月	山田村組頭 勘次(印) 又四郎(印) 定吉(印) 助役乙金村庄屋 善一郎(印) 山田村庄屋 □□□		卯三郎外5名の者が馬代・農具代・家居取続などの 理由で合計金34両の拝借を願ったもの 他に半 繩・藁・松木については決済している	横帳
414	158-1 (C-177)	[書簡]	3月23日	内藤豊吉	高原善蔵様 座下	11日旅行より帰宅の報告 御令聞様病気のお見舞 旅行の記念写真進呈など	切紙
415	158-2 (C-177)	筑前福岡県筑紫郡大野村 字乙金 高原善蔵殿 親展 写真在中 宮崎県日向國北諸縣郡庄 内村拾七番 内藤豊吉	3月23日	内藤豊吉	高原善蔵殿	158-1の手紙の入っていた封筒	封筒
416	159-1 (C-178)	御笠郡乙金村ヨリ仕上ル 指出ノ事	天保12年閏正月20日	乙金村庄屋 忍平 山ノ口 次七 源次	御山方御役所	当月中の留録の件について	縦紙
417	159-2 (C-178)	[書簡]	3月20日			粗酒1樽ご仏前へ御供下さい 送籍証の件、別紙案 差出しますのでご検討下さい	切紙
418	160 (C-179)	[通達]	[明治]6月4日写			茶の木掘立に関する作業の簡条書き 作業人の飯 米・道具類の事・案内の事その他	切紙(3枚綴)
419	161 (C-180)	記	明治6年7月	第十二大区十二小区乙金村 居住 志間廣(印)		一揆に付、6月20日より御笠郡雑掌へ出張 同月 24日より黒田一雄氏付添にて夜須郡甘木迄罷越 同 25日帰宿	縦紙

No.	史料番号	表題	年月日	作成・発給	宛所	内容	形態
420	162 (C-181)	□□處御建山善四郎殿受 分下請上納錢之覚	寛政6年2月	仲村 兵次	中野三太夫様	「六十文銭 六貫六百目」の内訳書上 破損部分多く 詳細不明	切継紙(2枚継)
421	163 (C-182)	御借用申上ル錢證文之事	文化9歳申12月	借主宰府 綿屋久助(印) 式司(印) 受人 山孫太夫(印) 同	乙金村庄屋 善四郎様 炭焼村 幸吉殿	「六拾文銭五百目 但利式割」確かに受け取りました 来る10月29日限り元利金返済 延寿王院家中衆の奥 書は来春に 本日は仮証差出し置きます	切継紙(2枚継)
422	164-1 (C-183)	御笠郡武蔵村大庄屋大兵 衛申上候口上之覚		[武蔵村大庄屋太兵衛]		「私伴乙金村庄屋忠平先祖より頂戴仰付置かれ候古 野の浦御證文山三千坪の内」以下後欠のため詳細 不明	切紙
423	164-2 (C-183)	覚				何かの書上のようなようであるが破損大にして判読不能	切紙
424	164-3 (C-183)	覚				撰木100本 御極印高とその内訳の書上	切継紙(2枚継)
425	164-4 (C-183)	[断片]				「不足分は亀屋藤兵衛方兼て櫛など出し居申」などと あるが前欠・後欠のため内容不詳	切継紙(2枚継)
426	164-5 (C-183)	[備忘]				前欠のため不詳 木に関する書上のようなようである	切紙
427	164-6 (C-183)	[書簡の断片]				「御紙面拝見奉り候」挨拶のみで後欠のため内容不 詳	切紙
428	165 (C-184)	御笠郡上大利村庄屋組頭 乍恐御願申上ル事		上大利村 組頭□作		日ノ浦堤仕掛溝石組の一件についての前半	切継紙(2枚継)
429	166-1 (C-185)	[封筒]	[明治前期]	高原謙二郎	高原善造殿	封筒のみ 発給は「福岡縣御笠郡大野村役場」を消 してある	封筒
430	166-2 (C-185)	[封筒]		川波荒次郎	大野村役場ニ於テ 村長 高原善造殿	封筒のみ 「親展」とあり	封筒
431	166-3 (C-185)	[書簡]	[明治] 4月5日	古賀 与八 他5名	高原善造殿	兼ねて御相談の件に付高原謙二郎氏、昨夕御承諾 致されました 委細は拝眉の上	切紙
432	166-4 (C-185)	[書簡]	8月14日	謙二郎	善造様	土木取調帳の件についての問合わせ 尚々書に東 行会の件あり	堅紙

No.	史料番号	表題	年月日	作成・発給	宛所	内容	形態
433	167-1 (C-186)	家作材木下渡薪木下渡願				家作材木下げ渡し 薪下げ渡し願集の表紙か 家作9通薪8通とある	堅紙
434	167-2 (C-186)	御笠郡乙金村百姓和作御願申上ル事	天保6年11月	乙金村百姓 和作	那珂・席田・夜須・御笠 御山方御役所	「松巻本 長三間 四尺廻り」右の通り松材木お下げ渡し願います 代金は請求書の通りに支払います	堅紙
435	167-3 (C-186)	〔備忘〕				「銭巻貫八百七拾九匁八分七厘 右之分不足に付三太夫様より催促仰せ付らるる由」(後欠)	切紙
436	167-4 (C-186)	借用證文之事	戌12月28日	仲村 兵次(印)	和作様	「金巻両 借に借用仕候」右金入用次第返済します 不納の節は、田地書き入れ庄屋受合証文差し出します	切紙(2枚継)
437	167-5 (C-186)	〔書簡〕				書簡の一部分と思われるが、前欠後欠のため詳細不明 日延のお断りの件かと思われる	切紙
438	168-1 (C-187)	〔短歌〕				和歌1首「日のもとと太学ひの業をへて いゑの風をも吹ひらむらむ」裏にも1首あり	その他(短冊)
439	168-2 (C-187)	〔短冊〕				今様風のものが短冊に書いてある	その他(短冊)
440	168-3 (C-187)	〔和歌〕		徳太郎		高原善造、奥の新庭を見て和歌1首「木々みどり流れはやまに右ひいて池にみなぎる水ぞ清けき」	その他(短冊)
441	169 (C-188)	〔上申〕				「番付致置除々木相見不申」の一件についての上申書か、前欠・後欠のため詳細不明	切紙(2枚継)
442	170-1 (C-189)	〔書簡〕				仲村兵次殿方へ和作よりの貸付金 別紙証文2通の件について、御地頭内記様、当村御立山田地障りの松木御売り払いの分と相殺してなお元銭の内より少し御引下さい とのお願い文書	切紙
443	170-2 (C-189)	唐山仕組小拂之覚				名前と金額の書上	切紙(2枚継)
444	170-3 (C-189)	御笠郡乙金村庄屋組頭乍恐御願申上ル事	文政4年6月	乙金村庄屋 善蔵 同村組頭 藤七・善七	那珂・席田・夜須・御笠 御免方御役所	当村抱の内せんちだ・原口の堤土手笠上の費地と同じく 当村抱の池の下、筒井村平の隈・堤・仕掛溝の費地について、別紙願書のとおりにお願いいたします	切紙(2枚継)
445	170-4 (C-189)	〔書簡〕				証文並びに上納銭不足等に付き、仲村兵次より三太夫様へ証文日延べの願い	切紙(2枚継)

No.	史料番号	表題	年月日	作成・発給	苑所	内容	形態
446	170-5 (C-189)	発端				先年御赦山平次殿へ売り渡し代金不足の件	切紙
447	171 (C-190)	明治二十九年度分 貸付米ノ部	[明治29年度]			明治29年度分 貸付米の部 貸付年度・米員・附記・ 人名等の書き上げ	縦紙
448	172-1 (C-191)	[断簡]				「御笠郡 乙金村庄屋」の文字あり	切紙
449	172-2 (C-191)	[断簡]				「番付有之分伐取又は寄木ニ相成無余儀伐取候趣」 等の文言が書かれている	切紙(2枚継)
450	172-3 (C-191)	[断簡]				「如何之次第二而右体伐取候哉与重置詮儀仕候処 雇入候山伐之者不勤弁ニ而伐替仕」等の文言が書 かれている	切紙
451	173 (C-192)	御笠郡筑紫村庄屋太兵衛 筒井村庄屋役之節 難渋 百姓御上納未進□□分替 切□上帳	弘化3年2月	筑紫村庄屋 太兵衛(印)	那珂席田夜須御笠 御郡代御役所	俵高・人名27名の書上 天保9戌冬 筒井村上納未進取替元米 べ195俵6升 5合 天保5年冬 上大利村利平上納未取替元米 6 俵	横帳
452	174-1 (C-193)	十八年度部内費支出計算 簿				「金貳百五拾九円三拾八銭 決議高」の内訳 書籍 器械費・活版費・営繕費・役場借宅料・消毒薬費など 20項目の金高書上 末尾に「残金8円13銭6厘 萩尾 四郎」の受取がある	縦紙 こよりで一括
453	174-2 (C-193)	十八年度部内費支拂残及 超過差引目録				「支払残の部」筆耕料・書籍器械費・郵便税など10項 目「仕拂超過の部」活版費・役場仕夫給・種痘費・営 繕費の金高書上	縦紙
454	175-0 (C-194)	四号 非常之節伐木跡届 凶年備ニ付立木御下渡松 虫付仕組拂願外三通伐除 ケ願				175-1 ~ 175-7までを綴じた縦帳の表紙	表紙
455	175-1 (C-194)	御笠郡乙金村より御注進 申上ル事	嘉永3年5月3日	乙金村山之口 孫次 善右衛門 同村庄屋 善一郎	那珂席田夜須御笠 御山方御役所	当月朔日2日の洪水にて破損所急場仕留のため松 杭木230本伐取の届	縦紙
456	175-2 (C-194)	御笠郡乙金村庄屋組頭山 之口御願申上ル事	安政3年8月	乙金村山ノ口 源六 興六 組頭 忠作 正右衛門 同村庄屋 善一郎	御山方御役所	当村抱唐山に松喰虫がついたのたのでお仕組払い渡方 のお願い	縦紙

No.	史料番号	表題	年月日	作成・発給	宛所	内容	形態	
457	175-3 (C-194)	御笠郡乙金村庄屋善四郎 任上ル書物	年号月日	乙金村庄口 善口口	平井元右衛門様 御役所	「上ノ山 伐除壱ヶ所 代丁銭巻貳百文」右の山所 杉植立所に願上げ 来酉植立の節は、植實私が弁じ 早速植立致します	よ り で 一 括	堅紙
458	175-4 (C-194)	御笠郡乙金村庄屋組頭山 之口頭取百性 御請申上 ル書物之事	文化10年酉12月	乙金村庄屋 善四郎 同村組頭 藤七・善七 同村山之口 孫次・源五 頭取百性 利作・伊作・弥七	友納嘉市様御役所	当村唐山西半分御仕組払い御渡の件 上納銭は只 今2貫目納め山所半分通り伐って皆納する様命じら れる		切紙
459	175-5 (C-194)	御笠郡乙金村庄屋組頭乍 恐御願申上ル 口上之覚	文化10年7月	乙金村庄屋 善四郎 同村組頭 藤七 善七	友納嘉市様御役所	当村唐山「古木通御仕組拂」を命じられては、落葉・ 枯枝を田畠の肥に替える事が出来ず村中難渋します 「古木通御仕組拂」は私共代金上納を以てお渡し下 さるようお願いいたします		切紙
460	175-6 (C-194)	御笠郡乙金村庄屋善四郎 乍恐御願申上ル 口上之 覚	寛政10年5月	乙金村庄屋 善四郎	天野弥一左衛門様 御役所	去冬の火災で居家焼失「当村御立山にて御仕組拂 悪木松四百本御渡し下さる様」のお願い		切紙
461	175-7 (C-194)	御笠郡乙金村庄屋組頭山 之口御願申上候事		乙金村山ノ口 源五 孫次 同村組頭 源内 新九郎 庄屋 善四郎	平井元右衛門様	当村抱唐山の内、お見分の上御仕組払いを以て私 共へ御渡し下さいとの願、代金は通知書が到着 次第支払います		切紙
462	176 (C-195)	享保貳酉十月廿八日 居 屋敷数書上ヶ帳 名元	[江戸]			享保2酉10月28日居屋敷数書上ヶ帳名元 享保10年 10月元文4年3月四壁敷書上帳名元 享保18年丑10 月立立名寄帳名元 寛保3年2月屋敷名寄帳名元	横帳	
463	177-1 (C-196)	乙金村山仕入銭拂不足覚	天明5年11月	仲村兵次 (印)	乙金村庄屋 和作殿	「乙金村山仕入銭拂不足金 六拾文銭で貳百七拾 七匁五分」の証文		切紙
464	177-2 (C-196)	借用證文之事	[江戸] 戌12月28日	仲村兵次 (花押)	和作様	「一、金巻両槌ニ借用仕候」右金御入用次第返納し ます 不納の節は田地の庄屋受合証文入れ置ますの で返納次第証文お返し下さい という借用証		切紙
465	178-1 (C-197)	御笠郡乙金村清吉孫四郎 半助組合百姓中御詮儀二 付乍恐申上ル口上之覚				当村庄屋忍平殿御證文山古野ノ浦の御除木の内数 本を伐取った事に関する件	切紙(3枚継)	
466	178-2 (C-197)	御笠郡乙金村庄屋 忍平 乍恐申上ル口上之覚		[乙金村庄屋忍平]		先祖が頂戴した御證文山3,000坪の内東手2步通り 文政5年村方貧民備に根払い御願申上げ残り8步通 りの松立て仕組により根払い御願申上た一件につい て 後欠	切紙(2枚継)	



No.	史料番号	表題	年月日	作成・発給	宛所	内容	形態
467	178-3 (C-197)	御笠郡乙金村百姓清吉孫 四郎半助御詮儀二付乍恐 申上ル口上之覚				庄屋忍平殿御詮文山御仕組み払いの件（後欠のため詳細不明）	切紙
468	178-4 (C-197)	[断簡]				「廿本程極印相残り候木御詮儀」の件(前欠・後欠のため詳細は不明)	切紙
469	178-5 (C-197)	御笠郡乙金村清吉孫四郎 半助御詮儀二付乍恐申上 ル口上之覚				「庄屋忍平殿御詮文山御拂」の件(後欠のため詳細不明)	切紙(2枚継)
470	178-6 (C-197)	[断簡]				「翌亥三月右百本御極印」の文言あり 前半抹消(前欠・後欠のため詳細は不明)	切紙
471	179-1 (C断簡)	[断簡]	亥2月			乙金村 米22俵2斗2升5合(1497人分)の内訳の書上	切紙
472	179-2 (C断簡)	[封簡]	安政5年午之6月5日			[ ]村非常備書類 [ ]の内安政5年午の6月5日に入れる	包紙
473	179-3 (C断簡)	[断簡]				「三角印 此金子御山代の外雑用の分兵次殿より指出され候様申し談 納得の上受取夫々入目 相仕廻候」とある	切紙
474	179-4 (C断簡)	[断簡]				「一、金子八歩 代式百目」跡山の件で三太夫様より私へ渡された書付を見せられました、そのような約束で金子は受取っていません 御山代の外諸入り目 彼是は兵次殿より受取りました(断簡のため詳細不詳)	切紙
475	179-5 (C断簡)	[断簡]				「い印 一、銭百八拾目 たふす木取の由にて樋口 弥右衛門様」後欠	切紙
476	179-6 (C断簡)	[断簡]				前欠「之内式本は其儘相残居申 振替不申分四拾七本 番付之内壹本」後欠	切紙

No.	史料番号	表題	年月日	作成・発給	宛所	内容	形態
477	179-7 (C断簡)	〔断簡〕				(継紙の継目から剥離した紙片)「詮儀仕候処決而指 図仕候儀ニ而無御座候」「粮米も兵次殿より直に付遺 候由」	切紙
478	179-8 (C断簡)	送籍証	明治12年3月	御笠郡乙金村戸長 高原善造	那珂郡今泉村戸長 安永六郎殿	高原善藏妹 安政2年卯9月26日生 高原さん 縁組 のため那珂郡今泉村42番地へ送籍	堅紙
479	179-9 (C断簡)	〔連歌〕				「持ち出して見る花歴」に始る連歌が書かれている	堅紙
480	179-10 (C断簡)	伊三郎 嶋廻り田 文入 米三俵半	天保7年申12月			「伊三郎 嶋廻り田 質入證文入 米三俵半」を線で 消し、不用と書いている	切紙
481	179-11 (C断簡)	〔断簡〕				前欠・後欠 地の部分欠損につき内容不詳 「其子成 人いたし老の杖程」等の文言が見える	切紙
482	179-12 (C断簡)	預り証	大正11年12月6日	染原敬大(印)	銀座御中	「一、金40円也」の預り証 ペン書き	切紙
483	179-13 (C断簡)	嘉永四年八月 夫粮米割渡	明治15年7月10日 旧5月21日	善造		裏面に「藩政中面備出役ノ艱難ヲ忘ザル為ニ永ク保 存スベシ」と朱書されている	包紙
484	179-14 (C断簡)	〔書簡〕		仲村普平	乙金村庄屋 善四郎様	「此間より段々御掛合申上候兵次方銭の儀委細は 御紙面に仰付候得とも真公様より延引仕らざる様 相 拂成られ下さる様」以下後欠	切紙
485	179-15 (C断簡)	〔はがき〕		出征後備歩兵第十四聯隊第 八中隊 武骨者	大日本福岡県筑紫郡 大野村大字乙金 高原阿左子様	戦地より高原阿左子様に送られたはがき 和歌が書 かれている	はがき
486	179-16 (C断簡)	〔会員名簿〕				会員名簿の一部分 活字	切紙2片
487	179-17 (C断簡)	フランス式洋食 家庭食堂				新しい試み 料理はフランス式洋食で一品料理・ラン チ・定食など多少に拘らず遠近に拘らず出前致しま す タイプ活字	切紙
488	179-18 (C断簡)	〔封筒〕				裏紙を使った封筒 表側に文字なし	封筒

No.	史料番号	表題	年月日	作成・発給	宛所	内容	形態
489	179-19 (C断簡)	[短歌]				金子善造他作の和歌十六首 ペン書	切紙
490	179-20 (C断簡)	[短歌]		晴子	[高原君]	高原君の御子息のみまかり給ひしを□待り□「夢ならば[ ]は[ ]利なげくらんつ多とものむ人乃みあとを」の和歌あり	短冊
491	179-21 (C断簡)	[断片]				右鳥屋敷上三畝四歩 藪志坪小竹	切紙
492	179-22 (C断簡)	[付箋四点]				1. はりめ 2. (朱書)国風社 3. □一郎は左証の通り乙金村の現住人なり 4. (断片)不読	断片
493	179-23 (C断簡)	[断片]				文字の記載なし断片3点	切紙
494	180-1 (B-1)	[詩経]	安政4丁10有2月	御笠郡乙金村 高原久米吉		詩経上巻「詩 中二疑字有テ今此ニ見ス」として難解難読の字を集め、ふりがなをつけたもの「周南」など「一之」から「一之十三」まである 表紙には上下とあるが最後に詩経上巻とある	小横帳
495	180-2 (B-1)	[詩経]	萬延元年庚申冬10月 ヨリ	高原善藏		詩経の中で難読の字を集め、ふりがなをつけたもの「国風・召南」など14項目、「大雅」5項目中の熟語など途中所々に日付入り 末尾に慶応元年11月5日より関市太郎に詩経教ルと書いている	小横帳
496	180-3 (B-1)	[初学知要]				熟語や漢文の読み方を書いたもの 中巻下巻とあるが上巻はない	小横帳
497	180-4 (B-1)	[近思録]				文字・熟語の読み方を書き集めたもの 「道体・為学・致知」など13項目程ある	小横帳
498	180-5 (B-1)	[近思録]	安政6巳未5月	高原久米吉十四歳之調		文字・熟語の読み方を書き集めたもの 「道体・為学・致知」など12項目あり	小横帳
499	181-1 (B-2)	[断簡]	明治30年			「家賃償却 山林備より家計え操込控」の文字あり	切紙
500	181-2-1 (B-2)	當分保存スヘキ書類				181-2 の(1～22)までを綴じた表紙	縦紙

No.	史料番号	表題	年月日	作成・発給	宛所	内容	形態
501	181-2-2 (B-2)	[依頼状]	明治22年1月26日	福岡県三池監獄副典獄心得 河原正治(印)	筑紫国御笠郡筒井村 戸長役場御中		縦紙
502	181-2-3 (B-2)	[通知及照会]	明治21年12月17日	福岡県三池監獄副典獄心得 河原正治(印)	筑紫国御笠郡筒井村 戸長役場御中	古賀初太郎の領置金を郵便振替で送るので御下渡の上は相当印紙を貼用した本人の受領証を送って下さいとの依頼書	縦紙
503	181-2-4 (B-2)	[通知]	明治22年1月23日	福岡県御笠郡筒井村戸長役 場	福岡県三池監獄副典 獄心得 河原正治殿	古賀初太郎への領置金の件 金員は本人へ回送する筈のところ帰村致さず、戸主へ渡し置くので戸主から本人へ渡すように致したくとの通知と同書	縦紙
504	181-2-5 (B-2)	受取証	明治22年2月22日	福岡県御笠郡筒井村841番 地 初太郎戸主 古賀才蔵	福岡県三池監獄副典 獄心得 河原正治殿	「一金 貳拾参円也 右ハ弟 古賀初太郎へ御付興/金員本人遁走ニ付代理トシテ受取申上候」という受領証	縦紙
505	181-2-6 (B-2)	[照会状]		藤井郡書記(印)	高原村長殿	元牛頸村山林売却代未納の件に関する回答書 金17円99銭 山林売却代の内訳・差引・渡過等 朱書で差引が「渡過」となっていることの説明	縦紙
506	181-2-7 (B-2)	[報告]	[明治24年]11月17日	小山田円之助	御笠郡大野村村長 高原善造殿	非地価修正運動上に付委員会開会決議事項の報告	はがき
507	181-2-8 (B-2)	[催促状]	24年7月1日	第一課(印)	大野村役場御中	演習準備費納付方についての催促状	縦紙
508	181-2-9 (B-2)	[催促状]	23年11月12日	第一科(印)	大野村役場御中	演習準備費納付方についての催促状	縦紙
509	181-2-10 (B-2)	[記]	[明治]22年2月18日			演習準備費の件について催促準備か、23年2月18日に決議 本年6月28日天第489号ヲ似テ照会	縦紙
510	181-2-11 (B-2)	窮身救助願	明治23年12月22日	福岡県御笠郡大野村大字白 木原67番地 松本兵蔵 近隣保証人 森山庄太 同 森山千代吉	福岡県知事 安場保和殿	「赤貧ニシテ聊ノ資産モ無之 妻サトハ全ク盲目ト相成」と窮状を述べた救助願い書	縦紙

No.	史料番号	表題	年月日	作成・発給	宛所	内容	形態
511	181-2-12 (B-2)	窮民救助願	明治24年3月20日	福岡県御笠郡大野村大字筒井843番地 金山卯八	福岡県知事 安場保和殿	「赤貧ニテ莫モ資産無之 加之生来痼疾ニテ」と窮状を述べた救助願い	縦紙
512	181-2-13 (B-2)	木屋掛料御給興願	明治24年5月25日	福岡県大野村大字筒井692番 古賀幸太郎 隣保証人 古賀孫四郎 同上 早田善左衛門 同上 古賀戸蔵	福岡県知事 安場保和殿	「一、金拾円 私義五月二十四日火災ニ罹リ家屋悉皆焼失仕候」との木屋掛料の給与願状	縦紙
513	181-2-14 (B-2)	農具料給興願	明治24年5月25日	福岡県御笠郡大野村大字筒井692番 隣保証人 古賀幸太郎 同上 古賀孫四郎 同上 早田善左衛門 同上 古賀戸蔵	福岡県知事 安場保和殿	「一、金拾円 私義五月廿四日火災ニ罹リ家屋及農具共悉皆焼失仕」により田畑1町1反歩余の小作のため農具料給与願い	縦紙
514	181-2-15 (B-2)	[通達]	明治24季6月3日	福岡県知事 安場保和	御笠郡大野村古賀幸太郎	木屋掛料として金五円、農具料として金九円を支給するという通達	縦紙
515	181-2-16 (B-2)	二十五年九月廿六日 農談会出席員	[明治]25年9月26日			農談会出席者名の書上	縦紙
516	181-2-17 (B-2)	試験/件				農談会での話し合いの内容の記録かと思われる 試験の件 撰種 他	縦紙
517	181-2-18 (B-2)	[照会]	[明治]25年6月8日	第二課(印)	大野村長 高原善造殿	内務省主管官有地処分の件についての照会書	縦紙
518	181-2-19 (B-2)	[通達]	[明治]25年8月17日	第二課(印)	大野村役場御中	稲干場払下願の件に付き、明18日午前11時迄に当衙へ出頭されたいし という通達	縦紙
519	181-2-20 (B-2)	[照会]	明治25年8月1日	第二課(印)	大野村役場御中	本地は稲干場として適当か否か調査の上開墾着手と成功の期限を知らせられたし	縦紙
520	181-2-21 (B-2)	[上申]	明治25年8月7日	大野村大字乙金 高原俊太郎 (印)	村長高原善造殿	「官有稲干場払下願の義却下」は了承しましたが、その理由を問い合わせると上申書	縦紙

No.	史料番号	表題	年月日	作成・発給	宛所	内容	形態
521	181-2-22 止(B-2)	[通達]	[明治]24年11月19日	太宰府村長斎藤寿七		筑前国地価調査同盟会本郡委員の上京委員諸費・地租金を本月22日迄に当役場へ御送付されたしとの通達書	縦紙
522	182 (B-3)	[雑記帳]				基学図説という本の白紙の部分を利用して作った雑記帳で手紙文の下書きなどが書いてある	縦帳
523	183 (B-4)	明治六年酉七月 四度目調子根控 村控 犯罪書	明治6年酉7月	御笠郡乙金村 保長 高原善蔵		党民一揆に流言に依り不得止荷担し1村毀焼或は暴行犯罪の者の願末書 保長高原善造・関忍平、副戸長高原善郎の奥書もある	縦帳
524	184 (B-5)	[續文章軌範評林一二]	[明治]			韓文公・司馬遷・韓非・王陽明などの漢文の放胆文の軌範集	縦帳
525	185 (B-6)	養生訓 八	[正徳3癸己年正月吉日]			貝原益軒の「養生訓巻八」老いを養う、幼を養う、鍼灸法などについて書かれている	縦帳
526	186 (B-7)	小記	癸酉10月			「記」地名と番号書き上げ「畑田成」地名畝高人名書き上げ「堤床溝床」地名畝高書上 その他橋掛所・荒地など諸書上	小横帳
527	187 (B-8)	日本外史字引大全巻二		岩井眞二郎編輯		日本外史の中の北条氏・楠氏・菊池氏・名和氏・足利氏についての難解文の読みと意味が書かれている	書冊
528	188 (B-9)	吳船録巻下		宋 范至能 成大著		「庚戌泥培ヲ卷シ六十里蒸州ニ至ル」に始る「旅行記」か	書冊
529	189 (B-10)	御救米割渡帳 御笠郡乙金村當田方御救 米人別割渡帳	嘉永3年戌11月	乙金村組頭 正右衛門 源六 同村庄屋 善一郎	那珂席田夜須御笠 御郡御役所	御救米1077俵の内訳・人名・畝下り・不足下り・高下り・心付分・助合分 べ高の書上	横帳
530	190 (B-11)	周易象解	明和3丙戌年春正月	吉川祐三著 攝陽書肆星文堂梓		占の本「本爻の例 64卦」について詳細に説明が書かれている	書冊
531	191 (B-12)	諸米并臨時切立計算帳	明治5年申11月29日			「触切立」光雲神社寄附米「養育備」その他米高及銭高書き上げ 他に「預り米差引」「寛」御鷹飼郡切立として俵高書上もある	横帳

No.	史料番号	表題	年月日	作成・発給	苑所	内容	形態
532	192 (B-13)	□□新築二係ル一切入費 控	□□7年旧10月起之			「人部控」「石屋部」「木挽部」の人数・名前・日付の書上・外に「雑用控」「金員控」として銭高・使用目的・渡先名書上「建築道具一切入用控」「日雇方控」もあり	縦帳
533	193 (B-14)	音註小倉山房尺牘卷五		錢唐袁枚簡齋著 山陰胡光斗又廬箋釋		答梁峯司農地他尺牘文の問答集のようであるがすべて漢文で書かれている(表紙は破損)	書冊
534	194 (B-15)	新宅造営一条諸口控帳	明治12年旧2月起	戸主 高原善造34才 別家主 高原謙造28才		新宅造営に関する諸事記載「入用諸品」瓦・釘・葺草・茅等の代金日付「大工の部」大工名前・住所・工数「賃金渡方控」「諸雑費の部」「棟上雑用」「普請に付他方より来物控」「造営ニ付助勢人之部」その他	横帳
535	195 (B-16)	隨園詩話 卷七		倉山居士著		漢文による詩話集	書冊
536	196 (B-17)	隋園詩話 卷十四		倉山居士著		漢文による詩話集	書冊
537	197 (B-18)	相学提要全	文化壬申歳仲春下浣 同癸酉歳11月望上梓	酒井塊天口謹織		相学について総論にはじまり、神相・臥相・病相・行相などについて詳細に書いてある	書冊
538	198 (B-19)	金繡策一				誠育先生繡繡策卷之一から四まで。「宋季肝江三策」は富国策・強兵策・安民策など漢文による文章筆写本	書冊
539	199 (B-20)	[画帳]	寛政10季春日	武陽葛山人書		盆景の模写を集め画帳にしたもの 淀川・星合濱・白河滝外22景程「寛政戊午仲夏廣展夫織」の序文あり	書冊
540	200 (B-21)	[増字百倍 早引節用集]	庚辰春3月〔万延元年〕	捩悟散人		漢文の音訓が書かれている辞典 数千字蔵されている	書冊
541	201 (B-22)	[書上帳]				「古田」「稲作」「田老作」「古島」の書上 田島の等級・小字名・畝高・高・名前書上 朱筆で訂正・印付け・抹消・持主の変更など多々あり	縦帳
542	202-1 (B-23)	明治十九年前期学費数之 割無財産欠損書上	[明治]19年6月28日	筒井村外7か村 戸長 高原善造(印)		「金三円九拾六銭八厘」の内訳 藤井涉他19名 名前・金高書上	縦紙 こより



No.	史料番号	表題	年月日	作成・発給	宛所	内容	形態
543	202-2 (B-23)	明治十九年後半期学費戸 数割不納者無財産欠損金 書	[明治]19年11月	戸長 高原善造(印)		「金四円三拾銭七厘」の内訳 稲留吉次外19名 名 前・金高書上	縦紙 で一括
544	203 (B-24)	[良移心當流和術心書]	[江戸]	紀宿禰林氏護鵬堂印 現著者〔林十藏信義〕		良移心当流・和術心書序・表目錄・表五筒・裏五筒・ 先之表五筒・仕合表五筒・以呂波手数五筒・伝法 等々が書かれている	縦帳
545	204 (B-25)	[受取証]	明治8年分 明治9年分 明治10年分	戸長 高原謙二郎 第八大区一小區 扱所	高原善造殿 花田与三兵衛殿 高原善一郎殿	明治8年分貢金受取通 明治9年地券税納通 明 治10年民費概算課 等の受取の綴り	横帳
546	205 (B-26)	部内村費支出明細簿	明治18年度			合金269円38銭の内訳書上 筆耕料・書籍器械費・ 活版費・郵便費・運搬費・役場派出所借家料・予備 費・衛生費・種痘費・会議費・使夫給 等	縦帳
547	206 (B-27)	下作付御帳	[嘉永7年寅11月]	善二〇		人別・字別・米高書上	横帳
548	207-1 (B-28)	[包紙]	明治15年旧6月19日			「善一郎抱分年貢通入」の文字が朱書きされている	縦紙
549	207-2止 (B-28)	[善一郎抱分年貢通入]	嘉永5 子	善一郎		嘉永5年子・同6年丑・同7年寅・安政2年卯・同3年 辰・同6年末・天保15年間分 善一郎抱分の年貢の 書上	横帳
550	208 (B-29)	給与体系について銀行回 答 二日間の中央委員会 で対策を協議	[昭和]3月17日	西日本相互銀行職員組合 〔保管係 席附係〕	[組合員殿]	給与体系についての銀行の回答とそれを受けた組合 の運動スケジュール等	縦帳
551	209 (B-30)	[日記]	[明治]			1月4日から翌年1月13日までの日記	横帳
552	210 (B-31)	[文例集]	[明治以降]			「約束を断る文」「世話になりし人に物を贈る書」「書籍 を注文する書」など文例集(3)から(13)まで (1)(2) は欠損	縦紙(3枚)

No.	史料番号	表題	年月日	作成・発給	苑所	内容	形態
553	211-1 (B-32)	三回分ヲ一期盛講金割合 〔明治〕				講金割合26口1口に付8円 掛金合計金208円也 内 金3円 銀座料同3円 座料助合ノ6円 残金202円 也 取残り3口2割 1口に付金67円33銭3厘	縦紙
554	211-2 (B-32)	記	明治40年			金3円40銭 掛金内金15銭 6月より9月迄(月1分2 厘) 利子引 残金3円25銭 41年分 残金2円80銭 42年分 残金2円35銭 ノ8円58銭	縦紙
555	211-3 (B-32)	〔書簡〕	明治40年旧6月2日	関 保太		「来レ旧本月8日私方仕立講会座仕候間全日午前 12時御来会被下度右御案内申上候」出席案内者 未永・染原・村上・白壁・森尾・児島・花田・関民次郎	縦紙
556	211-4 (B-32)	講掛口	〔明治〕			講掛口人名の書上 高原清二郎他18名	縦紙
557	211-5 (B-32)	〔人名書上〕	〔明治〕			人名の書上(211-4の続きか)	縦紙
558	211-6止 (B-32)	支拂口	〔明治〕			金額と名前の書上	縦紙
559	212 (B-33)	養生訓 卷第二	〔江戸〕			養生訓卷第二 惣論下 人間が生活する上に気を付けねばならないことを詳 細に記されている 御笠郡乙金村高原美信藏書の 印あり	書冊
560	213-1 (B-35)	藪反別税銀帳	明治7年第四月	第十二大区十四小区		213-2～6の表紙朱筆で、「四十巻号」と書き込みあり	縦紙
561	213-2 (B-35)	〔藪反別税銀帳〕 御笠郡国分村	明治5年壬申6月	国分村副戸長 中島久四郎		地番・字・地位・反別・銀高・地名・苗字名の書上	縦紙
562	213-3 (B-35)	〔藪反別税銀帳〕 御笠郡水城村	明治5年壬申6月	水城村副戸長 高原善藏	福岡県庁	地番・字・地位・反別・銀高・地名・苗字名の書上	縦紙
563	213-4 (B-35)	〔藪反別税銀帳〕 御笠郡吉松村	明治5年壬申6月	吉松村副戸長 小島久七		地番・字・地位・反別・銀高・地名・苗字名の書上	縦紙

No.	史料番号	表題	年月日	作成・発給	宛所	内容	形態
564	213-5 (B-35)	〔藪反別税銀帳〕 御笠郡下大利村	[明治]	下大利村副戸長 小嶋新三郎		地番・字・地位・反別・銀高・苗字名の書上	括
565	213-6止 (B-35)	〔藪反別税銀帳〕 御笠郡上大利村	[明治]	上大利村副戸長 小嶋宇平		地番・字・地位・反別・銀高・地名・苗字名の書上	縦紙
566	214-1 (B-36)	高原善造受持支払簿	明治32年旧5月12日	高原善造(印)	関 三郎殿	高原善造受持簿 受取金の部・払出金の部別書上の 収支報告書と思われる	こ
567	214-2 (B-36)	預り証	[明治]3月31日	関 民次郎	高原善造様	「金七円也 外二貳円也 四月七日預」という預り証	より
568	214-3 (B-36)	惣計算簿	[明治]			人別金高書き上げ 払ノ部もあり	で
569	214-4止 (B-36)	取替金覚	[明治]32年4月	高原善造	関 三郎殿	取替金の人別金高書上	一
570	215-1 (B-37)]	〔記〕				僧名か戒名の書上のようなものであるが定かではない	括
571	215-2 (B-37)	〔備忘〕	明治35年旧12月			善造受持の借米・借銭の記録と返済の記録の書上 明治29年から明治44年の分までが記録されている	こ
572	215-3 (B-37)	〔備忘〕	[明治39年]			達太郎受持の借米・借銭の記録と返済の記録の書き 上げ 明治32年から同44年分までの記録	より
573	216-1 (B-38)	受取証	明治39年11月14日	高原イチ	高原善造殿	「金八拾五円也」「金四拾五円証書巻通」右は登記料 として寅男へ渡すべき証書	で
574	216-2 (B-38)	〔上申書〕	[江戸]			御證文山の松の件 御用困の松100本に極印を入れ 除いた上で入札払いにした事の経緯「如何の次第 にて伐取哉と詮議仕候処雇入候山伐之者不勘弁 或は着木にて根伐仕候」前次・後次	括

No.	史料番号	表題	年月日	作成・発給	苑所	内容	形態
575	217 (B-39)	[備忘の綴り]	6月8日～10月15日	畑詰村卯助 他		諸方からの通達等の写しかと思われる。内容は立花左近将監様御通行送り人馬の件・鯨油代金納入の件・牛馬悪病流行の件など多岐にわたっている。	切継紙 多数
576	218 (B-40)	[文例集]				「移転祝に人を招く書」「病氣見舞の書」「仏事に人を招く書」など文例集(26)から(48)まで赤で番号を付けかえがしてある	縦紙(6枚)
577	219 (B-41)	部内白木原村分村ノ請願書ニ對スル上申書				瓦田村と白木原との位置は共に県道に沿って家を接し軒を連ね全く1町の形を成している。下書きのため途中で書き止めているので後は不明	縦帳
578	220 (B-42)	乙金村田方當荒畝高書抜帳	文政3年辰8月	庄屋善蔵		当荒・人別・田数・高書上(村中分・無銘・筒井村溝床を含む)	縦帳
579	221-1 (B-43)	[入込人書上]	[當7月]			肥後国合志郡下津久連村出生の者、当7月より入込居者の書上	切紙
580	221-2 (B-43)	[備忘]				表面は長さの表になっている。裏面は寸尺が書き留められている	縦紙
581	222 (B-44)	高原謙蔵方差引留	[明治21年旧2月]			「米貳俵」肥し大豆代・地方税・山林税・郡費など金高書上。その他明治20年分・明治21年分の書上もあり	横帳
582	223 (B-45)	残木				木の所在地と寸法の書上。1番から43番までであるが、破損のため全容は不明	横帳
583	224-1 (B-46)	上納証	明治24年1月9日	大野村大字仲島村上嘉平(印)	大野村々々長 高原善造殿	「一、米六俵貳升貳合 右二十三年度大野校下肥落札代米正二上納候也」	縦紙
584	224-2 (B-46)	二十三年分下肥代受拂	[明治]			1月9日外 米1斗5升1合 流行病に付き休業25日分引 米6俵2斗2合 村上嘉平納 内米4俵 敷地料 萩原銀作渡 同2俵 同上 瀬里大吉渡 同2升2合 同上 村田四郎渡	縦紙

No.	史料番号	表題	年月日	作成・発給	宛所	内容	形態
585	225 (B-47)	木材代(價積書)	[明治]			白水儀助他の木材の材料 寸法・本数・単価の書上	縦紙
586	226-1 (B-48)	修養雑誌 乃木式	大正9年2月11日発行	古江桐堂編輯		「修養雑誌乃木式」の表紙のみ	切紙
587	226-2 (B-48)	記	[明治]4月より9月迄		善造殿	民費及び地租・地券税の書上	切紙
588	226-3 (B-48)	[通達]	明治8年3月31日	福岡県令 渡辺 清		水難火難の者への貸渡金 往返日数を除き5日限り受取方出納課に申し立て 別紙雛形の通り証書・仕訳書差出すべし	縦紙
589	226-4 (B-48)	[記]				善吉組合・惣吉組合・惣作組合の組人名前書上 「此先御法度筋行届候様才判仕るべく候」前欠	縦紙
590	226-5 (B-48)	[備忘]				銭高・人名書上「二ロベ巻貫百八拾目 外に「百五拾目 村中切立算用相立ス 山内より相仕廻」とあるが片面との関係は不明	横折
591	226-6 (B-48)	[寺の来歴写]				「金龍寺 禅曹洞宗」その他寺の来歴書写し 前欠 後欠のため全容不明	縦紙
592	227-1 (B-49)	花代		□□七十五叟		和歌1首 開かずにはるこそよけれ まらし花の 以下破損のため解読不能	切紙
593	227-2止 (B-49)	小倉山房尺読卷五				高原(康)家文書193番(B-14)書籍の表紙である表紙が破損しており整理の段階ではぐれたものと思われる	切紙
594	228 (E-1)	[通達]	7月27日	幸府出張 聴訟課	乙金村保長 高原善蔵 関忍平 組頭取 船越孫次郎 舟越利平	「相尋儀有之候条明廿八日 午前第八時当出張所江可能出者也」	切紙
595	229 (E-2)	靖献遺言 一至四	明治2年己巳再刻	京師 風月堂梓		「離騷懷沙賦 屈平」「出師表 諸葛亮」「蔬史述 夷齋章 陶潜」「移蔡帖 顏真卿」の四巻	書冊

No.	史料番号	表題	年月日	作成・発給	宛所	内容	形態
596	230 (E-3)	御代のはな 第十一輯	明治28年8月31日	大阪市東区高麗橋三丁目 弾 舜平		明治28年の御題御代の花の詠進歌集	書冊
597	231 (E-4)	日本外史字引大全卷三		岩井眞二郎編輯		日本外史の中の後北条氏・武田氏・上杉氏・毛利氏、その他について難解字句の読みと意味が書かれている	書冊
598	232 (E-5)	諸品現金受拂通	[明治18年1月]	御笠郡乙金村 高原善造		旧12月26日(明治18年1月)からの支払簿か、支払金高品名の書上 支払いに対する受取書も間に入っている	小横帳
599	233 (E-6)	故吉田菊子の遺詠	明治39年8月16日	善造		生前の吉田菊子の秀作3首と辞世 善造の追悼歌5首が書かれている	切紙
600	234 (E-7)	御笠郡乙金村旅人滞在書上帳	弘化2年正月	乙金村組頭 源六(印) 同村庄屋 文三郎(印)	那珂席田夜須御笠 御郡代御役所	滞在者の名前・年・出生地・入込の年月日などの書上 死亡や逃去など朱で抹消もあり	横帳
601	235-0 (E-8)	預証 受取証入				235-1～235-12までを一括した綴りの表紙	縦帳
602	235-1 (E-8)	[覚]	明治23年9月20日	下大利村外五ヶ村元戸長 森山桂二	大野村村長 高原善造殿	臨時雇給・村用掛・書籍・機械・活版費その他の費目 予算と現支出の書上	縦帳
603	235-2 (E-8)	受取書	明治26年4月24日	大野村大字下大利区長 児嶋 治兵衛(印)	大野村村長 高原善造殿	「土木金受取証」 但し明治25年度土木補助金大字 下大利分	縦帳
604	235-3 (E-8)	受取証	明治26年5月1日	大野村大字中区区長代印 白壁喜七(印)	大野村村長 高原善造殿	「金壹円八拾九銭七厘」 但し25年度土木補助費決 額の受取証	縦帳
605	235-4 (E-8)	受取証	[明治]26年5月2日	大字山田区長 河波徳次郎(印)	大野村村長 高原善造殿	「メ金貳拾貳円貳拾九銭四厘」 但し明治24年度～ 25年度分の土木補助金の受取証	こ 縦帳
606	235-5 (E-8)	金受取証	明治26年5月朔日	大字瓦田区長 瀬利次右衛門(印)	大野村村長 高原善造殿	「金九円七拾壹銭五厘」 但し明治25年度土木補助 費決額の受取証	よ 縦帳

No.	史料番号	表題	年月日	作成・発給	宛所	内容	形態
607	235-6 (E-8)	〔書簡〕・受取証	〔明治〕26年1月27日	書簡 小野登三郎 平山善三郎 受取証 太宰府町大町 栗原新太郎(印)	書簡 高原善造殿 受取証 高原善造殿	「同志会義捐金」を此者へ御渡し下され度しの依頼状及び「金弍円封入」の書状に小野登三郎宛の受取証	縦帳
608	235-7 (E-8)	請取證	明治25年1月27日外	村田友吉(印)	高原善造殿	「報労金四円五拾銭」の受取証	縦帳
609	235-8 (E-8)	〔書簡〕・受取証	〔明治〕25年3月1日 受取証 25年6月5日	書簡 畑重一郎 受取証 大野第一尋常校訓導 大賀勝太郎(印)	書簡 高原善造殿 受取証 村長 高原善造殿	「大野校備付傘代寄附金残金参円拾七銭」を関氏に託し送りますとの書状と「金参円拾七銭」畑重一郎確認の受取証	縦帳
610	235-9 (E-8)	証	明治23年11月25日	勸業試験場 天野末吉(印)	高原善造殿	「金壹円拾銭・殺虫燈式個代」の受取証	縦帳
611	235-10 (E-8)	林遠里翁招待費	明治22年9月			「記」林遠里農談演説之節諸費「目録」とあり出銭・借用・諸費用等金銭出納記録	縦帳
612	235-11 (E-8)	証	〔明治〕10月31日	高田義夫(印)	高原善造殿	「金壹円也 右殉難死者祭典費寄附金」の領収書	縦帳
613	235-12止 (E-8)	諸渡金受取証綴	明治23年4月29日外	浅川仁三次 (印)外	大野村々長 高原善造殿外	鉄道線路に係る踏切修繕費の受取証5紙 下大利・白木原・上大利その他 宛先は大野村々長の外 那珂御笠席田郡長 郡保宗殿宛のものもある	縦帳
614	236 (E-9)	〔那珂席田夜須御笠山方御役所宛上申書写綴〕	〔江戸〕	同村庄屋 善一郎外	那珂席田夜須御笠 御山方御役所	文化へ安政にかけて山方役所へ乙金村が提出した家作材用など諸々の理由による伐木願等上申書17件の写し	縦帳
615	237 (E-10)	国有林立木下戻申請書	〔明治〕	高原善造 高原清次郎 高原謙次郎 他	高原善造 高原清次郎 高原謙次郎 他	立木下戻申請に関する理由・立証・その事実関係等が詳細に書かれている	縦帳
616	238 (E-11)	〔絵の印刷〕	大正7年1月1日	市田オフセツ印刷株式会社		東城鉦太郎氏筆の原画の印刷と思われる (昭和天皇太子時代の絵か) (九州日報附録)	切紙
617	239-1 (E-12)	大野会余興歌題	大正3年7月19日	里水撰		お題 百合の撰歌集 善造氏の作品が秀作として挙げられている	切紙
618	239-2 (E-12)	〔短歌撰集〕	大正3年新暦みな月 中の頃	家廻舎一畝		短歌14首	切紙



No.	史料番号	表題	年月日	作成・発給	宛所	内容	形態
619	240 (E-13)	〔福岡日日新聞切り抜き〕	明治23年12月19日	〔福岡日日新聞社〕		元寇紀念碑建設についての特別広告 時事小言などの記事 運動丸・徐風散などの広告	切紙
620	241 (E-14)	〔立木賣却代備米金出入帳〕	明治31年12月起 同33年12月2至ル	高原善造		明治31年12月18日以降 入金の部 明治32年12月以降 明治31年12月18日以降 出金の部 明治32年12月以降 金出の部 明治31年新設旧11月以降 入米の部 外月日金員人名等の列記	縦帳
621	242-1 (E-16)	赤貧者戸数割免除規程				村税戸数割免除の規程 第一條 免除ノ該當條件 第二條 免除申立ノ手續 第三條 適合ノ者ト認定シタ後ノ処理	縦紙2枚
622	242-2 (E-16)	〔辞職願〕				役場書記 山上禧輔の辞職願出を許可してばどうか意見を聞いている 区長 村上善三郎の辞職願い出を認むることの通知	縦紙
623	242-3 (E-16)	〔備忘〕				消防組合の規程の一部かと思われる	縦紙
624	242-4 (E-16)	二十三年度大野村経費收支決算	〔明治〕			収入の部 地租割、戸別割、營業割、雜収入国税交附等 支書は予算決議額	縦紙
625	242-5 (E-16)	支出の部	〔明治〕8月18日～21日			月日・金員・物品・摘要・立合人・受取人の欄を作り支出の記録をしている	縦紙
626	242-6 (E-16)	〔書簡〕	〔明治〕6月3日	山上禧輔	高原善造殿	組合議員に当選したが辞退したい旨の書簡	切紙
627	242-7 (E-16)	〔手紙の下書〕	〔明治〕			手紙の下書き	切紙
628	242-8止 (E-16)	〔断片〕	〔明治〕			村上という人に関する評かと思われる	切紙2枚継
629	243 (E-17)	〔神洲元氣 全〕	明治37年5月10日発行	著者 岡見 舜雅		「信教の自由の憲章」「僻見政事家の宗教無必要論」「佛教と我国家と關係緻密にして盛衰共にする論」などについて多岐にわたり書かれている	書冊

No.	史料番号	表題	年月日	作成・発給	宛所	内容	形態
630	244 (E-18)	[書道の手本]				書道の御手本か、半紙に書かれたものを継いで裏打ちしてある	切継紙6枚
631	245 (E-19)	晝夜重寶記	(江戸)			「手形證文請状の類」「十干十二支」「片假名イロハ」「精進いり酒の方」「料理献立」「秘傳名方丸散」など家政全般にわたって書かれた百科辞典様のもの	書冊
632	246 (E-21)	[記録]	明治14年3月13日～ 8月21日			道路移設に関する交渉の経緯・立派・手続・不瞭解の箇条などが書かれている	縦紙
633	247 (E-22)	[増續字林集韻大成]	宝曆7丑年霜月吉旦	大坂心齋橋筋大野木市兵衛 同 松村九兵衛 同 鳥飼市兵衛		漢字辞典のようである 増續字林集韻大成の巻の(中)と(下)は確認出来たが巻の上は破損のため不確かである	書冊
634	248 (E-23)	[廣辭林]		[三省堂]		国語辞典 字体が旧体なので戦前の発行と思われるが、前欠後欠の為詳細不明	書冊
635	249 (E-24)	[習字]				「結字依青」に始まる漢文の習字	切継紙5枚
636	250-1 (E-25)	[書簡]	明治33年3月27日	高原善造	広島県加武郡 上野熊太郎殿	貴妹リヨ殿召使の件 拙者方へ滞留中は身上引縮方等は充分注意致す心得にて御懸念なきよう	縦紙
637	250-2 (E-25)	家父之口授サルハ處ヲ随時筆記ス				「十干十二支」「二十四季」等について書いてある	縦紙
638	250-3 (E-25)	[手紙の文例集]				「豊年を祝する文」「友人の入営を賀スル文」「田植手間替相談の文」「出産ヲ賀スル文」などの文例集	縦紙
639	251 (E-26)	[記録]	明治26年～29年			米貸借の記録か、前欠の為詳細不明 「明治二十九年度 金貸附ノ部」 貸付年月・金員・附記・人名が書かれている	縦紙4枚
640	252 (E-27)	[門松渡證擲之事]	文久元年～元治元年	吉田平太夫(印) 加藤平四郎(印)	乙金村庄屋・山之口中	乙金山之口中へ宛てた門松引き渡しの証擲綴り 21通	縦紙

No.	史料番号	表題	年月日	作成・発給	宛所	内容	形態
641	253 (E-28)	「和歌」				和歌3首 愛し子に別れし君が悲しみをこころにくみてしぼる袖かな	切紙
642	254 (E-29)	「御令息の訃音に接して」		秀輔		和歌1首 千代経へき若木の松の風折れて残る老木やさむしかるらむ	切紙
643	255 (E-30)	〔書翰発遣控〕	[明治]33年2月7日	高原善造	宮崎県小林村 脇元祐重殿	珍重の書幅の返礼に拝山翁の画幅進呈の添え状	縦紙
644	256 (E-31)	〔易経〕	文久2年壬戌8月			易経上・下経・上象伝下伝・上象伝・下象伝等の中の難読の語に読み仮名を付したものである	小横帳
645	257 (E-32)	〔書簡〕	大正15年2月	村雲婦人会聯合本部 御法要係	高原アサ様	村雲婦人会より法要の案内	切紙
646	258 (E-33)	〔金銭請取帳〕	[6月13日]			上部には「中折之状式截 代拾八銭」等の文字が見られるが横線で消してある 又、下部には「山下卯七 中折七拾一冊 萬水帳」等の文字が見えるが縦横の線で消してある	切紙2枚
647	259-1 (E-34)	〔包紙〕				短冊3点(259-1～259-4)の包み紙	縦紙
648	259-2 (E-34)	祝		善造		和歌1首	短冊
649	259-3 (E-34)	窓蛩		善造		和歌1首	短冊
650	259-4止 (E-34)	嬉しきもの		善造		和歌1首	短冊
651	260-1 (E-35)	〔永代売渡証文〕	寛政10年午11月20日	乙金村受人 孫藏 同売主 藤藏	庄屋善四郎殿	草場の土地「銭貳拾六匁」での永代売渡証文 組頭の奥書あり	切紙
652	260-2止 (E-35)	〔記録〕	11月24日他			人数・人名の書上 「津出替雇」もある	横折
653	261 (E-36)	〔上申〕	[江戸]6月13日	乙金村庄屋 善一郎	大庄屋 高原善七郎様	当村唐山山番武七儀兼て老病の処昨12日死亡しましたので宰府の西正寺へ結縁のご許可下さい	縦紙

No.	史料番号	表題	年月日	作成・発給	宛所	内容	形態
654	262 (E-37)	[上申]	天保12年6月	乙金村庄屋 忍平	那珂席田夜須御笠 御山方御役所	前欠のため詳細は不明であるが、雇っていた山男の不始末を詫びる口上書の下書き	切継紙5枚継
655	263-1 (E-38)	祝		善造		和歌1首 新築を祝う歌か	短冊
656	263-2 (E-38)	[和歌]		善造		和歌1首 新築を祝う歌か	短冊
657	263-3 (E-38)	哀傷		澄子		和歌1首	短冊
658	263-4 (E-38)	晩夏	[明治]			和歌1首	短冊
659	263-5 (E-38)	[和歌]				和歌習作中か、未完成	短冊
660	263-6止 (E-38)	秋庭より大城山を見て		徳太郎		和歌1首 新築を祝って詠んだものか	短冊
661	264-1 (E-39)	[受取]	[明治]1月10日	一小区扱所(印)	中村 高原善藏殿	明治9年10月より12月迄民費金概算賦課「金拾銭九厘大区費」の受取書	切紙
662	264-2 (E-39)	[書簡]	[明治]旧12月24日	田中盛平	高原善造様	謙造様御払米の件 今日金10円ばかり調達出来そうですので旧27日ごろには別紙受取証差し上げます	切継紙2枚継
663	264-3 (E-39)	[昇附帳]				小字名・畠位・高の書上 破損甚大にて不明の部分多し	竖帳
664	264-4 (E-39)	[書簡](下書)	□月2日		佐藤峯次郎様	私縁故の乙次郎氏の女子についてお尋ねがありましたたが同方血統の良否は一向存じあげません(上部破損)	切紙
665	264-5 (E-39)	[領収証半券]	昭和4年4月11日			領収証帳の半券の一部と思われる 08846号より08850号まで	切紙5枚

No.	史料番号	表題	年月日	作成・発給	宛所	内容	形態
666	264-6 (E-39)	[断簡]	[江戸末期]			「善一郎」の名から江戸末期の記録帳の一部と思われるが、断簡のため詳細は不明 米高書上	切紙
667	264-7 (E-39)	官林取締□□□	明治19年3月	福岡県筑前国御笠郡 乙金 村人民惣代 関甚次外		官林取締に関する上申書 破損大にして詳細は不明	縦紙
668	264-8 (E-39)	[紙]				裏紙を使うために準備されたものか、紙縫を通してあり 表裏がピツタリ付いているため剥ぐと破れそうなので裏に書かれていることの解読は不能	張り合せ切紙
669	264-9 (E-39)	[封筒]	[明治]45年2月15日	伊勢敬神社 (事務所印)	高原善造殿	伊勢敬神社事務所からの封筒一封 中に紙片あり 和歌1首「夕立に水そそがせし後に来て見るも涼しきはち植の松」	切紙入封筒
670	264-10 (E-39)	村内大字				村内大字の書上	切紙
671	264-11 (E-39)	[断片]				不詳	切紙
672	264-12止 (E-39)	[御笠郡乙金村庄屋忍平 申上ル口上之覚]	[江戸]	[忍平]		御笠文山の件に関する口上の覚であるが破れているため詳細は不明	切紙 2片
673	265 (E-40)	[差上条々一部]	[江戸末]			割方に付組頭・山の口中立会の件(前欠) 上納取過 詮議の件(後欠)	切紙
674	266 (E-41)	[年貢米上納高書上]	[明治]			高原卯三郎 他2名分 田畑反別物成高差引算用書 上	横折
675	267 (E-42)	[上申]	嘉永4年4月	乙金村組頭 正右衛門 源六 外5名	那珂席田夜須御笠 御郡御役所	作物を食い荒らすので鹿威筒の使用許可願い	切紙三枚継
676	268-1 (E-43)	[書簡]	[明治]11月19日	小城作次郎	御尊父様	売葉「板付の若血の葉」の送付願い	縦紙

No.	史料番号	表題	年月日	作成・発給	宛所	内容	形態
677	268-2 (E-43)	預証	[大正口]11月16日	不志敏男(印)	高原善造様	「玉集先生ノ時雨ノ画」右表装致すため12月20日迄の預り1件	便箋
678	269 (E-44)	証明証	大正4年10月23日	筑紫郡大野村大字乙金伊藤六郎	福岡税務所御中	高原達太郎義へ信用貸付の事 金30円の返金未済の証明	縦紙
679	270-1 (E-45)	添申	明治22年5月6日	御笠郡大野村元戸長 高原善造(印)	那珂御笠席田郡那珂郡長 郡保宗殿	大野村大字筒井・山田人民総代より出願の新井手石陸張修繕の件、宜しくご指導下さい	縦紙 こよりで一括
680	270-2 (E-45)	石陸張着手御許容下附願	明治22年5月4日	御笠郡大野村大字筒井総代 草壁久平(印) 同郡同村大字山田総代 河波宗五郎(印)	那珂御笠席田郡那珂郡長 郡保宗殿	大野村大字筒井・山田共同井堰の修理の許可願い及びその必要性と経緯	縦紙
681	271-1 (E-46)	地所書入米借用証	明治17年1月20日 奥書 明治17年2月4日	借入主 船越与三郎(印) 証人 船越善助(印) 御笠郡乙金村戸長 奥書 船越源太郎(印)	高原善造殿	「米拾三俵也 但利子恣儀に付式割五分」 明治17年1月20日借用 同年11月限り返済約定(担保)970番地字盗原 田1反2畝21歩	縦帳
682	271-2 (E-46)	約条書	明治40年12月15日	山田 伊藤磯吉(印) 証人 伊藤権四郎(印) 証人 船越和作(印)	高原達太郎殿	「給米 拾四俵也」右は伊藤磯吉の1期奉公の約定書	縦紙
683	271-3 (E-46)	三分分ラ一期盛講金割合	[明治]			26口1口ニ付8円 掛金合計金208円也 内金3円 銀座料 金3円 座料助合 6円 残金202円也 取残り3口に割り老口金67円33銭3厘	縦紙
684	271-4 (E-46)	講金取立ノ部	明治4年旧6月20日			取立の部 老口金8円也 関甚次他9名 べて金80円也 私の部 船越善助 3円42銭 染原精三郎 5円65銭 伊藤弥作 5円10銭 残り65円183銭	横折
685	271-5 (E-46)	[和歌]				和歌2首	切紙

No.	史料番号	表題	年月日	作成・発給	宛所	内容	形態
686	271-6止 (E-46)	地所売渡証	明治32年3月27日	売渡人 関 三郎 (印) 証人 伊藤八郎 (印)		「一金貳百拾円」右代金を以て私所有の下記の土地を売却します 筑紫郡大野村大字乙金字後田 1反7畝1歩此地価69円72銭	縦紙
687	272-1 (E-47)	〔書簡〕	23日	せり拜	高原大人	自作の歌6首について御添削の上御選抜下さい	切紙
688	272-2 (E-47)	〔書簡〕	18日	善造	謙次郎殿	明後日の大野会の会場についての問い合わせ 謙次郎より廻り座については一向に承知しておりませ んとの返答	切紙
689	272-3止 (E-47)	〔備忘〕	[大正]			金銭算用書上 材木代か、寸法入りの図面 裏面に 西2年高原氏の理科の勉強の跡あり	綴り
690	273-1 (E-48)	〔学習帳〕	文久2年春2月吉辰 ～慶応2年丙寅正月 12日	北筑御笠之郡音鐘村 高原善蔵		孟子・書経下・続皇朝史略等の難字の読み方や意味 を書いたり、漢字の練習をしたもの	小横帳
691	273-2 (E-48)	仕切				長・末口・本数・単価・小計などの書上	縦紙2枚
692	273-3 (E-48)	記	[明治]			講金の金銭算用書上	切紙
693	273-4 (E-48)	記				講金の金銭算用書上	切紙
694	273-5 (E-48)	〔文例〕				「留守宅依頼の書」「売地を知ら須る書」「質金証書の 書換を申送書」 など49から52まで	縦紙
695	273-6止 (E-48)	記	12月3日	大字筒井 田邊厚		税務所謄本・登記隠士などの諸経費の書上	縦紙
696	274 (E-49)	〔書簡〕	大正15年2月	村雲瑞龍寺門跡執事	高原了サ殿	「當門跡御開山瑞龍寺殿參百年御遠忌並に前御門 主瑞法光院宮御七回忌の御法要」の案内状	切紙
697	275-1 (E-50)	明治十四年自七月至十二 月地方税其外納通	明治14年7月	村役場 (印)	高原善造殿	地方税・備荒儲蓄金等の書き上げ 皆済也	切紙



No.	史料番号	表題	年月日	作成・発給	宛所	内容	形態
698	275-2止 (E-50)	明治十四年自七月至十二月 月地方税其外納通	明治14年7月	村役場 (印)	高原善造殿	地方税等の書上 皆済也	切紙
699	276 (E-51)	出雲ぶし				わたさ、うんすのふら田の生れ、ズール ニズール 三ズールふがしの果からにすのはまでまでふこずりふつ ばりきたものを合さらふまとはふまらぬふろい世界に これだんはんぬしふとり	切紙
700	277 (E-52)	請求書	明治34年2月6日 旧33年12月18日	高原善造 高原善郎 高原謙次郎 他6名	森尾栄助殿	金37円也 右は関三郎田地請返し備えとして貴所へ 預けておいた金員の内、今般同方仕組の結果引戻 の必要が生じたので請求します	整紙
701	278-1 (E-53)	[書簡]	[明治]9月2日	高原善造	岡部至平様 井上寅太郎様	亡息初盆祭の御礼	切紙
702	278-2 (E-53)	[書簡]	[明治]5日	謙二郎	善造様	来る1月詠進歌御指書式の件 八雲会歌題の件 末永大人御祭の件	切紙
703	278-3 (E-53)	[書簡]	7月31日	高原善造	古賀興八様 秦 政雄様 江藤富次郎様 河波侃二様	小山氏より別冊が送ってきましてので転送します 他 に村内・瀬利へは別送しました	切紙2枚継
704	278-4 (E-53)	末永翁 追詠歌書載致居 申さる部	[明治]36年～41年			詠歌の題名その他の書上	切紙2枚継
705	278-5 (E-53)	[和歌]				短冊のようなものに未完成の和歌1首	切紙
706	278-6 (E-53)	[和歌の下の句]		祖父		すゑ雄々しくも立ち進むらん 祖父	切紙
707	278-7 (E-53)	[俳句]				秋ふかき野中の庵へ夜もすがら	切紙
708	278-8 (E-53)	[書簡]	[明治]	善造	謙次郎殿	不在中に筒井の勝三郎より和歌の相談に来た由 貴 家へも同様の事と思いますが如何なる返歌を差し上 げられましたか差支えなければ教えて下さい とその 返事	切紙2枚継

No.	史料番号	表題	年月日	作成・発給	苑所	内容	形態
709	278-9 (E-53)	大正四年乙卯日誌	大正4年1月元旦	高原善造		早起若水年杯御宮参り大先相及び墓参り雑煮餅等例年の如し 昌一郎 徳太郎来祝後々予往祝	縦紙
710	278-10 (E-53)	[断片]				筒井字岸本の田数算用書上	切紙2枚継
711	278-11 (E-53)	[書簡]		善一郎	佛次郎様	前欠のため内容は不可解	切紙
712	278-12 (E-53)	[書簡]	大正3年11月17日	筑前国筑紫郡大野村 高原善造	兵庫県武庫郡住吉濱 横田別荘 野崎英夫様 東京中央歌文会御中	東京中央歌文会への入会申込み及び白壁清三氏入会希望につき会費添え紹介の件	縦紙2枚
713	278-13 (E-53)	[断簡]	1月2日	高原善造		年賀状 16 高原善造	切紙
714	278-14 (E-53)	書簡	大正3年1月20日	高原善造(印)	花田房吉殿	着次第 本預り証は拙者宛御返戻下さい	切紙
715	278-15 (E-53)	[和歌]				歳暮雪 降れよふれ つもれよつもれ 未完	切紙
716	278-16 (E-53)	[和歌]	6月13日		住吉濱 野崎苑	歌文7月分6月13日出す 住吉浜野崎苑として和歌7首	切紙
717	278-17 (E-53)	[書簡]				拜啓秋冷の良候御起居益御清適奉賀候 過日来博栄館に於ける懇親会の際は 以下後欠	切紙
718	278-18 (E-53)	[書簡]				6日温和院一周忌法要を営みましたので御案内申上ぐべきところ、御遠路御迷惑と存じ別便で粗茶を送りました 何卒御笑受下さい	切紙
719	278-19 (E-53)	[書簡]	[明治]11月7日	善造	謙次郎様	来る14日の東公園の大嘗祭和歌に御出席になりますか、国風社よりの興点写は送ってきましてか、この件につき清書元へ請求して下さい	切紙

No.	史料番号	表題	年月日	作成・発給	宛所	内容	形態
720	278-20 (E-53)	中央歌分會及口事野崎氏 江発信控え	大正3年11月16日	金子 いつ子 謙二郎 富次郎 善造 清三 徳太郎	中央歌文會野崎氏(発 信控)	昨16日終身會友加盟金その他共5円48錢 振替口座25005番宛振込みましたので、はがきにて領収書お送り下さい	縦紙
721	278-21 (E-53)	[初秋雨]				初秋雨の題で詠んだ和歌24首 天地人佳の順位付あり	縦紙
722	278-22 (E-53)	[断片]				和歌の習作中か、最後が切れている	切紙
723	278-23 (E-53)	天地人ノ内 詠歌者ノ名元書落シ分	[明治]36年～39年			38年10月人 39年2月天 36年7月人・地の詠歌者名元の書き落し分をたずねたのに対し返事を記入されたものと思われる	切紙
724	278-24 (E-53)	[断簡]				金349円 村田重男	切紙
725	278-25 (E-53)	[書簡]	9月30日	高原謙造 善造	松本御隠居様	湯町の丸丸館へお出ましと伝え聞きましたので、本日お見舞いに伺いましたが、既にお帰りになった後で残念なことでした 下書き	縦紙
726	278-26 (E-53)	[断簡]				「一、金三百貳拾六円 宮原」の文字あり	切紙
727	278-27 (E-53)	[断簡]				金440円也 右は富永昭吉氏の返金の分預かりました	切紙
728	278-28 (E-53)	祝				表に「祝」 裏に「御即位を祝ひ奉る」と書かれている	切紙
729	278-29 (E-53)	[書簡]	[明治]24日	謙二郎	善造様	末永大人御祭 来る28日執行の予定 昨日古賀氏には葉書が来たそうです ご一緒に参りませんか	切紙
730	278-30 (E-53)	[断簡]				上半分が切れているので意味不明	切紙
731	278-31 (E-53)	[書簡]				先日永井の母より 15日16日の博多どんたくに是非御許様を誘って来るようにとの事 万障お繰り合わせお出まし下されたくお誘い申し上げます	切紙

No.	史料番号	表題	年月日	作成・発給	宛所	内容	形態
732	278-32 (E-53)	[断簡]				和歌の上の句のみ 紅葉は、皆ちりはてて	切紙
733	278-33 (E-53)	[断簡]				封筒の断片のみ 雑餉限 秦□□	切紙
734	278-34 (E-53)	[書簡]			謙次郎様	メモのようである 「何も御供え不致…」とある	切紙
735	278-35 (E-53)	[手紙の下書き]	11月9日	高原あさ	山本おとも様	亭主朝鮮見物の際の礼状(裏面に料理の品書きあり)	切紙2枚継
736	278-36止 (E-53)	[断簡]				盗原宅地の前 大正3年より 米2升5合	切紙
737	279 (E-54)	賞書	大正3年7月18日	中央歌分會	高原善造殿	題草 選者 須川信行大人 貴下右の懸賞題に於て人位に当選せらる依てここに 賞品として撰者染筆を贈呈す とある	切紙
738	280 (E-55)	種痘人名簿	明治16年5月5日			種痘を受けた人の名 年齢・「初」と「再」などが列記さ れている	横帳
739	281 (E-56)	[揮毫]		□蔵		聖朝無棄物	切紙
740	282 (E-57)	亡高原達太郎君□み給へ るを				亡高原達太郎君への追悼歌五首	切紙
741	283-1 (E-58)	[短冊]	[大正]			和歌1首が書かれていると思われるが見えず	短冊
742	283-2 (E-58)	[帝国大學の業ををへ給 へるをことばきて]	[大正]	善造		和歌1首 日のもと 大學びやの 業をへて 家の 可勢をも 吹きひろむらむ	短冊
743	283-3 (E-58)	今ハ世になき吉田さく子を 思ひやりて	[大正]	茂世		和歌1首	短冊
744	283-4 (E-58)	寄亀懐旧	[大正]	善造		和歌1首	短冊

No.	史料番号	表題	年月日	作成・発給	宛所	内容	形態
745	283-5止 (E-58)	社邊杜若	[大正]	則明		和歌1首	短冊
746	284 (E-59)	[和歌]	[大正]	茂世		高原達太郎君の葬式をおもひやりて和歌1首	切紙
747	285 (E-60)	當座小切手	[昭和]	福岡市 株式会社博多銀行		博多銀行発行の小切手記載方書式と当座小切手規定	切紙2枚
748	286 (E-61)	記	3月1日	高原謙造(印)	吉井丈五郎殿	一金2円60銭 山材 5人8分 内1円10銭正月25日渡し 残金1円55銭 右正に預り申候也	切紙
749	287 (E-62)	[受取]	明治9年12月5日	老小区板所(印)	乙金村 高原善造 筒井村 高原善一郎殿	民費賦課金の受取	切紙2枚
750	288-1 (E-63)	[備忘]				尺と単価の書上	堅紙
751	288-2 (E-63)	[備忘]				尺と単価の書上	堅紙
752	289 (E-64)	紀伊國高野山 覺院 大圓院	[大正]	紀伊國高野山 一之橋正 院 大圓院		高野山 大圓院の案内書 裏面に写真もある	切紙
753	290 (E-65)	[證拠之事]	文久3年12月6日	吉田平太夫(印)	乙金村庄屋 中 乙金村山之口 中	團頼母 門松その村山にて渡すべき證拠の事 松式本御庭松 飾木 土手木共	切紙
754	291 (E-66)	[書簡]				勸業のための村長集会の件についての書簡と思われ るか前欠後欠の為判明せず	切紙
755	292-1 (E-67)	証	明治37年旧12月26日	大野村大字乙金 高原善造	那珂村大字板付 徳永次七殿	「明治参拾七年旧八月貴殿ヨリ受渡通帳ヲ受取其の 後数度ニ金員ヲ不残受取候処相違ナク通帳ニ貴殿ノ 消印ヲ申受ク可キ筈ノ処紛失致シ見出シ不申預ケ金 ハ不残受取済候条後日通帳見出トモ貴殿ニ指引関 係無之候」	堅紙
756	292-2 (E-67)	地所売渡証(断片)	[明治]			「一、金百七拾五円 右代金ヲ以テ拙者私有左記の 地所売渡候 一、田老反七畝拾九歩 此地價七拾式 円拾銭」の証	堅紙

No.	史料番号	表題	年月日	作成・発給	宛所	内容	形態
757	292-3止 (E-67)	[証文]	明治32年3月27日	筑紫郡大野村大字乙金722番地 売渡人 関忍平(印) 同郡同村同字767番地 証人 伊藤八郎 (印)		「右之地所ハ明治三十二年ヨリ向十ヶ年則明治四十一年十二月末日迄之内原價ヲ以買戻し之約定セリ」という文を朱線で消してある	縦紙
758	293-1 (E-68)	[文例集目録]				「同返書」77から88まで「電信文例」1から7まで「諸証書の部」1から22まで	縦紙
759	293-2止 (E-68)	[文例集目録]				「金子借書書を頼む書」「借用品返却の文」「代理を依頼する書」など29から76まで	縦紙
760	294 (E-69)	[上申書]		半次組合 外		老年の両親兄弟の者ども心何分ともさしすてがたく別儀を以て、御取計宜敷様に奉頼候 前欠後欠のため詳細は不明	切紙
761	295 (E-70)	[断片]	[明治]			「興三兵衛 田植下り助合 一、拾銭二厘外に水引料米六合五勺 旧十二月廿日限り」	切紙
762	296 (E-71)	記	明治37年旧11月22日	伊藤末吉	高原善造殿	「借用金高 金五百円 内一金四拾円 利六円廿四銭 貳拾五円請取申上候、 <del>よ</del> て七拾壹円貳拾四銭 残り金百貳拾八円七拾六銭 右正に請取申候也」	切紙
763	297 (E-72)	記	大正□□		上殿	鼻紙の受取か、破損のため解読不能	縦紙
764	298 (E-73)	[備忘]				金銭の書上	縦紙
765	299 (E-74)	[絵図]				絵図の断片で何処であるかは不明だが 稲荷山神御殿跡 時の鐘など書き込みあり	切紙
766	300 (E-75)	婦人寶鑑「最新家庭全書」				最新家庭全書の表紙と口絵写真4枚のみ	縦紙
767	301 (E-76)	[書冊]	[大正]			「恋愛観」「静座と予の思想」「報徳庵だより」など沢山の事例をあげての訓話集かと思われる	書冊の一部分
768	302 (E-77)	[随園詩話 卷十]		倉山居士著		漢文の書である 表紙は破損	書冊

No.	史料番号	表題	年月日	作成・発給	宛所	内容	形態
1	1	大正三年度小作米合計帳	大正3年	[高原善造]		大正三年度の小作米の合計と自作米の書上	縦帳
2	2	[家系図]		[善平]		高原道政より達太郎までの家系世代図を表の形で表してある	切紙
3	3	高原氏家系	[江戸]			初代平兵衛より博多祇園町養子卯兵衛まで	縦帳
4	4	[初代平兵衛より三代までの記録]				初代平兵衛と二代善次郎についての記録 三代目は名のみ	切紙
5	5	[役儀勤書 初代より十代まで]	[江戸]			初代か10代目までの役儀勤務についての記録	縦帳
6	6	[役儀進退の記録]	[江戸]	[善一郎]		4代目善七より9代目善造までの役儀の記録	切紙(4枚継)
7	7	[碑文]		竹田定猗		高原美正善一郎の贄 碑石に彫られたものか	切紙(5枚継)
8	8	[知行状]	永禄5年8月15日		山内筑後守殿	豊前國規矩郡葛原郷の内壱町同郡柳郷の内1町を合力せしめるの状	切紙(2枚継)
9	9	契約証	昭和13年10月27日	國栄産業株式会社 取締役社長 小林正直 (印)	高原梯次郎 (印)	金銭及び土地貸借に関する契約書	縦帳
10	10	受取証	大正4年7月5日	田辺 厚	高原善造殿	金15錢也の受取 但し共有田登記閲覧料	切紙
11	11	維持資金不動産臺帳 大字乙金				宮座維持資金明細 田・山林など	縦帳
12	12	土地所有権移轉登記申請 書	昭和11年10月3日	売主 高原梯次郎	福岡区裁判所二日市 出張所御中	土地所有権移轉登記の申請書で物件の所在地・広さも記されているが、買い主名と価格は書かれていない 売渡証も同括されている	縦帳
13	13	此岡田地沿革實誌	明治39年10月24日 陰曆 9月7日	高原善造		乙金村字此岡の位置・等級・その他所有者の変転を経て 和作翁分地以来百余年の後 明治9年1月に自分の所有に帰した経緯をくわしく述べたもの	縦帳
14	14	維持資金不動産臺帳 村社寶満神社	明治42年7月27日	熊本大林区署長 山林技師 田中喜代次	福岡区裁判所太宰府 出張所御中	宝満神社の維持資金不動産明細と土地所有権移轉登記嘱託書及び国有林払い下げ地 賦租願の綴り	縦帳



No.	史料番号	表題	年月日	作成・発給	宛所	内容	形態
15	15	地所買受証	明治13年～明治45年	高原善造(印)		地所買受証の綴り	縦帳
16	16	[書簡]	[明治] 17日	高原謙次郎	高原善造様	来る21日の共進会で杉松苗の注文はあると思われるので、その旨ご承知下さい。竹原家の家系については功七殿に一見していただき協議したい。	切継紙(2枚継)
17	17	御笠郡乙金村庄屋忍平御詮儀二付年恐申上ル口上之覺	天保12年6月	乙金村庄屋 忍平	那珂席田夜須御笠御山方御役所	古野の御證文山の松の木紛失の件に付、その子細と詫ひ状	縦帳
18	18	寶満宮御祭禮御備物記	文化7年9月	乙金村 宮座連中		「御注連御」「祭礼」のお備物の記録 明治9年から20年までの「宮座順名」明治21年から42年までの名前の書上もあり	縦帳
19	19	上申	明治42年5月13日	船越七郎次(印) 船越源太郎(印) 高原善造(印)		大野村乙金宝満神社古記の写 「祭神三座」「祭礼御備物」「宮田の事績と慣例」	縦帳
20	20	神社財産登録申請書	明治42年1月 日	氏子惣代 高原善造(印) 船越源太郎(印) 船越七郎次(印)	福岡縣知事 寺原長輝殿	宝満神社の財産明細 神殿・拜殿・鳥居・燈籠など	縦帳
21	21	[官有地の測量図]				2反8畝22歩の官有地ほかの測量図	切紙
22	22	[野鳥図]				田と地番が記されている	切継紙(3枚継)
23	23	[野鳥図]				此岡・毛所の山林・野地・地番が記されている	切継紙(3枚継)
24	24	[野鳥図]				池・畑・林などの図面・地番が記されている	切継紙(2枚継)
25	25	[田・畑絵図]				地名・畑・面積・小作米の高などを記入した絵図	切紙
26	26	田畑小作付臺帳				上表紙のみ 「田畑小作付臺帳」とある 裏表紙中身共になし	縦紙
27	27	[断簡]				裏表紙か、	断簡

No.	史料番号	表題	年月日	作成・発給	宛所	内容	形態
28	28	御宮用	大正4卯5月			印刷した洋紙で作った袋「御宮用」と上書きあり口の部分にこよりがついている	袋
29	29	[断簡]				表紙と罫紙2枚 表に「諸金受拂簿」と記されている	断簡
30	30	[表紙]				紙を貼り合わせて何かの表紙を作ったものようである	断簡

No.	史料番号	表題	年月日	作成・発給	宛所	内容	形態
1	1	〔墨書〕	丙寅初秋	高原吉女		吉女8歳の書「秋光」	半切
2	2-1	こより				証書類(2-2)～(2-20)までを括ってあったこより	こより
3	2-2	島質入受寄証文之事	天保9年戌3月	国分村 幸助 受人 茂作	乙金村庄屋 忍平殿 吉松村庄屋 半右衛門	国分村幸助島質入証文写しを袋に入れてある	切継紙(7枚継)
4	2-3	証文之事	天保15年12月	藤六 受人新作	善一郎殿	下々田6畝1歩を質物として米2俵を借りた証文 後に永代証文が張り付けてある	切継紙(4枚継)
5	2-4	観世田地書類入	〔天保8年酉12月〕	〔観世庄屋永七〕	〔筒井庄屋善藏殿〕	観世庄屋永七 金5両の受取証文3枚の他 観世田地書類4点同封	切紙・横帳・横折
6	2-5	永代証文之事	萬延2年申12月	田主 伊作 証人 組頭取 孫次郎	善一郎殿	牛 下々田6畝1歩 高5斗5升7合5勺を永代貴殿へ売渡したことに相違ありません という証文	切継紙(2枚継)
7	2-6	証文之事	天保15年辰12月	善一郎	藤六殿	牛 下々田6畝1歩 高5斗5升7合5勺 上記の田を米2俵の質物としたことに相違ありません という証文	切継紙(2枚継)
8	2-7	質物証文之事	嘉永5年子ノ12月	田主 与八 請人 組頭取 永吉	庄屋 善一郎殿	一、米3俵1斗6升5合也 一、正銀175匁也 の米銭上納に差支え岸本三下田8畝17歩を来丑年より来る巳年まで質物に致します という証文 他2通	切継紙(7枚継)
9	2-8	証文之事	天保15年12月	忍平 庄屋 文三郎 組頭 源六	藤六殿	一、廻り町中田4畝6歩 高6斗5升2合 上記の田を質物として米3俵を渡したという証文	切継紙(2枚継)
10	2-9-1	永代証文之事	明治2年12月	売主 利作 請人 源作	善一郎殿	一、四壁1か所 地所並びに建木共に代米として米2俵を受取り永代に売渡した」という証文	切継紙(2枚継)
11	2-9-2	〔証文之事〕	弘化2年巳12月	借主 和藏 組頭 源六	庄屋 善一郎殿	一、金2朱1斤 の借用書であるが前欠のため内容不明	切継紙(3枚継)
12	2-10	証文之事	天保7年申12月	島主 新吉 受人 孫四郎	庄屋 忍平殿	米2俵をおふき下畠3畝4歩の質物として受け取ったという証文	切継紙(2枚継)
13	2-11	証文之事	享和3亥年閏正月2日	組頭 源三 受人 伊作	庄屋 善四郎	米1俵1斗1合 銭117匁6分7厘を借用していましたが、利分なども払えませんが私受持ちの古野浦を差上げますのでご支配下さい、という証文	切継紙(3枚継)

No.	史料番号	表題	年月日	作成・発給	苑所	内容	形態
14	2-12	証文之事	天保9年戌11月	庄屋 忍平 受人 源六	平作殿	一、牟田之内 下田49歩の田を文化元年大錢210匁で文化4年6月に質物として取り置いていたが今度米3俵を渡して永代私が受け取ります という証文	切継紙(2枚継)
15	2-13	証文之事	文政13年正月	畠主 吉六 受人 作次	庄屋善藏殿	一、屋敷下畠24歩は代錢50目と竹木代25匁都合75匁受取りましたので永代貴方に渡します という証文	切紙
16	2-14	永代証文之事	天保13年6月	蕨主 文助 受人 清四郎	忍平殿	蕨1カ所 無年貢地 を金1歩で貴殿に売渡しましたという証文	切継紙(3枚継)
17	2-15-1	質入証文之事	嘉永5年子/12月	田主 半次 受人 永吉	庄屋善一郎殿	上納米5俵の内2俵1斗6升5合が差支え、中田7畝7歩を質物にしました という証文	切継紙(3枚継)
18	2-15-2	[証文之事]	明治3年11月	次吉 受人 孫三郎 清作	善造様	一、米5俵 上納に差支えましたので代米10俵で田地永代貴殿に売り渡しました という証文	切継紙(2枚継)
19	2-16	永代証文之事	嘉永7年寅12月	売主 源三 請人 忠作	善一郎殿	一、草場中田22歩 高1斗1升4合の田を米3俵1斗6升5合を受取り永代に売り渡しました という証文	切継紙(2枚継)
20	2-17	[証文綴り]	[嘉永]12月19日	太平	善一郎殿	証書類を処理した後に残っていた3点の証文を綴ったもの 文久2年の証文2点と嘉永5年の証文1点が綴ってある	綴り
21	2-18	証文之事	天保10亥12月	畠主 栄助	庄屋忍平殿	一、クサバ中畠1畝28歩5厘 高1斗5升7合の畠を米2俵1斗6升5合の質物にしました という証文	切継紙(2枚継)
22	2-19	[書簡]	嘉永2年申12月26日	助次郎	嘉一郎殿	前欠のため内容不明	切継紙(2枚継)
23	2-20	永代証文之事	天保12年丑12月	平作	忍平殿	一、下田1反6畝23歩 一、中田3畝2歩5厘 の田組み合わせ 文政8酉年 次右衛門より無代錢で永代証文を差上げておりましたがこの節米5俵確かに受け取りました という証文	切継紙(2枚継)
24	3	[巻物]	明治37年1月17日～ 大正2年1月19日	玉緒会 中央歌文会	高原善造	高原善造が玉緒会より受賞した賞状の綴り	卷子
25	4	[墨書]	不詳	不詳		一葉落知天下秋 書者名なし	半切
26	5	[書簡集巻物]	[大正時代]	愛国婦人会長 下田歌子他	高原朝子様	愛国婦人会会長よりの礼状 その他千代廼屋集を贈られた事への礼状など10通を卷子に仕立てたもの	卷子

No.	史料番号	表題	年月日	作成・発給	宛所	内容	形態
27	6	[墨書]	不詳	秦明		山静松声遠秋清泉菊香	半切
28	7	諸願諸指出控	嘉永2年酉正月	上大利村庄屋太平	那珂席田夜須御笠御 山方御役所	御笠郡上大利村から御山方役所へ差出した願いの綴り	綴り
29	8	[上納米指問書上帳]	享保6年12月26日	乙金村善市 他5名	筒井村善六殿	乙金村不作の為上納米差支え 質物に召置ぐ米・年貢上納米・余米の書上	縦帳
30	9	[墨書 和歌一首]	不詳	昌		山家夢「狼のすぎき声さへ聞なれてゆめ静かなる山住の庭」	半切
31	10	[墨書 和歌一首]	不詳	善造		奇國祝「大君のめぐみの露にうるをいてちりだにたゝぬ浦やすの國」	半切
32	11	野瀬家縁組二付聞合件	不詳	不詳		野瀬家の係累・家産・その他について調べたことを箇条書きにしている	横帳
33	12	蔵書目録	明治34年10月	善造 達太郎		蔵書の書名・著者・購入年月・購入者などの記録 巻末に掛物の部もある	縦帳
34	13	土蔵新築二付諸入費手問 数控張	明治11年寅8月 吉祥 日	高原善造		加勢人名前・人数・金額などの書上	横帳
35	14	御笠郡乙金村堤井樋材木 間尺帳	宝暦6年	御笠郡乙金村 庄屋和作		堤井樋に使用の材木書上 他に「御笠郡乙金村堤井樋掛樋軸帳」(天明7年・文化6年・文化13年)の3冊 同綴	縦帳
36	15	[墨書]				「おぼろげに」からはじまる和歌1首 作者不詳	半切
37	16	[漢詩 拓本]				薛洪度の詩2篇の拓本	切紙
38	17	御笠郡乙金村田島反別並 諸上納書上帳	延享元年9月	乙金村庄屋 善市郎 他3名	永田五郎大夫様 豊嶋佐大夫様	田数・反別・徳米・大豆・組頭・村人名の書上 表紙は洋紙で裏打あり	縦帳
39	18	弟鐘記録鈔全				乙金村の由来について色々考察を書いたもの 唐土から来た鐘の事・田中道の事・乙金村東にある松山の事・その他	縦帳
40	19	地理家相精全図	明治25年 壬辰夏6月 吉日	緒方益哉	高原善造	家の図と方角・家相とその説明	切紙

No.	史料番号	表題	年月日	作成・発給	宛所	内容	形態
41	20	先祖年数表	明治22年丑年			先祖の戒名と死後年数の書上	縦紙
42	21	[封筒]				「高原文書(仮目録)」と書き込みのある福岡県立図書館の封筒	封筒
43	22	[筒井村堤普請に関する書物]	亥ノ2月	筒井村庄屋善六 他頭百姓3名	乙金村庄屋善七殿 頭百姓衆中	筒井村堤普請に使用した乙金村の田地の作徳を筒井村に納めるため畝高徳米を書き上げ、相違なく納めることを約束したものの	切継紙2枚継
44	23	[御願申上ル事]	天保2年～13年	乙金村庄屋善蔵 組頭	那珂席田夜須御笠御郡代役所	当村窮民備銭などの事について「庄屋・組頭御願申上ル事」5紙を綴ったもの	綴り
45	24	御笠郡乙金村中百姓居屋敷数書上帳	享保2年他	乙金村庄屋善市 同村頭百姓	麻生四郎右衛門様 川崎傳次郎様	村中の居屋敷の抱田畠敷・寸法などの書き上げ 縦帳との合帳	縦帳
46	25	御笠郡乙金村御年貢并諸上納物村用共書上帳	元文5年 他	乙金村庄屋和作	倉人物右衛門様 永田五郎大夫様	御徳米・御徳大豆その他島高などの書き上げ帳 4冊の合冊	縦帳
47	26	[書簡断簡]	[江戸] 菊月日	不詳		貴様御事近々上方お登りご苦勞のこと などとあるが前欠後欠のため詳細不詳	切紙
48	27	御笠郡乙金村庄屋組頭乍恐御願申上ル上之覚	明和7年10月	乙金村庄屋和作 同村組頭新九郎 同藤七	永田伊左衛門様御役所	元文3年に唐山大堤が崩れ田地4町9反(ほど)大荒れになった その後色々手をつくしたが、百姓の痛みになるので永荒にお立下さる様との願ひ	切継紙2枚継
49	28	[口上の覚]	天保5年11月	筒井村組頭伊六・新助・勘右衛門 同村庄屋善蔵	那珂席田夜須御笠御免方御役所	前欠のため詳細不明	切継紙3枚継
50	29	御笠郡乙金村清吉孫四郎半助組合百姓中御詮儀二年乍恐申上ル口上之覚	天保13年4月	乙金村清吉組合組頭取 和蔵・藤六・文蔵		御詮文山古野浦という所を御払いになり伐取つていた三人の者共の不行届をわびたもの	切紙
51	30	[書簡]				御詮文山の西手山境にある松の切株についての下書き 前欠後欠のため詳細は不詳	切紙
52	31	借用仕錢之事	寛政元年酉7月	仲村善次	乙金善平様	「六錢五百目」米代「廿式五歩」「金七歩」の借用証	切紙
53	32	御笠郡乙金村庄屋組頭乍恐御願申上ル事	弘化3年8月5日	乙金村組頭源六・正右衛門 同村庄屋	那珂席田夜須御笠御郡代御役所	肥前の国松浦郡壱鳴村出生の伊作死去の届か、破損の為詳細は不明	切継紙3枚継

No.	史料番号	表題	年月日	作成・発給	宛所	内容	形態
54	33	御笠郡乙金村庄屋組頭乍 恐奉願上口上之覚	寛政7年2月9日	乙金村庄屋善四郎 同村組頭新九郎 源内	天野弥市兵衛様御役 所	当村抱御山は表槽屋郡井野村炭焼村と尾根続きな のでその山から猪が余分に食い出し百姓が困って います打ち払って下さい、という趣旨の願い	切継紙4枚継
55	34	借用仕銭之事	寛政8年辰12月	井相田村忠吉 同加判津右衛門	乙金村善四郎	60文銭貳貫目借用した事相違ありません、来巳12月 までに元銭に2割5分の利を加え返納します、万一反 納できない節は引当田地を永代にお渡します、と いう証文	切継紙3枚継
56	35	吉田幸大夫門松其村山ニ 而可相渡證據之事	文久元年12月10日	加藤平四郎	乙金村庄屋 山之口中	門松用の松20本(三段松・節竹・幸木共)を渡しまし た、という証文	切紙
57	36	借用仕銭之事	享和3年亥12月	井相田村借主 文口 同村請人 茂三口	乙金村 善四郎殿	60文銭 60目を借用しました、子の4月29日までに返 納致します、万一反納の時は私抱畠(5畝18歩・高5 斗1升9合)を売り払いお返します、との証文	
58	37	[書簡]	文化11年7月	乙金村庄屋善四郎 他2名	松岡 太郎左衛門御役 所	用水の事について中村との事情を述べ良き判断を願 うもの、前後欠	切継紙5枚継
59	38	御笠郡乙金村庄屋組頭乍 恐御願申上ル事	文化11年7月	乙金村庄屋善四郎 同村組頭2名	松岡 太郎左衛門様御 役所	当村抱の内唐山と云う所に築いた中村堤のことに付 これまでの経緯など述べ善処を願うもの	切継紙5枚継
60	39	御笠郡山田村庄屋組頭 (以下欠)	嘉永5年4月	山田村組頭孫助 他3名	那珂席田夜須御笠御 郡御役所	他村に売渡した田畠を請返すため不足の金子をお 渡し願うもの、上部破損	切継紙4枚継
61	40	[断簡]				証文の断簡と思われるもの3枚と付箋と思われるもの 2片あり	断簡
62	41	おこさまがたの 徴兵保険	昭和	富国徴兵保険相互会社	[田中義治]	保険会社の保険内容の説明書4通	パンフレット
63	42	借用仕銭之事	天明3年12月24日	仲村兵次 請入源介	和作様	60銭70目を来辰の10月切で元利を返済いたします 万一反納められない節は私抱 下田2反6畝の田地を お渡します、という証文	切紙
64	43	受取証	[明治]19年3月6日	末永仁三郎 原田寿 森山桂二 高原善四郎	高原善造殿	金14円1銭5厘を学校新築費として久田氏より借用し た、という証文	堅紙



No.	史料番号	表題	年月日	作成・発給	宛所	内容	形態
65	44	〔地券断簡〕				地券用紙の裏に字の練習がしてある	断簡
66	45	〔断簡〕	明治16年7月11日	真野勘兵衛	御笠那珂席田郡 郡長 権藤貫一殿	「前書之通」という文字があるが前後欠のため内容不明	切紙
67	46	覚	申ノ8月			「下田七畝」と「中畠四畝」の高と余米の書上 〆5俵余	切継紙2枚継
68	47	御笠郡乙金村庄屋組頭乍 恐御願申上ル口上之覚	嘉永5年正月	乙金村庄屋善四郎 同村組頭2名	天野弥市兵衛様御役 所	猪に食い荒らされた畠の事についての願い	切継紙7枚継
69	48	當時仕上證文之事	寛政12年申ノ8月	井相田村忠吉	乙金村善四郎様	「六拾文銭巻貫目」の借用証	切継紙2枚継
70	49	御笠郡乙金村百姓清吉孫 四郎半助御証儀二付乍恐 申上ル口上之覚				私共3人は忍平殿證文山の御払い木を伐取ってはいないことの上書の下書き	切継紙3枚継
71	50	〔保険案内〕	〔昭和〕	富国徴兵保険相互会社		「出世保険」「富国保険」「利付特別養老保険」の説明書	パンフレット
72	51	〔断簡〕				前後欠のため不明	切紙
73	52	借用仕錢之事	寛政8年11月朔日	井相田村忠吉 伴右衛門	乙金村善四郎殿	「六十文銭式貫目 巻貫目二付月四合宛」以上の条件で確か借用しましたという証文	切継紙2枚継
74	53	〔坂本村地図〕				坂本村の地図の一部分と思われる	断簡
75	54	〔口上之覚〕	天保12年6月	武蔵村大庄屋 太兵衛	那珂席田夜須御笠御 山方御役所	御山方役所へ差出す上申書の一部分が2枚同封さ れているが前欠と前後欠のため内容不詳	切継紙2枚継 (断簡)
76	55	〔断簡〕				「約束していた田舎行」についての書状の断片と思わ れる	切紙

No.	史料番号	表題	年月日	作成・発給	宛所	内容	形態
77	56	御笠郡乙金村滞在吉助筒井村滞在力右衛門御詮儀二付年恐申上ル口上之覚	天保13年4月15日	乙金村滞在 吉助 筒井村滞在 力右衛門	那珂御口席田夜須御郡御役所	庄屋忍平殿詮文山の御除木の件について申し上げる口上書の下書き	切継紙3枚継
78	57	御笠郡乙金村庄屋組頭年恐御願申上ル事				「田地に引入れる水の件について」の上申書	切継紙1枚継
79	58	高原家先祖代々芳名碑				高原家代々の戒名の記録	切継紙2枚継
80	59	證拠之事	享和3亥12月28日	井相田村庄屋 文三郎 同村受人 茂三郎	乙金 善四郎殿	「六錢五拾目」の証文書	切紙
81	60	〔口上之覚〕	天保3年4月	乙金村山ノ口 源次 次七	立花善兵衛様	「見ヶゞ行届不申段重々奉入恐候」の文言から謝罪の上申書と思われる 前欠のため内容不詳	切継紙2枚継 (断簡)
82	61	〔證文入袋 證文2通〕	文化元年6月9日 天保9年戌12月	借主 文吉 請人 文三 売主 平作 受人 源六	善四郎殿 庄屋 忍平	①「一、60文錢210目」右の錢を受取った上は今年12月限り元利無滞返済す②「一、6錢210匁右の錢誰かに受取 拙者田地文化元年に質物にした田に米3俵を受取り 永代に売渡しました」①の証文と②の証文は同じ田を質物とした証文なので同袋したと思われる	切継ぎ3枚継 切紙
83	62-1	借用仕證文之事	嘉永3年戌12月	井相田村養育方 又三郎 受人同村 善次郎	武田文平様 小山田茂作様	「金三拾両」の借用証	切継紙3枚継 包紙で一括
84	62-2	米借用仕證文之事	嘉永4年8月	山田村庄屋太平 他2名		「米八拾俵」の借用証 乙金村大庄屋高原善七郎の奥書あり	切継紙3枚継
85	63	御笠郡筒井村滞在肥前國嶋原御領高来郡出生力右衛門御詮儀二付年恐申上ル口上之覚				忍平殿の詮文山の根掛いの件についての口上の覚 中途破損・後欠に付詳細不明	切継紙3枚継
86	64	〔小字別人別記録帳〕				小字と人名の書上 他に「無燈」数字などの書き込みあり 別に白紙の黒野紙同封	堅紙

No.	史料番号	表・題	年月日	作成・発給	宛所	内 容	形 態
87	65	證文	延享5年辰3月24日	瓦田村庄屋 源作 同村組頭5名	乙金村善市郎殿 組頭兼中	当村抱長谷という所の堤築立の件についての証文 瓦田村庄屋より乙金村庄屋への「覚」もある	切継紙2枚継
88	66	[覚]	文政4巳5月調			米・銭の算用書き上げ「井相田指引」などあり 前欠	切継紙2枚継
89	67	[證文]	天和3年	時枝左平太	筒井村庄屋善六殿 乙金村善七殿	前欠 溝床にした「式畝九疋」の田に対し年貢を上 納しそれぞれの名当りに相渡すという証文	切継紙2枚継
90	68	[上申書]				古野浦證文山の除木に関する上申書の一部	切紙
91	69	[書簡]	[江戸] 3月2日	兵次	善四郎様	上部破損に付不明部分が多いが手紙の返事 山銭 又は杉板の代金に関する手紙のようである	切継紙3枚継
92	70-1	筒井村ひへの隈堤仕掛溝 太々溝床證抛之事	文化13年子12月	筒井村庄屋善六 他与頭3名	乙金村庄屋 善藏殿	ひへの隈堤の溝床のための年貢1俵1升9合を上納 するための証文	切継紙2枚継
93	70-2	筒井村敵塔堤仕掛溝掘次 溝床證抛之事	享和2年壬戌正月	筒井村庄屋善六 他組頭3名	乙金村庄屋 善四郎 他組頭2名	筒井村敵塔堤仕掛溝・掘次溝のための上納米銭2斗 2升の証抛	切継紙2枚継
94	71	[書簡]	卯4月		御笠郡仲村庄屋管平	和七家内判 笠次の請負銭不納についての件	切継紙4枚継
95	72	[材木の件]				材木の件での上申書の下書きの断片を集めてこより でまとめたものと思われる	切紙9片 (断簡)
96	73	御笠郡乙金村庄屋組頭乍 恐御願申上ル上之覚	寛政5年4月12日	乙金村庄屋善四郎 同村組頭新九郎 同源内	天野弥市兵衛様御役 所	猪が麦作を食い荒らすので打ち払って下さい という 願い	切継紙2枚継
97	74	[書物之事]	享和3亥ノ2月	久次 次吉	庄屋 善四郎殿	金銭出納の状況の記録	切継紙3枚継
98	75	御笠郡乙金村庄屋組頭乍 恐御願申上ル上之覚	寛政5年3月	乙金村庄屋善四郎 同村組頭 新九郎 源内	天野弥市兵衛様御役 所	当村は猪の喰出が多く四季明をした年は被害が少な かったので村人がそれを願っていますのでその通り 仰せ付けてください という願い	切継紙3枚継
99	76	請取	5月23日	井相田 文三郎	乙金 善市郎様	「米拾俵」分と代金「式両」の受け取り	切紙

No.	史料番号	表題	年月日	作成・発給	宛所	内容	形態
100	77	拙者抱田質物ニ召置受取申銭之事	享和3年亥12月24日	井相田村庄屋 文三郎 證人 茂三郎	乙金村庄屋 善四郎	「上田1畝8歩・上田2畝12歩・下畠3畝27歩」を質物として「代銭850目」の受け取り	切継紙2枚継
101	78	〔戒名書上〕				高原善造墓地にある墓の戒名書上	切紙
102	79	井相田村百姓連判借用銭年賦證文之事	享和元年酉/4月	井相田村連判中	乙金村 善四郎殿	天明8申年に1貫目借用した残り266匁7分を酉年か亥年にかげ払い という証文	切継紙3枚継
103	80	〔筒井村ひへの隈堤費地の畝高米之覚〕	文政4年巳8月	筒井庄屋 善六	乙金村庄屋 善蔵殿	筒井村ひへの隈仕掛溝土手広めのための田数1畝10歩半 高1斗5升7合の上納覚書 下書き 後欠	切継紙2枚継
104	81	借用仕銭之事	寛政12年申/8月	井相田村 借主忠吉	乙金村 善四郎殿	一、60文銭700目を来酉/9月元利を払います 万一支払いができない場合は私の田畠を引き上げて下さい という借用証文	切継紙2枚継
105	82	〔神田余米〕	弘化3年10月	乙金村組頭 正右衛門 源六 同村庄屋 善一郎	那珂席田夜須御笠御郡代役所	前欠の為詳細は不明だが神田余米についての上申書と思われる	切継紙2枚継
106	83	〔書簡〕	2月25日			御屋敷山代の件についての書状だが宛名・差出人の名が書かれていない	切紙
107	84	證文之事	文化3年7月13日	井相田庄屋 文三郎 同村組頭 文次 助市 受人加判 忠吉	乙金庄屋 善四郎殿	銭30目 但し利月2歩の借金を当秋の忠吉の年貢に立用するので忠吉立合加判します	切紙
108	85	石碑				石碑の番号・高さ・姓名・年月日などわかる範囲で記録されている	野紙
109	86	證拠之事	文化元年7月	井相田村茂三郎	乙金村庄屋 善四郎殿	田数・米高・畠数・作高の書上 余米6俵を間違いない上納の覚書	切継紙3枚継
110	87	御笠郡乙金村庄屋組頭乍恐御願申上ル口上之覚	天保3年7月3日	乙金村組頭 和作 次右衛門 同村庄屋 善蔵	那珂席田夜須御笠御郡代御役所	益兵衛という男が證文山で働いているうち気分が悪くなり死んでしまいました 持ち物もなく国許もわからなないので処分してもよろしいでしょうか というお尋ねの上申書	切継紙4枚継
111	88	〔書簡〕				前欠で詳細は不明だが亀吉よりの借付金の件のようである	切紙
112	89	御笠郡乙金村山之口御詮儀二付乍恐御願申上ル口上之覚				庄屋忍平殿御證文山古野浦の除木松100本に関する経緯の書上 下書き	切継紙2枚継

No.	史料番号	表題	年月日	作成・発給	宛所	内容	形態
113	90	日蓮宗徒(信心の葉		株式会社三省堂		「日蓮宗霊場参拝案内地図」「全国諸本山一覽表」 「日蓮宗義大意」	切紙
114	91	霊場案内図				「関東及甲駿地方霊場案内図」「法華経大意」その他 法華経に関する冊子	折本
115	92	中野三太夫様方仲村差引 之儀被仰付二付口村兵次 殿方目録ヲ以被申出候間 御詮議口口御答申上ル覚	寛政7年2月	乙金村庄屋 善四郎	山口大庄屋 利兵衛殿	仲村差引の件 前後欠のため詳細不明	切継紙7枚継
116	93	〔上申書〕	寛保2年5月21日	田代半七 栗生十右衛門 他 御笠郡乙金村百姓5名		前欠の為詳細は不明だが 山の竹木の繁茂のため の植林伐採の許可願	切継紙2枚継
117	94	〔洪水に関する断簡〕	[江戸] 6月20日	普請方理平	大庄屋 吉兵衛様	6月12日・18日の洪水のため急場の普請に関するも の 前欠のため詳細不明	横折
118	95	仲村方仕上ル指出之事	寛政6年11月17日	仲村庄屋 曾平 同村組頭 助次	大庄屋利兵衛様	中野三太夫様より当村兵次借用銭の処置の方法に ついての報告書	切継紙2枚継
119	96	御笠郡乙金村滞在肥後国 天草出生吉助御詮儀二付 申上ル口上之覚				「忍平殿證文山御払いになり 同冬山所へ入込み 候」とあるが後欠のため詳細不明	切紙
120	97	御笠郡乙金村庄屋組頭乍 恐御願申上ル事	文化13年2月	乙金村庄屋 善四郎 他組頭 2名	八田九内様御役所	当村居住の女(やす)と倅二人が表糟屋郡田富村に 引越についてのお願	切継紙3枚継
121	98	御笠郡乙金村組頭源六御 願申上ル事	嘉永6年正月	乙金村組頭 源六	那珂席田夜須御笠御 郡御役所	私抱え竹ノ尾とい古島の作物を猪鹿が食い荒らす ので以前松木を植えていたところを開墾作付したい という願、許可紙添付有	切継紙3枚継
122	99	〔書簡〕	6月10日	中野三右衛門	乙金 善四郎殿	立山払いの件は承知しました なるべく盆前に差引 できるように取り計らい下さい との願	切継紙2枚継
123	100-1	覚				賃銭・人数などの書上	切継紙2枚継
124	100-2	覚				覚2紙 銭高の書上	切継紙2枚継

No.	史料番号	表題	年月日	作成・発給	宛所	内容	形態	
							括	紙
125	100-3	借用証文之事	寛政8年辰12月12日	筒井村甚次 請合与八 清作	山師 源右衛門殿 乙金村孫藏殿	6錢1貫600目の借用証文 利月2歩 来2月切	切 紙	切 紙
126	101	御笠郡乙金村庄屋忍平御詮議二付年恐願申上ル口上之覚				御笠文山の松木伐り払いの件のようであるが、後欠・虫損のため詳細は不明		切紙
127	102	借用仕證拠之事	享和3年亥ノ12月	井相田村 茂三郎	乙金 善四郎殿	一、6錢100目 但し利米3俵 上記の金 来9月切元利共返済します 万一返済できないときは拙者抱え田地のうち上田6反を差上げます という借用証文		切紙
128	103	勅諭	明治14年10月12日	福岡日々新聞社		京都新聞より抜粋し国会開設勅詔の全文として掲載したものが誤りだったので取り消しお詫ひの号外		切紙
129	104	[證拠之事]	享和3年亥12月24日	井相田村庄屋 文三郎 同村組頭 文次	乙金村庄屋 善四郎殿	天明8年申年に連判した借用銭の返済が済まないの で、渡した田畠の書上証文		切紙
130	105	御笠郡筒井村庄屋組頭年恐願申上ル事	文政4年8月	筒井村庄屋 善六 同村組頭 金次 勘右衛門	那珂席田夜須御笠御免方御役所	当村ひえの隈の堤水溝筋は乙金村抱の内を通過して いる所の水引が悪いので溝掘りをやり直しました そこで畝高・御年貢・作徳米などが変わりましたので、 後年連乱のない様にして下さいという上申書		切紙
131	106	[木に関する申上]				前後欠のため詳細不明		切紙
132	107	御笠郡乙金村山ノ口源次平御詮議二付年恐申上ル口上之覚	天保13年4月15日	乙金村山ノ口 源次 次七	立花善兵衛様	御笠文山古野浦という所の松木100本は御除木に なっていましたのに当村清吉・孫四郎・半助の3人が 切り取ってしまいました誠に申し訳ありません という 詫ひの上申書		切紙
133	108	御笠郡乙金村庄屋忍平御詮議二付年恐申上ル口上之覚				證文山松木伐り払いの件に付御除木切り取りの次第 について申上げる口上の覚 後欠のため作成者・作 成年月日など不明		切紙
134	109	御笠郡乙金村滞在肥後國天草出生吉助詮議二付申上ル口上之覚	天保13年4月15日	乙金村滞在 吉助	立花善兵衛様	去る成冬忍平殿御證文山御払いに雇われたが番付 分は伐らないように言われたのに伐った事情の上申 書		切紙
135	110	利附特別養老		仁寿生命保険株式会社		利付特別養老保険の案内 保険料表付		折本

No.	史料番号	表・題	年月日	作成・発給	苑所	内容	形態
136	111	大野小学校へ招かれ度る 時与免る	(明治)43年5月26日	善造		明治43年5月26日大野小学校へ招かれた時に作られた和歌 小学生の成長をめぐる歌	切紙
137	112	端午の節句	[大正] 5月5日	祖父 [高原善造]		孫の成長を喜び端午の節句を祝う和歌	切紙
138	113	第三回内國勸業博覧會場 全圖	明治23年3月24日印 刷	東京市日本橋区横山町2-12 田村茂太郎		博覧會場全圖 印刷か、2枚あり	切紙
139	114	社頭祈世	不詳	茂世 [末永]		和歌3首	切紙3枚継
140	115	詔勅	明治37年2月	[明治天皇]	[国民]	日露戦争開戦の詔勅 博多岸原明治堂の印あり	切紙
141	116	[七五調の詩十四篇]	不詳	従三位千家尊福 詠		七五調の詩14編 敬愛すべし・信義を守るべしなど題名が付いている	切紙
142	117	[漢詩]		左園書		遊人に贈る漢詩	切紙
143	118	如太古	甲寅8月	民国岳州潘鼎新	高原大人正	扁額用に「如太古」と書かれた文字 中国人の書か	切紙
144	119	蒼雪齋	不詳	不詳	不詳	扁額用に書かれたものようであるが、モスグリーン の字で詳細は不明	切紙
145	120	日光山陽明門之圖	[明治18年2月9日] 御届	銀座二丁目 写真石版社製 作		「日光山陽明門」の写真を印刷したもの 色刷	切紙
146	121	[大正天皇の葬礼の絵]	昭和2年2月	亀井実 謹写		大正天皇の葬礼の絵	切紙
147	122	[茂世歌集]	明治40年11月24日	茂世 [末永]		明治40年11月24日高原家にて詠める歌 明治36年8 月9日(立秋)玉緒会の記録を継ぎ足してある	切紙
148	123	[和歌一首]	大正3年11月7日	七十八叟 茂世		大正3年11月7日青島陥落せし時「幾ばくのみ軍し 人の血にかへてけふあをしまを攻落しけむ」とある	切紙
149	124	[俳句集の断簡]				句集の一部かと思われるが前後欠と破損の為読めず	切紙
150	125	[梅の絵]	不詳	朝鮮火画師 蕉山写		梅の花の絵	切紙



No.	史料番号	表題	年月日	作成・発給	宛所	内容	形態
151	126 (20)	帝国陸海軍人ニ贈リタル勅語	明治38年10月16日	[明治天皇]	帝国陸海軍人	日清・日露戦争後に陸海軍人に宛てた勅語	切紙
152	127 (21)	[墨画二点]	不詳	不詳		水墨画と版画 版画は二見ヶ浦のようであるが作者不詳	切紙
153	128 (22)	乙酉冬日		零峯		「乙酉冬日」と題した水墨画	切紙
154	129 (23)	[墨書]		清撫松草	[高原善一郎美正]	乙金の高原家を訪れた時、風景や歓待をよここんで書いた漢詩	切紙
155	130 (24)	奉納笠句集	歳在庚辰仲冬下澣	口遊	不詳	奉納笠句30首	切紙3枚綴
156	131 (25)	御笠郡乙金村立山證拠之事	寛保21年5月21日	田代半七 外4名	御笠郡乙金村百姓	乙金村立山証拠4点「塚松」「古のうら(2点)」「入道」の坪教・名前の書上	切紙2枚綴
157	132 (26)	[墨書]		廣田徳平 松園 房女		扇額の為の書2枚 掛け軸用の書2枚 松園の書の1枚(和歌)は破れて2枚となっている	切紙4枚
158	133 (A1)	[国風社短歌集]	明治44年2月他	善造 謙次郎 徳太郎 他		兼題「夏越祓」「春水」「橋邊霧」「手」などを題材に詠んだ国風社和歌集	巻物
159	134 (A2)	御令書	[明治] 午6月		御笠郡乙金村 高原善造	窮民救のため「米老俵・栗三俵」を差出したため、御酒御吸物を頂戴した その他任命書など6件	巻物
160	135 (A3)	[玉緒会和歌集]	明治40年3月10日他	[玉緒会] 末永茂世 撰		明治40年3月10日より大正2年7月までの計8回の玉緒会に出品された歌の記録「黄金」「泊霧」「船中霧」「菅公」など兼題による和歌をまとめたもの 上位入賞者は天地人及び一段よろしきなどとして記録	巻物
161	136 (A4)	[書簡集]	[大正]		高原朝子様	高原善造氏逝去のお悔み及び「千代廼舎集」贈呈の御礼状など10通を巻物に仕立てたもの	巻物
162	137 (A6)	[玉緒会和歌集]	明治35年9月～同39年7月	[玉緒会]		玉緒会例会の記録 各年度会員の歌を記録 上位入賞の作品を別に書き上げ 題は「燈」「朝霧」「船中友」など17あり 墨江会の分もある	巻物
163	138 (A8)	[感謝状・委員囑託状]	明治38年4月 (ほか)	[愛国婦人会・その他]	高原了サ殿	愛国婦人会その他婦人会よりの感謝状・委員囑託状などを巻物に仕立てたもの 書簡3通・和歌もある	巻物

No.	史料番号	表題	年月日	作成・発給	宛所	内容	形態
164	139 (A11)	〔書簡集〕	〔大正〕4月28日 ほか	吉村春樹 他	高原朝子様	善造の遺詠集「千代酒舎集」贈呈の御礼状10通と新聞の切り抜きを巻物に仕立てたもの	巻物
165	140 (A14)	勅語	明治23年10月30日	〔明治〕天皇	〔国民〕	天皇の言葉 明治天皇下で天皇が大権に基づき国務大臣の副書を要さず新しく国民に対して発表した意思表示	切紙
166	141 (A15)	日光陽明門之圖	〔明治〕□年11月21日	京橋区築地三丁目11番地 森崎芳次郎		日光陽明門を描いた画を印刷したもの	切紙
167	142 (A16)	大野會和歌兼題	明治45年～大正元年まで	末永茂世 撰		大野會の和歌集を巻物に仕立てたもの 「追離」「初聞鶯声」「老人宴会」 など	巻物
168	143 (B1)	〔歌人論〕	〔明治〕			小野小町・在原業平・猿麻呂太夫・文屋康秀など平安時代の歌人について書いて書いたものを巻物風にまとめたもの	巻物
169	144 (B2)	〔掛軸〕				漢詩の掛軸 B3の掛軸と対と思われる 「竹林吟」	掛軸
170	145 (B3)	〔掛軸〕				漢詩の掛軸 B2の掛軸と対と思われる 「音」	掛軸
171	146 (B6)	〔袋〕				袋の表に「玉緒会各評歌 大野会筑紫神社献納歌 右当座用」と書いてある	袋
172	147 (B7)	大正天皇御大喪畫史	昭和2年3月1日発行	国際情報社		大正天皇大喪儀に関する詠詞 その他	書籍
173	148 (B8-1)	歌会賞状	大正3年1月18日 他	玉緒会	岡崎金子	玉緒会より岡崎金子氏に与えられた賞状3枚 「昨年中出詠満勤に付短冊20枚賞与候事」ほか2枚 紙袋に入っている	切紙
174	149 (B8-2)	歌会費	大正3年以降	〔玉緒会幹事 湯浅俊太郎〕		国風社と玉緒会の歌会費会計簿と思われる 領収証が1枚綴じてある	小横帳
175	150 (B8-3)	〔書簡〕	明治35年	筑紫郡住吉村 末永茂世	知友諸君 机下	私の三男が川端玉章画伯の門下に入り美術院絵画品評会に出品し一等賞を得る等をしているが学費の負担に堪え兼ねて後援会の加入を願うもの	切紙
176	151 (B8-4)	温和院日徳居士の一周年祭二与免る	大正4年卯9月6日	高原善造		「温和院日徳居士の一周年祭」に詠める歌2首 「去年のけふをおもひしのべば八千草の露よりしげくそぞぬれける」	切紙
177	152 (B8-5)	各評 出詠 撰抜	〔明治～大正〕	〔高原善造〕		種々の歌会に出詠されたものの中から選抜された歌をまとめたもの 7首ずつ3枚と他に1枚ある	整帳

No.	史料番号	表題	年月日	作成・発給	宛所	内容	形態
178	153 (B8-6)	〔歌会の記録〕	〔明治～大正〕	善造		歌会の記録 17首	切紙
179	154 (B9-1)	〔歌会の記録〕	〔明治～大正〕	善造 他		「新年風・雨窓読書・雛菊」などを題材に和歌を詠んだもの 181首ある	切紙11枚
180	155 (B9-2)	〔歌会の記録〕	大正2年8月 他	瀬里重規 代筆	小林作次郎	「馬上タ立・新樹妨日・富士初日」など272首収録されている	縦帳3点
181	156 (B9-3)	〔書簡〕	〔明治〕 6月28日	瀬利	高原尊兄	御賢詠の草稿は川波君へ送付いたしましたので左様御承知置下さい	切紙
182	157 (B9-4)	〔歌会の記録〕	〔明治〕 11月 献詠 他	善造 他		「岡時雨」「故吉田菊子嬢の御霊にさしげまつる」など212首収録されている	切紙9点
183	158 (B9-5)	〔書簡〕	不詳	高原善造	前野準三先生	先に委嘱の書画帖、恐縮ながらお断わり申上げ度その責塞として和歌教首を認め差し上げますのでお受け取り下さい	切紙
184	159 (B15)	〔短冊〕	〔明治～大正〕	善造 朝子 他		高原善造・朝子その他の人の短冊 14点	短冊14点
185	160 (B雑)	西洋乗馬具定價表	〔大正〕	永井次平		鞍之部・腹帯之部などの値段表 小袋・厄除御札・お守りなど同封 損耗激しい	切紙
186	161 (C3-1)	〔書簡〕	2月11日	〔能勢〕 定	善造兄	お世話になったことと無理な願いを快く引き受けて下さったことへのお礼の手紙	切紙
187	162 (C3-2)	〔書簡〕	10月22日	丸田拝	高原善蔵様 (封筒)	過日はご普請中お伺いして御供応にあらずかり有難うございました お約束の鮑と奈良漬け1つ送ります	切紙
188	163 (C3-3)	〔書簡〕	〔明治〕 9月10日	丸田	高原君	御来臨の御礼と弟帰朝の知らせ	切紙(2枚継)
189	164 (C3-4)	除票ノ起ル原因				戸長を辞する理由	切紙
190	165 (C3-5)	〔書簡〕	〔明治〕 6月24日	小野隆助	高原善蔵殿	帝國議會閉会により早速帰郷すべきところ妻病氣のため延引したが本月末又は来月早々に帰郷することの知らせ	切紙
191	166 (C3-6)	〔書簡〕	〔明治〕 3月10日	森山省三 (封筒)	戸長 高原善蔵殿	教員採用の御礼と明11日12時ごろ出校しますという知らせ	切紙

No.	史料番号	表・題	年月日	作成・発給	宛所	内容	形態
192	167 (C3-7)	[書簡]	[明治] 2月15日	原三信	高原善藏様	八反田の借宅が空き家になったので留守番の為能勢老母を置く事にしました しばらくの間おきん様をお遣わし下さい	切紙
193	168 (C3-8)	[書簡]	[明治] 10月17日	[能勢] 定	善造君	姪と老母に対する配慮の御礼と病氣見舞いの手紙	切紙(2枚継)
194	169 (C3-9-1)	[書簡]	[明治]13年10月15日	末永茂世	高原善四郎様 高原謙次郎様	妹の離縁状と一緒に品物差引目録を送られたが受ける気はない、また小児は今少し生母に養育させたい。	切紙
195	170 (C3-9-2)	覚	[明治] 12年12月	かね 成巳屋	高原様	衣類・薬など品物と金額の書き上げ 請取など4紙をこよりで一括	切紙
196	171 (C3-10)	[書簡]	[明治] 3月22日	丸田拜	乙金村にて 高原謙次郎	遠路来訪してもらったお礼とお礼と原兄が帰られた時に挨拶に行けなかったことのお詫びの手紙	切紙(2枚継)
197	172 (C3-11)	[書簡]	明治25年7月3日	小野隆助	高原善藏殿	本日頃は帰郷の途につくべきところですが、妻の病気が全快しませんので当地出発が遅れます 高原謙二郎・村田副四郎両氏を始め、その他の人にもお伝えください	切紙
198	173 (C3-12)	預り手形	卯12月29日	和作	忍平殿	一、米老俵 右は追々手元より差引きして孫四郎にお渡しいたします という証文 他に2通の証文が綴られている	綴り
199	174 (C3-13)	[書簡]	[明治] 10月29日	山口県吉敷郡佐山村より 高野清太郎	福岡県御笠郡乙金村 関與八殿にて 辻岡與介	倅与吉が徴兵検査を受けなかった事についての相談の手紙 その他4通	縦帳
200	175 (C3-14)	[書簡]	第12月5日	丸田頼定	高原謙次郎	「能勢」の件について徳島裁判所を出て、萌入院所へ発足の報告	切紙
201	176 (C3-15)	[書簡]	明治33年1月20日	高原善造	上野熊吉殿	妹リヨ殿を拙者方へ召使の相談を受けたが、その件につき都合など承りたい の手紙	罫紙
202	177 (C3-16)	[書簡]	[明治]15年1月27日	[能勢] 定	善造殿	若儀、咽喉の病氣に依り遂に死去したことの知らせ	切紙(3枚継)
203	178 (C3-17)	[書簡]	[明治] 2月9日	能勢定	善造様 謙造様	若儀の病中死去その他についてご厚情を賜ったことへのお礼の手紙	切紙(2枚継)

No.	史料番号	表題	年月日	作成・発給	宛所	内容	形態
204	179 (C3-18)	口演	[明治] 4月29日	[能勢] 定	乙金村 高原明兄	暴風雨の中御来駕のお礼と2月の内訓は6月に改正、重雄の論議が適当と考えるのでよくお読みください	切紙
205	180 (C3-19)	[書簡]	6月28日			滞留のお礼とお産見舞いに粗品を送った という手紙	切紙
206	181 (C3-20)	十八歳男子運氣	[明治] 11月	高山大造		18歳男子運氣大玄田之貴 11月採筮 高山大造	切紙
207	182 (C3-21)	[書簡]	[明治] 正月19日	高山大造	高原善造様	高原善造氏よりの手紙に対する返書(18歳男子の運氣について)旧冬南の方は大凶なので折袴などすると良い、又婦人の病氣は薬を作って近日送ります	切紙(2枚継)
208	183 (C3-22)	[書簡]	[明治] 5月20日	能勢定	高原善蔵様	前欠 貴兄妹君を拙弟に配偶婚姻相調ったことのお礼の手紙	切紙
209	184 (C3-23)	[書簡]	[明治] 6月	大造	善一郎様	「一、銀貳拾七匁 一拾匁」確かに受納致しました	切紙
210	185 (C3-24)	[書簡]	12月28日	乙金 善一郎 (端裏)	立花寺 卯平 (端裏)	先夜お願い申し上げた百疋をこの人にお渡し下さい	切紙
211	186 (C3-25)	[書簡]	[江戸]極月27日	宮内自圓	大庄屋 宇平様	借りていた金子が年内に返せなくなつたことの詫び状	切紙(2枚継)
212	187 (C3-26)	[書簡]	[明治] 7月12日	善一郎	父上様	暑中休暇帰省のため60銭ほどお送りください(後欠)	切紙
213	188 (C7)	[墨書]	[明治]	海妻甘蔵		70才・72才・75才になられた折々に所感を述べられた書かと思われる。	切紙4紙
214	189 (C9)	[書簡]	[明治] 2月21日	朝野熊次郎	高原尊兄様	過日高原家へ逗留しお世話になったことへの感謝の手紙	切紙(2枚継)
215	190 (C34)	[抜抄の綴]	明治36年11月30日	高原善造 他		高原善七郎美徳についての太宰府の中邸徳山が所撰記文の抜抄 高原善造記「五卿小記」高原善一郎の抜抄ほか	堅帳
216	191 (C58-1)	[包紙・紐]	明治3年			C-58(1～6)を包んだ封紙と紐 包紙に「善一郎退身願」と貼付あり	包紙・紐

No.	史料番号	表・題	年月日	作成・発給	宛所	内容	形態
217	192 (C58-2)	御笠郡乙金村庄屋善一郎 乍恐御願申上ル事	安政4年12月	乙金村庄屋 善一郎	那珂・席田・夜須・御笠 御郡代御役所	天保4年10月より当村庄屋役を24年勤めたが病のため諸事行届き兼ねるので当役御免のお願い申し上げる 奥書あり	切継紙(3枚継)
218	193 (C58-3)	御笠郡筒井山田仲嶋畑詰 那珂郡麦野井相田五ヶ村 庄屋中乍恐奉伺口上之覚	弘化2年3月	仲嶋村庄屋善一郎 外 山田村・井相田村・麦野村・ 筒井村の各庄屋	那珂・席田・夜須・御笠 御郡代御役所	筒井村抱川土手が洪水のため度々破損 土手筋強めの普請を思い立ったので費用に当てるための米切立の願いと俵数書上 封筒は別件のものと思われる	横帳
219	194 (C58-4)	覚	嘉永7年寅8月	庄屋 善一郎	組頭 庄右衛門殿	拙者多病のため諸調べ方届き兼ねるので、自分が役中、手伝い苦勞代として年米1俵1斗6升5合を庄衛門へ相渡すという覚	切紙
220	195 (C58-5)	御笠郡乙金村庄屋善一郎 乍恐御願申上ル事	安政3年4月	乙金村庄屋 善一郎	那珂・席田・夜須・御笠 御郡代御役所	庄屋役退身願い、大庄屋善七郎の奥書あり	切継紙(4枚継)
221	196 (C58-6)	米粟救渡控	明治3年			米粟の俵数・名前・月日の書上	横帳
222	197 (C63)	[村継]	明治6年7月17日	林太蔵大丞	乙・中・畑・仲・山・筒保 長中	党民が県内内に乱入の件について御達の綴り	縦帳
223	198 (C70)	證拠之事	嘉永7年12月	武田文平一族 嶋伊平 青 木平朔 谷新	大庄屋 高原善七郎殿 他4名	金三拾両と米30俵の10か年賦の借用証文	切継紙(3枚継)
224	199 (C99-1)	乙金村御免上リ之覚	寅2月〔江戸〕			乙金村御免 田数・徳米などの書上	切継紙(3枚継)
225	200 (C99-2)	御笠郡筒井村庄屋組頭乍 恐御願申上ル事	文政4年巳8月	筒井村庄屋 善六 同村組 頭金次・直次・助右衛門	那珂・席田・夜須・御笠 御免方御役所	享和2年と文化13年に溝土手築堀広め等をしたときに生じた費地の御年貢米と作徳米共に同村より御願申上げた通りに軸帳を書き直して下さいとの願い	切継紙(2枚継)
226	201 (C100)	御笠郡中村堤築添御立置 御口口被仰付同郡乙金 村田地之内水溜り費之申 分仲村田地之内右之代地 御渡シ被成請取申上ル畝 敷之事	元禄11年3月28日	乙金村庄屋 勘六 同村頭百姓 4名	時枝次右衛門様 山本六郎兵衛様	仲村堤水溜りに乙金村田地が費地になったので合計2反4畝14歩を渡した証文	切継紙(2枚継)
227	202 (C106-1)	御笠郡乙金村百姓傳吉乍 恐御願申上ル口上之覚	寛政9年7月	乙金村百姓 傳吉	天野弥一左衛門様御 役所	寛政元年糶室を御願申上げ箇売しておりましたが、近年は損耗にて糶が出来ず病身になりましたので糶室を止めさせて下さい という願い	切継紙(3枚継)
228	203 (C106-2)	[覚]				「御蔵納」「知行所務分引」など銀高・俵数の書き上げ前欠のため詳細は不明	切紙

No.	史料番号	表題	年月日	作成・発給	宛所	内容	形態
229	204 (C106-3)	御笠郡乙金村庄屋組頭申上ル口上之覚	享和3年8月19日	乙金村庄屋 善四郎 組頭源三・次吉	村上清内様御役所	当村の者と金隈村の者との争い事に関する経過と博多への往来差支え無きようにとの願い、下書きか、	切継紙(5枚継)
230	205 (C106-4)	[書簡]	閏8月11日〔江戸〕	乙金村善四郎	坂本村左七様	当村の犬が瓦田村の牛に噛みついた件につき、猟師中より弁償の事は承知しましたので話し合いの為に良吉様のお出でを願う手紙	切継紙(2枚継)
231	206 (C106-5)	[書簡]	〔江戸〕5日	善七(端裏)	和作殿(端裏)	本朝申遣しおいた口上書の下書き早々にお渡しください 又卯平殿に相談があるのでお出でを願う文	切紙
232	207 (C106-6)	急觸	〔江戸〕10月5日	大庄屋 善七	瓦田・乙金両村役人中	組合百姓爰元出方の件につき今日は出方に及ばず近日中に又知らせます。	切紙
233	208 (C106-7)	[書簡]	〔江戸〕5日	善七	乙金・瓦田百姓中	乙金・瓦田組合百姓中へ今日呼び出しておいだが、今日はお出でに及ばず の知らせ	切紙
234	209 (C106-8)	御笠郡乙金村庄屋組頭御評議二付作恐申上ル口上之覚	天保13年10月	乙金村源六・作次 同村庄屋口 筒井村庄屋和作	立花善兵衛様	当村与吉と瓦田村喜四郎が瀬場で出合い両人共獲物もなく別れて帰っていたことについて瓦田村又右衛門が当村平作方に参りいざかいになっている この両人を厳しく評議してほしい	切継紙(2枚継)
235	210 (C106-9)	御笠郡乙金村百姓興吉作恐申上候口上之覚	天保13年10月	乙金村百姓与吉	立花善兵衛様	瓦田村庄屋喜四郎が鉄砲を打ったことに関する件についての口上の覚	切継紙(2枚継)
236	211 (C106-10)	御笠郡乙金村庄屋組頭御評議二付作恐申上ル口上之覚	天保14年11月	乙金村組頭 作次・源六 同村庄屋 文三郎	魚住三郎八様	瓦田村庄屋喜四郎当村沖坂にて鉄砲を打ったことに関する御評議について役所への伺い書	切継紙(2枚継)
237	212 (C106-11)	寺往来手形	天保7年申年2月	大濱浦圓妙寺秀圓	国々御閑所御役人衆 中	男1人 千蔵 讃州大濱浦宗門の儀、代々真言宗円妙寺旦那でありますが、この度四国巡拝しますので万一病死などしましたら宜しくお取り計らいください	切紙
238	213 (C106-12)	御笠郡乙金村庄屋組頭作恐御願申上ル口上之覚	寛政4年11月17日	乙金村庄屋善四郎 同村組頭 新五郎・源内	天野市兵衛様御役所	当村正栄寺の僧 跡継ぎの件についての口上の覚	切継紙(4枚継)
239	214 (C106-13)	御笠郡乙金村庄屋組頭御注進申上ル事	天保7年10月16日	乙金村組頭 作次・源六 同村庄屋 恐平	那珂・席田・夜須・御笠 御郡御役所	当村抱唐山荒手谷と申す所で死者有りという届所持品の書上と通古賀村大庄屋善次の奥書あり	切継紙(5枚継)
240	215 (C106-14)	御笠郡乙金村庄屋組頭作恐御願申上ル口上之覚	文化9年2月	乙金村口口 大庄屋 貞吉 下大和村大庄屋 佐作	村上又左衛門様御役所	新堤築立のお願いに付いての口上の覚と思われすが、後欠のため詳細は不明 下書きと思われるもの前欠のもの2紙同封	切継紙(6枚継)



No.	史料番号	表 題	年 月 日	作成・発給	宛 所	内 容	形 態
241	216 (C106-15)	御笠郡乙金村忠助乍恐御願申上ル口上之覚	享和3年8月	乙金村忠助	村上清内様御役所	糶室商売のための糶室彦平御免の願い 乙金村庄屋善四郎と組頭2名の奥書あり	切継紙(3枚継)
242	217 (C106-16)	[書簡]	[江戸] 8月28日	茂太夫	善四郎殿	美酒一瓶戴いたことへのお礼と席田村金隈村との往還差し止めのことについての相談及び策略	切継紙(3枚継)
243	218 (C106-17)	席田郡金隈村庄屋組頭申上ル口上之覚	享和3年8月	金隈村庄屋儀六	村上清内様御役所	乙金村・金隈村・仲村などの若者が博多へ行った帰りに悪口雑言したので今後こういうことがないように、通路を畑詰村通りに仰付け下さい	切継紙(4枚継)
244	219 (C106-18)	[石井樋築立の件についての口上之覚]	文政5年4月	乙金村組頭 藤七・口七 回村庄屋 善蔵	那珂・席田・夜須・御笠 御免方御役所	石井樋築立の件で田地提供についての協議報告のようであるが破損のため詳細不明	切継紙(3枚継)
245	220 (C106-19-1)	御笠郡乙金村百姓平作御詮議二付乍恐申上ル口上之覚	天保13年10月	乙金村百姓 平作	立花善兵衛様	獵について詮議を受けた平作の口上の覚 破損と書き込み多く不明部分多し	切継紙(2枚継)
246	221 (C106-19-2)	御笠郡乙金村百姓平作乍恐申上ル口上之覚	天保13年10月	乙金村百姓 平作	立花善兵衛様	瓦田村庄屋喜四郎が鉄砲猟したことに関する口上の覚 え 下書きかと思われる	切継紙(3枚継)
247	222 (C106-19-3)	御笠郡乙金村与吉平作組合百姓中御評議二付乍恐申上ル口上之覚	天保13年10月	平作与吉組合	立花善兵衛様	喜四郎が鉄砲筒を持っていた事について評議に関する口上の覚	切継紙(2枚継)
248	223 (C106-19-4)	御笠郡乙金村与吉平作両人組合中御評議二付乍恐申上ル口上之覚	天保14年11月	乙金村与吉組合 桂七 弥 吉 藤六 平作組合 惣作 半助 忠作	魚住三郎八様	瓦田村庄屋喜四郎が鉄砲打ちの件について当村与吉と平作より申上る口上の覚	切継紙(3枚継)
249	224 (C106-20-1)	御笠郡乙金村庄屋組頭乍恐御願申上ル口上之覚				瓦田村庄屋喜四郎が鉄砲を持っていた事についての口上の覚 下書きか	切継紙(2枚継)
250	225 (C106-20-2)	諸願入用入袋	文化9年申2月			年月日と表題のみ 中味なし	切紙
251	226 (C106-20-3)	御笠郡乙金村庄屋組頭乍恐御願申上ル口上之覚	寛政10年正月	乙金村庄屋 善四郎 回村庄屋 次吉	天野弥一左衛門様	当村源内俵が内記様へ御奉公の願い控山口村大庄屋の奥書あり 破損大	切継紙(2枚継)
252	227 (C106-20-4)	与吉平作御詮議書類	天保13年10月			書類入れの封筒か包紙か不明 中味なし	封筒

No.	史料番号	表題	年月日	作成・発給	宛所	内容	形態
253	228 (C106-21)	[断簡四紙]	享和3年 寛政9年 天明4年12月	[受人 乙金村喜作] [借主 仲村善作]	[乙金村和作殿]	断簡3枚とその他の1枚が入っていた袋1枚 断簡に書かれている内容は不詳	断簡
254	229 (C106-22)	[名前の列記]	[江戸] 11月7日	組頭 作次		乙金村 与吉・平作 組合惣代 惣作・忠作・半助・権七・弥吉・藤六 同村組頭 作次	横折
255	230 (C130)	筑前國御笠郡乙金村溜井 并新溝敷潰地反別税額取 調帳 控	明治11年10月	第八大区 巻小區		「乙金村字通谷新溜井築願書類入」の中に筑前の国御笠郡乙金村溜井并新溝敷潰地反別税額取調帳と新溝敷潰地の2通が入っている 図面もある	縦帳
256	231 (D2)	[短冊]	[明治]	善造		「冬懐旧」という題名の和歌1首 「この世にはいまはなごさの友とどりわれのみひとりしのびねになく」	短冊
257	232 (D3)	[無尽期]	明治癸未首夏下浣	六十五叟無物庵 梅村撰		俳句会の記録か、梅村の65歳を祝う句会と考えられるが、前欠のため詳細不明	切継紙(9枚継)
258	233 (D9)	老松神社奉納折句集	明治16年末□月 中旬	茂竹園瓢箪	老松神社	120句の俳句が収められている 裏面に高原善造のサインがある	切継紙(8枚継)
259	234 (D10)	[墨書]		小貳		小歌書の漢文 前欠・後欠 6紙継の横書き	切継紙(6枚継)
260	235 (D11)	[墨書]	不詳			漢文を墨書したものの8紙 襖か屏風を剥がしたものかと思われる	切紙8紙
261	236 (G1)	[大野会和歌集]	[明治～大正]	善造 謙次郎 他		大野会第16回の歌集 大野会和歌兼題(初秋・笛) 吉田一畝・茂世 撰 77首あり	巻物
262	237 (G2)	[玉緒会 兼題出詠皆勤賞]	明治37年1月17日～ 大正2年1月19日	玉緒会	高原善造	玉緒会の兼題・出詠・皆勤の賞状など9枚を貼付した巻物	巻物
263	238 (G3)	[戸長拜命]	明治9年～明治16年	福岡県	高原善造	「戸長」「副戸長」を命ずる辞令9紙 裏打・巻物仕立	巻物
264	239 (G4)	[玉緒会歌集]	明治41年9月13日 他	善造 謙次郎 他		玉緒会の和歌を巻物に仕立てたもの 和歌147首	巻物
265	240 (G5)	[申渡・寸志差出]	文政7年申2月			申渡13通・寸志指出・窮民救済に関する裏状4通・若殿様初入の寸志差上2通など総計30点を巻物に仕立てたもの	巻物

No.	史料番号	表題	年月日	作成・発給	宛所	内容	形態
266	241 (G6)	[正栄寺過去帳當村分写]	弘化3丙午閏5月中旬			正栄寺過去帳より当村分を写したものの寛文11年辛亥より文政元年戊寅までの147年間のもの	縦帳
267	242 (G7)	[御觸状写集]	文化2丑8月2日より	乙金村庄屋 善四郎 他	村上清内様御役所	「横死の者に対する取扱いの達」その他触状の写し集	縦帳
268	243 (G8)	[書道作品集]	不詳	不詳		書道作品を横に並べ裏打ちし巻物風にまとめたもの	巻物
269	244 (G17)	[学務委員任命書・村会議員当選証・感謝状]	明治16年7月5日～ 明治44年9月20日	那珂・御笠・席田郡役所 他	高原善蔵 高原達太郎	御笠郡第一学区学務委員任命書・大野村村会議員当選証・寄贈に対する感謝状・など多数裏打ちして巻物にしてある	巻物
270	245 (G19)	[申渡 他]	[江戸時代]	権九郎 岸原七太夫 肥塚次郎右衛門 他	乙金村庄屋 善一郎 忍平	永納銀500目を差出志を立てた事は奇特であると脇差を帯びる事を許された賞状を始め20点の褒状を貼り合わせて巻物にしたもの	巻物
271	246 (19)	[肖像画]	大正6年	尚美堂画店		明治天皇の大喪の礼の後殉死した乃木大将夫妻の絵姿「忠勇義烈感乃木將軍夫妻」と題されている	切紙



# 高原（康）家書誌目録



No.	史料番号	種類	表題	冊数	内容	年代	著者・版元	備考
1	314	印刷本	標記増補 十八史略	7冊	十八史略を摘録して初学者の読本とした書	明治22年10月	再校 岩垣東園 発行 出雲寺文次郎	高原善造の蔵書印あり
2	315	印刷本	弘道館記述義 (上・下)	2冊	水戸藩の建学精神の書	江戸時代	藤田東湖 著	高原善造の蔵書印あり
3	316	印刷本	國史略	5冊	神代から後陽成天皇までの漢文による歴史書	文政10年夏5月	皇都 五車樓 梓 江戸 須原屋伊八 京都 菱屋孫兵衛 大坂 塩屋喜助	高原善造の蔵書印あり
4	317	印刷本	駿台雑話	5冊	室鳩巢著 見聞にことよせて道義と学問を説いたもの	享保・寛延時代	鳩巢しるす 東都書肆 崇文堂 日本橋南三丁目 前川六左衛門	水濡れにより開扉不能 全5冊の内4冊はくつついている
5	318	印刷本	唐詩選解 (上・中・下)	3冊	漢詩についての解説書	天明・寛政時代	日本橋 小林新兵衛 梓	高原善造の蔵書印あり
6	319	印刷本	詩經 (上・下)	2冊	中国最古の詩集	[江戸時代]	孔子の編	高原善造の蔵書印あり
7	320	印刷本	織田信長譜 全	1冊	織田信長の系譜	明暦4年5月吉日	荒川四郎左衛門 板行	高原善造の蔵書印あり
8	321	印刷本	豊臣秀吉譜 (上・中・下)	3冊	豊臣秀吉の一代記	寛永・明暦時代	羅山子道春 函三子守勝 荒川四郎左衛門 梓行	高原善造の蔵書印あり
9	322	印刷本	京都將軍家譜 (上・下)	2冊	足利尊氏より義昭までの系譜	明暦4年初春	羅山子道春 向陽軒春斎	高原善造の蔵書印あり
10	323	印刷本	鎌倉將軍家譜 全	1冊	鎌倉將軍執権の歴史	寛永18年8月	道春	高原善造の蔵書印あり
11	324	手写本	海國兵談	4冊	ロシアの南下に対して海国としての軍備についての考え方を著したもの	天明6年夏	仙台 工藤球卿 撰 林子平 自序	高原善造の蔵書印あり
12	325	印刷本	草字彙	6冊	草書体の字を集めたもの	不詳	不詳	高原善造の蔵書印あり 破損甚大で3冊ずつ袋入り
13	326	印刷本	易經集註	11冊	易学の注釈本	寛文4年9月	野田庄右衛門 開板	高原善造の蔵書印あり
14	327	印刷本	補義莊子因 (1巻~6巻)	6冊	莊周著の思想書	寛政9年春	平安書肆 風月庄左衛門 大坂書林 泉本八兵衛 尾州書房 風月孫助	高原善造の蔵書印あり



No.	史料番号	種類	表題	冊数	内容	年代	著者・版元	備考
15	328	印刷本	運氣論 (上・中・下)	2冊	開運・方位学など	寛文11年5月	二条鶴谷町 田原仁左衛門 (ほか)	高原善造の蔵書印あり
16	329	印刷本	標注令義解校本 (1~6)	6冊	古代よりの官職についての解説	元治紀元甲子春	日本橋 須原屋茂兵衛 同 山代屋佐兵衛	高原善造の蔵書印あり
17	330	印刷本	古易断 (1~10)	10冊	新井白蛾の著で占術の書	安永5年3月	京二条通 野田藤八 同 武邸喜兵衛 高麗橋 浅塾弥兵衛	高原善造の蔵書印あり
18	331	印刷本	筑前國續風土記	5冊	博多・宗像・古戦場・糟屋郡などの記述	[江戸時代]	[貝原益軒 編] [竹田定直 校訂]	破損甚大開扉不能のため詳細不明
19	332	印刷本	二十七松堂文集 (1~10)	10冊	中国の文集	文久2年仲秋	山田次郎八 校点 書林 京三条升屋丁出雲寺文次郎ほか	高原善造の蔵書印あり
20	333	印刷本	保元物語 (巻1~巻3)	3冊	保元の乱の顛末を画いた軍記物語	不詳	不詳	高原善造の蔵書印あり
21	334	印刷本	平治物語 (第1~第3)	3冊	平治の乱の顛末を画いた軍記物語	不詳	不詳	高原善造の蔵書印あり
22	335	印刷本	校訂 日本外史 (巻1~巻22)	12冊	源平から徳川氏に至る武家の興亡を各家別に記したるもの	明治8年10月	出版人 従五位松平直方 蔵版 安芸 頼久太郎 著 川越 保岡元吉 校	高原善造の蔵書印あり
23	336	印刷本	和事始 (巻1~巻6・付)	7冊	日本の事始めについて記したもの	元禄10年4月	松下見林橋 諸生 序 倭漢事始序 貝原篤信 書 大和事始凡例 筑州福岡貝原好古 識	高原善造の蔵書印あり
24	337	印刷本	中華事始 (巻1~巻6)	6冊	中華における物事の始まりを集め「かな」で書いたもの の「動植物」「佛家門」「天地門」その他	元禄10年夏5月	平安城書林 長尾平兵衛 同 水谷小兵衛 同 上高瀬平 同 大井七郎兵衛大和事始凡例	高原善造の蔵書印あり
25	338	印刷本	木曾路名所圖會 (1・2・4・6・7) 大和名所圖會 (巻6)	6冊	名所・古跡・神社・仏閣・その他の由来や物産などを記し風景画を描き添えた地誌	文化2年3月	大坂書林 和泉屋源七 他4名 京都書林 小川多左衛門 他6名	高原善造の蔵書印あり
26	339	印刷本	讀史贅議 (乾・坤)	2冊	歴史上の人物について書いたもの	癸丑新鐫	齋藤竹堂 著 古香書藏 版 三都書林 出雲寺文次郎 他14名	高原善造の蔵書印あり

No.	史料番号	種類	表題	冊数	内容	年代	著者・版元	備考
27	340	印刷本	易學類篇 (巻上・巻中・巻下)	3冊	易学の書	明和年間	新井白蛾 著 浪華書林 鈴木七右衛門 松平平四郎 浅野弥兵衛	高原善造美信の蔵書印あり 題箋破損(上・下)
28	341	手写本	戸次軍談 (2・3・5~12)	10冊	軍記物	享保3年~4年	高原善七之写 大坂呉服町淀屋橋筋 深江屋太郎兵衛 京富小路通竹屋町角 教来寺彌兵衛	高原美信・乙善の蔵書印あり
29	342	印刷本	諸國奇談東遊記後編 (1~3)	5冊	諸國遍歴の記録	寛政9年	橘南谿 著 長肆 勝村治右衛門 同 梶川七良兵衛 同 吉田善造	絵入り 高原善造の蔵書印あり
30	343	印刷本	國新板義経記 (1~8)	8冊	源義経物語	寛文10年	吉野屋惣兵衛 板	絵入り物語 題箋破損 高原善造の蔵書印あり
31	344	印刷本	庭訓往来抄 (巻上・巻中・巻下)	3冊	書簡文範例の注釈書	[江戸時代]	柳枝軒 蔵版	高原善造・美信の蔵書印あり 題箋破損
32	345	印刷本	新刻改正 孟子 後藤點(1~4)	4冊	孟子の言行録	明治14年	原板 佐土原学習館 出版人 本城小兵衛	高原善造の蔵書印あり
33	346	印刷本	新刻改正 論語 後藤點(1~4)	4冊	孔子の言行録	[明治15年]	不詳	高原善造の蔵書印あり 巻末に「明治15年12月高原達太郎」とある
34	347	印刷本	新刻改正 大學 後藤點(全)	1冊	儒教の経書	明治14年	佐土原藩 蔵版	後藤柴山先生定點とある
35	348	印刷本	新刻改正 中庸 後藤點(全)	2冊	儒教の解説書	不詳	不詳	高原善造の蔵書印あり
36	349	印刷本	書經 再刻 後藤點 (天・地)	2冊	中国最古の經典	不詳	不詳	高原善造の蔵書印あり
37	350	印刷本	論語徴 (甲・丙~癸)	9冊	論語の注釈書	天文5年	武江書林 松本新六 梓行	物茂卿著 高原善造の蔵書印あり
38	351	印刷本	栗山文集	5冊	漢文集	[江戸後期]	[作者 柴野栗山]	破損甚大開扉不能のため詳細不明
39	352	印刷本	續文章規範評林	2冊	文集	明治9年	藍田東亀年 補訂 男惟和 參校 出版人 高橋種香	高原善造の蔵書印あり
40	353	印刷本	古易断外篇 上象傳・下象傳 (1~6)	6冊	運勢・吉凶の判断	文政4年	大坂書肆 井狩佐吉 同 浅野弥兵衛	高原善造美信の蔵書印あり

No.	史料番号	種類	表題	冊数	内容	年代	著者・版元	備考
41	354	印刷本	翻刻左繡 (真名苞校訂増加左繡)	16冊	春秋左氏伝の注解書	嘉永～安政	須静堂課本 三都書肆	高原善造の蔵書印あり
42	355	印刷本	大和名所圖会 添上郡 (卷之一・卷之二)	2冊	名所・旧跡・景勝地の由緒 来歴など	[江戸時代]	不詳	絵入り
43	356	印刷本	孟子 (卷7～卷14)	2冊	孟子の言行録	正徳元年	京三条通 嵩 辻勘重郎 開版	
44	357	印刷本	日本文鈔 (上・中・下)	3冊	寛文の注釈書	享和元年	五雲源先生 編輯 皇都書林 菱屋孫兵衛 野田藤八 権兵衛 林伊兵衛	高原善造・済勝館山内の蔵書印 あり
45	358	印刷本	征韓偉略 (1～5)	5冊	秀吉の朝鮮の役	天保2年	川口長孺 著 書林 河内屋茂兵衛 北島順四郎 西宮 弥兵衛	高原善造・済勝館山内の蔵書印 あり 題箋破損
46	359	印刷本	日本略史 (卷之一上・卷之一下)	2冊	歴史書 (小学校用)	明治20年	池園初発行 吉田利行著・編輯	高原善造の蔵書印あり 題箋破損
47	360	印刷本	珠術萬寶全書 (目録 2～5)	6冊	珠術・奇術	[江戸時代]	大坂書林 文英堂 心齋橋筋 伊丹屋善兵衛	高原善造の蔵書印あり
48	361	印刷本	春秋	1冊	歴史書	不詳	不詳	高原善造の蔵書印あり
49	362	印刷本	改正音訓 易经(乾・坤) 再 刻後藤點	2冊	古代中国の占筮	寛政年間		高原善造美信の蔵書印あり
50	363	印刷本	改正音訓 禮記 再刻後藤點 (元・ 亨)	4冊	儒者の古札に関する書	安政2年	平安書肆 北村四郎兵衛 東都書肆 須原屋茂兵衛	高原善造の蔵書印あり
51	364	印刷本	嘸鳴館遺草 (1～3・5・6)	5冊	平洲先生の遺訓	天保年間	男徳昌 謹識 門人西條上田節 書	高原善造の蔵書印あり
52	365	印刷本	二禮童覽 (上・下)	2冊	葬祭に関する書	元禄年間	姉小路堀河東入町 中川茂兵衛 板	高原善造の蔵書印あり
53	366	印刷本	古今集 遠鏡 (1・3・7)	3冊	古今和歌集の口語文によ る注釈書	[江戸時代]	[本居宣長 著]	
54	367	手写本	介石記	2冊	赤穂義士物語	[江戸時代]	[高原善造 写之]	高原善造の蔵書印あり

No.	史料番号	種類	表題	冊数	内容	年代	著者・版元	備考
55	368	印刷本	[紫文製綿] (1・2・6・7・8)	5冊	源氏物語より抜輯したもの	文化14年	大坂書林 今津屋辰三郎 同 加賀屋善藏 同 河内屋源七郎 同 伊丹屋善兵衛	題箋の文字が不鮮明 高原善造の蔵書印あり ほかに阿波岐曾能蔵書印あり
56	369	印刷本	養生訓 卷三	2冊	健康に関する書	[江戸時代]	[貝原益軒]	表紙欠
57	370	印刷本	伊勢物語抄 (上・下)	2冊	伊勢物語の注釈書	延宝年間	書林堂大坂御堂前 雛屋六兵衛 京 両替屋半兵衛 山本七郎兵衛	戸部尚書在判 高原善造の蔵書印あり
58	371	印刷本	両宮案内記 (巻上・巻下)	2冊	伊勢両宮についての案内記	寛永4年9月	書林 藤原長兵衛 同 今井喜兵衛	高原善造の蔵書印あり
59	372	印刷本	圓機活法 (初巻～24巻)	20冊	詩作の為古典古事成句など集めたもの	寛文13年	洛陽寺町通本能寺前 八尾甚四郎友春	高原善造の蔵書印あり 木箱入り
60	373	印刷本	初學知要 (巻上・巻中・巻下)	3冊	教育の基礎について	元禄11年	寺町五条上ル町 葛西市郎兵衛	貝原篤信編録 蔵書印あり
61	374	印刷本	朱子家訓抄 (上・中・下)	3冊	朱熹の教え	寛文2年	八尾官兵衛 梓刊	高原善造美信の蔵書印あり
62	375	印刷本	大略天學名目鈔 全	1冊	天文学及び暦学の初歩	享保15年11月	江府書林 嵩山房 小林新兵衛 梓	高原善造の蔵書印あり
63	376	印刷本	[標疏箋注蒙求校本] (巻上・巻下)	2冊	漢文で書かれた児童用教科書	明治17年8月	同志出版舎蔵 反刻人 相原政治郎	蔵書印あり
64	377	印刷本	正文草規範評林 (巻2・巻4)	2冊	科挙の受験者のために名家の文を集めたもの	明治9年	鹿兒島県刊行	高原善造の蔵書印あり
65	378	印刷本	萬物怪異癡斷 (1～3)	3冊	日蝕月蝕などの天異のことの他妖星の事など	不詳	西川如見著 石梁斎古川氏刊	高原善造美信の蔵書印あり
66	379	印刷本	[天經或問]	2冊	天文学	享保年間	嵩山房 梓	題箋破損のため書扉で書誌名を書く 高原善造の蔵書印あり
67	380	印刷本	日本外史補 (1～14)	9冊	源平より徳川までの武家の興亡を各家別に記したもの	嘉永3年	[頼山陽著] 岡田氏 蔵版	高原善造の蔵書印あり
68	381	印刷本	筑前國孝子良民傳 (前編上・前編下・後編)	3冊	筑前國の孝子や良民の話を集めたもの	寛保3年	弥上堂和田一信 圖画 平安柳枝軒 茨城方道 梓行	筑州九九翁竹田直手書

No.	史料番号	種類	表題	冊数	内容	年代	著者・版元	備考
69	382	印刷本	農家訓（上・下）	2冊	農民の心得・用心について書いたもの	天明4年3月	山名文成 著 摂陽大坂順慶町5丁目書林柏屋與左衛門	高原善造美信の蔵書印あり
70	383	印刷本	方鑿秘訣集成	3冊	年月日方位などの吉凶について	文政6年12月	江戸書林 須原屋茂兵衛 大坂書林 藤尾弥兵衛	蔵書印あり
71	384	印刷本	俳諧あすならふ（上・下）	2冊	俳諧のための用語集	嘉永年間	越谷秀真 著 大坂書林 藤屋卯三郎 河内屋喜兵衛 河内屋太助	高原善造の蔵書印あり
72	385	印刷本	小學句読(小學卷1～卷6)	4冊	文字の訓点と字書の韻書に関する学問	天和3年	江戸日本橋 須原屋茂兵衛ほか6店	高原善造美信の蔵書印あり
73	386	印刷本	古易断時言（巻1～4）	4冊	運勢吉凶の判断	明和年間	新井白蛾 著	高原善造美信の蔵書印あり
74	387	印刷本	日本林制史資料（福岡藩・蔵原藩）	1冊	農林省編纂資料	昭和5年8月	農林省編纂 朝陽会 発行	農林省山林局より贈呈されたもの
75	388	印刷本	孫子國字解（1～13）	13冊	兵法書を平易に書いたもの	寛延3年	江戸京書林 松本善兵衛 三崎三郎兵衛 出雲寺文治郎	
76	389	印刷本	續近時記略（1～4）	4冊	近頃の出来事	明治9年3月	菊池純著 京都 津逮堂	高原善造美信の蔵書印あり
77	390-1	手写本	関ヶ原軍記大成	11冊	豊臣太閤天下平治より伏見落城まで	[江戸時代]	紫陽處士島村枚 叔謙氏 識	高原善造美信の蔵書印あり
78	390-2	手写本	関ヶ原軍記大成	12冊	加州大聖寺城攻めより東西二軍会議まで	[江戸時代]	不詳	蔵書印あり
79	390-3	手写本	関ヶ原軍記大成	10冊	内府公岡山御出馬より義光父子追撃まで	[江戸時代]	不詳	蔵書印あり
80	390-4	手写本	関ヶ原軍記大成	12冊	羽州酒田城攻めより上杉・佐竹御免討まで	文化5年	南筑山人 北筑御笠郡乙金村長 高原四郎	包紙に明治25年秋9月28日 関忍平72歳造とある
81	391	印刷本	樂訓（上・中・下）	3冊	人として生きるべき道・忠孝・読書のことなど説いたもの	宝永8年	原文は益軒貝原篤信 時八十有一 書房 柳枝軒 茨城信清 謹識	高原善造美信の蔵書印あり
82	392	印刷本	職原鈔（上・下）	2冊	太政官・神祇官その他の官位の沿革を記したのもの	不詳	不詳	高原善造美信の蔵書印あり

No.	史料番号	種類	表題	冊数	内容	年代	著者・版元	備考
83	393	印刷本	和俗童子訓 (巻1・巻2・巻4・巻5)	4冊	子供の教育論	江戸時代	貝原篤信 編纂	高原善造・斉勝館山内の蔵書印あり
84	394	印刷本	大和俗訓 (巻1・巻2・巻6・巻7・巻8)	3冊	修身・礼儀などの事を婦女子のために書いたもの	宝永6年	貝原篤信(年七十有九) 書舗 柳枝軒 蔵版 書林 茨城多左衛門	高原善造美信の蔵書印あり
85	395	印刷本	義経勲功圖會前編 (巻1～巻5)	5冊	源義経の軍記絵	文政8年3月	京都 法橋西村中和 畫 同 井上治兵衛 鐫 江戸 須原屋茂兵衛	斉勝館山内蔵の蔵書印あり
86	396	印刷本	明治新刻大阪府管内全圖	1紙	和泉の国の地図及び概表	明治14年3月	編集人 水口龍之介 出版人 吉岡平助	
87	397	印刷本	先哲叢談	4冊	江戸時代の儒学者・文人の経歴・性行を記録したものの	文政13年9月	江戸書林 慶元堂 擁萬堂 梓行 念斎原先生 著	高原善造の蔵書印あり
88	398	印刷本	先哲叢談後編	4冊	江戸時代の儒学者・文人の経歴・性行を記録したものの	文政12年9月	東條文左衛門 著 彫工 朝倉佐兵衛 発行書林 京都 植林藤右衛門 他	高原善造・斉勝館山内の蔵書印あり
89	399	印刷本	大學或問 (乾・坤)	2冊	幕府に政治のあり方を述べた上申書を問答体に書き改めたもの	天明8年12月	熊沢蕃山 著 凌霄閣 蔵版 発行書肆 山崎金兵衛 小川新兵衛 ほか2名	高原善造の蔵書印あり
90	400	印刷本	官版 語彙別記 完	1冊	日本語の文法	[明治時代]	不詳	高原善造の蔵書印あり
91	401	自筆本	二十四孝録抄	1冊	二十四孝について作詩されたもの	[江戸時代]	高原久米吉 自作自書	高原善造の少年の頃の作品か
92	402	印刷本	箋註蒙求校本 (上)	1冊	中国の児童用教科書	明治17年10月	同志出版舎 蔵梓 西播 岡白駒先生 箋註 長州 佐々木向陽先生 標疏	高原善造の蔵書印あり
93	403	印刷本	[女小學]	1冊	女の生きる心得	不詳	不詳	
94	404	印刷本	日本略史 (巻之四)	1冊	関ヶ原から藩を廢して県を置くまで	明治15年9月26日	出版人 京都府平民 寺田熊次郎	高原善造の蔵書印あり
95	405	印刷本	萬通字林玉編	1冊	漢字を集めて解釈した書	不詳	不詳	前欠後欠のため出版社など不詳

No.	史料番号	種類	表題	冊数	内容	年代	著者・版元	備考
96	406	印刷本	圖説教授 家相大全 (上・中・下)	3冊	家の位置・方向・間取りなどのあり方についての吉凶	寛政12年冬	松浦久信 著述 同 國祐 校訂	高原善造蔵書の印あり
97	407	印刷本	[女實語教]	1冊	女の生き方心得	嘉永3年庚戌歳	土州高知 田村屋源右衛門 同 瀬戸屋才助	高原善造蔵書の印あり
98	408-1	印刷本	[清狂詩鈔]	1冊	吉田松陰先生評	明治己巳年初春	製本所 四条通御旅町 田中屋治兵衛 松下邸熟蔵版	高原善造蔵書の印あり
99	408-2	印刷本	殉難前草 全	1冊	幕末の殉難者の辞世を集めたもの	慶応戊辰夏	皇都書舗 文正堂 梓	高原善造蔵書の印あり
100	408-3	印刷本	[行餘集 全]	1冊	高山彦九郎など10名の和歌を集めたもの	慶応新刻	葎屋蔵 梓	高原善造蔵書の印あり
101	409	印刷本	布令字辯	1冊	公令御触面の中から難解な文字を抽出した文字の和解	明治5壬申2月上 梓	大坂心齋橋通南 大野木市兵衛 同所 松村九兵衛 同北九太郎町 柳原喜兵衛	
102	410	印刷本	元寇記念 日蓮銅像誌 全	1冊	日蓮上人と元寇及びその伝記	明治37年10月	発起者 佐野前励師 編述 小野学篤	
103	411	印刷本	[萬寶鄙事記 卷一]	1冊	衣服の取り扱い方や家の手入れの仕方について	不詳	不詳	高原善造蔵書の印あり
104	412	印刷本	今書 (上・下)	2冊	天皇の祖先の事が書いてあるようである	文久3癸亥年8月	薄生君平君 著述 筒井西司 校合并蔵版 日本橋通 播磨屋勝五郎 発行	高原善造蔵書の印あり
105	413	印刷本	菅公略傳	1冊	菅原道真の伝記	不詳	武蔵江戸 渡辺口 敬書	高原善造蔵書の印あり
106	414	印刷本	靖獻遺言講義 全	1冊	屈原・孔明・陶淵明・顔真卿等の遺言についての考えを書いてある	慶応3年丁卯正月	江戸日本橋 須原屋茂兵衛 外9名 京二条衣棚 風月堂庄左衛門 梓	高原善造蔵書の印あり
107	415	印刷本	怪異辨談 (四)	1冊	怪しいこと不思議なことを集めた物語集	不詳	長崎西川 求林齋如見 編輯	高原善造蔵書の印あり
108	416	手写本	詠草 一	1冊	明治35年～42年までの短歌や今様などの詠草集	明治35年5月31日 ～明治42年分	富永亀雄君ほか	
109	417	印刷本	吳子國字解 (上・中)	2冊	吳子の兵法書	天明戊辰之初春	東山先生口授 池元久 筆受	高原善造蔵書の印あり



No.	史料番号	種類	表題	冊数	内容	年代	著者・版元	備考
110	418	印刷本	和歌呉竹集 (上・中・下)	3冊	和歌を作る上で必要な用語を集めた書 言葉よせ	寛政7年乙卯9月 文久3年癸亥7月	浪華書林 伊丹屋普兵衛 同 河内屋源七郎	
111	419	印刷本	日本外史字引大全 巻四	1冊	言葉の説明	明治12年2月出版	編輯人 岩井真二郎 出版人 岡島真七 (ほか2名)	
112	420	印刷本	〔日本外史字類大全〕	1冊	日本外史の為の字書	明治44年11月30 日発行	纂輯者 大阪市 河村興一郎 発行者 大阪市 石田忠兵衛 専賣所 福岡市 積善社本店	
113	421	印刷本	隨園詩話 (巻6・巻11・巻13)	3冊	詩についての評論	不詳	不詳	
114	422	印刷本	〔雅俗要文略解標識并二自他稱謂ノ 辨〕	1冊	1月から12月までの手紙文 とそれに答える書 他に雑 事の文	天保辛丑春日	松軒清書	高原善造蔵書の印あり
115	423	印刷本	大日本史名稱訓	1冊	大日本史名称の読み方	文久壬戌夏	香取 伊能頼則 (凡例) 西京六角通 茨城多左衛門 他4名	高原善造蔵書の印あり
116	424	自筆本	〔和歌集〕	1冊	玉緒会兼題 (橋上落葉・漁火連浪)	大正4年12月	〔高原善造 編輯〕	
117	425	印刷本	神祕口伝 家相圖解全書	1冊	家相を図解して説明	大正11年1月12日	著作者 藤川悟山 発行者 吉村藤作 発行所 心友社	カバー付
118	426	印刷本	本佐録	1冊	家老佐渡守本多正信論	天明7年丁未冬11 月	越中 山本中部 謹校	高原善造蔵書の印あり
119	427	手写本	九州土地記 全	1冊	中世時代の九州の地域別 に書かれた城主と家老(ほ かの経緯	享保10己巳7月12 日	松本氏より 写之	明治15年50(ばかり)の人品の人携 え来たので10銭にて求む 善造と ある
120	428	手写本	孝團扇物語 全	1冊	孝行児の物語集	文化元年春	高原善造 写之	
121	429	手写本	歌〔林〕 三	1冊	玉緒会会員の歌集 大正 3年の勅題詠進歌あり	明治45年～大正2 年	玉緒会 興点	
122	430	印刷本	東京新繁盛記 三編	1冊	新橋鉄道・芝増上寺山内 などのこと	明治7年8月刻成	服部誠一 著 発行書林 京橋銀座 山城屋政吉	高原善造蔵書の印あり

No.	史料番号	種類	表題	冊数	内容	年代	著者・版元	備考
123	431	自筆本	唐船記	1冊	享保5年唐船打ち漬時の記録の写し	[江戸時代]	高原義武 写	
124	432	手写本	和漢三才圖畫抜抄	1冊	図説もある百科事典	安政5年春	高原善一郎 手写 47歳	
125	433	印刷本	[易学通解]	2冊	易の研究解釈本	文化庚午夏6月	井田亀學先生 著 大坂書林 屋文堂 江戸書林 北林堂	高原善造蔵書の印あり
126	434	印刷本	[大和廻り記]	1冊	大和廻り記	元禄9年上元日	貝原篤信 記	
127	435	印刷本	岐曾路の記 木曾・木曾上・木曾下	1冊	木曾路旅の記 絵入り	宝永6年孟春の日	益軒 貝原篤信記	
128	436	印刷本	音註 小倉山房尺牘 (巻三 巻四)	1冊	書簡集	[明治時代]	銭唐袁枚簡斎 著 山陰胡斗又蘆箋 积	高原善造蔵書の印あり
129	437	印刷本	肺病予防療養教則	1冊	肺病についての予防の仕方や療養法について書かれている	大正11年6月25日 発行	著者 原 栄 発行者 永井幸一郎 発行所 吐鳳堂書店	
130	438	手写本	弁慶状	1冊	西塔武蔵坊弁慶最期書拾ての一通	不詳	不詳	
131	439	印刷本	易原圖略説引 全	1冊	陰陽・大極のことなど	天保10己亥年11月	龍山谷川順祐信甫 著 発行書肆 江戸 須原茂兵衛 京都 出雲寺文治郎 大坂 浅野弥兵衛 全 橋本徳兵衛	高原善造蔵書の印あり
132	440	印刷本	歴代名家文鈔 天	1冊	法孝孺・蘇轍の考えを書いている	慶応丙寅年	屈蠖堂蔵版	小河蔵書の朱印あり
133	441	印刷本	老子経國字解 (上・中・下)	3冊	老子経の解釈本	文化6年春3月再刻	金蘭斎 著 心斎橋南 大坂書林 敦賀屋九兵衛	高原善造蔵書の印あり
134	442	印刷本	禮記月令諺解 (上・下)	2冊	年間の行事・諺など集めたもの	天和3癸亥8月	大坂 本屋五兵衛 板行 山本洞雲 諺解	高原善造蔵書の印あり
135	443	印刷本	牧民心鑑 (上・下)	1冊	地方長官の心得及び職務規定	寛政11年刊 寛永5年重刊	官版書籍発行所 東都横山町 御書物師 出雲寺萬次郎	高原善造蔵書の印あり
136	444	印刷本	楠正成一巻の書 全	1冊	楠正成の生き方の手本	[明治時代]	皇都書林 丁子屋源次郎 他	高原善造蔵書の印あり

No.	史料番号	種類	表題	冊数	内容	年代	著者・版元	備考
137	445	印刷本	日露大戦史 全 賜天覧	1冊	日露戦争戦記	明治40年9月10日	大成社編輯部 編纂 発行所 大成社	
138	446	印刷本	論孟鈔本	1冊	旧制中学校・師範学校及び高等女学校向けの漢文教科書のための論語	大正5年1月30日	編者 児島献吉郎 発行所 光風館書店	
139	447	印刷本	孝經孔傳 全	1冊	古文孝經孔傳	寛政6年申寅11月	書肆嵩山房 小林新兵衛	高原善造蔵書の印あり
140	448	印刷本	京都名勝一覽圖會	1冊	京都名所案内本 絵入り	明治19年4月19日	編集人 樺井達之輔 出版人 風月庄左衛門	
141	449	手写本	長明山居記 全	1冊	鴨長明の「方丈記」の写し	明和5戊子弥生上旬	不詳	高原善造蔵書の印あり
142	450	自筆本	草稿 明治45年1月1日起同5月27日二至	1冊	年賀状に添書文	明治45年1月起	[高原善造 著]	
143	451	印刷本	發明 麦作改良新書	1冊	麦作改良法について	明治22年10月24日出版	発行兼印刷者 林斧介 著作者 斉藤司	
144	452-1	印刷本	天保六乙未年分 [発句集]	1冊	発句集 天保6乙未年分	[江戸時代]	不詳	末尾に明治2年巳5月東京芝金杓に於いて求む 高原善造とある
145	452-2	印刷本	四季發句集 全	1冊	暉雪庵評月次三句合	[江戸時代]	不詳	末尾に明治2年巳5月25日東京芝金杓街骨董肆 價380孔 高原善造とある
146	453	印刷本	天文義論 (上巻・下巻)	2冊	天文についての弁論集	不詳	求林斎 西川先生 著 柳枝軒 刊行	高原善造美信の蔵書印あり (上巻と下巻を一括)
147	454-1	印刷本	[本朝語園 卷の十]	1冊	日本記・古事記など歴史書物語など集めたもの	宝永3丙戌年2月梓行	京都三条通升屋町 出雲寺和泉塚 板	表紙破損のため詳細不明 欄外に書込み多数あり
148	454-2	印刷本	本朝語園卷第四目錄 全	1冊	詩歌に関する逸話を集めたもの	[江戸時代]	不詳	上部に墨書の書込み多数あり
149	455	印刷本	曾我物語 (巻一)	1冊	曾我兄弟の軍記物語	不詳	不詳	
150	456	印刷本	見立算法 規矩文等集 巻下	1冊	物のはかり方 計算の方 法	享保7年壬寅12月吉日	丹州篠山 万尾六兵衛時春 著 江戸日本橋南 小川彦九郎 板行	高原善造美信の蔵書印あり
151	457	手写本	益軒先生年譜	1冊	益軒2歳から55歳までの略歴を書いたもの	[江戸時代]	貝原好古 編撰 万延元年庚申冬15歳高原善造 写之	高原善造蔵書の印あり

No.	史料番号	種類	表題	冊数	内容	年代	著者・版元	備考
152	458	印刷本	讀書楯序・心畫規範 (全)	1冊	教養として読むべき本とそれを簡単に説明したもの	[江戸時代]	貝原益軒篤信 撰	高原善造蔵書の印あり 讀書楯序・心畫規範を合綴
153	459	印刷本	天経或問註解圖卷	1冊	天文学の図解説明	不詳	不詳	高原善造美信の蔵書印あり
154	460	印刷本	大人撰生小兒養育心得 全	1冊	小兒養育の心得	明治34年11月	京都市下京区 石田勝秀	
155	461	印刷本	北蝦夷新志	1冊	北海道の輿地など巡視した地誌見聞記	慶応丁卯仲冬	岡本文平 著 発行 江戸日本橋通 須原屋茂兵衛	高原善造及び松隈氏の蔵書印あり
156	462	手写本	朗詠集 全	1冊	朗詠集の読み下し	文政10年6月28日	高原和作 書	
157	463	手写本	[百人一首師説抄]	1冊	小倉百人一首についての解説書	明治9年壬申5月吉日	半十郎 写之 門人正郷 所持	高原善造の蔵書印あり
158	464	印刷本	蒙需訟師比小畜	1冊	易と卦の解説書	不詳	不詳	高原善造の蔵書印あり
159	465	印刷本	古今集 上	1冊	古今和歌集の上巻	不詳	不詳	
160	466	印刷本	残ることの葉	1冊	小山寛重徳歌集	大正4年7月	編集兼発行 小山律子	
161	467	印刷本	和漢年契	1冊	和漢の帝王について系図年号などと索引	寛政9年丁巳年	寛政元年己酉3月 津國高昶 識 新橋 京都 額田正三郎 他5名	高原善造・済口館山内の蔵書印あり 題箋破損のため表題は半分不明
162	468	印刷本	[相學癡蒙 卷之上 卷之下]	2冊	頭眉目鼻など形により吉凶を占う 又手相骨格なども	寛政戊午春3月	潜龍堂 井田龜學長秀 述 浪華書林 松村九兵衛 平安書林 勝村治右衛門 他2名 江府書林 西村源六	高原善造の蔵書印あり 上巻下巻を紺糸で一括
163	469	印刷本	小學地誌要略外國誌 (上巻・下巻)	2冊	世界の地理	明治20年12月	編纂者 大槻修二 出版人 関谷末松 發兌 文榮堂	上巻下巻を一括
164	470	手写本	三禮口訣	1冊	食事の時の作法 茶席の作法など	不詳	不詳	高原善造の蔵書印あり 湿気により開扉不能の部分あり
165	471	印刷本	[歌人百家帖小傳]	1冊	有名歌人の短冊写真とその略歴の解説	大正2年3月	編輯兼発行者 野崎英夫 発行所 中央歌文會	百人は三条西實隆から本居豊頼・高崎正風まで
166	472	印刷本	史疑	1冊	徳川家康の事蹟真偽の考察	明治35年4月	融軒 村岡素一郎 著 発行 東京市京橋区日吉町 民友社	とじ金具が欠落していたので綴じ直した

No.	史料番号	種類	表	題	冊数	内容	年代	著者・版元	備考
167	473	印刷本	和漢名数		1冊	日本と中国の天文 地理 人紀 神祇 歴世などの説 明	元禄8年正月吉辰	華洛二条通 長尾氏 新版	高原善造の蔵書印あり 高原善一郎の署名もある



## あとがき

私どもが大野城市の市史編さん室を手伝うようになって、高原（康）家文書の原本に出会ってから本年で17年目になります。途中、高原家の靖子夫人のご実父のご病気、ご不幸があったりして中断はしたものの、ようやくこの『調査報告書』が刊行の運びとなりました。

中途半端のままで終わらせたくない。その一念で頑張っただけでやり終えましたが、いま振り返るとアツという間だったような、これで終わるとなると寂しいような、感慨深いものがあります。

高原家については、私どもも古文書の講座などで馴染みがあったせいか、こどものころから存じ上げていたような懐かしさがあります。それはひとえに高原家11代善造さんの俳句の中の気取りのない田舎の情景や家族のやすらぎ、また父君10代善一郎さんの日記の中で、下女がこっそりお米を盗んだときも、年季が明けるまで黙って使い続けられた、そのやさしさ。高原家のみなさんとても温厚なお人柄のように思われました。

古文書の調査で高原家に伺うと靖子夫人がいつも快くお出迎え下さって、美味しいお抹茶やコーヒーをいただいたこと、車の都合がつかないときなど作業場所の市役所まで送り迎えをしていただいたことなどもありました。

最後になりましたが、本報告書の作成にあたりましては、本当に長い間ふるさと文化財課の歴代の課長さんをはじめ、職員の方々には大変なご支援やご協力をいただきましたこと、深く感謝申し上げます。（三砂千代子 記）







大野城市文化財調査報告書 第182集

旧御笠郡乙金村 高原（康）家文書概要調査報告書

令和2年9月30日

発行 大野城市教育委員会  
福岡県大野城市曙町二丁目2-1

印刷 山口印刷株式会社福岡営業所  
福岡県福岡市西区愛宕浜二丁目2-1-705

# 高原本家系図

